

授業コード	ENA0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－専門学修の基礎				広い視野	○
授業科目名	基礎ゼミナール	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	
担当教員	准教授，講師，助教全員				探求心	○
講義目的						
1. 基礎ゼミナールはこれから大学で勉強していく上で必要なアカデミックスキルや知的探求を鍛錬する。 2. 少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発する。 3. ポート・フォリオを作成することで、キャリア・ストーリーを描くことができる。						
授業内容						
大学で学ぶために必要なアカデミックスキルを修得する。また、なりたい自分を目指すといった自己実現のためにポート・フォリオを作成する。さらに、医療・保健・看護に関連するテーマを選定し、6～7名程度の少人数グループで討論を通しながらテーマに関する理解を深める。文献検索等を通して理解を深めたことをふまえ、自分なりに考えをまとめ、それを人に伝える工夫をすること、他者との討論を通して異なる意見を受け止め、それを取り入れさらに理解を深める。これらを通して、理解したテーマについての学びをレポートにし、大学におけるレポートの書き方のスキルを身につける。 ・大学生活，社会生活におけるマナー（受講方法、メール、訪問時等） ・レポート，プレゼンテーション資料作成に必要なPC基本操作（Word，Excel，PowerPoint） ・レポートの書き方（形式、記載内容、文献引用のルール、剽窃行為等） ・文献検索の方法（図書館の利用方法、文献の種類等） ・グループワーク・グループディスカッションの方法、実践 ・プレゼンテーションの方法、実践（司会、書記、タイムキーパー等の役割）						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	オリエンテーション			大学で学ぶためなぜアカデミックスキルが必要か、どのように学ぶのか理解することができる。		
2	大学生活・社会生活におけるマナー（受講方法，メール，訪問時等）			大学生活、社会生活におけるマナーについて理解することができる。		
3	図書館の利用方法（文献検索）			図書館の利用方法について理解できる。		
4	クリティカル・リーディング			クリティカル・リーディング手法を理解することができる。		
5	ノート・テイキング			ノート・テイキングの必要性や方法を理解することができる。		
6	アカデミック・ライティング			レポートの書き方について理解することができる。		
7	グループワークの方法			グループワークの方法を学び実践することができる。		
8	プレゼンテーションの方法			プレゼンテーションの方法を理解することができる。		
9	キャリア・ポートフォリオ			キャリア・ポートフォリオとは何か理解できる。		
10	キャリア・ポートフォリオの作成 1			キャリア・ストーリーを描くことができる。		
11	キャリア・ポートフォリオの作成 2			キャリア・ストーリーをポート・フォリオにまとめることができる。		
12	医療・保健・看護に関連するテーマ決定			興味・関心のあるテーマを決定しグループでまとめていくことができる。		
13	グループワーク 1			グループワーク・グループディスカッションを通してテーマについてまとめることができる。		
14	グループワーク 2			グループワーク・グループディスカッションを通してテーマについてまとめることができる。		
15	まとめ			アカデミックスキルについてまとめ、理解を深めることができる。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>ゼミナールには積極的に参加すること。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
講義内でレジュメ配布	
最終到達目標	学習法
<p>1. 大学で学ぶためのアカデミックスキルを身につけ実践することができる。</p> <p>2. キャリア・ポートフォリオを作成し自己実現に向け努力することができる。</p>	<p>課題がある場合は自己学習して講義にのぞむこと。</p> <p>グループワークは積極的に参加すること。</p>
評価方法および評価基準	
<p>レポート 40% グループワーク 40% 参加態度 20%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENA0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目 - 専門学修の基礎				広い視野	○
授業科目名	人間環境学	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1 年/前期	単位数	2		判断力	
担当教員	片山幸士				探求心	○
講義目的						
1. 人間の存在している空間は主に生物圏である。この構成要素は大気、陸域、海などである。これらと人間の関わりについて講述する。						
2. この講義を通して、過去、現在、さらに未来にわたって、人間と環境とのあり方を学ぶことを通じて大学と学問の意義、そして大学理念人間環境学を理解する。						
授業内容						
宇宙空間に水の惑星である地球が誕生し、そこに奇跡的に生命を育むことができた。その生命は進化を続け、約 20 万年前にホモサピエンス（現生人類）が登場した。						
人類は自然環境のなかに存在するとともに、自然への働きかけを続けてきている。時間的、空間的に余裕のあった時代から、現在は人口増加、食糧、エネルギーや自然破壊といった種々の問題に直面している。これらの問題を具体的に講述する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	地球と生命			地球と生命について理解できる。		
2	環境とは			自然環境、精神環境、歴史・文化環境について理解できる。		
3	人口・食糧・エネルギー・環境			配布資料をもとに考察できる。		
4	水の循環			自然界における水循環と利用について理解できる。		
5	水の特性			水の物理的・化学的特性と生命について理解できる。		
6	岩石・土壌・植物			岩石の風化と土壌生成について理解できる。		
7	森林の機能			物質資源および環境資源について理解できる。		
8	大気圏の科学			空気、オゾン層、紫外線について理解できる。		
9	放射線と人間（1）			放射線、放射能、放射性物質について理解できる。		
10	放射線と人間（2）			核分裂、核融合、放射線の利用について理解できる。		
11	中央アジア・アラル海の消滅			人間活動によって、世界第 4 位だったアラル海が消滅したことが理解できる。		
12	水俣病（1）			四大公害病の水俣病について理解できる。映像を使用		
13	水俣病（2）			患者の発生から原因究明について理解できる。		
14	水俣病（3）			なぜ水俣病は公害の原点と言われているのか理解できる。		
15	公害から環境問題へ			1980 年代に公害問題から環境問題に何故変わったか理解できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
人間環境学は本学の建学理念をなすもので、学生全員にとって「必須科目」であることに留意する。						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。						
教材						
板書を中心に講述する。人間環境学用のノートを必ず準備すること。配布資料はノートに貼付すること。						
最終到達目標				学習法		
人間環境学の概念や人間と環境のあり方や問題を自ら考察できるようになる。				講義内容に関連する書物等を自ら探し出し、事前に学習することで、講義内容がより理解できる。		
評価方法および評価基準						
期末試験 80%、確認テスト 20%						
S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）						
A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）						
B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）						
C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENA0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－専門学修の基礎				広い視野	○
授業科目名	医療キャリアの基礎	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	
担当教員	三並めぐる, 門脇千恵, 藤本千里, 田中正子, 大西ゆかり, 羽藤典子, 武海栄				探求心	○
講義目的						
将来の医療キャリア形成のために必要な考え方や看護職の基本的な仕事内容を理解するとともに、医療職業人として必要な接遇について基本的な態度を身につける。これらの学び通し、自身の将来を見据えたキャリア形成について具体的な目標を描くことができる。						
授業内容						
本授業では、将来、医療職として成長していくための生涯プロセスの在り方を理解し、看護師、助産師、保健師、養護教諭になるための道筋や教育の仕組みを理解する。さらに、具体的な看護職の活動内容を学び、大学入学後早期より自分自身のキャリア設計を描くことができる。また、看護職として必要な接遇やマナーを理解し、意識して行動できるようにする。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	看護の教育体系、専門職論について			看護基礎教育、「実践の学」と学習、継続教育、専門職の定義について理解できる。		
2	看護専門職者と生涯教育について			生涯学習とリカレント教育、看護専門職の活動とキャリア発達、キャリアデザインの具体例について理解できる。		
3	看護師の仕事とは			看護師の仕事について理解でき、医療職として基本的態度を身につけることができる。		
4	養護教諭の仕事とは			学校教育法に規定されている「養護をつかさどる」養護教諭が、児童生徒等の健康の保持増進をどのように進めているか、保健教育、保健管理、組織活動の3点から学校保健と養護教諭について理解できる。		
5	助産師の仕事とは ・助産師の免許取得について ・助産師としての責任について ・働く場（病院、開業、地域での活動）			助産師の免許取得について理解できる。 助産師は母子二人の生命について責任を持っていることを理解することができる。 助産師の仕事の内容、および働く場所や地域での実践活動について理解することができる。		
6	保健師の仕事とは			歴史、現状等から目的、内容、活動範囲等を理解する。		
7	看護職に必要なマナー・接遇			看護職に必要なマナー・接遇について学び実践できる。		
8	自分のキャリア設計についての演習			自分の将来を見据えたキャリアデザインを描くことができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
次回の講義内容を事前に予習し、授業に臨むこと。授業で学んだ内容は、さらに関連事項を図書などで調べておくこと。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

教材	
必要時講義内でレジュメ配布 『ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理第3版』：村島さい子他，メディカ出版，2,808円， 2013年（ISBN 978-4-8404-4142-1）	
最終到達目標	学習法
1. 医療キャリア形成のための必要な考えや看護師の基本的仕事内容を理解し今後の学習につなげることができる。 2. 医療専門職者として必要な接遇を身につけ、キャリア形成について具体的な目標を描くことができる。 3. 自分のキャリアイメージ「なりたい私像」が描ける。	次回の授業内容の予習を行う。講義中に指示した課題について、レポートの提出を行う。
評価方法および評価基準	
期末試験 80%。授業参加 10%。課題の提出 10%。 S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない	

授業コード	ENB0101, ENB0102			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目ーコミュニケーションの基礎				広い視野	
授業科目名	英語Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	
担当教員	松浦淳子				探求心	
講義目的						
1. 『英語Ⅰ』は看護業務や看護技術の基本的な概念として様々な医療情報を患者や看護師、医師や医療スタッフと英語で効果的、且つ効率的にコミュニケーションを図るための英語運用力を習得することを目的とする。						
2. 本コースは初級から中級レベルに重点を置き、基礎的な医療英語の表現力を育成し、各医療接触現場における「日本語非母語話者」の患者に対する英語による治療的コミュニケーション術を育成する。						
授業内容						
2050年には日本経済の生産力を維持するため、総人口の1/3にあたる3000万人の移民受け入れが必要になると云われている。現在国内に在住する外国人の数は200万人以上。日本は確実に多文化多言語の共生社会に向かっている。そうならば当然医療現場にも多言語が飛び交うことになる。「言語の壁」があるなどと言い訳はできなくなる状況下で、「日本語非母語話者」の患者の病や命と向き合い最前線に立つのは「看護師」である。その医療のプロに「英語力」が備わっていれば少しでも救える命もあるのではないだろうか・・・と。ただ、英語は単なる1個別言語。言語は手段であり媒体。言語は中身としての医療知識を活かし実践するための媒体として機能する。その1言語としての「英語力」を養い、看護師としての臨床「判断力」に磨きをかけるための「1言語」として「英語力」を高める。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	Introduction, Course organization, Roster, Syllabus, and more (シラバス&スケジュールの説明等) 「動画」による問題提議&Discussion			アメリカの医療現場に発生する「言語の壁」問題の認識 多言語による医療通訳の現状を把握 多言語による医療現場での看護師の役割とは？		
2	語彙：病院各専門部署&施設&医療機器・用具			医療現場における基本的な英語語彙を認識		
3	各専門部署別の英語表記による問診表 Part 1			英語問診表に記された英語語彙を全て認識する		
4	各専門部署の英語表記による問診表 Part 2			英語問診表に記された英語語彙を全て認識する		
5	英語の身体部位、及び英語による痛みの表現			患者による痛みの具体的な表現を理解する		
6	病気や症状に関する英語語彙			英語による症状説明を理解する		
7	初診患者への英語で問診する			英語で問診を行なう		
8	英語で入院患者を受入れ			英語による入院患者を受け入れる模擬実践		
9	Medical Report & Medical History とは何か			患者の英語によるカルテ内容を理解する		
10	Vital Signs and Body Measurements (バイタルサイン&身体測定)			患者との接触場面で英語による各種測定を模擬実践		
11	Drawing Blood (採血)			患者との接触場面で英語による採血を模擬実践		
12	Intravenous (IV) infusion (点滴)			患者との接触場面で英語による点滴を模擬実践		
13	Preoperative Assessment and Call Sheet TO SURGICAL PROCEDURE (手術前アセスメント&進行予定表)			手術前における患者への英語による術前説明を理解し模擬実践		
14	Postoperative Care (術後ケア)			術後ケアに関し患者への英語による説明を模擬実践		
15	Advantech Intelligent Hospital において「共生」する看護師業務とは何か			AI や IT による進化した医療現場において看護師はどう対処するのかを議論		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>★全ての講義にプロジェクターを使用し、アメリカの医療現場に関する「動画」を用いた講義内容も含まれるため、積極的に「グループワーク」に参加し、その課題を認識し分析する姿勢が望まれる</p> <p>■Lecture Schedule（The schedule listed on this page is tentative and may change during the term!） （※「講義スケジュール」：下記の内容は試案であるため、今後一部変更もあり得る！）</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>	
教材	
<p>★プロジェクターを使用し、全て「Handouts（配布プリント）」で講義を行なう</p> <p>★学生は、英語に関する様々な『辞書・辞典』（電子辞書を含む）を持参し活用すること</p>	
最終到達目標	学習法
「日本語非母語話者」である「外国人の患者」に対し、看護師としての基礎的業務を可能な限り「英語」で行なえるようにする	講義内容については、講義中に可能な限り理解し、そして記憶し、講義後十分に復習すること
評価方法および評価基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・Final Exam：（期末試験） — 45% ・Quiz, Group Work Activities, etc.（小テスト／グループワーク） — 30% ・Performance/Participation/Leadership in class （授業態度／積極的授業参加／リーダーシップ） — 10% ・Attendance（出席状況） — 15% <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENB0201, ENB0202			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目ーコミュニケーションの基礎				広い視野	
授業科目名	英語Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	
担当教員	高久保文恵				探求心	
講義目的						
1. 英語の「読む・書く・聴く・話す」の4技能のうち、「聴く」「読む」を中心にして「書く」「話す」をバランス良く取り入れ、将来の医療現場で役立つ英語スキルの向上を図る。						
2. このコースでは、代替医療（Alternative medicine）に関係した英語教材を使用し、リスニング能力とリーディング能力の向上を目指す。						
3. 世界の代替医療にふれて外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、代替医療に関する自分の経験や意見を英語で発信するコミュニケーション能力の向上も目的とする。						
授業内容						
・BBCのNatural Remediesについての美しいDVDやその他のDVDなどを教材に、映像の助けをかりながらリスニング能力を向上させる。						
・代替え医療について、英語の語彙力向上と内容理解を図る。						
・発音、リズム、イントネーションなどにも注意を払い、聞き取れるだけでなく自分の発話も向上させる。						
・世界の代替医療の読み物を読み、外国の文化や社会に対する認識を深める。						
・代替医療に関する自分の経験や意見を英語で表現し、発信する能力を向上させる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	イントロダクション		授業の概要、学習の進め方、評価法などについて理解し、これから学習のポイントを理解できる。			
2	Animal TherapyⅠ		アニマルセラピーに関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。			
3	Animal TherapyⅡ		リスニング力、リーディング力を向上させ、アニマルセラピーのDVDなどから聞き取りや読み取りができる。			
4	Animal TherapyⅢ		アニマルセラピーに関し、意見、経験などを英語で発信できる。			
5	Herbal MedicineⅠ		薬草療法に関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。			
6	Herbal MedicineⅡ		リスニング力、リーディング力を向上させ、薬草療法のDVDなどから聞き取りや読み取りができる。			
7	Herbal MedicineⅢ		薬草療法に関し、意見、経験などを英語で発信できる。			
8	Review（第2～7回）		第2～7回の語彙・用法、英語表現、内容などを復習し、応用できる。			
9	Healing TouchⅠ		ヒーリングタッチに関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。			
10	Healing TouchⅡ		リスニング力、リーディング力を向上させ、ヒーリングタッチのDVDなどから聞き取りや読み取りができる。			
11	Healing TouchⅢ		ヒーリングタッチに関し、意見、経験などを英語で発信できる。			
12	Yoga and MeditationⅠ		ヨガと瞑想に関する英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。			
13	Yoga and MeditationⅡ		リスニング力、リーディング力を向上させ、ヨガと瞑想のDVDなどから聞き取りや読み取りができる。			
14	Review（第9～13回）		第9～13回の語彙・用法、英語表現、内容などを復習し、応用できる。			
15	まとめ		習得したスキルと学習した内容を基盤に、英語を発信できる。			

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<ul style="list-style-type: none"> ・わからない単語や表現は、辞書などであらかじめ調べてから授業に臨むこと。 ・辞書（電子辞書を含む）は、毎回必ず授業に持参すること。 ・英語をできるだけ吸収し発信しようとする姿勢を高く評価する。これらの姿勢を持って授業に臨むこと。 <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>	
教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中にプリントを配布する。 ・授業ではDVD、CDなどの視聴覚教材をできるだけ使用する。 	
最終到達目標	学習法
<ul style="list-style-type: none"> ・代替医療について英語の語彙・用法を習得し、内容が理解できる。 ・代替医療について、英語のDVDなどから聞き取りや読み取りができる。 ・より良い英語発音、リズム、イントネーションで発話できる。 ・外国の文化や社会、特に代替医療に対しより深い認識を持つことができる。 ・代替医療に関する経験や意見を英語で発信し、コミュニケーションできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はペア・ワーク、グループ・ワークを中心に進めるので、それらに積極的に参加すること。 ・宿題、予習、復習は自分の英語力向上のためなので、必ずやっておくこと。 ・独創性を大切にすること。人マネや何かをそのままコピーした英語ではないこと。
評価方法および評価基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・終講時試験：40% ・小テスト：30%（15%を2回） ・授業：30%（出欠、授業態度、積極的授業参加、提出物などによる総合評価） <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>	

授業コード	ENB0301, ENB0302			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目ーコミュニケーションの基礎				広い視野	
授業科目名	英語Ⅲ	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	
担当教員	松浦淳子				探求心	
講義目的						
1. 『英語ⅠⅠⅠ』は看護業務や看護技術に関する様々なジャンルの読み物、特に、『SBAR』（申し送り）に記されている内容や様々な「ケーススタディ」から抜粋した病状記述の内容を正確に理解し、基本的な大学レベルの読解力を伸ばす。本コース受講にあたり、様々な「サーチ媒体」を活用する（例：辞書・Google search等々）。						
2. 1年前期で習得した日本語での医療知識を「背景知識」として活用し、英語で記された内容を「推論」や「類推」しつつ、「scanning」「skimming」を駆使し、また「トップダウン処理」や「ボトムアップ処理」を相互利用しつつ「深い理解」を目指す。本コースでは「読解」を通し、看護師にとっては必須能力とされる批判的思考力、問題解決力、意思決定力、そして「メディア・リタラシー」を向上させることとする。						
授業内容						
看護師の職務は「看護師の意思決定が患者の生命に影響を及ぼす」ことになる。患者への安全性・安心性は、看護師の英語による「医療リタラシー」能力を向上させ、患者に的確な医療健康情報を与えることにより保持される。従って、この「医療リタラシー」は医療健康情報を読解し解釈し行動することではあるが、単に英語「ラベル」表示を「読む（読解）」ことではなく、それ以上の英語「読解力」が要求され、そのことを忘れてはならないことを認識させていく。そのために、「チーム医療」を念頭に『PBL（Project Based Learning）』型により「Cooperative Group Work Learning」形態をとることとする						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	Introduction, Course organization, Roster, Syllabus, and more（シラバス&スケジュールの説明等） 「動画」による問題提議&Discussion			アメリカの医療現場における「看護師にとって最も必要な要素」とは何か、「動画」をみながら分析し再認識する 看護師業務の重要性の再認識		
2	『SBAR』とは？			『SBAR』の基本的概念を理解する		
3	『SBAR』 scenario / Handover			『SBAR』の事例を理解する		
4	Common Medical Vocabulary used in nursing			看護医療関係語彙の復習		
5	Various Medical Reports			様々な医療報告書の内容を理解する		
6	Various Case Study Reports			様々なケーススタディ（事例）報告書の内容を理解		
7	disease - sickness - illness - disorder Epidemic, Pandemic, and Outbreaks of a contagious disease			類似性の高い医療用語の相違点を認識する 看護師によるその対処内容を理解する		
8	Examples of Medical Emergency Situations			看護師による緊急事態の対処状況の認識		
9	Current Infectious Disease Outbreaks			現在の流行している病気とその対処法に関する理解		
10	『NCLEX-RN』 1 Q & A and rationales			正看護師用の医療知識を模擬試験を通して理解する		
11	『NCLEX-RN』 2 Q & A and rationales			正看護師用の医療知識を模擬試験を通して理解する		
12	『NCLEX-RN』 3 Q & A and rationales			正看護師用の医療知識を模擬試験を通して理解する		
13	『NCLEX-RN』 4 Q & A and rationales			正看護師用の医療知識を模擬試験を通して理解する		
14	『NCLEX-RN』 5 Q & A and rationales			正看護師用の医療知識を模擬試験を通して理解する		
15	まとめ					

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>★全ての講義においてプロジェクターを使用し、読み物は全て「レアリア・生教材」を用い、頻繁にアメリカの医療現場に関する「動画」を用いた講義内容も含まれるため、積極的に「ディスカッション」や「ディベート」に参加し、その課題を認識し分析する姿勢が望まれる</p> <p>★時により『反転授業』形式をとる場合もある！</p> <p>■Lecture Schedule（The schedule listed on this page is tentative and may change during the term!） （※「講義スケジュール」：下記の内容は試案であるため、今後一部変更もあり得る！）</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>	
教材	
<p>★プロジェクターを使用し、全て「Handouts（配布プリント）」で講義を行なう</p> <p>★学生は、英語に関する様々な『辞書・辞典』（電子辞書を含む）、そして「インターネット検索」を活用すること</p>	
最終到達目標	学習法
「日本語非母語話者」である「外国人の患者」の病状を正確に把握し深く認識し、『NCLEX-RN』試験問題も推論しながら解答が可能になるよう「読解力」のレベルアップを目指す	講義内容については、講義中に可能な限り「グループ学習」形態で相互理解を目指し、「ピア・ラーニング」を通して「深い理解」をしつつ総合的な学習を実践する
評価方法および評価基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・Final Exam：（期末試験） — 45% ・Quiz, Group Work Activities, etc.（小テスト／グループワーク） — 30% ・Performance/Participation/Leadership in class （授業態度／積極的授業参加／リーダーシップ） — 10% ・Attendance（出席状況） — 15% <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>	

授業コード	ENB0401, ENB0402			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目ーコミュニケーションの基礎				広い視野	
授業科目名	英語Ⅳ	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	
担当教員	高久保文恵				探求心	
講義目的						
1. 英語の「読む・書く・聴く・話す」の4技能のうち、主に「読む」と「話す」に焦点を当て、将来の医療現場で役立つ英語スキルの向上を図る。						
2. 様々な医療場面での患者および患者を取り巻く人々の言動、表情、感情、心情などを、英語表現から読み取る感性を養い磨くと共に、そのための基礎的な英語読解スキルを習得する。						
3. また、それらを基礎として外国の文化や社会に対する認識を深めながら、生きた英語を発信することができる力を育む。						
授業内容						
テキストは「911をダイヤルせよ」を選んだ。911は日本の110番、119番に相当する電話番号である。アメリカで日常的に行われている救急隊員の必死の救助活動と、救助される患者の様子を描いた読み物である。授業では、これを使用して、						
・症状、応急処置に関する語彙・用法、英語表現を習得する。						
・臨場感のあるアメリカ英語から、医療場面での患者および患者を取り巻く人々の言動、表情、感情、心情、などを、英語表現から読み取る感性を養い磨くと共に、そのための基礎的な英語読解スキルを習得する。						
・上記を駆使して、生きた英語を発信する練習をする。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	イントロダクション			・授業の概要、学習の進め方、評価法などについて理解し、これからの学習のポイントを理解できる。		
2	A Baseball injury I			・外傷患者の症状、応急処置の英語を理解できる。		
3	A Baseball injury I I			・英語で表現された学童期の外傷患者の言動から、心理を読み取ることができる。		
4	A Ruptured Appendix I			・虫垂炎患者の症状、応急処置の英語を理解できる。		
5	A Ruptured Appendix II			・英語で表現された虫垂炎患者の言動から、心理を読み取ることができる。 ・異文化理解を深めることができる。		
6	Hypothermia I			・低体温症患者の症状、応急処置の英語を理解できる。		
7	Hypothermia II			・英語で表現された低体温症の少年の言動から、心理を読み取ることができる。		
8	Review (第2～7回)			・第2～7回の語彙・用法、英語表現、内容などを復習し、応用できる。		
9	An Acute Myocardial Infarction I			・急性心筋梗塞患者の症状、応急処置の英語を理解できる。		
10	An Acute Myocardial Infarction II			・英語で表現された急性心筋梗塞患者の言動から、心理を読み取ることができる。		
11	Death with Dignity I			・終末期がん患者の症状、応急処置の英語を理解できる。		
12	Death with Dignity II			・英語で表現された終末期がん患者の死に直面した家族の言動から、心理を読み取ることができる。		
13	Psychotherapy			・心理療法の英語のDVDを見て、療法、患者の心理などに関する英語表現を理解できる。		
14	Review (第9～13回)			・第9～13回の語彙・用法、英語表現、内容などを復習し、応用できる。		
15	まとめ			・習得したスキルと学習した内容を基盤に、英語を発信できる。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り扱う部分は必ず授業前に予習し、わからない単語や表現は辞書などで調べてから授業に臨むこと。 ・辞書（電子辞書を含む）は、必ず毎回授業に持参すること。 ・英語をできるだけ吸収し発信しようとする姿勢を高く評価する。これらの姿勢を持って授業に臨むこと。 <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>	
教材	
教科書：『DIAL 911』；園田健二，英宝社，2014 年（ISBN 4-269-16032-2）	
最終到達目標	学習法
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の場面での英文や英語表現から、特に患者の言動、表情、感情、心情などを読み取れる感性とスキルを持つことができる。 ・上記を基盤にして、生きた英語を発信することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はペア・ワーク、グループ・ワークを中心に進めるので、それらに積極的に参加すること。 ・宿題、予習、復習は自分の英語力向上のためなので、必ずやっておくこと。 ・独創性を大切にすること。人マネや何かをそのままコピーした英語ではないこと。
評価方法および評価基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・終講時試験：40% ・小テスト：30%（15%を2回） ・授業：30%（出欠、授業態度、積極的授業参加、提出物などによる総合評価） <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>	

授業コード	ENB0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目ーコミュニケーションの基礎				広い視野	
授業科目名	コンピュータ基礎・情報処理法	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	
担当教員	西川千登世, 上西孝明				探求心	
講義目的						
近年はコンピュータなしの生活は考えられないくらい情報機器に囲まれている情報化社会となっています。身近な生活はもちろん、職業生活においてもコンピュータの活用は必須です。このような情報化社会の中で、コンピュータを効果的かつ効率的に、また安全に使うことが求められています。						
1. 本科目では、情報リテラシーを身につけることを目指し、パソコンおよび汎用ソフトの基本的な操作を理解し、情報を適切に活用するスキルを身につけること						
2. レポートや発表資料などの作成に必要な実践的なスキルを身につけること 以上を目的とします。						
授業内容						
実際にパソコン（Windows）を利用し、汎用ソフト（Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint）の使用方を学び、学生および社会人として必要最低限のPC操作を網羅的に学習します。						
具体的には、Wordを用いたレポート作成、Excelを用いたデータの集計、Power Pointを用いたプレゼンテーションの作成などについて演習を行います。また、インターネットを使った情報収集などで注意すべきセキュリティと情報モラルを理解し、安全にコンピュータを利用するための知識を身につけることを目指します。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	授業オリエンテーション			本科目を受講する上での授業内容・受講上の注意点・機器の利用等についてのガイダンスを行う		
2	コンピュータの基礎知識①情報倫理			情報モラルや情報セキュリティといったネット社会で必要な情報倫理を身につける		
3	コンピュータの基礎知識②Windowsの基本操作			Windowsの基本的な操作をマスターする		
4	文書作成ソフト（Word）を使う①基本文書の作成			Wordを用いた文書作成についての基本操作について学習する		
5	文書作成ソフト（Word）を使う②表現力をアップする			文書の編集や図表の挿入などより表現力のある文書作成スキルをマスターする		
6	文書作成ソフト（Word）を使う③演習：レポートの作成			課題文書をもとにWordを用いてレポートを作成する		
7	表計算ソフト（Excel）を使う①表の作成			Excelの基本操作と表の作成について学習する		
8	表計算ソフト（Excel）を使う②データの活用			グラフの作成や関数、データベース機能について学習する		
9	表計算ソフト（Excel）を使う③演習：集計表の作成			課題データをもとに集計表を作成する		
10	プレゼンテーションソフト（Power Point）を使う①Power Pointの基本操作			Power Pointの特長と基本操作について学びプレゼンテーションについて学習する		
11	プレゼンテーションソフト（Power Point）を使う②機能の活用			オブジェクトの挿入やアニメーションなどの効果について活用できるスキルをマスターする		
12	プレゼンテーションソフト（Power Point）を使う③演習：プレゼンテーションの作成			課題テーマをもとにプレゼンテーションを作成する		
13	情報処理演習①			課題データをもとにソフト（Word・Excel・Power Point）を活用し、資料を作成する		
14	情報処理演習②			課題データをもとにソフト（Word・Excel・Power Point）を活用し、資料を作成する		
15	情報処理演習③発表			作成した資料をもとに発表する		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>初回授業において、授業内容・評価方法等について詳細な注意事項をお伝えしますので、やむを得ず欠席する場合には、必ず後日確認すること。</p> <p>また、学習した知識を活用するためにも積極的に授業に参加してください。</p> <p>※ 習熟状況や進捗状況に応じて授業内容を変更することがあります。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>教科書：『情報リテラシー Windows 10 Office 2016』；FOM 出版， 2016 年， 2,160 円 （ISBN 978-4-86510-244-4）</p> <p>資料・参考図書等については授業内で適宜配布・紹介します</p>	
最終到達目標	学習法
<p>パソコンおよび汎用ソフトの基本的な操作を理解し、情報を適切に活用するスキルを身につけること、また、レポートや発表資料などの作成に必要な実践的なスキルを身につける</p>	<p>講義および演習 (課題の提出があります)</p>
評価方法および評価基準	
<p>最終レポート 50%</p> <p>平常点※ 50%</p> <p>※平常点内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題（提出状況・内容評価） ・授業への参加態度・出席率 <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENC0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	日本国憲法	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	
担当教員	中曾久雄				探求心	
講義目的						
1. 憲法の歴史的背景、人権保障、権力分立といった憲法の基本的・基礎的諸概念を正確に理解できる。						
2. 人権については、憲法の主要判例を手掛かりに、人権の内容、保障範囲を正確に理解できる						
3. 統治機構については、各国家機関の役割、さらに、各機関の抱える現代的諸問題を正確に理解できる。						
授業内容						
日本国憲法を、歴史、国際的人権動向、人権論の動向を柱に理解する。具体的には、日本国憲法を、近代人権成立の過程と大日本帝国憲法との対比により明らかにしたうえで、個別の人権について、判例と国際的な人権動向に基づき学ぶ。統治機構については、日本国憲法が採用している三権分立と内閣、司法、国会という各機構の意義と問題として指摘されている内容を、判例を中心に理解する。個別の人権の中では、教育人権と福祉人権について詳述し、発問と討議により受講生が考察できることを目的とする。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	憲法の基本概念		憲法の基本概念、憲法の思考枠組みを理解できる			
2	憲法史		憲法の歴史的背景、展開を正確に理解できる			
3	人権の基本概念		人権の基本的概念、人権と公共の福祉、人権の国際動向を理解できる			
4	人権の私人間効力		人権の私人間効力の問題を正確に理解できる			
5	幸福追求権		幸福追求権の保障範囲、射程を正確に理解できる			
6	平等権		平等権の構造、平等権の審査を正確に理解できる			
7	精神的自由権① (思想良心の自由・信教の自由)		思想良心の自由の意義・射程、信教の自由と政教分離を理解できる			
8	精神的自由権②(表現の自由)		表現の自由の構造、基本的諸問題を理解できる			
9	経済的自由権		経済的自由権、社会権の意義・射程を理解できる			
10	社会権		社会権、さらに教育や福祉に関わる人権を理解できる			
11	国務請求権		国務請求権の意義、種類を理解できる			
12	国会と立法権		国会の構造、立法権の意義を理解できる			
13	内閣と行政権		行政の構造、行政権、議院内閣制を理解できる			
14	裁判所と司法権		裁判所の構造、司法権の意義を理解できる			
15	憲法改正・地方自治		憲法改正、地方自治の現代的問題を理解できる			
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
学習課題を積極的に予習すること。						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。						
教材						
参考書：『ベーシックテキスト憲法 第2版』；君塚正臣編，法律文化社，2011年，2,700円＋税 (ISBN 978-4-58903-362-8)						
最終到達目標			学習法			
憲法の基本的概念、さらには、憲法の具体的問題を自分なりに考察できるようになる。			授業内容について、予めテキストをよく読んで授業に臨むこと。			
評価方法および評価基準						
筆記試験(90%)、出席および授業への参加度(10%)の総合得点で100点満点とし、60点以上を合格とする。						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent)						
A(89～80点)：学習目標を相応に達成している(Very Good)						
B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある(Good)						
C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている						
D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENC0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	愛媛を学ぶ	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	
担当教員	森賀盾雄, 八木健				探求心	
講義目的						
1. 「俳句王国」とも称される愛媛の俳句文芸の歴史を学ぶこと。俳句とはなにかを知り、俳句の作り方を学ぶこと。						
2. 愛媛県及び松山市という地域を、文化、歴史、産業、風土、文学、観光資源など多様な切り口から学ぶ。						
3. 本学部に通う学生一人一人が愛媛県についての総合的な理解を深め、特に「おせったい」の文化と精神、人と人とのつながりの大切さを会得する。						
4. 東予、中予、南予の3つの地区に分かれ、多くの島嶼部と山間部地域を含む愛媛県は、非常に多様性に富む地域である。その愛媛県について様々な側面から学ぶことで、将来看護職として従事する際に、保健医療や健康面を通じた地域貢献、地域連携につながるような知見や知識を、本講義を通じて涵養する。						
授業内容						
1. 俳諧の連歌から俳句への歴史を学ぶ。子規山脈と称される愛媛の俳人群像を概観する。						
2. 俳句の基本を学ぶ 俳句の実作 俳句会の体験。						
3. グローバル・ローカル両側面から愛媛の地域を多様な視点で取り上げて考察することにより、地域に生きる楽しさ・困難さ・よろこび・課題を学ぶ。						
4. 地域概念から、愛媛県の歴史・産業・風土・文化を取り上げ、地域で暮らすとはこうした多様な具体性の中で生きるということを学ぶ。						
5. 「四国遍路」を取り上げて、我が国の「おせったい文化」の中から、ケアの思想を学ぶ。また地域で活躍する具体的人材に学ぶことにより「地域で主体的に地域課題に取り組む」意味を考察する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	俳句の歴史 俳句の基本を学ぶ			★子規山脈の俳人たちの俳句鑑賞し理解できる。 ★季語とはなにか 歳時記について理解できる。 ★季語 定型 切れを理解できる。		
2	俳句の実作と添削			★俳句の実作とその添削ができる。 ★俳句作りの勘所が理解できる。 ★一物仕立てと取り合わせを学ぶことができる。		
3	句会の体験 俳句と滑稽について学ぶ			★句会とは 選句 披講 合評ができる。 ★客観写生ができる。 花鳥諷詠 ★滑稽について学ぶことができる。		
4	地域とは			制度的に決められた地域と、それとは別に伸縮自在の地域という概念を理解できる。		
5	愛媛とは			愛媛県を地理的に概観しながら、四国・日本の中での各種のジャンルでのウェイト・意義を考察することにより、地域に暮らす意義が理解できる。		
6	愛媛県の歴史			愛媛県の過去の主な出来事の考察を通して、地域の歴史を学ぶ意義が理解できる。		
7	愛媛県の産業Ⅰ 農林水産業			愛媛県の農林水産業を具体的事例とデータを通して考察することにより、大地と人の営みの意義が理解できる。		
8	愛媛県の産業Ⅱ 商工業			愛媛県の商工業を具体的事例とデータを通して考察することにより、二次・三次産業と地域の暮らしの関係性が理解できる。		
9	愛媛県の産業Ⅲ 観光			観光的側面から事例を交えて愛媛県を考察することにより、地域の魅力の源を理解することができる。		
10	愛媛県の二都物語Ⅰ 川之江・伊予三島			近接する紙の街の二都である共通点と違いの考察を通して地域の風土形成が理解できる。		

11	愛媛県の二都物語Ⅱ八幡浜・宇和島	近接する城下町・宇和島と商都・八幡浜の成り立ちの考察を通して、地域の風土形成が理解できる。
12	人口減少時代の愛媛の地域	オール人口減少時代を迎えた愛媛の未来を考察することにより、これからの地域課題が理解できる。
13	子規と漱石の松山	文学者の生き様の考察を通して今日につながる地域文化が理解できる。
14	四国遍路の愛媛	四国遍路の起源から今日に至る「おもてなし文化」を考察することにより、旅と生活者の営みから「ケアの思想」を理解できる。
15	地域再生に挑む愛媛の人たち	地域再生で頑張る人たちの考察を通して、地域に生きる覚悟と使命が理解できる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
授業開始前に予習課題を提示するので学習してきてください。授業中に発表を求めます。授業中はスマホ厳禁。		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
句碑マップ 無償にて配布します 教科書：『地域からの未来創生』；望月照彦・森賀盾雄編著，学文社，2,160 円（ISBN 978-4-7620-2570-9） あとは適宜作成配布して行います。		
最終到達目標		学習法
俳句を理解し俳句を詠むことができる 愛媛という地域の学習を通じて「地域に生きるとは」どのような意義・課題があり、その使命があるかを理解することができる。		毎回、俳句の実作 テキスト及び配布教材を事前に指示することに従って予習してくること。
評価方法および評価基準		
俳句の作品提出と評価 試験 50%、レポート 30%、受講態度 20% 八木さんが 3 コマ受け持ちますが、100 点満点で採点いただき試験の 10%分で繰り入れます。		
S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENC0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	人間関係論	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1 年/後期	単位数	2		判断力	
担当教員	河野理恵				探求心	
講義目的						
人は、日々誰かと関わりあいながら生活をしている。そのような日常生活における人間関係は、私たちのこころを安定させたり、成長させたりする一方、コミュニケーションそのものがストレスになったりもする。授業では以下のことを学ぶ。 1. 人間関係のプロセスや特徴について理解し、社会における自己と他者の関わり、存在意味などを学ぶ。 2. 医療場面や援助場面において、人とのコミュニケーションが果たす役割や相互作用などについて把握する。						
授業内容						
人間関係の基本的なプロセスやメカニズムについて学習し、私たちの日常生活や支援のための人間関係に関わるコミュニケーションについて理解する。 また、対人援助職を目指す者として、様々な場面での援助的コミュニケーションについて体験などを通して学習し、他者と関わるために必要な技法などを把握する。さらに、円滑な人間関係を築くために必要なコミュニケーションとはどのようなものなのかを理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	人間関係とはどのようなものの理解			日常生活においても、対人援助場面においても、人間関係が重要な問題であることを理解できる。		
2	自分に対する枠組みの理解			社会的存在として生活している中での自己概念の確立、自己評価、自己の働きなど、自己の成り立ちについて理解できる。		
3	対人認知の理解 1			他者との相互作用を円滑にするために、相手をどのように認知しているのかについて理解できる。		
4	対人認知の理解 2			二者間や三者間における対人関係の認知や対人魅力の規定因などについて理解できる。		
5	コミュニケーションの理解			コミュニケーションとはどのようなものであるのかに関する基本構造やその意義、及び言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて理解できる。		
6	援助関係を促進する技法の理解 1			適切に意志の伝達を行い、円滑な対人関係を築くために必要な視線や座席の位置、積極的技法などについて理解できる。		
7	援助関係を促進する技法の理解 2			5 回目と 6 回目の授業を踏まえ、小グループで実際にコミュニケーションをはかり、学びの体験を行う。その実施により、援助的技法の習得ができる。		
8	まとめ			1 回から 7 回までの講義内容を振り返り、人間関係に関する基礎的知識の確認ができる。		
9	集団における人間関係の理解 1			集団という人が集まった中における人間関係の特徴やその構造を把握するとともに、そのような集団内で発生する力について理解できる。		
10	集団における人間関係の理解 2			集団の機能を理解するとともに、集団におけるリーダーシップや生産性などについて理解できる。		
11	保健医療チームの人間関係の理解			医療チームにおける看護師の役割を学ぶとともに、他職種との連携やチームワークの意義などについて理解できる。		

12	患者と援助者の人間関係の理解	患者と援助関係の基本的な考え方を学ぶとともに、闘病生活を支える人間関係とはどのようなものであるかを理解できる。
13	終末期の患者と家族を支える人間関係の理解	死に向かう心理的プロセスやターミナルケアの基本理念を把握し、終末期にある患者とその家族との相互関係の構築とケアを理解できる。
14	高齢者との人間関係に対する理解	高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を学び、高齢者との円滑なコミュニケーションを図るために必要なことを理解できる。
15	人間関係論のまとめ 期末テスト	15 回分の講義内容を振り返り、人間関係について総合的に理解することができる。 期末テストを行うことで、学習内容の到達を理解することができる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>人間関係について、日常生活の身近なできごとから、職業的に必要な知識まで幅広く学ぶ授業です。日々の生活での人との関わり方と関連させながら授業を受けてください。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
<p>授業中にプリントを配布します。</p> <p>参考書：『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』；長谷川浩編，医学書院，2016 年，2000+税 円（ISBN 978-4-260-35528-5）</p> <p>『図とイラストでよむ人間関係』；水田恵三・西道 実編著，福村出版，2003 年，2300+税 円（ISBN 978-4571250347）</p>		
最終到達目標		学習法
<p>コミュニケーションの基本的な内容を理解し、他者との円滑な人間関係を実践することができる。</p> <p>対人援助職に必要な人間関係を理解することができる。</p>		<p>授業後に日常生活と照らし合わせながら、積極的に復習を行うこと。</p> <p>事前に課題がある場合は、自己学習をして講義に出席すること。</p>
評価方法および評価基準		
<p>期末テスト（100 点満点）90%（60 点以上が合格必須条件），出席、及び授業への参加度 10%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>		

授業コード	ENC0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	教育心理学	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1 年/前期	単位数	2		判断力	
担当教員	野口理英子				探求心	
講義目的						
1. 教育心理学の基礎的な知見や理論を理解し、それらを発達や教育に関わる問題解決に応用する視点を身につける。 2. 具体的な事例を取り上げ、どのような心理学的支援が可能か考える力を身につける。						
授業内容						
教育心理学とはどのような学問であるかを学びます。前半は、教育心理学の基礎的な知見や理論をもとに、教育・発達への示唆や応用について学びます。後半は、発達過程や教育現場において起こる様々な問題(不登校・いじめ・発達障害など)を取り上げ、心理学的な理論や方法を用いた支援について学びます。将来、教育現場に関わることを念頭に、グループ学習やディスカッションを通して、具体的な解決策を考えます。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	教育心理学とは			教育心理学の歴史や成り立ちについて理解する。		
2	発達と教育			人の発達段階と各段階における心理的課題を理解する。		
3	動機づけ			動機づけのメカニズムや意欲を高める関わり方について理解する。		
4	学習			学習理論に基づき行動や習慣の形成や変容について理解する。		
5	記憶			記憶のメカニズムについて理解する。		
6	知能の発達①			子どもの知能の発達について理解する。		
7	知能の発達②			知能の構造や測定法について理解する。		
8	アセスメントと心理検査			アセスメントにおける心理検査の役割や活用について理解する。		
9	発達障害を持つ子どもへの支援①			発達障害の特徴について理解する。		
10	発達障害を持つ子どもへの支援②			子どもの特性に応じた支援について理解する。		
11	教育現場における問題と支援①(不登校)			不登校の理解と支援について理解する。		
12	教育現場における問題と支援②(いじめ)			いじめの背景と対応について理解する。		
13	教育現場における問題と支援③(虐待)			虐待の背景と支援について理解する。		
14	教育現場における問題と支援③(保護者対応)			保護者への対応について理解する。		
15	教員のメンタルヘルス			教員のメンタルヘルスに関する現状と課題、支援について理解する。		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
レジュメを配布します。参考図書などは適宜授業内で紹介します。						
最終到達目標			学習法			
教育や発達に関する問題に対して、教育心理学の知見を踏まえ説明することができる。			(事前) 毎回のテーマに関する本などを読み、関心を深めておいて下さい。 (事後) 配布した資料や紹介した書籍などをよみ、振り返りを行って下さい。			
評価方法および評価基準						
期末試験 60%, 小レポートおよび授業への参加状況 40%						
S(100～90 点): 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)						
A(89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)			C(69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている			
B(79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)			D(60 点未満) : C のレベルに達していない			

授業コード	ENC0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目-人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	フィットネススポーツ	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	
担当教員	佐野和幸				探求心	
講義目的						
運動は体力を向上させるだけでなく、健康維持及び成人病対策に有効である。また、運動をすることによりストレスを解消させると共に、ストレスマネジメントを学ぶことで、自己管理能力の向上を促し、生涯スポーツに進展する実践力を身につける。授業では、ダンス及びダンス系フィットネスの効果を活用しながら、他者と協力するグループワークで、社会人基礎力に必要なアクション・シンキング・チームワークの3要素を理解すると共に、自己効力感やコミュニケーション能力の向上を目的とする。						
授業内容						
ダンス及びキックスを通して体力の向上を図ると共に、自己の心と体と向き合いながら他者と協力して課題を達成することによりコミュニケーション能力の向上を図る。 具体的には、リズムダンスⅠでは、音楽に合わせて踊ることに挑戦し他者と交流しながら課題を克服する方法を考え実践する。また、キックスでは体力向上やストレス解消だけでなく、真剣に相手と向き合う姿勢を学ぶ。さらに、リズムダンスⅡでは、他者と共に一つのダンス作品を組み立てることで、協力しながら体を動かし一つの物事を達成していく過程を学ぶ。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	社会人基礎力について/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/レクリエーションダンス			体力向上、健康維持及びストレスマネジメントの観点から運動の必要性を理解し、自己の運動に対する意識を高めることができる。 体ほぐし運動やレクリエーションダンスを通して体を動かすことの効果を実感できる。		
2	ウォームアップ/ストレッチ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク//リズムダンスⅠ（振付①）			ウォームアップやストレッチを行うことで、自己の体の特性や課題を発見し、課題克服に向けて意識を高めることができる。振付を覚えて踊るという課題に向き合い、失敗しても粘り強く、自らの力で挑戦することができる。		
3	筋肉・体幹トレーニング/体ほぐし運動/コミュニケーションワークリズムダンスⅠ（振付②）			自己の体を維持、向上させていくために必要な筋肉とその特性を理解できる。 振付を覚えて音楽に合わせて踊ることに挑戦し、自己の課題と向き合いながら、生き生きと踊ることができる。		
4	体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/ウォームアップ/リズムダンスⅠ（振付③）			他者と共に行う振付を覚えて踊り、人と協力する向き合い、チームの課題を共有し、課題解決に向けて取り組むことができる。		
5	ダンス、ミニッツテストⅠ			リズムダンスⅠの内容に全力で取り組み、他者と協力して課題を乗り越えることができる。		
6	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/キックス			キックスにおける体の使い方及び基本の動き①（ストレート、フック、アッパー、ガード）について理解し実践することができ、相手としっかり向き合うことができる。		
7	キックス			キックスにおける基本の動き②（膝蹴り、前蹴り、回し蹴り）について理解し実践することができ、相手としっかり向き合うことができる。 キックスにおける基本の動き①②を、音楽に合わせて全力で実践することができる。		
8	ウォームアップ/ストレッチ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/キックス			キックスにおける基本の動きの組み合わせを理解し実践でき、相手としっかり向き合うことができる。		

9	キックス、ミニッツテストⅡ	音楽に合わせて組み合わせの動きを行い、キックスを通して他者と真剣に向き合うことができる。
10	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ	6～8人のグループで行うリズムダンスを他者と協力し踊ることができる。自ら積極的にダンスに取り組み、失敗しても前に一歩踏み出し、仲間と共に全力で踊ることができる。
11	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ	自己の課題とグループの課題に向き合い、自ら発信し他者に働きかけながら取り組むことができる。
12	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ	グループで課題について議論し、成果発表に向けての大まかなダンスの内容を組み立てることができる。自らが情報を発信すると共に、仲間の意見を聞きながら、内容を組み立てることができる。
13	ウォームアップ/リズムダンスⅡ	課題に対してグループで議論することで、独創的な発想を生み出し、人と同じではなく自分達ならではの要素を取り入れたダンスを組み立てることができる。
14	ウォームアップ/体ほぐし運動/コミュニケーションワーク/リズムダンスⅡ	グループで課題の内容を深め、ひと流れで踊ることができる。一人一人が生き生きと踊り、ダンスを通して体を動かすことの大切さを実感することができる。
15	まとめとミニッツテストⅢ	成果発表。ダンスを通して発見した課題に向き合い、グループで協力しダンス作品を発表することができる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>動きやすい恰好で上履き用のシューズを持ってきてください。</p> <p>必ず汗をかくので水分も忘れず持ってきてください。</p> <p>全講義終了後にレポート提出があり評価の対象とします。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
テコンドー用ミット		
最終到達目標		学習法
運動の必要性を理解し、自己の課題と向き合うと共に他者と協力し課題を乗り越えることができる。		上手く踊れる必要はありませんが、課題に対して全力で取り組む姿勢が必要です。また、他者とのコミュニケーションを自らとるように心掛けて臨んでください。
評価方法および評価基準		
<p>授業への取り組み及び態度 50%</p> <p>ミニッツテスト 30%</p> <p>レポート 20%</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>		

授業コード	ENC0601			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	体育実技	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	
担当教員	田中雅人				探求心	
講義目的						
1. 自己の健康や体力を保持増進させるための目的や方法を説明できる。						
2. 健康や体力を保持増進させ、スポーツに親しむための具体的な運動方法を実践できる。						
3. スポーツの楽しさを体感し、仲間とコミュニケーションをとりながら、主体的に取り組むことができる。						
授業内容						
体力測定を行い、自己の体力について理解したのち、体力を保持増進させるための方法について学習する。また、ストレッチングの方法を学習し、スポーツ活動によるケガの予防について理解する。						
フライングディスク、ネット型ボールゲーム、ゴール型ボールゲームに必要な用具やボールの操作を学習するとともに、各スポーツのルールについて理解する。また、学習した基本的な技能を用い、仲間とコミュニケーションをとりながらゲームが展開できることを目指す。						
健康や体力を保持増進させるための目的や方法を理解し、今後のライフプランを作成することで、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣を身に付ける。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	体力測定 スタビライゼーション			1) 体力を測定する方法を説明できる。 2) スタビライゼーションの方法を説明できる。		
2	ストレッチング フライングディスク 1			1) ストレッチングの方法を説明できる。 2) フライングディスクの操作に慣れる。		
3	フライングディスク 2 アルティメット			1) フライングディスクの操作に慣れる。 2) アルティメットのルールを説明できる。		
4	フライングディスク 3 アルティメット			1) 基本的な技能と仲間と連携した動きでゲームを展開できる。		
5	ボールゲーム（ネット型 1） ソフトバレーボール			1) ソフトバレーボールの操作に慣れる。 2) ソフトバレーボールのルールを説明できる。		
6	ボールゲーム（ネット型 2） ソフトバレーボール			1) 基本的な技能と仲間と連携した動きでゲームを展開できる。		
7	ボールゲーム（ネット型 3） インディアカ			1) インディアカの操作に慣れる。 2) インディアカのルールを説明できる。		
8	ボールゲーム（ネット型 4） インディアカ			1) 基本的な技能と仲間と連携した動きでゲームを展開できる。		
9	ボールゲーム（ネット型 5） バドミントン			1) ラケットの操作に慣れる。 2) バドミントンのルールを説明できる。		
10	ボールゲーム（ネット型 6） バドミントン			1) 基本的な技能と仲間と連携した動きでゲームを展開できる。		
11	ボールゲーム（ゴール型 1） バスケットボール			1) バスケットボールの操作に慣れる。 2) バスケットボールのルールを説明できる。		
12	ボールゲーム（ゴール型 2） バスケットボール			1) 基本的な技能と仲間と連携した動きでゲームを展開できる。		
13	ボールゲーム（ゴール型 3） フットサル			1) フットサルボールの操作に慣れる。 2) フットサルのルールを説明できる。		
14	ボールゲーム（ゴール型 4） フットサル			1) 基本的な技能と仲間と連携した動きでゲームを展開できる。		

15	まとめ	1) 健康や体力を保持増進させるための方法を説明できる。 2) 健康や体力の保持増進に留意したライフプランを作成できる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
運動に適したウェア，シューズを使用し，ケガ防止のため装飾品等は身に付けない。		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。		
教材		
必要に応じて資料を配付する。		
最終到達目標		学習法
スポーツの楽しさを体感するとともに、健康や体力を保持増進させるための運動を実践できる。		必要に応じて配付する資料を用いて、授業時間外の学習を行う。
評価方法および評価基準		
学習態度の観察（50%）、実践スキルの観察（30%）、レポート（20%）で評価する。		
S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENC0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	社会・環境と健康	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	
担当教員	岡 靖哲				探求心	
講義目的						
人間の社会的側面についての基本的な理解を通じて、生活基盤、ライフスタイルの変化にともなう健康への影響について学習する。ライフステージごとの家族・健康の課題を理解し、国際的な社会・医療の動向とも対比しながら、日本人が取り組むべき、健康を増進するためのアプローチについて学習する。						
授業内容						
講義目的を達成するために、主に以下の内容で講義を構成する。 1. 現代社会の特徴と、健康・QOL・ライフスタイル・生活習慣病の関連について学ぶ。 2. ライフステージ別の家族・健康の課題について学習する。 3. 社会・健康・医療の国際的動向の理解を通じて、我が国の健康・医療をめぐる問題点を考える。 4. 健康を増進するための科学的進歩と、最新医療の貢献と問題点について学習する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	現代社会の特徴：社会変動と健康			社会の24時間化の影響を理解できる		
2	個人の生活構造とライフスタイル			個人の生活時間・ライフスタイルを理解できる		
3	ライフスタイルと健康・疾病			生活習慣病の背景にある生活習慣を理解できる		
4	ライフステージ別の家族・健康の課題（1）			乳幼児期から児童期の家族・健康を理解できる		
5	ライフステージ別の家族・健康の課題（2）			青年期の家族・健康を理解できる		
6	ライフステージ別の家族・健康の課題（3）			成人期の家族・健康を理解できる		
7	ライフステージ別の家族・健康の課題（4）			老年期の家族・健康を理解できる		
8	人間にとっての集団・組織			社会の集団・病院組織の機能を理解できる		
9	個人・集団における協業と対立			医療現場におけるコンフリクトを理解できる		
10	地域社会とコミュニティ			健康をサポートするネットワークを理解できる		
11	社会・健康のグローバリゼーション（1）			国際社会の多様性と健康の関わりを理解できる		
12	社会・健康のグローバリゼーション（2）			医療システムの多様性を理解できる		
13	社会・健康のグローバリゼーション（3）			先進国と途上国の医療の違いを理解できる		
14	生命倫理			生殖医療・再生医療・遺伝学を理解できる		
15	ヘルスプロモーションとメンタルヘルス			健康行動と科学との関連を理解できる		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
当該科目の学習課題教材を積極的に予習してください。 科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教科書：『ナースング・グラフィカ 健康と社会・生活 健康支援と社会保障①』：平野かよ子，メディカ出版，2016年，2600円税（ISBN 978-4-8404-4912-0）						
最終到達目標				学習法		
現代社会における健康をめぐる課題を理解し、健康を増進するために看護が果たせる役割について考えることができる。				テキストに目を通して事前に概要を把握するとともに、事前に提示する課題がある場合は事前に学習して講義に臨んでください。		
評価方法および評価基準						
筆記試験（80%），出席・課題・小テストおよび授業への参加度（20%） S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENC0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	家族社会学	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1 年/後期	単位数	2		判断力	
担当教員	岡 多枝子				探求心	
講義目的						
本講義の目的は、日本の近代家族の成立と変遷を通して、家族の形態や機能、役割を理解するとともに、現代社会における家族の諸課題に対して、保健・医療・福祉専門職としてどのように関わっていくのかを能動的、協働的に考察し理解することである。						
授業内容						
今日の变化し多様化する家族が抱える生活と健康問題を理解する。それらの問題を抱える人々に、保健・医療・福祉などに係わる人がどのように関わっているのかを明らかにし、今後の課題を考察する。 授業の進め方は、以下をポイントに、講義を6割、学生の取り組む課題3割、課題テスト1割くらいの目安で進める。 1. 変化し多様化する家族 2. 家族が抱える生活と健康問題 3. 生活・健康問題に関わる援助活動 4. 今後の課題						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	家族とは(1)			家族像をイメージする		
2	家族とは(2)			形態・機能・役割を調べて発表する		
3	近代家族の成立			近代家族の概念を話し合う		
4	高度経済成長と家族(1)			人口の都市集中の課題を考える		
5	高度経済成長と家族(2)			農山村の家族を調べて発表する		
6	高度経済成長と家族(3)			都市部の家族を調べて発表する		
7	高度経済成長と家族(4)			核家族と拡大家族を調べて発表する		
8	高度経済成長の光			豊かな社会について話し合う		
9	高度経済成長の影			経済優先で失ったものは何かを考える		
10	近代家族のゆらぎ			夫婦役割分業と女性の自立を考える		
11	格差社会と家族			子ども・若者の貧困について話し合う		
12	多様化する家族			夫婦別姓、事実婚、同性婚、非婚を考える		
13	保健・医療・福祉関係者の働きと家族			課題図書に関して資料を作成・発表する		
14	保健・医療・福祉関係者の家族援助			IPE(専門職連携教育)を調べて発表する		
15	家族社会学のまとめ			振り返りレポートを作成して発表する		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
レポートや授業中の積極的な取り組みは評価の対象とする。5 回以上の欠席や頻繁な遅刻は評価の対象としない。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
第 1 回目の講義で提示する。						
最終到達目標				学習法		
家族の成立と役割や諸課題を理解した上で、看護師を基礎資格とした保健・医療・福祉・教育の専門職として能動的、協働的に関わるができる力を養う。				本講義では、アクティブラーニングを重視した講義を6割、学生の取り組む課題3割、課題テスト1割を目安とした学習法で進める。		
評価方法および評価基準						
講義中の活動 4 割、期末試験 4 割、課題レポート 2 割。 S(100-90 点)A に加え医療等専門職の働きが理解できる。 A(89-80)B に加え家族の多様性が理解できる。 B(79-70)C に加え家族の課題が理解できる。 C(69-60)家族が具体的に理解できる。 D(60 点未満)C のレベルに達していない。						

授業コード	ENC0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	生命倫理学	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	
担当教員	村川敏介				探求心	
講義目的						
1. 医療の現場で倫理的問題の起こる場面を理解できる。 2. インフォームド・コンセントの歴史と現状を説明できる。 3. 生命倫理学の原理原則について説明できる。 4. 出生をめぐる倫理問題を理解し、生殖補助医療、出生前診断等について説明できる。 5. さまざまな形の死を理解し、脳死は人の死かという質問に答えられる。 6. 尊厳死、安楽死、緩和ケアの用語を十分説明できる。						
授業内容						
20世紀後半から今日に至る医療技術の進歩は、医療の現場においてさまざまな倫理的問題を提起してきた。医療に従事する看護師は生命倫理についてその概略を心得ておく必要がある。具体的には、脳死、臓器移植、生殖補助医療、緩和ケア、尊厳死、安楽死など医学的内容を理解するとともに、どこに倫理的問題が存在するのかを明らかにできなくてはならない。その場合、共通の課題として医療におけるインフォームド・コンセントの重要性とその実態について理解を深めておく。脳死判定、脳死症例の家族の悩み、臓器提供における本人の意思、生体移植における臓器提供者の立場、体外受精に伴う親子関係などは、倫理的問題と関係することが多い。生命倫理が問われるような問題では、当事者はもとよりその親しい周辺の人々にもいろいろな悩みや葛藤が見られるので、この講義では看護学的アプローチによる支援の可能性を考察する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	生命倫理学とは何か			①生命に関する新たな倫理的問題を理解する。 ②生命倫理学に関する生物学的知識を理解する。		
2	生命倫理学の今日的課題			①生命医学倫理における四原則を理解する。 ②四原則に当てはまらない生命倫理を理解する。		
3	医療現場での生命倫理学的問題			①健康、疾患、病気について理解する。 ②医療現場での医療者と患者の関係を理解する。		
4	インフォームド・コンセント			①インフォームド・コンセントについて理解する。 ②同意能力のない患者に対するインフォームド・コンセントについて理解する。		
5	医療現場における守秘義務と個人情報保護			①患者の守秘義務の重要性が理解できる。 ②守秘義務の例外について考察できる。		
6	医療従事者の持つべき人間性			①医療従事者の持つべき人間性を理解する。 ②生命倫理的ジレンマに遭遇したときの人間性を考察できる。		
7	人工妊娠中絶と出生前診断			①人工妊娠中絶の倫理的問題を理解する。 ②出生前診断の倫理的問題を理解する。		
8	生殖補助医療			①生殖補助医療の現状を理解する。 ②生殖補助医療の倫理的問題を理解する。		
9	新生児医療			①新生児医療の現状を理解する。 ②出生をめぐる生命倫理学的問題を理解する。		
10	死の定義			①さまざまな死の基準を理解する。 ②死の定義の倫理的問題が理解できる。		
11	脳死に関する倫理的考察			①脳死とはどのような状態か理解できる。 ②脳死の判定基準を理解する。		

12	臓器移植	①さまざまな臓器移植を理解する。 ②臓器移植の倫理的問題が理解できる。
13	患者の QOL と医療における患者の権利	①患者の QOL が問題となる倫理的領域を理解する。 ②患者の権利に関する倫理的問題を理解する。
14	終末期医療	①終末期医療をめぐる倫理的問題が理解できる。 ②延命治療の中止・継続に関する倫理的問題を理解する。
15	安楽死を尊厳死	①安楽死に関する倫理的問題が理解できる。 ②尊厳死に関する倫理的問題が理解できる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>高校で倫理の授業がなかった人、倫理の授業を受けたがつまらなかった人は、是非この講義を通じて生命倫理を理解していただきたい。教材に示した参考書を少なくとも 1 冊は読んでくる。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。</p>		
教材		
<p>教科書は使用しないが、参考書として以下のものを利用する。</p> <p>参考書：『バイオエシックスとは何か』：加藤尚武，未来社，1,620 円（ISBN 978-4624010829） 『生・老・病・死を考える 15 章』：庄司進一，朝日選書，1,404 円（ISBN 978-4022598301） 『入門・医療倫理学』：赤林朗，勁草書房，3,300 円（ISBN 978-4-326-10157-3） 『生命と医療の倫理学』：伊藤道哉，丸善書店，2,160 円（ISBN 978-4621086728）</p>		
最終到達目標		学習法
<p>臨床現場で遭遇する生命倫理学的問題を持つ症例について合理的（筋道立てて）に考えることができる。</p> <p>医療に関するあらゆる生命倫理学的問題に適切に対応できる。</p>		授業内容については、事前に資料を配布する。
評価方法および評価基準		
<p>筆記試験あるいはレポート(85%)、出席および授業への参加度(15%)の総合得点とし、60 点以上を合格とする。</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>		

授業コード	ENC1001			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	社会福祉学	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1 年/後期	単位数	2		判断力	
担当教員	岡 多枝子				探求心	
講義目的						
1. 現代社会における子育てや高齢者介護、障がいや疾病、失業や困窮が地域社会に与える問題点や福祉ニーズを整理することを目的とする。						
2. 生活課題解決に向けた社会福祉制度の現状と課題に関する理解を深め、在宅医療や看護、地域保健の重要性や地域包括ケアに関する知識を学び、意識を高めることを目的とする。						
授業内容						
現代社会における社会福祉の必要性と、社会福祉と医療、看護領域との関連性について学ぶ。社会福祉の歴史、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、生活保護、地域福祉、司法福祉等について基礎的知識を身につけるとともに、現代社会における地域課題と各福祉分野の必要性について具体的な事例を交え理解する。特に医療や保健、福祉領域の連携、地域包括ケアの視点を身につける。授業の形態としては、映像を駆使した教材を中心に講義を進めるとともに、ケースメソッドを活用し、事例を基に学生同士のグループディスカッションや講師との意見交換等にて理解力を高める。必要に応じ、各福祉分野において直近で起きているトピックや社会問題、新聞報道等にも触れるとともに、現場で活躍する社会福祉士等の実践報告を聴く機会を作る。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	社会福祉の考え方と理念			社会福祉とは何かを考え整理する		
2	社会構造の変容と社会福祉			生活課題をニュースや新聞記事から考えてくる		
3	欧米及び日本における社会福祉の歴史			欧米の福祉制度を自分なりに把握してみる		
4	公的扶助①(生活保護の歴史と概要)			憲法 25 条との関係を考えてみる		
5	公的扶助②(仕組み及び生活困窮者自立支援)			自立助長とは何か		
6	高齢者福祉の歴史と高齢者福祉サービスの概要)			高齢者にとっての生きがい、社会参加を考える		
7	介護保険制度の仕組みと問題点)			介護保険の目的、医療との結びつきを整理する		
8	地域包括ケアと高齢者虐待防止、成年後見制度)			地元の地域包括センターの活動を調べる		
9	障がい者福祉の歴史とノーマライゼーション)			ノーマライゼーションについて自分の考えをまとめる		
10	身体障がい者福祉と総合支援法			身体障がい者の諸課題と援助策、解決策を考える		
11	知的、精神障がい者福祉と総合支援法			知的障がい者の諸課題と援助策、解決策を考える		
12	医療福祉制度、成年後見制度			医療福祉、成年後見制度の諸課題と解決策を考える		
13	児童福祉の歴史と制度、児童手当、虐待防止			地元の児童福祉政策を把握しておく		
14	母子寡婦福祉の歴史と制度、扶養手当、DV 防止			DV と母子世帯の課題を把握し援助・解決策を考える		
15	社会福祉協議会、ボランティア、共同募金、NPO			行政以外の地域で支える機関を把握してくる		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
レポートや授業中の積極的な取り組みは評価の対象とする。5 回以上の欠席や頻繁な遅刻は評価の対象としない。科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教科書:『新社会福祉士養成講座第 4 巻現代社会と福祉第4版』; 社会福祉士養成講座編集委員会, 中央法規, 2,808 円(税込) (ISBN 978-4-8058-3931-7)						
最終到達目標				学習法		
社会福祉に関する潮流や課題を理解した上で、看護師を基礎資格とした保健・医療・福祉・教育の専門職として能動的、協働的に関わるができる力を養う。				本講義では、アクティブラーニングを重視した講義を6割、学生の取り組む課題3割、課題テスト1割を目安とした学習法で進める。		
評価方法および評価基準						
講義中の活動 4 割、期末試験4割、課題レポート 2 割。						
S(100-90 点)A に加え医療等専門職の働きが理解できる。						
A(89-80)B に加え家族の多様性が理解できる。						
B(79-70)C に加え家族の課題が理解できる。						
C(69-60)家族が具体的に理解できる。						
D(60 点未満)C のレベルに達していない。						

授業コード	ENC1101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	教育社会学	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	
担当教員	西川千登世				探求心	
講義目的						
教育とは、学校教育だけでなく、社会と密接に関連しています。個人は、社会との相互作用の中で、様々な影響を受けながら社会化していきますが、社会が急激に変容していく現代社会においては、社会事象を理解するとともに、教育とは何か、学びとは何かということを考える必要があります。本科目では、社会問題や社会病理に対する知見を深め、その影響（教育現象）について理解し、自ら考えることのできる力を養うことを目的とします。						
授業内容						
現代社会に起きている社会問題や社会病理といった社会事象を学びながら、個人に与える影響（教育現象）について理解を深めるとともに、グループワークを通じて、問題解決の方法を探究していきます。 具体的には、乳児期や幼児期、学童期、青年期、老年期といった各ライフステージにおける社会的事象を取り上げ、知見を深めるとともに、グループワークでのディスカッションおよび発表を通じて、自ら考える力（クリティカルシンキング）を養うことを目指します。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	授業オリエンテーション			本科目を受講する上での授業内容・受講上の注意点等についてのガイダンスを行う		
2	社会の理解			社会の枠組み、近年の社会変化、社会との相互作用における教育との関連について学ぶ		
3	ワーク①社会問題について考える			グループワーク：現代社会の事象（問題）について考える		
4	子どもの教育①家族と子育て			家族の在り方や子育てに起きている問題について理解を深める		
5	子どもの教育②学校問題			いじめや不登校など学校で起きている問題について理解を深める		
6	ワーク②子どもの問題について考える			グループワーク：現代社会の事象（問題）について考え、問題解決に向けたディスカッションを行う		
7	青少年の生活①職業生活			就職・離職等を含めた職業生活に関する問題について理解を深める		
8	青少年の生活②結婚生活			恋愛や結婚、男女共同参画を含めた問題について理解を深める		
9	ワーク③青少年の問題について考える			グループワーク：現代社会の事象（問題）について考え、問題解決に向けたディスカッションを行う		
10	マイノリティの理解①ジェンダー			ジェンダーに関する知識と問題について理解を深める		
11	マイノリティの理解②逸脱行動			非行、薬物、差別などの問題について理解を深める		
12	ワーク④マイノリティの問題について考える			グループワーク：現代社会の事象（問題）について考え、問題解決に向けたディスカッションを行う		
13	高齢期の学習：生涯学習社会			生涯学習社会についての知識と高齢期の問題について理解を深める		
14	メディアと教育			マス・コミュニケーションだけでなく、電子メディアの発達が与える影響や問題について理解を深める		
15	ワーク⑤教育について考える			グループワーク：これまでに学んだ知見を活かし、教育の問題についてディスカッションを行う		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>初回授業において、授業内容・評価方法等について詳細な注意事項をお伝えしますので、やむを得ず欠席する場合には、必ず後日確認すること。また、学習した知識を活用するためにも積極的に授業に参加してください。</p> <p>※ 受講生の興味関心や進捗状況に応じて授業内容を変更することがあります。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>教科書の指定はしませんが、必要に応じて参考図書等を購入することをお勧めします。</p> <p>資料・参考図書等については授業内で適宜配布・紹介します。</p>	
最終到達目標	学習法
社会問題や社会病理に対する知見を深め、教育現象について理解し、自ら考えることのできる力を養う	講義およびワーク
評価方法および評価基準	
<p>最終レポート 60%</p> <p>授業への参加態度※ 40%</p> <p>※評価内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークへの積極的な参加 ・授業に臨む姿勢および出席率 <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>	

授業コード	ENC1201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	社会保障論	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	
担当教員	岡 多枝子				探求心	
講義目的						
1. 国内外の社会保障制度の歴史を概観し、日本の社会保障制度の体系と各制度の基本的構造を理解することを目的とする。						
2. 少子高齢化、核家族化、地域社会の変化や雇用状況等の諸課題に対して、保健・医療・福祉などの専門職としてどう関わるのかを能動的、協働的に学び合うことを目的とする。						
授業内容						
日本の社会保障制度の中心をなす、年金保険制度・医療保険制度・介護保険制度等の仕組みと現状・課題を理解することを目的とする。疾病、高齢等の社会生活上の課題を軸に日本の社会保障制度の必要点と問題点を事例や統計データ、他国の社会保障制度と比較しつつ整理する。また、社会保障構造改革に向けてどのような改革を行おうとしているのかを国の情報等を基に理解に努める。授業の形態としては、映像を駆使した教材を中心に講義を進めるとともに、ケースメソッドを活用し、事例を基に学生間でのグループディスカッションや講師等との意見交換を行い理解力を高める。必要に応じ、新聞報道などで配信されているトピックや社会問題についても触れる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	社会保障の理念と機能、社会保障制度の体系			社会保障とは何かを考えてくる		
2	欧米における社会保障の歴史的展開			欧米の社会保障制度の概要を調べてみる		
3	日本における社会保障の歴史的展開			昭和初期からの社会保障制度を概観しておく		
4	年金制度の概要と国民年金			年金制度について調べ概要を把握しておく		
5	厚生年金保険と共済年金、年金制度の動向			両親が加入している年金を確認してみる		
6	医療保険制度の沿革及び国民健康保険制度			自分が加入している医療保険を確認する		
7	後期高齢者医療制度、健康保険制度、共済医療制度			国民健康保険との相違を整理しておく		
8	労働保険の沿革と概要及び労働者災害補償保険			労働者災害とはどのような災害かを調べてみる		
9	雇用保険と労働保険制度をめぐる近年の動向			雇用保険制度の受給要件を把握する		
10	介護保険制度の創設の経緯と概要			介護保険制度創設のねらいを把握する		
11	介護保険制度をめぐる近年の動向			行政の資料等から介護サービスを把握する		
12	社会福祉制度、生活保護制度、生活困窮者自立支援			生活保護法1条から8条までを確認する		
13	高齢者福祉と障がい者福祉の概要と課題			高齢者、障がい者福祉法の目的を把握する		
14	児童福祉、母子及び寡婦福祉、社会手当			児童、母子寡婦保険法の目的を把握する		
15	まとめ、全体の振り返り			理解不足な点を整理しておく		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
レポートや授業中の積極的な取り組みは評価の対象とする。5回以上の欠席や頻繁な遅刻は評価の対象としない。科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教科書：『新社会福祉士養成講座第12巻社会保障 第4版』；社会福祉士養成講座編集委員会，中央法規，2,808円 (ISBN 978-4-80585-300-9)						
最終到達目標				学習法		
国内外の社会保障制度の成立と構造を理解した上で、看護師を基礎資格とした保健・医療・福祉・教育の専門職として能動的、協働的に関わるができる力を養う。				本講義では、アクティブラーニングを重視した講義を6割、学生の取り組む課題3割、課題テスト1割を目安とした学習法で進める。		
評価方法および評価基準						
講義中の活動4割、期末試験4割、課題レポート2割。						
S(100-90点)Aに加え医療等専門職の働きが理解できる。						
A(89-80)Bに加え家族の多様性が理解できる。C(69-60)家族が具体的に理解できる。						
B(79-70)Cに加え家族の課題が理解できる。D(60点未満)Cのレベルに達していない。						

授業コード	ENC1301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	哲学	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	
担当教員	森川孝吉				探求心	
講義目的						
医療のあり方が患者の意思を尊重するものへと変貌しつつある、そうした時代に医療に携わるものが患者と人間として共有できるものは何か？を、考慮することを迫られている。そうした観点から現代人として日々突き当たる諸問題に真正面から向かい合い、反省的思考ができる資質を形成することを目指す。						
授業内容						
共感、人間的愛、人間的自由、正義といったテーマを深めていく。これらは誰もが関心を持つ一方、古今東西で絶えず思考され、論じられてきたテーマでもある。古典的文献における代表的主張を踏まえながら、現代的テーマとして再構築していく。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	他者への関心 共感(1) 共感の本質		単一の源泉をもつ感情の伝染による共感と、二つの源泉（当事者を取り巻く事情と想像力）を持つ共感の区別を把握し、前者の限界を見極める。			
2	他者への関心 共感(2) 共感の成立条件		観察者から当事者に寄り添うだけでは、共感は成立しない。当事者が観察者視点を身に着ける必要性を理解すること。			
3	他者への関心 共感(3) 賢者の原理と弱さ		他者から称賛されることを目的とするのではなく、他者からの称賛に値することを目指すことが、社会道徳の腐敗を防ぐカギを握ることを把握する。			
4	他者への関心 共感(4) 自然の欺瞞と秩序		公平な観察者が供する限りにおける自己利益の追求は、それが人間の心の弱さから発生するものであっても、社会の繁栄に貢献しうるとして市民的徳性に関わることを併せて人間の幸福について思索を深める。			
5	人間存在の本質と他者(1) 愛の諸類型		愛の古典的諸類型の理解を通して、それが快楽や有用性とは区別されること。また人間的愛を築くには相互性が基調になることを理解する。			
6	人間存在の本質と他者(2) 愛は'Art'か「感情」か？		愛は感じ取られるだけのものではなく、むしろ本質的にはアーティストや技術者と同じく修練や努力によって磨き上げられるものであることを理解する。			
7	人間存在の本質と他者(3) 自己愛と人類愛		「自分自身を愛せない人は他者をも愛せない」という命題の意味を理解すること、また愛は二人の愛が成就するのは、二人の世界に閉じ込めることではなく、世界に開かれた関係であってこそ可能であることについて認識を深める。			
8	公共性と私(1) 自由 バーリンと消極的自由		現代自由論の一つの典型を示すバーリンの消極的自由の概念から、個人が他者から干渉されるべきではない領域の意味を理解する。			
9	公共性と私(2) 自由 アーレント行為の自由		社会生活を送る人間が自由を語る場合、単なる内面、暗がりの自由ではなく、他者と語り合い行為する公共的空間が必要であることについて認識を深める。			
10	公共性と私(3) 正義 ロールズ 無知のヴェールの下での正義の原理の選択		「最大多数の最大幸福」を目指すことが正義だと考える功利主義的正義観に潜む問題性、また社会における公正な配分は善行 Beneficence の問題か正義 Distributive Justice の問題かを考える。			

11	公共性と私(4)正義 サンデル 公共性の衰退と正義	優生思想が戦後国際的に断罪されたのは、断種を国家が推奨したことが問題なのか(→個人の選択に委ねれば可?)、優生思想そのものがはらむ問題なのかを把握しうる正義の原理を考える。
12	公共性と私(5)正義 セン 現実指向型対比視点と包括的結果主義	制度の正しさとそれが運用された際に生じる不公正のどちらに焦点を当てるべきか、また不正一般の破棄ではなく、まずより大きな悪を避ける選択がなぜ有効なのか理解を深める。
13	公共性と私(6)正義 マリオン・ヤング 正義の責任	特定の誰かの責任とはいいいがたい問題に対して、個々人がその責任においてどう立ち向かうべきか理解を深める。
14	死生観を考える ハイデッガーとサルトル、アーレント	各人が自己固有の死の意味を深く考えることが善き生をもたらすのか、むしろ今ある生の意味を深めることがよき生と死をもたらすことになるのか対極的な思想を通して理解を深める。
15	まとめ	これまでの講義内容の振り返りを行うことで理解を深める。
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要である。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行う。全体のフィードバックについては講義時間内に行うが、個別のフィードバックは時間外に設定する。		
教材		
参考書:『道徳感情論』; アダム・スミス, 講談社, 1,998 円 (ISBN 978-4-06292-176-3) 『ニコマコス倫理学』; アリストテレス, 京都大学学術出版会, 5,076 円 (ISBN 978-4-87698-138-0) 『愛するということ』; フロム, 紀伊国屋書店, 1,363 円 (ISBN 978-4-31400-558-6) 『自由論』; パーリン, みすず書房, 6,048 円 (ISBN 978-4-62204-974-6) 『過去と未来の間』; アーレント, みすず書房, 5,184 円 (ISBN 978-4-62203-648-7) 『正義論』; ロールズ, 紀伊国屋書店, 8,100 円 (ISBN 978-4-31401-074-0) 『これからの正義の話をしよう』; サンデル, 早川書房, 972 円 (ISBN 978-4-15050-376-5) 『正義のアイデア』; セン, 明石書店, 4,104 円 (ISBN978-4-75033-494-3) 『正義への責任』; マリオン・ヤング, 岩波書店, 4,212 円 (ISBN 978-4-00025-963-7)		
最終到達目標		学習法
既存の価値観を疑い、再構築する勇気と寛容性を涵養する。		毎回の講義で手渡される講義資料をしっかりと読み解く習慣をつけること。
評価方法および評価基準		
学期末に実施する教場試験の結果を基本とするが、テーマごとに課すレポートの評価を加点材料とする。 S(100~90点): 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80点): 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70点): 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60点): 学習目標の最低限は満たしている D(60点未満): Cのレベルに達していない		

授業コード	ENC1401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○	
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野		
授業科目名	芸術の世界	選択・必修	選択		知識・技術		
配当学年/学期	1 年/前期	単位数	2		判断力		
担当教員	加藤富子				探求心		
講義目的							
芸術の世界は心の表現。自然や社会のことや人への興味を持つこと。感動する心を大きくし、仲間の中で新しい自分発見。皆の中で、様々な心の表現を楽しみ、コミュニケーション力や表現力を身につけ豊かな人間になる。 共に感動を創り出しましょう。							
授業内容							
見たり、聞いたり、触ったり、日常生活の中に沢山の感動があります。 シアターゲームなど演劇スキルを使って体験しましょう。 五感を磨いて、想像力を磨いて、表現力を磨いて、あなたも芸術家。 心で感じて、頭で考えて、身体を動かして皆で楽しみましょう。							
授業計画及び学習課題							
回	内容			学習課題			
1	始めに			講座の目的を掴む			
2	シアターゲーム			自分の色々な面を知る			
3	シアターゲーム			五感を磨く			
4	聞くということ			コミュニケーション力をアップさせる			
5	伝えるということ			コミュニケーション力をアップさせる			
6	自然の世界			自然の中の美を発見する			
7	歌の世界			歌の心と歌うことの楽しさ発見する			
8	踊の世界			踊りの心と踊ることの楽しさ発見する			
9	芝居の世界			様々な作品を知る			
10	短い創作			物語を考えてみる			
11	演じてみよう（グループで）			創作の楽しさ発見する			
12	演じてみよう（グループで）			表現する楽しさ発見する			
13	シアターゲーム			五感を磨く			
14	心の表現			共感力を磨く			
15	まとめ			全体通しての感想を出し合う			
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)							
新たな出会いを楽しみに参加してください。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。							
教材							
教科書:『センス・オブ・ワンダー』;レイチェル・カーソン著, 新潮社, 1,520 円 (ISBN 978-4-10519-702-5)							
最終到達目標				学習法			
感動できる自分、新たな自分が発見できること。 想像力豊かに、人とのコミュニケーションが楽しくなること。 共感力、表現力が豊かになること。				アクティブラーニング			
評価方法および評価基準							
レポート提出 S(100～90 点):学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点):学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点):学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)							C(69～60 点):学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満):C のレベルに達していない

授業コード	ENC1501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	日本の歴史と文化	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	
担当教員	山内 譲				探求心	
講義目的						
大学生として必要な歴史的教養を身に付けるとともに、社会的諸問題を歴史的に考察する力を養う。						
授業内容						
近現代史上の諸問題を取り上げ、世界の動きと関連させながら、明治・大正・昭和の各時代はそれぞれどのような歴史的特質を持っていたのか、また現代社会はどのようにして出来上がったのか、などについて考察する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	ペリー来航と開国		ペリー来航の目的、新しく締結された条約の内容、開国による社会の混乱などについて理解することができる。			
2	坂本龍馬とは何者か		幕末期の政治的変動の推移を、この時期のキーパーソンともいえるべき坂本龍馬の動きと関連させて理解することができる。			
3	明治維新とはどのような変革か		明治維新という社会的変革の特質を、世界のできごとと関連させながら理解することができる。			
4	立憲国家の成立		大日本国憲法の内容や歴史的意義を、明治期の社会の動きの中で理解することができる。			
5	日清・日露戦争		日清・日露戦争の原因や経過について、中国・朝鮮・ロシアの動きと関連付けて理解することができる。			
6	第一次世界大戦と日本		第一次世界大戦と日本のかかわりや戦後の社会の変化について理解することができる。			
7	大正デモクラシーと市民文化		政党内閣の成立や大正デモクラシーの新しい社会的風潮、その中で生まれた市民文化の様相について理解できる。			
8	軍部の台頭		経済の破綻などによって、軍国主義が台頭し、二・二六事件などによって社会のあり方が変わっていく状況について理解できる。			
9	第二次世界大戦の始まり		ファシズムの台頭によって第二次世界大戦が始まり、日独伊三国同盟などによって日本が戦争に向かっていく状況について理解できる。			
10	太平洋戦争と国民生活		日米交渉の決裂による太平洋戦争の始まり、悲惨な戦争の経過、それによる国民生活の崩壊などについて理解できる。			
11	占領と改革		太平洋戦争の終結によって占領が始まり、社会的混乱の中で、様々な民主的改革が行われることを理解できる。			
12	冷戦と講話		東西両陣営による冷戦が始まり、その影響を受けて占領政策が転換し、講和条約の締結によって独立が回復される過程について理解できる。			
13	高度成長と社会の変貌		朝鮮戦争の特需によって経済復興がなされ、高度経済成長によって国民生活の様相が大きく変化することを理解できる。			
14	世界の中の日本		どのようにすれば戦争や大規模災害を防ぐことができるか、また、今後国際社会の中でどのように生きていくべきか、などについて考えることができる。			
15	まとめ		講義内容を振り返り、学習内容について総合的に考察する。			

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>現代社会との関連を考えながら、歴史の大きな流れをつかむように学習してください。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
毎時間学習プリントを配布し、必要に応じて参考図書を紹介する。	
最終到達目標	学習法
<p>1 各時代の特徴や社会の移り変わりについて正しく理解することができる。</p> <p>2 社会的諸問題を時間の流れの中で考える歴史的思考力が身に付く。</p>	配布する学習プリントに基づいて学習すること
評価方法および評価基準	
<p>基礎的事項が身についているかどうかを確認するミニレポート 20%、歴史の流れが理解できているかどうかを見る試験 70%、平常の受講態度 10%などを総合的に勘案して評価する。</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENC1601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	基礎科目－人間と生活の理解				広い視野	
授業科目名	経営学の基礎	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	
担当教員	森賀盾雄				探求心	
講義目的						
1. 大学生のキャリア教育の基礎いわば社会人としての必須教養として、広く社会経済への関心を促すとともに、企業・産業と経済の問題について考える力を涵養することを意図し、経営学の入門的知識を修得させる。 2. アップトゥデイトな話題を紹介しつつ、企業論的視点から、企業行動に関する基礎知識を修得させるとともに、経済主体の一つである企業行動の影響を理解させ、産業の動向や日本経済の実際を広く理解させるよう展開していく。						
授業内容						
今日の企業経営・NPO運営にとって「マネジメント」「イノベーション」「マーケティング」は必要不可欠な理論であることから、この三つの基礎理論と関連性について具体的適用事例を含めて学ぶ。 具体的には、マネジメントの発明者であるドラッカーの発明に至る背景から今日的広がり、営利・非営利の組織等におけるマネジメントの共通性と違い、イノベーション理論、今日的マーケティング論の世界、我が国経営学者が生み出した知識経営論、ボディケア・ライフケアのユニ・チャームの経営、チーム医療におけるマネジメントの基礎的理論を学ぶ。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	マネジメントの誕生			ドラッカーのマネジメント論誕生の背景と目的を考察することによりマネジメントの今日的な重要性が理解できる。		
2	マネジメントの広がり			営利・非営利のあらゆる分野へのマネジメントの広がりを考察することにより、マネジメントなくして生きていけない時代が理解できる。		
3	企業マネジメントと地域マネジメント			営利を目的とする企業マネジメントと非営利を目的とする地域マネジメントの違いと共通点を考察することにより、マネジメントがより深く理解できる。		
4	イノベーションとは			「ビジネスにはマーケティングとイノベーションを通じた顧客創造が大事」とドラッカーは指摘している。マネジメントとの関連でイノベーションの重要性を考察することにより事業経営の基礎的フレームが理解できる。		
5	マーケティング論Ⅰ			「市場志向の戦略づくり」を考察することにより今日的マーケティングの狙いが理解できる。		
6	マーケティング論Ⅱ			「戦略志向の組織体制づくり」を考察することにより今日的マーケティングの組織の在り方が理解できる。		
7	マーケティング論Ⅲ			「顧客との接点のマネジメント」を考察することにより今日的マーケティングの顧客第一主義が理解できる。		
8	マーケティング論Ⅳ			「組織の情報リテラシーを確立する」を考察することにより、今日的マーケティングの情報活用が理解できる。		
9	知識経営Ⅰ			日本的経営論の到達点である「知識経営論」が生み出された哲学が理解できる。		
10	知識経営Ⅱ			日本的経営論の到達点である「知識経営論」の基本的内容を理解できる。		
11	知識経営Ⅲ			日本的経営論の到達点である「知識経営論」の適用事例を考察することにより知識経営論の真髓が理解できる。		

12	ユニ・チャームの経営Ⅰ	我が国マーケティング最優良企業であるユニ・チャームの経営を初代・高原慶一郎の創業から発展経過を考察することにより、企業経営の具体例を通して経営の在り方が理解できる。
13	ユニ・チャームの経営Ⅱ	我が国マーケティング最優良企業であるユニ・チャームの経営を二代・高原豪久の新たな発展展開を考察することにより企業経営の持続発展方法が理解できる。
14	チーム医療と経営	医者・看護師・療法士・栄養士等の専門職連携によるチーム医療のマネジメントの在り方を考察することによりキュア・ケアの連携について理解することができる。
15	経営学の基礎ふり返し学習	ふり返し学習により学習成果を確認する。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
授業開始前に予習課題を提示するので学習してきてください。授業中に発表を求めます。授業中はスマホ厳禁。		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
教科書：『マーケティングを学ぶ』；石井淳蔵著，筑摩書房，2010 年，1,050 円（ISBN 978-4-48006-530-8） 参考書：『ドラッカーマネジメント』NHK「100 分 de 名著」ブックス；上田惇生著，NHK 出版，2012 年， （ISBN 978-4-14081-520-5） 『地域からの未来創生』；望月照彦・森賀盾雄編著，学文社，2015 年，2,160 円 （ISBN 978-4-76202-570-9）		
最終到達目標		学習法
看護の専門職として組織や地域を経営的視点で活躍する基礎的力を獲得する。		授業内容については、事前にテキスト・配布資料をよく読んで授業に臨むこと。
評価方法および評価基準		
試験 50%、レポート 30%、受講態度 20%		
<p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>		

授業コード	END0101			豊かな人間性 に定める養成す る能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能				広い視野	
授業科目名	解剖生理学ⅠA	選択・必須	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	昆 和典				探求心	○
講義目的						
生命の基本単位である細胞の構造と細胞を取り囲む内部環境の恒常性を理解し、身体の活動を行うための情報伝達を担う神経系について理解を深める。						
授業内容						
細胞を取り囲む内部環境では特に浸透圧、pH について述べる。神経系については、生体の内外から到達する刺激に対して、情報処理センターである中枢神経系の対応と指令を全身の各部に伝える末梢神経の働きについて述べる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	細胞の構造と機能			生体を形づくる細胞が、最小の生命単位として機能していることを理解できる。		
2	組織の種類と機能			細胞の集合体である組織の種類とその機能について理解できる。		
3	人体各器官の機能-概説			身体の区分、表示法、内部環境維持のため働く人体各器官の機能などについて理解できる。		
4	内部環境の恒常性の維持-1			細胞の生命維持に必要な内部環境の条件(浸透圧、pH、電解質組成など)について理解できる。		
5	内部環境の恒常性の維持-2			細胞の生命維持に必要な内部環境の条件(浸透圧、pH、電解質組成など)について理解できる。		
6	内部環境の恒常性の維持-3			細胞の生命維持に必要な内部環境の条件(浸透圧、pH、電解質組成など)について理解できる。		
7	興奮性細胞の生理			活動電位、シナプスによる興奮伝達などについて理解できる。		
8	筋の種類と機能			筋の種類とそれぞれの機能について理解できる。		
9	筋収縮の仕組み			筋収縮の仕組みについて理解できる。		
10	神経系の分類と中枢神経系の成り立ち			神経系の分類と中枢神経系の成り立ちについて理解できる。		
11	中枢神経系の機能			中枢神経系の機能について理解できる。		
12	末梢神経系の成り立ち			末梢神経系の成り立ちについて理解できる。		
13	末梢神経系の機能			末梢神経系の機能について理解できる。		
14	神経系による運動調節			神経系による運動機能の調節について理解できる。		
15	神経系による内蔵機能調節			神経系による内蔵機能について理解できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学習時間）						
当日の講義内容に基づいた小テストを7回ほど実施。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教科書:内田さえ、佐伯由香、原田玲子編 人体の構造と機能(医歯薬出版)						
最終到達目標				学習法		
講義は配布したプリントを中心に行う。後に教科書で自習する際、教科書に記述されている内容が理解できる。				毎回配布するプリントに必要事項を書き込むこと		
評価方法および評価基準						
S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	END0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能				広い視野	
授業科目名	解剖生理学ⅡA	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	本田和男				探求心	○
講義目的						
生体を構成する各臓器について、その構造と働きに関する基礎的な知識を習得する。 臓器の正常の構造と機能を正しく理解することにより、機能障害や疾病と関連づけて、臨床で必要とされる基本的な知識を習得する。						
授業内容						
循環器（心臓、血管系、リンパ系）、血液、生体防御（免疫）系、呼吸器（上気道、気管、肺）について、各々の構造と機能について学習する。それぞれの臓器について、臨床的に頻度の高い代表的な疾患の病態と関連付けながら、正常な働きと機能不全状態のちがいを理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	心臓の構造と機能			心臓の仕組みと働きを理解する。		
2	動脈系			動脈の構造と機能を知る。		
3	静脈系と門脈系			静脈と門脈のちがいを理解する。		
4	リンパ系			リンパ管とリンパ節の働きを知る。		
5	血液の機能と成分			生体内での物質輸送の重要性を理解する。		
6	赤血球と白血球			それぞれの重要な働きを理解する。		
7	血小板と凝固因子			血液凝固と線溶系の役割を知る。		
8	免疫系のしくみ			生体防御のメカニズムを知る。		
9	獲得免疫系			抗原に対する生体の反応を理解する。		
10	自然免疫系			自然免疫系の働きと獲得免疫との関係を理解する。		
11	感染症・アレルギー・自己免疫疾患			免疫が関与する病態を知る。		
12	呼吸の生理学			酸素・炭酸ガス交換を細胞レベルから理解する。		
13	呼吸の調節			換気の調節の重要性を知る。		
14	上気道、気管、気管支			気道の構造と仕組みを知る。		
15	肺			肺の構造と働きを理解する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
あらかじめ講義の内容に該当する教材に目を通しておき、疑問点や理解できない部分を整理しておくこと。 また、講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教科書：『人体の構造と機能 第4版』；内田さえ、佐伯由香、原田玲子編，医歯薬出版，3,024 円 (ISBN 978-4-263-23595-9) 参考書：『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 第4版』；林正健二，メディカ出版，5,184 円 (ISBN 978-4-84045-374-5)						
最終到達目標				学習法		
各々の臓器の働きを説明できる。 代表的な疾病と関連づけて、機能不全の状態を理解する。				事前に教材の予習をする。講義中はまめにメモをとる。疑問点を放置しない。		
評価方法および評価基準						
講義終了後の筆記試験。出席率と受講態度。 S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	END0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能				広い視野	
授業科目名	解剖生理学ⅠB	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	本田和男				探求心	○
講義目的						
1. 生体を構成する各臓器について、その構造と働きに関する基礎的な知識を習得する。 2. 臓器の正常の構造と機能を正しく理解することにより、機能障害や疾病と関連づけて、臨床で必要とされる基本的な知識を習得する。						
授業内容						
消化器(口腔、食道、胃、小腸、大腸、肝臓・胆嚢・膵臓)、泌尿器(腎臓、尿管、膀胱、尿道)、内分泌系(脳、甲状腺、膵臓、副腎)、生殖器について、各々の構造と機能について学習する。 それぞれの臓器について、臨床的に頻度の高い代表的な疾患の病態と関連付けながら、正常な働きと機能不全状態のちがいを理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	口腔と食道			咀嚼・嚥下の重要性を知る。		
2	胃			胃の食物消化にはたす役割を理解する。		
3	小腸・大腸			小腸と大腸の構造と機能のちがいを知る。		
4	肝臓・胆嚢			肝臓の構造と働きを理解する。		
5	膵臓・脾臓			外分泌器官としての膵臓と脾臓の役割を知る。		
6	腎臓の構造と機能			尿として老廃物を排出するしくみを理解する。		
7	尿管・膀胱・尿道			尿路系の構造と機能を知る。		
8	排尿の生理			失禁、排尿困難などの病態を理解する。		
9	脳の内分泌機能と甲状腺			視床下部・下垂体・松果体の機能を知る。		
10	膵臓の内分泌機能と副腎			ランゲルハンス島と副腎の機能を理解する。		
11	女性生殖器の構造			卵巣・子宮・膣の構造とはたらきを知る。		
12	性周期と妊娠・出産			妊娠に伴うホルモン環境の変化を知る。		
13	乳腺			乳腺の構造と代表的な病態を知る。		
14	男性生殖器の構造			睾丸・前立腺・陰茎の構造とはたらきを知る。		
15	男性生殖器の機能と年齢変化			生殖機能の成長と老化の過程を理解する。		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
あらかじめ講義の内容に該当する教材に目を通しておき、疑問点や理解できない部分を整理しておくこと。 また、講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。 科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教科書:『人体の構造と機能 第4版』; 内田さえ、佐伯由香、原田玲子編, 医歯薬出版, 3,024円 (ISBN 978-4-263-23595-9) 参考書:『ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 第4版』; 林正健二, メディカ出版, 5,184円 (ISBN 978-4-84045-374-5)						
最終到達目標				学習法		
各々の臓器の働きを説明できる。 代表的な疾病と関連づけて、機能不全の状態を理解する。				事前に教材の予習をする。講義中はまめにメモをとる。 疑問点を放置しない。		
評価方法および評価基準						
講義終了後の筆記試験。出席率と受講態度。 S(100～90点): 学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent) A(89～80点): 学習目標を相応に達成している(Very Good) B(79～70点): 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある(Good) C(69～60点): 学習目標の最低限は満たしている D(60点未満): Cのレベルに達していない						

授業コード	END0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能				広い視野	
授業科目名	解剖生理学ⅡB	選択・必須	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	昆 和典				探求心	○
講義目的						
骨、筋、神経の分布と名称について理解する。体性感覚ならびに視覚などの特殊感覚については、それぞれの感覚が持っている独自に発達した情報処理機能について理解する。さらに、数々の生命現象の日内リズム、体温調節について理解する。						
授業内容						
全身の骨、筋、神経の分布と名称について述べる。生体の内外からの刺激を感知する感覚系について、それぞれの刺激に反応する受容器の分布とは働きに焦点をあてて述べる。生体のリズムでは、神経系、内分泌系でその働きに日内変動のある例を述べるとともに睡眠についても触れる。体温調節では、体温を一定温度に保つための機構について述べる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	骨・関節の構造と機能-1		骨・関節の構造と機能について理解できる。			
2	骨・関節の構造と機能-2		骨成長、骨代謝について理解できる。			
3	全身の骨格		全身の主たる骨の名称と機能について理解できる。			
4	全身の骨格		全身の主たる骨の名称と機能について理解できる。			
5	全身の筋		全身の主たる筋の名称と機能について理解できる。			
6	全身の筋		全身の主たる筋の名称と機能について理解できる。			
7	全身の神経		全身の主たる神経の名称と機能について理解できる。			
8	全身の神経		全身の主たる神経の名称と機能について理解できる。			
9	体性感覚と内臓感覚		皮膚感覚、内臓感覚、痛覚などについて理解できる。			
10	聴覚と平衡感覚		耳の構造、平衡器官の構造、聴覚、平衡感覚について理解できる。			
11	視覚-1		眼球の構造、眼球運動、眼球反射などについて理解できる。			
12	視覚-2		網膜の構造と機能、視覚伝導路などについて理解する。			
13	味覚、嗅覚		味覚、嗅覚について理解できる。			
14	生体のリズム		神経系、内分泌系、睡眠・覚醒の日内リズムについて理解できる。			
15	エネルギー代謝と体温調節		熱の産生、放散の調節について理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学習時間）						
当日の講義内容に基づいた小テストを7回ほど実施。 科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教科書：内田さえ、佐伯由香、原田玲子編 人体の構造と機能（医歯薬出版）						
最終到達目標			学習法			
講義は配布したプリントを中心に行う。後に教科書で自習する際、教科書に記述されている内容が理解できる。			毎回配布するプリントに必要事項を書き込むこと			
評価方法および評価基準						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	END0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能				広い視野	
授業科目名	微生物学	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	加納 誠				探求心	○
講義目的						
人間に感染症を起こす目に見えない小さな生き物について、微生物学を学ぶことで理性の目・学問の力を養い、敵を知ることが目的となります。微生物学を学ぶことで医学・生物学の理解を深めて、その知識を医療の現場でいかすことが出来るようになることを目指す。						
授業内容						
病原微生物と感染症について学び、感染症の治療及び予防のための基本的知識の習得を目指す。病原微生物として細菌、ウイルス、真菌ならびに原虫の性質を説明した後に、肺炎、尿路感染症など各種感染症のメカニズムと発病、それに伴う生体の反応について理解できる。さらに、感染症の検査、感染防止対策、滅菌・消毒方法を学ぶ。また、微生物による感染から生体を守り異物の侵入に対して特異的に反応する力である免疫について理解できる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	微生物の性質 微生物学の歩み			微生物の種類と特徴を理解する。 微生物の病原性と近代微生物学の歴史を理解する。		
2	細菌の性質 真菌の性質			細菌の形態と特徴を理解する。 真菌と細菌の相異、真菌の形態と特徴を理解する。		
3	原虫の性質 ウイルスの性質			原虫の形態と特徴を理解する。 ウイルスの形態と特徴を理解する。		
4	感染と感染症			各々の微生物の感染機構と特徴を理解する。		
5	感染に対する生体防御機構			自然免疫と獲得免疫の生体防御における役割を理解する。ワクチンについて理解する。		
6	感染経路からみた感染症 滅菌と消毒			微生物の自然界での分布と感染源、感染経路を理解する。 滅菌消毒の重要性と方法を理解する。		
7	感染症の検査と診断 化学療法薬			病原体の検出と遺伝学的検査、血清学的検査、診断を理解する。 化学療法薬の種類、作用メカニズム、副作用、薬剤耐性などを理解する。		
8	感染症の現状と対策			新興・再興感染症、院内感染とその対策を理解する。 世界と我が国の感染症監視体制について理解する。		
9	病原細菌と細菌感染症-1			細菌の形態、染色性、酸素要求性と感染症について理解する。 グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性好気性桿菌、グラム陰性通性桿菌。		
10	病原細菌と細菌感染症-2			細菌の形態、染色性、酸素要求性と感染症について理解する。 グラム陽性桿菌、抗酸菌、嫌気性菌。		
11	病原細菌と細菌感染症-3			細菌の形態、染色性、酸素要求性と感染症について理解する。 スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア。		
12	真菌感染症 原虫感染症			真菌感染症を部位別に分類し理解する。 原虫感染症を感染症法の対象疾患を中心に理解する。		
13	ウイルス感染症-1 (DNA ウイルス)			DNA ウイルス感染症の感染経路、症状、特徴について理解する。		
14	ウイルス感染症-2 (RNA ウイルス)			RNA ウイルス感染症の感染経路、症状、特徴について理解する。		
15	肝炎ウイルス プリオンとプリオン病			肝炎ウイルスのA～E型の特徴を理解する。 プリオンの病原性と消毒、プリオン病について理解する。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>高校で学習した生物学の復習と当該科目教材の復習と課題をノートにまとめてください。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>教科書：『系統看護学講座 微生物学 第12版』；南嶋洋一・吉田眞一・永淵正法著，医学書院，2014 年 2,376 円 （ISBN 978-4-260-01827-2）</p>	
最終到達目標	学習法
微生物学の基礎を把握し、実際の看護を行ううえで役立ていく。	自分が理解しやすいようにノートを取り、講義の予習・復習を行う。
評価方法および評価基準	
<p>毎回行う小テストと前期後期の試験により可否を判定する。</p> <p>S (100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A (89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B (79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D (60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	END0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能				広い視野	
授業科目名	生化学	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	東山繁樹				探求心	○
講義目的						
人体の普遍的かつ多様な生命現象に対して、個々の細胞やそれを構成する様々な分子がどのように関わっているかを理解する。そのために、組織ごとにみられる特異的で多様な代謝経路を学び、各生体分子や酵素、細胞器官がどのように機能しているのかを理解する。さらに、様々な細胞外刺激に対して細胞がいかに反応するのかを分子レベルで説明でき、それらの異常および機能不全が、結果としてさまざまな病態を生む分子機構を理解することを目的とする。						
授業内容						
1：細胞の構造と機能 1-1：細胞の構造を理解し、細胞内各小器官の役割を理解し、説明できる。 1-2：細胞外刺激外貨に細胞の中で処理され、それに的確に応答するかを理解し、説明できる。 1-3：細胞の分化と特性変化、組織形成、器官形成について理解し、説明できる。 2：生体構成成分とその代謝 2-1：生体の4大構成成分（タンパク質、糖質、脂質、核酸）を理解し、説明できる。 2-2：各4大構成成分の機能を理解し、説明できる。 2-3：各成分の異化と同化（酵素反応）の様式を理解し、体内での物質の流れを説明できる。 2-4：各成分代謝間のつながりを理解し、説明できる。 2-5：代謝異常と疾患の関連を理解し、説明できる。 3：遺伝子異常と疾患 3-1：遺伝子発現について転写、翻訳およびその調節の分子機構を理解し、説明できる。 3-2：遺伝子異常と機能変換、および疾患との関連について理解し、説明できる。 3-3：DNA検出、構造決定、PCR法などの遺伝子解析や操作の原理と方法を理解し、説明できる。 3-4：遺伝子診断の原理と方法を理解し、疾患診断への利用について説明できる。 4：生体微量成分の機能 4-1：ビタミンや無機物質などの生体微量成分の機能について理解し、説明できる。 5：生体成分分析と疾患診断 5-1. 生体成分の分析法について理解し、説明できる。 5-2. 疾患診断マーカーについて理解し、説明できる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	生体の化学反応と恒常性の維持			生体の化学反応の破綻が疾患に繋がることを事例を通して理解する。		
2	細胞の構造と機能			細胞の構造を理解し、分化による特性変化を理解する。		
3	生体の構成成分－タンパク質			タンパク質の生体における役割を理解する。		
4	生体の構成成分－糖質			糖質の生体における役割を理解する。		
5	生体の構成成分－脂質			脂質の生体における役割を理解する。		
6	生体の構成成分－核酸			核酸の生体における役割を理解する。		
7	各生体分子の代謝Ⅰ			生体分子の代謝のつながりを理解し、物質の異化と同化の意味を理解する。		
8	各生体分子の代謝Ⅱ			生体分子の代謝のつながりを理解し、物質の異化と同化の意味を理解する。		
9	生体分子の代謝異常と疾患			代謝異常の事例を通し、疾患との関連性を理解する。		
10	遺伝子異常と疾患Ⅰ			遺伝子解析法を理解するとともに、遺伝子変異と機能変換について理解する。		

11	遺伝子異常と疾患 II	遺伝子診断について理解する。
12	生体微量成分の役割	ビタミンやミネラル等の生体微量成分の役割について理解する。
13	生体成分の分析と疾患診断への応用 I	生体成分の分析法を理解するとともに、疾患との関連性について理解する。
14	生体成分の分析と疾患診断への応用 II	血清診断と尿成分診断について理解する。
15	生化学のまとめ	講義内容の振り返りをすることで、系統的・総合的に考察できる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>当該科目の学習課題を積極的に予習・復習してください。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
<p>教科書：『わかりやすい 生化学 第5版』；石黒伊三雄 編，ヌーベルヒロカワ，2,300 円 (ISBN 978-4-86174-069-5)</p>		
最終到達目標		学習法
生体成分を理解し、その代謝とその異常による疾患発症の機序を理解する。		授業内容については、事前にテキストをよく読んで授業に臨むこと。
評価方法および評価基準		
<p>筆記試験（90%）、出席および授業への参加度（10%）の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>		

授業コード	END0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－人体の構造と機能				広い視野	
授業科目名	栄養学	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2 年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	藤井文子				探求心	○
講義目的						
医療における栄養の意義を理解する。チーム医療について学習し栄養管理における看護分野の役割を理解する。栄養素の働きを学習し、栄養不足や栄養過多で発症する疾患について理解し、看護に生かすことができる。現代に多い生活習慣病や高齢者の低栄養、ライフステージ別の疾患における栄養と食について学習し、看護に生かすことができ、患者の自己実現や医療に貢献できる栄養管理の基本を学ぶことを目的とする。						
授業内容						
栄養素の種類や働きを解説し、消化吸収を科学的に学習する。各ライフステージの栄養の必要性を理解し、食と健康との関りを考える。さらに糖尿病など生活習慣病や栄養管理に関りの深い疾患について解説し、看護に生かすことができる内容とする。超高齢社会における低栄養の問題などを解説し、食と免疫の関係について考え、食や栄養が家庭生活や疾患治療に及ぼす影響について学習する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	医療における栄養の意義・チーム医療			医療における栄養の意義についてチーム医療を通して学ぶ。栄養管理計画・実施における看護師の役割、栄養管理と食事提供や食環境との関係を理解する。		
2	栄養素の種類と働き、消化と吸収			5 大栄養素（炭水化物、たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラル）の働きについて理解する。必要量、欠乏症、過剰症について理解する。栄養素の消化と吸収について理解する。		
3	生活習慣病の栄養管理 1			生活習慣病の代表的疾患である糖尿病、CKD の栄養管理について理解する。		
4	生活習慣病の栄養管理 2			生活習慣病のうちメタボリックシンドロームなどに関する栄養管理について理解する。		
5	その他の主だった疾患の栄養管理			消化器疾患、循環器疾患などの栄養管理について理解する。		
6	低栄養 1			高齢者の低栄養の栄養管理について理解する。免疫と栄養の関係や健康や治療に及ぼす影響について理解する。		
7	低栄養 2			がん、COPD、精神疾患など疾患による低栄養の栄養管理について理解する。		
8	ライフステージ別栄養管理・まとめ			幼児から高齢者、妊娠中などの栄養管理について理解する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
医療における栄養管理の重要性を学ぶことが大切です。多職種で栄養管理に関することを理解し、看護に生かし、患者の回復や医療に貢献する意味を理解して授業に臨んでください。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
講師作成						
最終到達目標				学習法		
1. 医療における栄養の意義を理解し、説明できる。 2. 主だった疾患の栄養管理について看護師の立場から説明できる。				講義を受けたことを復習し、理解を深める。 課題が出された場合は、自己学習をして講義に臨む。		
評価方法および評価基準						
期末試験 60% 小テスト課題レポート 20% 授業参加態度 20% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENE0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野	
授業科目名	病理学	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	本田和男				探求心	○
講義目的						
さまざまな疾病の原因を科学的に理解し、疾病の発症の機序を学ぶ。 その結果として、人体にどのような影響が現れ臨床症状を呈するかを学習する。 病的状態での、生体を構成する器官の組織学的形態や機能に現れる異常を理解する。						
授業内容						
臨床病理学の方法論と、さまざまな疾患の組織を検査することにより確定診断至る過程を学ぶ。 それぞれの臓器について、臨床的に頻度の高い代表的な疾患における病理学的変化を、症状や病態と関連付けて理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	病理学の概要			臨床病理診断の方法と役割を知る。		
2	細胞・組織の障害			細胞・組織の構造と障害・再生の機序を理解する。		
3	炎症			炎症のメカニズムと生体における意義を知る。		
4	免疫とアレルギー			免疫系の仕組みを理解し、アレルギーの病態を知る。		
5	感染症			病原微生物の種類、感染と生体防御の仕組みを知る。		
6	循環障害			出血凝固異常、塞栓症、高血圧症、ショックを知る。		
7	代謝異常 1			糖質の代謝異常の病理と臨床を知る。		
8	代謝異常 2			脂質・核酸代謝異常、生活習慣病を理解する。		
9	内分泌臓器			内分泌異常による疾患の病理学的所見を学習する。		
10	新生児の病理と先天異常			新生児特有の病理と先天異常について理解する。		
11	血液と骨髄			貧血、白血病、悪性リンパ腫の病理学的変化を知る。		
12	気道と肺			気道の炎症、肺炎、肺癌について理解する。		
13	消化管			炎症、潰瘍、腫瘍などの病理組織学的変化を知る。		
14	肝臓・胆道・膵臓			肝炎、肝硬変、肝癌、胆道疾患、膵癌の病理を知る。		
15	腎臓・泌尿器			腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、悪性腫瘍を学ぶ。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
あらかじめ講義の内容に該当する教材に目を通しておき、疑問点や理解できない部分を整理しておくこと。 また、講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教科書：『カラーで学べる病理学 第4版』；渡辺照男，ヌーベルヒロカワ，2015年，2,500円 (ISBN 978-4-86174-062-6)						
最終到達目標			学習法			
各々の臓器の代表的な疾病における病理学的変化を、臨床症状と関連づけて理解する。			事前に教材の予習をする。講義中はためにメモをとる。 疑問点を放置しない。			
評価方法および評価基準						
講義終了後の筆記試験。出席率と受講態度。 S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENE0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野	
授業科目名	疾病・治療論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	本田和男, 檜垣實男				探求心	○
講義目的						
1. 生体（臓器）の形態や機能についての知識をベースとして、疾病と症状の関係を理解する。 2. 症状と関連した検査項目の重要性やデータの解釈・評価法を学ぶ。 3. 疾患の症状・進行度に応じた代表的な治療法を学習する。 4. 循環器疾患と呼吸器疾患について、その病因、病態を理解し、症状と症候から診断までのプロセスを理解できるようにする。 5. 治療に関しても理解を深め、チーム医療の一員として、適切な看護が行えるようにする。 6. ベッドサイドで汎用される胸部レントゲンや心電図、血液ガスなどの基本的な検査データに関しては、即時に患者の状態を判断できる能力を身に着ける。						
授業内容						
疾患（脳神経、血液、内分泌、消化器、腎泌尿器、運動器）の病態について理解し、症状や検査データに基づいた適切な対応と、標準的な治療法について講義する。 外科的治療の適応疾患については、手術術式、麻酔法、人工換気療法を含めた集学的治療について解説する。 循環器と呼吸器の疾患について、解剖、病因、病態、症状、症候、診断、治療について講義を行う。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	麻酔法			局所麻酔、全身麻酔、人工換気法を理解する。		
2	脳神経系疾患（血管障害）			脳出血、脳梗塞の病態の違いを理解する。		
3	脳神経系疾患（神経変性疾患）			神経変性により起こる代表的疾患を知る。		
4	脳神経系疾患（腫瘍、てんかん）			脳腫瘍の種類と症状を知る。てんかんの病態を知る。		
5	脳神経系疾患（脊髄、末梢神経）			脊髄、末梢神経、神経・筋接合部の疾患を学ぶ。		
6	脳神経系疾患（感染症）			髄膜炎、脳炎、プリオン病の原因と症状を知る。		
7	血液疾患（貧血、悪性疾患）			貧血の原因病態、白血病、悪性リンパ腫を理解する。		
8	血液疾患（出血、凝固異常）			血小板や凝固因子の異常による病態を学習する。		
9	内分泌疾患（糖尿病）			糖尿病の診断・治療法と、臨床的重要性を理解する。		
10	内分泌疾患（視床下部、下垂体、甲状腺、副腎）			各臓器のホルモン分泌の異常による症状を知る。		
11	感染症と免疫疾患			感染症と免疫異常が関与する病態を知る。		
12	泌尿器系疾患（腎臓）			糸球体疾患、腎不全、人工透析について学ぶ。		
13	泌尿器系疾患（尿路系）			尿路結石、尿路悪性疾患について知る。		
14	消化器疾患（口腔、食道、胃）			上部消化管のさまざまな病態について学ぶ。		
15	消化器疾患（小腸、大腸）			炎症性腸疾患、悪性腫瘍の病態と治療を知る。		
16	消化器疾患（肝臓）			肝炎、肝硬変、悪性腫瘍の診断と治療について学ぶ。		
17	消化器疾患（胆道系、膵臓）			胆石症、胆管癌、膵癌について学ぶ		
18	消化器手術と周術期管理			代表的な手術と術前・術後管理について知る。		
19	運動器疾患（骨、関節）			骨折の診断と治療、関節の異常による疾患を知る。		
20	運動器疾患（腫瘍、末梢神経）			骨腫瘍の治療、末梢神経麻痺について学ぶ。		
21	循環器病の症状と診断			循環器の形態と機能の関係を理解し、循環器病の症状から診断に至るプロセスを理解する。		
22	虚血性心疾患（狭心症と心筋梗塞）			疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解する。		
23	心筋疾患（心筋症と心筋炎）			疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解する。		

24	弁膜症と不整脈	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解する。
25	動脈疾患	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解する。
26	心不全とその管理	心不全の病態について理解し、チームの一員として適切に患者の看護ができるようにする。
27	呼吸器病の症状と診断	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解する。
28	慢性閉塞性肺疾患と気管支喘息	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解する。
29	肺炎と肺がん	疾患の原因、診断、治療について理解し、適切な看護のありようを理解する。
30	呼吸不全と呼吸管理	呼吸不全の病態について理解し、チームの一員として適切に患者の看護ができるようにする。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>あらかじめ講義の内容に該当する教材に目を通していき、疑問点や理解できない部分を整理しておくこと。</p> <p>また、講義中に不明な点があれば、講義後に質問しその場で解決しておくこと。出席点と諮問内容などを総合的に判断して習得度の判定を行う。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
『看護のための臨床病態学 改定 2 版』； 南山堂, 浅野嘉延, 2014 年, 9,504 円 (ISBN 978-4-52550-512-7)		
最終到達目標		学習法
代表的な疾病の症状と診断法、治療法を説明することができる。		<p>事前に教材の予習をする。</p> <p>講義中はまめにメモをとる。</p> <p>疑問点を放置しない。</p>
評価方法および評価基準		
<p>講義終了後の筆記試験。</p> <p>出席率と受講態度。</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>		

授業コード	ENE0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野	
授業科目名	疾病・治療論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	高田清式、武内八郎				探求心	○
講義目的						
1. 高齢者の総合的な健康問題の特徴について理解できる。 2. 高齢者の 循環器、呼吸器疾患の特徴について理解できる。 3. 高齢者の内分泌、代謝および血液疾患の特徴について理解できる。 4. 高齢者の消化器疾患の特徴について理解できる。 5. 高齢者の四肢運動器疾患および感染症の特徴について理解できる。 6. 眼科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。 7. 皮膚科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。 8. 耳鼻咽喉科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。 9. 精神医学の代表的な疾患の原因、症状や治療法について理解できる。						
授業内容						
この科目では、看護師が知っておくべき精神医学、老年医学、皮膚科、眼科、耳鼻科の基礎的な知識を得る。精神医学では、代表的な精神疾患、統合失調症、気分障害、摂食障害、てんかん、不安障害などの病因、症状、治療法について理解できる。老年医学では、高齢者の健康問題の特徴と高齢者がかかりやすい疾患やその予防、治療法について理解できる。耳鼻科、眼科、皮膚科の代表的な疾患の病因、症状と治療法についてその基本が理解できることを目的とする。 代表的な精神疾患、統合失調症、気分障害、摂食障害、てんかん、不安障害などの病因、症状、治療法について理解できることを目的とする。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	高齢者の特徴・総論			高齢者の総合的な健康問題の特徴について理解できる。		
2	高齢者の特徴・各論 循環器、呼吸器			高齢者の 循環器、呼吸器疾患の特徴について理解できる。		
3	高齢者の特徴・各論 内分泌、代謝、血液			高齢者の内分泌、代謝および血液疾患の特徴について理解できる。		
4	高齢者の特徴・各論 消化器			高齢者の消化器疾患の特徴について理解できる。		
5	高齢者の特徴・各論 四肢運動器、感染症			高齢者の四肢運動器疾患および感染症の特徴について理解できる。		
6	眼科学総論			眼科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。		
7	皮膚科学総論			皮膚科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。		
8	耳鼻咽喉科学総論			耳鼻咽喉科の代表的な疾患の病因、症状および治療法を理解できる。		
9	精神科疾患の総論			種々の精神科疾患の種類や概要について説明できる。		
10	統合失調症 1			統合失調症について理解を深め説明できる。		
11	統合失調症 2			統合失調症について理解を深め説明できる。		
12	気分障害、ストレス関連障害 1			気分障害、ストレス関連障害について理解を深め説明できる。		
13	気分障害、ストレス関連障害 2			気分障害、ストレス関連障害について誓いを深め説明できる。		
14	認知症 1			認知症について理解を深め説明できる。		
15	認知症 2、その他の精神疾患			認知症及びその他の精神疾患について理解を深め説明できる。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>1 年次に修得した基礎的な科目の復習と当該科目の学習課題を積極的に予習してください。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>『老年看護学技術(改訂第2版) 最後までその人らしく生きることを支援する 看護学テキスト NiCE』 ：真田弘美/正木治恵 著，南江堂，2016 年，3,456 円 （ISBN 978-4-52425-902-1）</p> <p>授業中にレジュメを配布</p>	
最終到達目標	学習法
看護の技術を適切に習得するための、精神医学、老年医学、皮膚科、眼科、耳鼻科の基礎的な知識を得る。	授業内容については、事前にテキストをよく読んで授業に臨むこと。
評価方法および評価基準	
<p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENE0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野	
授業科目名	疾病・治療論Ⅲ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	石井榮一, 杉山 隆, (松原圭一, 松原裕子, 宇佐美知香, 内倉友香, 安岡稔晃, 高木香津子)				探求心	○
講義目的						
1. 胎児から始まる小児期の各疾患の病態生理、診断、治療について知るとともに、その疾患が小児の成長・発達に与える影響を理解し、より良いQOLを目指す医療について学習する。 2. 多くの成人疾患の根本的な原因が小児期に始まることを知り、その予防についても学習する。 3. 妊娠や分娩の経過等については、母性看護学概論で終了しているが、不妊症を取り扱う生殖医学や妊娠に伴う異常や基礎疾患を有する女性の妊娠に関する周産期学、さらに女性生殖器の腫瘍学など臨床の現場の問題点との統合できていない。代表的疾患を学習することにより、病態と関連付けた理解ができ、治療方法を学び、援助方法に結びつけたアセスメントができるように学習する。						
授業内容						
小児の発育・発達および栄養と心身発育を理解する。 以下の小児の病態と疾患の診断、治療の基本を理解する。 未熟児・新生児疾患、感染症、免疫不全、アレルギー、内分泌・代謝、循環器、血液・腫瘍、神経・筋疾患、産婦人科学は、出生前から胎児、新生児、幼少期、思春期、性成熟期、更年期、老年期までまさに“ゆりかご前から墓場まで”女性の健康を支援する学問である。また母子保健は母と子のみならず家族を支援につながる大切な領域である。これら女性のライフステージ別に種々の疾患が生じ得るので、各種疾患の理解を深めるために以下の内容で授業を進める。 具体的には、不妊症、妊娠時の異常のみならず基礎疾患を有する女性の妊娠、更年期障害や女性生殖器特有の良性および悪性腫瘍の授業を行う。これらの授業を通して、産婦人科領域の疾患の理解を深め、患者支援に役立てることを期待する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	小児保健・栄養			発育・発達、予防接種、学校保健について理解できる。		
2	未熟児・新生児			胎児、新生児、未熟児の疾患について理解できる。		
3	神経疾患			神経、筋疾患について理解できる。		
4	循環器疾患			先天性心臓病、不整脈、川崎病について理解できる。		
5	感染症			ウイルス感染、細菌感染について理解できる。		
6	アレルギー・腎・膠原病			アトピー性皮膚炎、喘息、腎疾患、リウマチ性疾患について理解できる。		
7	内分泌・代謝			内分泌疾患、先天代謝異常、糖尿病について理解できる。		
8	血液・腫瘍・免疫不全			血液疾患・小児がん・先天性免疫不全について理解できる。		
9	女性生殖器の構造・機能と異常、妊娠の成立、不妊症⇒高木			女性生殖機能の理解と妊娠についての理解。生理的な機能と異常（不妊症など）を学ぶ。		
10	分娩の進行と異常、児の発育と異常、胎児機能不全 ⇒松原裕子			分娩の3要素と実際の分娩時の異常との関連の理解。胎児の生理や異常に関する理解できる。		
11	異常妊娠：妊娠合併症（異所性妊娠、切迫流産、切迫早産、妊娠高血圧症候群、双胎妊娠、前置胎盤、常位胎盤早期剥離）⇒松原圭一			妊娠中に生じる合併症、特に妊娠によって起こるものについて理解し、看護を理解できる。		
12	異常妊娠：合併症妊娠（糖尿病、妊娠糖尿病、甲状腺機能異常、自己免疫疾患、血液疾患）⇒杉山			妊娠前より何らかの合併症を有する女性の場合の基礎疾患が妊娠に及ぼす影響、妊娠が基礎疾患に及ぼす影響を理解する。		

13	母子感染、性感染症、更年期障害 ⇒内倉	若年世代で増加傾向にある性感染症の理解。母子感染に関する理解。更年期障害の理解と実際の管理法について学ぶ。
14	女性生殖器の良性疾患 ⇒安岡	子宮筋腫や子宮内膜症、子宮腺筋症に対する理解を深める。
15	女性生殖器の悪性腫瘍 ⇒宇佐美	女性生殖器の主要 3 部位におけるがん（子宮頸部癌、子宮体部癌、卵巣癌）に関する学習を深める。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
健康に問題がある子どもと家族について学びながら必要な看護方法を考えていく科目です。「小児看護学概論」で学んだ各小児期の成長・発達の特徴や生活援助の基本的知識を復習した上で講義に臨んでください。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
毎回準備されるプリント 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨』：末岡浩，医学書院，2016 年，2,300 円+税 (ISBN 978-4-260-02184-5)		
最終到達目標		学習法
1. 小児の基本的病態と代表的疾患の診断と治療を理解する。 2. 女性特有の病気について説明できる。 3. 女性のライフステージ別の疾患の把握、治療法について説明できる。		講義とそのプリント内容を理解する。 教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んでください。講義によるフィードバックと疑問点は質問してください。
評価方法および評価基準		
成績評価は筆記試験において行う。また授業中に行われる出欠は成績評価に組み入れることがある。 期末試験：80% 学習態度など：20% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENE0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野	
授業科目名	老年疾病治療論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	小原克彦				探求心	○
講義目的						
老年に特有の疾患の特徴、病因、経過、治療の特徴を理解できる。特に、認知症の種類を学び、種類によって看護に違いがあることをエビデンスとともに理解できるようにする。看護に活かせるコミュニケーションの取り方や、総合的な機能評価も含めた講義を行い、高齢者への関わり方の基礎が習得できるようにする。						
授業内容						
老年者の診療、疾患、治療について学ぶ。 健康長寿診療ハンドブックに準拠した授業を行う。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	高齢者のみかた		高齢者の特徴を理解する。			
2	高齢者の総合機能評価と多職種連携		高齢者診療の基本となる総合機能評価法と臨床応用。評価に基づいた看護計画の立案を学習する。			
3	認知、行動障害 総説		認知症診療の基礎となる認知機能評価法、行動異常評価法を学ぶ。			
4	アルツハイマー病の診療		アルツハイマー病の病因、病態、症状、治療につき学ぶ。			
5	その他の認知症の診療		血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症の病因、病態、症状、治療につき学ぶ。			
6	うつ病とせん妄		認知症と鑑別すべき、うつ病とせん妄の病因、病態、症状、治療につき学ぶ。			
7	転倒と骨折		骨折、転倒のリスク因子、診断、予防を学ぶ。			
8	高齢者で重視すべき慢性疾患の要点		高齢者の高血圧、糖尿病、脂質異常症に対するアプローチを学ぶ。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
基礎科目の理解を前提とします。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
健康長寿ハンドブック 日本老年医学会のホームページよりダウンロード可能（無償）						
最終到達目標			学習法			
認知症を中心とした高齢者に特有な病態を理解し、治療・看護計画を立案できる。			座学講義を中心とします。			
評価方法および評価基準						
筆記試験（60%）、出席および授業への参加度（40%）の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 6 割以上の授業出席が必須。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENE0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－疾病の治療と回復促進				広い視野	
授業科目名	薬理学	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	吉村裕之				探求心	○
講義目的						
臨床各科において、広範な薬物が疾患の予防・治療に薬物が処方されている。薬理学は、薬物療法の科学的根拠、薬効の発現機序、作用特性、有害作用などを系統的に理解することに主眼を置き、看護職の立場から、処方目的、正しい服用方法、服薬前及び服薬後の患者に対する留意点などが説明できることを目的とする。						
授業内容						
総論は、薬物の概念と用語の定義、基礎理論、法的規制、吸収・代謝・分布・排泄を講義する。各論は、系統的に自律神経系作用薬、循環器作用薬、体性神経系作用薬、循環器系作用薬、高血圧症治療薬、鎮痛薬、麻酔薬、脳神経系作用薬、抗生物質などを学習する。その際に、代表的薬物名、作用部位と作用機序、臨床適応、有害作用に焦点を絞り、看護過程や看護計画に役立つよう授業展開する。解剖学と生理学の基礎的知識を習得していることが前提であり、統合的な取り組みが必要となる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	薬物の概念と専門用語の定義			化学物質と薬物の違い、専門用語の定義、薬物療法と看護職の役割などを理解し、説明できること。		
2	基礎理論、法的規制			薬物受容体、効果と効力、法的規制と取締法、作動薬と遮断薬などを理解し、説明できること。		
3	薬物の適用方法、吸収・代謝・分布・排泄			経口と注射の利点・欠点、薬物の生体内動態などを理解し、説明できること。		
4	自律神経系作用薬（副交感神経系）			副交感神経系に作用するコリン作動薬、抗コリン薬、酵素阻害薬を理解し、説明できること。		
5	自律神経系作用薬（交感神経系）			交感神経系に作用する交感神経作動薬、 α -あるいは β -遮断薬、酵素阻害薬を理解し、説明できること。		
6	体性神経系作用薬、消化器系作用薬			骨格筋あるいは平滑筋を弛緩させる薬物について理解し、説明できること。		
7	循環器系作用薬（強心薬、虚血性心疾患治療薬）			うっ血性心不全、狭心症、心筋梗塞、不整脈などの治療薬について理解し、説明できること。		
8	高血圧症治療薬			高血圧症に対する非薬物療法と薬物療法、作用機序による分類などを理解し、説明できること。		
9	麻薬性鎮痛薬			麻薬や合成麻薬など深部痛、骨折、ガン疼痛などに有効な薬物を理解し、説明できること。		
10	解熱鎮痛薬			体性痛に有効な鎮痛薬を分類して作用機序を理解し、説明できること。		
11	局所麻酔薬と全身麻酔薬			神経細胞の興奮性膜を安定化し痛覚を麻痺させる薬物を理解し、説明できること。		
12	脳神経系作用薬（抗不安薬、抗うつ薬）			臨床各科で使われている精神活動に影響を与える抗不安薬と抗うつ薬を理解し、説明できること。		
13	脳神経系作用薬（抗精神病薬、催眠薬）			統合失調症の治療薬および不眠症の治療薬を理解し、説明できること。		
14	抗生物質概論（作用機序、有害作用）			病原菌に対する抗生物質の作用機序による分類と有害作用を理解し、説明できること。		

15	まとめ	第1回から第14回までの講義内容について教材との整合性と理解の深度を問い、不明点は討議を通じて解決する。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>各論は、毎回の内容項目ごとに、代表的薬物名、作用部位と作用機序、主作用・副作用・有害作用、臨床適応に分けて整理し、看護過程や看護計画に役立つよう授業を展開する。解剖学と生理学の基礎的知識が土台となるので、統合的な取り組みが必要となります。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
『よくわかる専門基礎講座 薬理学』：今井昭一著，金原出版，2006年（ISBN 978-4-307-70205-8） 板書によるノート講義を行うが、指定した教材を各自が通読して、復習すること。		
最終到達目標		学習法
処方されている薬の薬理作用を理解していることは、看護計画に必須であり、対象の容態の変化を予測・評価・対処できることが目標となる。		代表的薬物名、作用部位と作用機序、主作用、有害作用、臨床適応について理解して学習すること。
評価方法および評価基準		
<p>期末試験を基本とするが、広範なため、小テストも随時実施する。期末試験(70%)、小テスト(20%)、学習態度(10%)で総合評価する。</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>		

授業コード	ENF0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	統計学	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	吉村裕之				探求心	○
講義目的						
統計学は、数学や数理論ではなく、社会学や心理学から状況や状態を論理的に解析するために発達してきた。数学は嫌いという苦手意識を払拭し、看護研究を行う際に必要な実践的な統計学の基礎と手法を習得させることを目的とする。観察した「事実」に、普遍性・信頼性・再現性を保証するためには、統計学的に検証しなければ「真実」とはならない。						
授業内容						
総論では、統計学用語の意味、有意差検定法の原理、尺度水準の重要性、図表作成上のルールなどを説明する。各論では、医療現場で遭遇する具体的な例を示し、どのような統計検定法が適切か、統計処理の手続きに沿って、関数電卓を用いて計算し、統計結果から如何に判定できるか、個々人が行えるよう授業展開する。医療現場では、正規分布する数値だけでなく、段階的な改善度や出現度数、少数の標本集団、などを扱う場合も多くあり、パラメトリック法のみならずノンパラメトリック法も学習する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	総論： 研究の種類と変数			無作為化、代表値と散布度（中央値と平均値）、独立変数と従属変数、四つの尺度水準などを説明できる。		
2	総論： 研究計画と検定法			独立型と関連型、反証法、片側検定と両側検定、検定法に共通した手順、有意水準などを説明できる。		
3	独立2群の有意差検定（パラメトリック法）			仮説の設定、統計量、Student's t-test、t分布表の見方を説明でき、例題を解ける。		
4	独立2群の有意差検定（ノンパラメトリック法）			仮説の設定、統計量、Mann-Whitney U-test、U表の見方などを説明でき、例題を解ける。		
5	関連2群の有意差検定（パラメトリック法）			仮説の設定、統計量、paired t-test、t分布表の見方を説明でき、例題を解ける。		
6	関連2群の有意差検定（ノンパラメトリック法）			仮説の設定、統計量、Wilcoxon matched-pairs signed-ranks test、統計表を説明でき、例題を解ける。		
7	出現度数・比率の有意差検定（独立試料）			出現度数（頻度）の取り扱い、1試料及び2試料カイ自乗検定、カイ自乗表などを説明でき、例題を解ける。		
8	出現度数・比率の有意差検定（関連試料）			カイ自乗検定は独立型に適用、関連型には McNemar の検定が適用され違いが説明でき、例題を解ける。		
9	独立変数と従属変数との関連			独立変数と従属変数の間にどのような関連があるのか、ピアソン積率相関係数を説明でき、例題を解ける。		
10	独立多群の有意差検定（パラメトリック法）			独立3群以上の場合には、一元配置分散分析を適用すべきことを理解し、説明できる。		
11	独立多群の有意差検定（ノンパラメトリック法）			独立3群以上の場合で順序尺度の測定値では、Kruskal-Wallis test が適用できることを説明できる。		
12	関連多試料の有意差検定（パラメトリック法）			関連3試料以上の場合には、二元配置分散分析を適用すべきことを理解し、説明できる。		
13	関連多試料の有意差検定（ノンパラメトリック法）			関連3試料以上の場合で順序尺度の測定値では、Friedman test が適用できることを説明できる。		
14	分散分析法における多重比較			分散分析後の多重比較法として Tukey-test を取り上げ、説明でき、例題を解ける。		
15	まとめ			第1回から第14回までの内容について理解の有無を問い、統計手法について討議する。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>数理論ではなく、実践的な統計手法の習得と統計用語の理解を目指しているが、関数電卓の基本操作は講義前にマニュアルに沿って慣れておく必要がある。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>板書によるノート講義を行い、必要な統計表や演習問題は配布する。</p> <p>参考書：『ナースのためのデータ処理』；技術評論社，（ISBN 978-4-7741-4532-7）</p>	
最終到達目標	学習法
<p>事実を真実に近づける統計処理の方法を学習して、問題解決のための論理的手順を習得する。看護研究の実施計画を立て、得られた資料の統計解析と判定まで実施できること。</p>	<p>医療現場や日常生活で遭遇するような演習問題を提示し、小グループでどのような場合に如何なる統計処理をすべきか、実践的に学習すること。</p>
評価方法および評価基準	
<p>期末試験を基本とするが、講義の際に提示する演習問題を解き、正解を発表すれば、加算する。</p> <p>筆記試験（80%）、演習レポート（10%）、学習態度（10%）</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENF0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	疫学	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	2 年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	中村 哲				探求心	○
講義目的						
保健師並びに看護師としての活動の中で、特に地域保健並びに地域看護実践の中で疫学的思考に基づく保健並びに看護活動の展開の重要性が理解できるようになる。						
授業内容						
疫学の概念と定義また暴露の概念と疾病リスクについて理解する。さらに統計学の知識を基礎として疫学で扱う母集団を通じたリスク把握に必要なコホート研究法や症例対照研究法、介入研究法などの基本的な分析方法や偏りと交絡の概念について講義を通じて学修する。集団の疾病予防の方策としての疾病スクリーニング、サーベイランスと疾病登録の種類について理解する。そして疫学の倫理的側面を理解した上で、感染症や非感染症の世界的動向について理解を深めることで看護や保健師としての職務が果たせる内容とする。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	疫学とは？ 疫学の定義とその歴史			教科書第1章 疫学の定義と暴露について理解できる		
2	疫学指標 ①頻度の指標			有病率と罹患(死亡)率、致死率の違いを理解できる		
3	疫学指標 ②曝露効果の指標			相対頻度、相対リスク、寄与リスクの区別ができる		
4	疫学調査法 対象集団の選定とデータ収集概観			母集団と標本調査についての理解ができる		
5	疫学研究方法 ①分析と統計資料の活用			統計資料の種類と活用法について基礎的理解ができる		
6	疫学研究方法 ②コホート研究			コホートとその研究法の有用性と限界が理解できる		
7	疫学研究方法 ③症例対照研究			症例対称研究の有用性とその限界について理解できる		
8	疫学研究方法 ④介入研究			介入研究とその有用性と研究倫理について理解できる		
9	偏りと交絡 データの偏りと交絡の概念			交絡の制御法について理解できる		
10	因果関係 相関関係と因果関係			相関と因果関係の成立条件について理解できる		
11	疾病スクリーニング 概念と方式			スクリーニング目的と要件、評価法について理解できる		
12	サーベイランスと疾病登録 がんと脳卒中の事例			疾病監視・登録の種類と法制度について理解できる		
13	臨床疫学と倫理 グループによる能動学習			人を対象とした研究倫理指針の内容が理解できる		
14	主要な疾患の疫学Ⅰ 感染症			世界の感染症の頻度と分布、危険因子が理解できる		
15	主要な疾患の疫学Ⅱ 非感染症			世界の非感染症の頻度と分布、危険因子が理解できる		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
講義の中でアクティブ・ラーニングとして感染症や非感染症の予防に関わる問題を課す。その学習成果を講義時間の一部を活用してグループあるいは個人単位で発表する。活発な討議を期待したい。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教科書:『基礎から学ぶ楽しい疫学 第3版』;中村好一, 医学書院, 2012 年, 3,240 円 (ISBN 978-4-26001-669-8) 参考書:『初めて学ぶやさしい疫学 第2版』;日本疫学会編, 南江堂, 2010 年, 2,160 円 (ISBN 978-4-52426-086-7) 『厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2016/2017』;2,500 円						
最終到達目標				学習法		
疫学の成立背景と概念を理解し、多くの疫学用語および分析手法の共通理解を通じて、疫学的思考に基づく保健実践活動の展開ができるようになる。				本講義の理解度を上げるために講義中に小テストを施行する。これは予習程度の評価のためである。また、一部の講義ではアクティブ・ラーニング手法を取り入れた演習等を実施する。		
評価方法および評価基準						
学期末試験の結果が筆記試験の評価である。必要と判断される場合、これにレポート等の評価を加えて評価とする。総合評価は筆記試験等(80%)と学習態度(20%)により最終成績評価とする。 S(100～90 点):学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点):学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点):学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good) C(69～60 点):学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満):C のレベルに達していない						

授業コード	ENF0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	保健看護情報学	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	清水弥生, 相原宏紀				探求心	○
講義目的						
以下の内容が理解でき、その方法を習得できる。 <ul style="list-style-type: none">・インターネット上にある情報の収集・病院や地域で用いられる情報システムの構成、仕組み、情報の種類・電子化に伴うリスク、倫理的配慮、法律・看護情報システムを含む病院内情報システムで用いられる機材と全体の構成・NANDA 等基準を用いた看護記録の電子化・テキストマイニング等基準を抽出しながら行う記録の電子化・病院内情報システムからのデータの抽出と処理・地域で用いる携帯型電子端末の利用とデータ抽出・地域データの GIS 表示						
授業内容						
インターネット、電子カルテなどの情報通信技術（ICT）の仕組み、エビデンスに基づくデータの収集、利用とリスク、倫理、法律について学習する。保健看護領域ではこれらの ICT 技術を用いて、どのような情報がどのような機材や基準を用いて収集されるのかを理解し、データベース、統計解析、データマイニングなどの分析技術を用いて、どのように処理され情報として伝達されるかを学習する。これらの ICT 技術によって保健看護領域や地域保健サービスが変わるかを考える機会を提供する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	保健看護データの検索、抽出			政府統計データ、自治体が公開しているデータ等、保健看護データの検索・抽出ができる。		
2	データの抽出と整理			ブログデータなどの検索、ブログからのデータ抽出、データの整理について理解できる。		
3	病院情報システムの器財構成と相互の関連			会計部門、検査部門、オーダーエントリーシステム、診療録、看護情報システム等の相互の関連が理解できる。		
4	病院情報システムで扱う情報とその性質			検査結果等の数値情報、尺度化された情報、テキスト情報、画像情報等と情報の性質との関連が理解できる。		
5	看護記録の入力			看護記録の入力方法について理解できる。		
6	看護記録の閲覧と臨床的重要事項の抽出			看護記録の閲覧にあたり、臨床的重要事項の抽出を理解することができる。		
7	情報セキュリティの理解とリスク対策			情報流出のリスク、利用者の制限と特定、情報セキュリティについての理解とリスク対策について理解できる。		
8	情報倫理とプライバシー			情報倫理、アドボカシーと患者による自己決定、個人情報保護法について理解できる。		
9	電子カルテの保存と保存の義務、運用規定			電子情報の収集、加工、変換、蓄積について理解できる。		
10	看護データの処理演習			電子カルテシステムからのデータ抽出と Excel 等のソフトによる処理方法が理解できる。		
11	テキストデータの抽出と検索・処理			テキストデータの抽出と検索処理ができる。		
12	地域看護における情報システム			携帯型電子端末等地域看護における情報システムとその利用方法について理解できる。		
13	病院と地域との連携における情報システムの機能			病院と地域の連携における情報システムの機能について理解できる。		
14	地域データの解析と GIS			地域データの解析と GIS について理解できる。		

15	まとめ	講義内容の振り返りを行うことで、系統的・総合的に考察できる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>コンピュータ基礎・情報処理法は履修済みであること。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
<p>配布資料</p> <p>『看護・医療系のための情報科学入門』；椎橋実智男著，医学芸術社，2013 年，2,592 円 (ISBN 978-4-90717-609-9)</p>		
最終到達目標		学習法
<p>情報通信技術（ICT）の仕組み及びシステムについて理解でき、保健看護領域や地域保健サービスの中における ICT の必要性や役割、重要性について理解できる。</p>		講義，演習
評価方法および評価基準		
<p>事前学習とレディネス確認テスト 30%</p> <p>学習グループテストと討議の参加 30%</p> <p>期末試験 30%</p> <p>ピア評価 10%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>		

授業コード	ENF0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	公衆衛生学	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	中村 哲				探求心	○
講義目的						
公衆衛生学の概念と範囲、実社会の中で人々の健康へどのように関わってくるのかを理解し、公衆衛生学の特徴である多視点から、より豊かな保健並びに地域看護活動の実践を目指す。						
授業内容						
公衆衛生活動の地球規模の側面、集団としてのヒトの生存についての生態学的意識を喚起しつつ、その活動の対象である地域生活と健康との関わりを学修する。日本国内の近年の生物科学の進歩と社会・経済環境の変化にともなう感染症流行の極度の減少や非感染症の増加の背景とそれらの疾病予防に関わる保健管理技法の基本を理解する。また公衆衛生学は地域行政と深く関わり、住民個人を取り巻く環境としての自然および社会環境内の疾病リスク認識を通じてヒト集団の健康維持・増進を図る立場から疫学とその分析手法が健康増進にきわめて有用であることを理解する。また、公衆衛生活動・研究の対象分野として自然の物理および化学、生物環境ならびに母子保健、老人保健、産業保健、精神保健、さらに国際保健の仕組みと我が国の貢献などについてその動向と現状を解説する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	公衆衛生学の基礎 Ⅰ. 概念と歴史			健康とその指標を理解し、公衆衛生学の定義ができる		
2	公衆衛生学の基礎 Ⅱ. 健康問題と公衆衛生活動			公衆衛生学の範疇と隣接領域が理解できる		
3	公衆衛生と地域社会 地域の健康問題を考える			第13回の課題：地域と健康増進法の背景が理解できる		
4	環境保健 Ⅰ. 地球と物理・化学的環境			地球の物理・化学環境と健康との関連が理解できる		
5	環境保健 Ⅱ. 生物と水環境			生態学と水循環、水質汚染と浄化の仕組みを理解する		
6	疾病対策と保健管理 Ⅰ. 疫学			保健統計手法と疫学方法論の有益性を理解できる		
7	疾病対策と保健管理 Ⅱ. 予防医学と公衆衛生			予防の段階説と疾病スクリーニング理論が理解できる		
8	疾病対策と保健管理 Ⅲ健康教育と健康増進			感染症と非感染症における健康教育手法が理解できる		
9	疾病対策と保健管理 Ⅳ保健行政制度と法規			健康増進と地域包括保健管理の趣旨が理解できる		
10	母子保健と老人保健福祉			老人保健法および健康増進法の背景が理解できる		
11	産業保健と精神保健			労働安全衛生法と精神保健法の趣旨が理解できる		
12	学校保健と地域保健			保健教育と健康管理、地域連携の要点が理解できる		
13	公衆衛生活動をテーマとしたグループ学習			地域と健康増進に関わる課題発表ができる		
14	国際公衆衛生 Ⅰ. 理念と史的背景			西欧の保健医療歴史と国際機関を知り役割を理解する		
15	国際公衆衛生 Ⅱ. 世界と日本の動向			国際保健の現状と日本の役割が理解できる		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>学習課題に関して教科書または参考書で予習をしておくこと。また講義の中で、関わる公衆衛生活動に関わる特別テーマを課し、題 13 回にグループ学習として反転授業等の形式で発表を行う。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>教科書：『シンプル衛生公衆衛生学』；鈴木庄亮/久道茂監修，南江堂， 2,592 円 (ISBN 978-4-52425-713-3)</p> <p>参考書：厚生 の 指標 増刊 国民衛生の動向（最新版） 政府刊行物</p>	
最終到達目標	学習法
公衆衛生学の概念、定義並びに範囲を理解し、実社会の中の多種多様な健康問題の存在を認識し、公衆衛生学の特徴である多視点から、健康問題の解決並びに予防のための実践力を獲得する。	本講義の理解度を上げるためには予習が要求される。講義開始後に小テストを施行する場合は予習程度の評価のためである。講義終了直前に小テストを実施する場合は講義内容の理解度を評価するためである。
評価方法および評価基準	
<p>小テストと学期末試験の結果を筆記試験の評価とする。必要と判断される場合、これにレポート等の提出物を加えて評価とする。総合評価は筆記試験等（80％）と学習態度（20％）とを加味し最終評価とする。</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENF0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	保健医療福祉行政論	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	宮内清子				探求心	○
講義目的						
保健医療福祉行政論は、地域における保健医療福祉活動の根拠をなす概念である。少子・高齢化の進む社会背景のなかで、人々の生活や健康を支える保健医療福祉の仕組みはどのように構築されているか、現行法制度の体系やそのシステムは保健医療福祉計画においてどのように機能しているかを理解し、人々の健康レベルの向上やQOLを高める援助が考えられるようになる。						
授業内容						
保健医療福祉システム構築の意義、保健医療福祉に関わる法制度やその内容、地域における保健医療福祉のネットワーク及び地域システムについて学び、利用者の立場に立った看護が提供できる基盤となる保健医療福祉計画を理解できる。更には保健、医療、福祉サービスの連携について理解できる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	保健医療福祉行政の目標 1		保健医療福祉行政の根拠、公衆衛生の定義、保健医療福祉行政の目指すもの、健康な生活とは			
2	保健医療福祉行政の目標 2		Health for All 実現に向けてのキーワード（プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション、ノーマライゼーション など）			
3	わが国の保健医療福祉制度の変遷と今日的課題		公衆衛生の基盤形成（萌芽期、戦争中の公衆衛生の動向、戦後の公衆衛生の基盤形成、地域保健法の成立） 新たな健康課題の出現と保健医療福祉政策の発展			
4	保健医療福祉行政の仕組み		国、都道府県、市区町村の行政の仕組みと役割 保健医療福祉の財政（国、地方財政、保健事業の企画立案例）			
5	社会保障制度 1：わが国の社会保障制度		社会保障制度の構成、社会保障制度の現状と今後のあり方、社会保障制度改革の方向性			
6	社会保障制度 2：医療提供体制		医療提供体制の概要、医療保障制度、訪問看護制度			
7	社会保障制度 3：介護保険制度		介護保険制度の概要、介護保険サービスの内容、市町村・都道府県・国の役割、制度の実施状況と今後の方向性			
8	社会保障制度 4：社会保障・社会福祉の制度		社会保障・社会福祉の概念、社会保障・社会福祉の法規・行政体系、年金保険の役割・体系・制度の概要			
9	同上		各種福祉制度（公的扶助・児童家庭福祉・高齢者福祉・障害者福祉等）の沿革・理念・制度の概要			
10	地域保健行政と保健師活動 1		地域保健の体系、保健所・市町村保健センターの役割と機能			
11	地域保健行政と保健師活動 2		地域単位の保健師活動の意義と役割、活動の実際			
12	地域保健行政と保健師活動 3		健康危機管理の概要と対応の特徴、保健師の役割と対応			
13	地域保健行政と保健師活動 4		情報公開・個人情報保護と公務員・医療職としての保健師の役割			
14	保健医療福祉の計画と評価 1		地方公共団体（都道府県・市町村）における保健医療福祉計画の必要性、各種保健医療福祉計画の変遷・現状・今後の方向性			
15	保健医療福祉の計画と評価 2 授業のまとめ		保健計画の策定プロセス、保健計画の推進と評価 第1回から第15回までの学修を振り返り、理解度を確認する			

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>基礎科目の社会福祉学、社会保障論、専門基礎科目の公衆衛生学などの関連科目の学習内容と関連づけて学修を深めること。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>教科書：『標準保健師講座別巻 1 保健医療福祉行政論』；医学書院，2012 年，2,850 円 (ISBN 978-4-260-01405-2)</p> <p>参考書：厚生省の指標増刊「国民衛生の動向」「国民の福祉と介護の動向」最新版 厚生労働統計協会 その他授業内容に沿ったプリントを適宜配布</p>	
最終到達目標	学習法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉の一翼を担う専門職としてとして、時代とともに変化する社会背景を踏まえて、地域における保健医療福祉活動について考えることの意義を理解できる。 2. わが国全体及び各地域における、人々の生活や健康を支える保健医療福祉の仕組み、現行法制度の体系・システム・地方公共団体における保健医療福祉計画について理解し、各分野における看護活動及び保健師活動と関連させて考えることができる。 	<p>法体系や行政制度などは、身近な学問としてのイメージができていく科目である。地域保健医療福祉活動の実践事例を素材に演習などを組みこむ予定なので、地域における人々の生活や健康状態などを具体的に想起しながら、わが国の保健医療福祉の仕組みやその適用の実際を、参加学習のなかで自分のものとして習得すること。</p>
評価方法および評価基準	
<p>授業終了後の筆記試験：70%</p> <p>課題レポート：30%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENF0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	臨床心理学	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	野口理英子				探求心	○
講義目的						
1. 臨床心理学の基礎的な知見や理論を理解し、それらを心理的問題の解決・援助に応用する視点を身につける。						
2. 具体的な事例を取り上げ、どのような臨床心理学的援助が可能か考える力を身につける。						
授業内容						
1. 臨床心理学とは何か、社会の中における臨床心理学の位置づけを理解します。						
2. 臨床心理実践を支える理論について学びます。						
3. 臨床心理学の理論に基づき、さまざまな心理的問題に対するアセスメント法や介入法について理解します。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	臨床心理学とは		臨床心理学の歴史や成り立ちについて理解する。			
2	問題とは何か		心理的に問題となるのはどのような状態か、その視点について理解する。			
3	心理的問題のアセスメント		心理的問題をどのようにアセスメントするか、その視点について理解する。			
4	心理的問題への援助①		心理的問題（教育）への具体的支援について理解する。			
5	心理的問題への援助②		心理的問題（医療・福祉）への具体的支援について理解する。			
6	心理的問題への援助③		心理的問題（産業）への具体的支援について理解する。			
7	心理的問題への援助④		心理的問題（自殺問題）への具体的支援について理解する。			
8	臨床心理学の倫理		臨床心理学の実践、研究における倫理について理解する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
レジュメを配布します。参考図書などは適宜授業内で紹介します。						
最終到達目標			学習法			
心理的問題に対して、臨床心理学の知見を踏まえ説明することが出来る。			（事前）毎回のテーマに関する本などを読み、関心を深めておいて下さい。 （事後）配布した資料や紹介した書籍などをよみ、振り返りを行って下さい。			
評価方法および評価基準						
期末試験 60%						
小レポートおよび授業への参加状況 40%						
S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）						
A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）						
B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）						
C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている						
D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENF0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	カウンセリング	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	野口理英子				探求心	○
講義目的						
1. カウンセリングや心理療法の理論や実践方法を理解する。 2. 体験的学修を通して、自己理解を深める。						
授業内容						
カウンセリング・心理療法理論の基本概念を学びます。精神分析学、分析心理学、クライエント中心療法、認知行動療法、ゲシュタルト療法、表現療法などの代表的な理論や実践方法について理解します。グループでのディスカッションやワークなど、体験的な学修を重視します。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	カウンセリング・心理療法とは		カウンセリング・心理療法の歴史や成り立ちについて理解する。			
2	各論①（精神分析）		精神分析の歴史や理論について理解する。			
3	各論②（精神分析）		精神分析の実践方法について理解する。			
4	各論③（クライエント中心療法）		クライエント中心療法の歴史や理論について理解する。			
5	各論④（クライエント中心療法）		クライエント中心療法の実践方法について理解する。			
6	各論⑤（認知行動療法）		認知行動療法の歴史や理論について理解する。			
7	各論⑥（認知行動療法）		認知行動療法の実践方法について理解する。			
8	各論⑦（認知行動療法）		認知行動療法の実践方法について理解する。			
9	各論⑧（ゲシュタルト療法）		ゲシュタルト療法の歴史・理論・実践方法について理解する。			
10	各論⑨（表現療法）		表現療法の歴史・理論・実践方法について理解する。			
11	傾聴技法①（傾聴とは）		傾聴のための姿勢・態度、傾聴により起こる変化について理解する。			
12	傾聴技法②（関わり行動）		傾聴技法（関わり行動）について学び、体験する。			
13	傾聴技法③（関わり行動）		傾聴技法（関わり行動）について学び、体験する。			
14	傾聴技法④（感情の反映）		傾聴技法（感情の反映）について学び、体験する。			
15	傾聴技法⑤（感情の反映）		傾聴技法（感情の反映）について学び、体験する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
「臨床心理学」を履修済みであることが望ましい。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
レジュメを配布します。参考図書などは適宜授業内で紹介します。						
最終到達目標		学習法				
カウンセリングや心理療法の意義や、それぞれのアプローチの相違点について説明することができる。		(事前) 毎回のテーマに関する本などを読み、関心を深めておいて下さい。 (事後) 配布した資料や紹介した書籍などをよみ、振り返りを行って下さい。				
評価方法および評価基準						
期末レポート 40% 小レポートおよび授業への参加状況 60%						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENF0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	チームケア論	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	4 年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	小西美智子				探求心	○
講義目的						
在宅療養者の療養生活及び介護する者の介護生活を支援するために、連携・協働を基に、チームケアを実施する目的・方法について学修する。 1)我が国の保健・医療・福祉制度の内容を理解する。2)在宅療養を支援するチームケアの理念を理解する。						
授業内容						
在宅療養する者及び介護する者の生活ニーズを理解して、保健・医療・福祉サービス及び地域にある社会資源を活用して、これらのサービスを提供する専門職と連携・協働して、効果的で有効なチームケアを実践する方法について理解する。事例提供・分析については、必要時スペシャルゲストを招聘する。チームケアを実践する看護職として、事例を通してグループワークを行い、事例が持っている課題について、地域の中でどのようにサービスが展開され、支援が行われているかを明らかにし、発表・討議を行い学修を深めていく。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	在宅療養を支援する保健・医療・福祉制度とそのサービス内容			在宅療養を支援する制度の概要が理解できる		
2	保健・医療・福祉専門職が連携・協働して在宅ケアを支援するためのチームケアの理念			在宅ケアの推進とチームケアの必要性が理解できる		
3	医療依存度の高い在宅療養者への医師・看護師・介護職とのチームケアによる質の高いサービス			医師・看護師・介護職間におけるチームケアの進め方が理解できる		
4	医療依存度の高い在宅療養者への医師・看護師・介護職とのチームケアによる質の高いサービス 主に呼吸管理・ターミナルケアについて			呼吸管理が必要な者及び終末期にある者の医師・看護師・介護職間におけるチームケアの進め方が理解できる		
5	疾患や虚弱等により ADL 自立が困難な者に訪問看護・訪問介護の連携による家族介護力の指導・支援			日常的に家族介護者が行う ADL 介助時における危機管理への指導が理解できる		
6	リハビリテーションに関するチームケア、理学療法士、作業療法士、言語療法士との連携による ADL/IADL の支援			理学療法士、作業療法士、言語療法士の専門性を理解したチームケアができる		
7	介護保険制度における介護支援専門員(ケアマネジャー)の役割と介護計画(ケアプラン)の特徴			介護計画(ケアプラン)とチームケアの関連性が理解できる		
8	介護計画の作成、実施、評価、修正(PDCA)のためのカンファレンスとチームケア			チームケアの修正・改善方法について理解できる		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
看護学実習において受け持った 1 事例について、チームとして関わった保健・医療・福祉職の専門性を整理しておく。科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
国民衛生の動向(最新号)、国民の福祉と介護の動向 (最新号)						
最終到達目標				学習法		
看護専門職として在宅療養者及び家族を支えるチームケアの目的を理解しチーム員として役割と機能を説明できる。				学習課題の達成度を自己評価し不足内容を復習する。グループワーク等において、意見交換し自分の理解状況を把握し、内容を深める。		
評価方法および評価基準						
グループワークの発表・質疑内容等の参加度: 30 点、 事前学習レポート内容: 30 点、 授業単元ごとのまとめ(8回): 40 点 S(100～90 点): 学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent) A(89～80 点): 学習目標を相応に達成している(Very Good) B(79～70 点): 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある(Good)						
C(69～60 点): 学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満): C のレベルに達していない						

授業コード	ENF0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	医療リスクマネジメント論	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	村上早苗				探求心	○
講義目的						
リスクマネジメントとは、損失を生む原因や要因を分析して回避または低減をはかるために組織的に管理（マネジメント）していく過程をいう。医療におけるリスクマネジメントは、医療従事者が正しい知識と的確な技術を持ち、的確に実施すること、これらを実現するためのシステムを構築し、安全を保障する方法を考えられることである。看護師を目指す学生として、医療安全を学ぶことの意義を理解し、知っておくべき基本的事柄を学ぶことを目的とする。						
授業内容						
わが国の医療安全対策および医療安全に関連する法律や理論を概観し、組織的に取り組む安全対策についての概略を理解でき、事故発生のメカニズムと発生防止の考え方や、医療現場および地域におけるリスクマネジメントの考え方を修得できる。さらに事故分析と危険予知の事例演習をとおして自己のリスクマネジメントへの関心を高めることができる。（主な内容 全8回） 医療安全の法律や理論、医療現場におけるリスクマネジメントについて、感染管理を含む安全対策、地域におけるリスクマネジメントについて、在宅看護におけるリスク管理、訪問看護ステーションや行政機関との連携についても理解することができる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	医療安全の歴史と医療・看護を取り巻く状況 医療事故に対する最近の動向と考え方			わが国で、医療事故への関心が高まったきっかけとなった2つの重大医療事故を知る。また、医療安全に関する厚生労働省や日本医療機能評価機構の取り組みについて知ることができる。看護職が起こしている医療事故の実態を理解できる。		
2	医療安全の概念の導入 （人は何故間違いを起こすのか）			医療安全に用いられる基本的な用語（医療事故、医療過誤、医療紛争、ヒヤリハット、インシデント、アクシデント、オカレンスなど）を理解する。また、ヒューマンエラーの構造、ハインリッヒの法則、スイスチーズモデルなどから医療事故の考え方を理解できる。		
3	医療事故と看護業務について			保健師助産師看護師法の第5条「看護業務」の、診療の補助と療養上の世話から看護事故を考える。そして、看護事故の構造、看護事故防止の考え方を理解する。 「してはならないことをしない」「すべきことをする（危険の予測）」、事故発生後の患者の傷害拡大の防止について理解できる。		
4	ミスを防ぐための対策と事故後の対応についてⅠ			診療の補助の事故防止（患者に投与する業務、継続・管理中の危険な医療行為の観察・管理における業務）について理解できる。患者参加の重要性を理解できる。 システムとしての事故防止の具体例から防止対策を理解する。		
5	ミスを防ぐための対策と事故後の対応についてⅡ			療養上の世話事故および事故防止の考え方、援助上の留意点を理解できる。システムとしての事故防止の具体例から防止対策を理解する。業務領域を超えて共通する間違いと発生要因、防止対策を理解する。 （患者間違い、タイムプレッシャーと途中中断など） 在宅における医療事故と介護上の留意点を理解する。		
6	医療安全の実際 感染管理Ⅰ （感染と感染予防対策の概要）			感染・感染症の成立、スタンダードプリコーション、感染経路別予防策を理解する。スタンダードプリコーションは、11の具体策で構成されているため、その内容を理解する。（手指衛生、個人防護具の使用、呼吸器/咳エチケット、腰椎処置の際の感染予防、安全な注射処置、患者配置、患者に使用した物品の安全な取り扱い、環境への対策、リネン類などの洗濯、職員安全、安全な蘇生処置）		

7	感染管理 II (感染制御の実践)	感染源への対策、感染経路への対策、宿主への対策の実践と留意点について理解できる。 針刺し・粘膜曝露の防止策と対応について学ぶ。 医療関連感染管理の実践を学ぶ。(地域連携)
8	医療安全(感染管理) 臨地実習における医療安全について まとめ	医療安全(感染管理)における看護師の責務と役割を理解できる。 患者への援助の際に、実習で気を付けるポイントを理解できる。
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)		
<p>医療安全に関する用語は様々あり、基本的な用語は理解する必要がある。そのため、予習で用語の意味を調べて授業に出席すると理解し易い。予習、復習を行ったうえで講義に出席してほしい。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
『系統看護学講座 医療安全』：川村治子，医学書院，2014 年，2376 円 (ISBN 978-4-260-01914-9) 『医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力』：小林美亜，Gakken，2014 年，2376 円 (ISBN 9784780911039) 『新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I』：深井喜代子，メヂカルフレンド社，2014 年，3348 円 (ISBN 978-4-8392-3293-1) 『写真でわかる看護安全管理』：村上美好，インターメディカ，2012 年，2500 円 (ISBN 978-4899961802)		
最終到達目標		学習法
1. リスクマネジメントの概念について説明できる。 2. 医療過誤と法的責任について説明できる。 3. 看護事故とその防止対策を説明できる。 4. 組織的に取り組む医療安全(感染管理)について説明できる。 5. 医療安全の必要性と看護師の役割について説明できる。		教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題は、自己学習をして講義に臨み、課題は授業後に提出すること。 分からないことは随時質問し、理解したうえで授業を受けること。
評価方法および評価基準		
・ 期末試験 60% ・ 小テストおよび課題レポート 20% ・ 講義(グループワーク) ・ 参加状況および態度 20% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENF1001			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	人権擁護と成年後見制度	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	菅野慎二				探求心	○
講義目的						
障害や疾病を有することで、自分の意思や日常生活の判断能力が不十分なために、自らの生活に不利益を被らないよう、成年後見制度や日常生活自立支援事業等を活用し、権利擁護に結び付けることを学ぶ。 また高齢者や障害者の虐待への支援を通し、狭義の権利擁護から広義の権利擁護に視野を広げるとともに、障害者等に対する犯罪から司法福祉領域まで幅を広げた権利擁護を学ぶ。						
授業内容						
知的障害や認知症等により日常生活上の支援が必要な人々に対する社会的排除や虐待等、権利侵害の現状と権利擁護活動の必要性について理解することを目標とする。支えが必要な人々への援助において必須である権利擁護の理念と実際の支援のあり方について、成年後見制度、日常生活自立支援制度、虐待防止法等の関連法を基に理解する。特に財産管理や身上監護等権利侵害への対応を中心とした狭義の権利擁護から、エンパワメント、自己決定の重要性まで含めた広義の権利擁護の視点を身につける。授業の形態としては、映像を駆使した教材を中心に講義を進めるとともに、ケースメソッドを活用し、事例を基に意見交換や判断根拠を講師とやり取りしながら理解力を高める。必要に応じ、現場で活躍する社会福祉士等の実践報告を聞く。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	現代における人権とは何か		世界人権宣言、憲法、権利擁護(アドボカシー)等について理解できる。			
2	権利擁護活動の関連法規と行政・組織と専門職		権利擁護に関する関連法規を理解し、障害や疾病を有することで、自らの生活に不利益を被らないような公的保障や社会的制度が規定されていることを理解できる。権利擁護の支援者としての専門職を知る。			
3	成年後見制度の目的・概要		行為能力と成年後見制度の関係について理解し、成年後見制度の意義・目的・概要について理解できる。			
4	成年後見制度の手続き		成年後見の対象者、成年後見利用の手続きについて理解できる。			
5	成年後見制度活用の事例及び日常生活自立支援事業		判断能力の不十分な高齢者、障害者等に対する成年後見制度活用の実際について学ぶ。			
6	権利擁護活動の実際		認知症、消費者被害、虐待被害等への対応を学び、司法福祉の実際について理解できる。			
7	権利擁護業務に関わるゲスト講師による実践報告		現場で活躍する社会福祉士等の実践事例を学ぶ。			
8	まとめ、総括		講義やグループ演習等をふりかえり、権利擁護等について系統的、総合的に考察できる。			
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
日本国憲法を学修しておくことが望ましい。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『社会福祉士養成講座 19 権利擁護と成年後見制度 第4版』: 社会福祉士養成講座編集委員会, 中央法規, 2014年 (ISBN 978-4-8058-3936-2)						
最終到達目標			学習法			
人権とは何かについて理解し、知的障害や認知症等により、日常生活上の支援が必要な人々に対する社会的排除や虐待等、権利侵害の現状と権利擁護活動の必要性について理解できる。			映像やケースメソッドを活用し、小グループでの意見交換を行う。現場で活躍する権利擁護支援者のインタビュー等を通して、事実の把握や倫理的思考を修得する。			
評価方法および評価基準						
期末試験 60%, 授業参加やプレゼンテーション 30%, 課題の提出 10% S(100～90点):学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent) A(89～80点):学習目標を相応に達成している(Very Good) B(79～70点):学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある(Good)						
C(69～60点):学習目標の最低限は満たしている D(60点未満):Cのレベルに達していない						

授業コード	ENF1101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門基礎科目－健康と生活支援				広い視野	○
授業科目名	医療経営論	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	4 年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	中橋恒, 一井美哉子				探求心	○
講義目的						
本科目の達成目標は、 1) 看護経営に必要な知識を習得すること 2) 医療政策と医療福祉制度の仕組み、組織と人間関係について理解することである。						
授業内容						
保健医療福祉をめぐる社会環境は非常なスピードで変化している。グローバル化に伴う経営面への変化は、特に看護サービス部門は医療界へも影響を与えている。訪問看護管理運営の視点が医療人に求められる時代になった。この科目では、訪問看護ステーションをいち早く立ち上げ、実務家の経験からも学び、創造的で個性的な人材に成長してくれることを期待する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	社会の動向と保健医療福祉施策			医療施策と医療福祉制度の仕組みを理解できる。		
2	医療をとりまく看護サービスのあり方			看護サービスの要素、プロセス、管理を理解できる。		
3	病院・施設運営と看護サービス			病院経営や運営とそれに付随する看護サービスのあり方を理解できる。		
4	経営企業家としての自立した看護人材の育成			経営企業家として必要な知識及び看護人材育成のための要因を理解することができる。		
5	訪問看護ステーションの管理運営			訪問看護ステーションの管理運営について理解することができる。		
6	プライマリケアの展開			プライマリケアの特徴や課題について理解することができる。		
7	地域包括医療システムの展開			地域包括医療システムについて理解することができる。		
8	まとめ、総括			講義をふりかえり、保健、福祉、医療について系統的、総合的に考察できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
次回の講義内容を事前に予習し授業に臨むこと。授業で学んだ内容はさらに関連事項を図書などで調べておくこと。科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
講義の中で必要なテキストを紹介する。						
最終到達目標				学習法		
保健・福祉、医療における看護サービスの概念を理解し、組織の中の看護職の役割・機能の重要性を理解できるだけではなく、経営的な視点からも系統的に理解することができる。				次回の授業内容の予習、講義中に指示課題についてレポートの提出を行う。講義内容の必要性に応じて小グループでの討議をする。		
評価方法および評価基準						
期末試験 60%、授業参加やプレゼンテーション 30%、課題の提出 10% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENG0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野	
授業科目名	看護学概論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	河野保子				探求心	○
講義目的						
看護の定義・概念から看護とは何かについて学ぶとともに、看護の歴史的発展過程や主な看護理論から看護の対象、看護の役割・機能について理解することを目的とする。また健康と個人・家族・環境とのかかわりについて概観し、保健医療福祉チームにおける看護活動について理解する。さらに看護と法、倫理的側面について理解し、医療従事者と倫理、看護実践と倫理を考察する。						
授業内容						
看護の基本概念を踏まえて、看護学の知識体系を把握し、専門職としての看護の役割・機能について考える。看護活動の対象である人間を、成長・発達、ライクサイクル、生活主体としての側面から理解し、ニーズの充足と自立、適応に焦点を当てた看護活動について学ぶ。看護の基本は安全・安楽・自立・その人らしさの保障であり、QOLを追求することにある。生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に看護を展開することの重要性を認識し、看護専門職として看護の対象に向き合うための基本的知識・態度を培う。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	看護ってなんだろう？		看護という言葉の意味、ケアとキュアの考え方について理解できる。			
2	専門的看護の発展（1）		近代看護の歴史的変遷、及び看護の専門職化について理解できる。			
3	専門的看護の発展（2）		わが国の看護改革と看護の専門職化について理解できる。			
4	専門的看護の役割・機能		ヘルスケア提供システムを認識し、看護の場、及び看護の役割・責任について理解できる。			
5	社会の変化と看護の役割拡大		わが国の保健・医療・福祉の状況を認識し、日本における専門看護師・認定看護師等の必要性、制度について理解できる。			
6	看護の主要概念と看護実践		看護の4つの主要概念—人間、健康、社会（環境）、看護—について把握し、看護実践への適用について理解できる。			
7	看護理論		ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、オランダ、ペプロー、キングの各看護理論を概観し、先人の看護に対する考え方が理解できる。			
8	健康とウェルネス		健康の定義・概念を理解し、ウェルネス行動について知識を持つ。疾患、病気、機能障害に対する知識を深めるとともに、国民の健康状態を理解できる。			
9	健康と環境		人間を取り巻く環境（個人、家族、地域社会、自然、文化、生活）について把握し、健康との関連性で考察することができる。			
10	人間のニーズ		人間の欲求と行動、人間の基本的ニーズ、マズローの欲求理論について理解できる。			
11	人間の健康問題		ストレスと対処行動、患者心理について理解できる。			
12	看護援助の一般的概念		生活者としての人間の反応を観察し、看護としての援助が必要になる状況（ニーズの未充足状態）を把握し、その生活支援を考えることができる。			
13	看護活動		看護過程、直接看護活動、チーム活動の仲介と調整について理解し、保健師助産師看護師法に基づく法的責任性を把握できる。			
14	看護倫理と看護実践		看護専門職者としての倫理的態度形成を考えることができる。看護倫理の原則が理解できる。			
15	患者中心の医療・看護と倫理		インフォームドコンセント、自己決定権、守秘義務等について理解することができる。			

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>専門用語や聞き慣れない言葉が多いため、教科書や資料等を参考に、予習・復習をしてください。配布された資料は必ずファイルにしてください。授業は講義形式ですが、質問を多くして学生との意見交換を行います。積極的な意見表明を期待いたします。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>『系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学①』：茂野香おる，医学書院，2,400 円+税，2016 年 (ISBN 978-4-260-02181-4)</p> <p>『看護覚え書—看護であること看護でないこと—』：F. ナイチンゲール著、薄井担子他訳，現代社，1,836 円 2011 年 (ISBN 978-4874741429)</p> <p>『看護の基本となるもの』：V. ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳，日本看護協会出版会、1,200 円+税 2016 年 (ISBN 978-4-8180-1996-6)</p> <p>※参考書は講義の時に提示いたします。</p>	
最終到達目標	学習法
<ul style="list-style-type: none"> ・社会（環境）の中で、健康問題・課題を持って生活する人間について全人的存在であることが説明できる。 ・看護及び看護学について概観することができ、基本的な看護活動が説明できる。 ・生命の尊重や人間の尊厳について看護倫理として説明できる。 	<p>講義前に予習の課題を提示する。</p> <p>講義終了時に講義に対するリアクションペーパーを提出する。</p> <p>講義後には毎回、学習内容を復習する（講義に関するポートフォリオの作成）。</p> <p>講義では、必ず 1 回、質問をして双方向のディスカッションを行う。</p>
評価方法および評価基準	
<p>期末試験 60%</p> <p>小テスト及び課題レポート 20%</p> <p>講義参加状況、態度 20%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENG0201			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野	
授業科目名	看護学概論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	奥田泰子, 三並めぐる, 宮崎博子, 門脇千恵, アダラー・コリンズ慈観, 井上仁美, 田中正子, 上西孝明				探求心	○
講義目的						
1. 小児看護学、母性看護学、精神看護学、成人看護学、高齢者看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、国際看護学の目的、対象、看護の概要や特徴が理解できる。						
2. 看護の対象となる人々を身体的側面・心理（精神）的・社会的な側面からとらえ、人間が環境と相互に作用しながら生活している存在であることを理解し、その後に続く看護の各領域で何を学ぶかを理解できる。						
3. 各対象における看護の倫理的課題について知ることができる。						
授業内容						
この科目は、その後に続く看護の各領域で何を学ぶかといった、各領域別にそれぞれの目的や対象者の大筋を講義する。基盤看護学との位置付けや統合された看護のイメージ、看護職となる上での倫理的な課題についても学び今後の学修の動機づけとする。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	現代の社会・医療における子どもの状況と小児看護の役割		子どもと家族の成長発達上の健康課題を明らかにし、小児に関わる看護師に必要な基礎的知識・態度について理解する。			
2	母性看護学、リプロダクティブヘルスの役割と今日的課題		リプロダクティブヘルスは、健全かつ安全な子どもを生み育てることである。また、それらに必要な影響因子や課題について理解できる。			
3	精神保健看護の役割と今日的課題		現代社会における精神保健・看護のニーズについて理解し、精神保健看護の世界的趨勢と日本における今日的課題について学ぶ。こうした状況をふまえながら精神保健看護の基本的な考え方や役割を理解できる。			
4	成人看護学の役割と今日的課題		成人看護学領域の目的や対象について理解できる。また看護専門職者として対象における倫理的課題を考えることができる。			
5	高齢者看護学の学び		老年期にある人々の生活の多様性を理解し個別性のある看護の必要性を考える。高齢者に対する尊厳性について理解する。			
6	在宅看護学の学び		在宅看護における動向や社会的背景に基づくニーズを知り、在宅看護の目的や特徴を理解できる。			
7	地域看護学・公衆衛生看護学の学び		公衆衛生看護における看護職の役割と臨床看護との相違点について考察する。			

8	<p>Introduction and outline of the International Nursing Curriculum.</p> <p>Living Action Research (LAR) is the method of teaching and learning. What is it? How do you do it?</p> <p>Introduction to E-learning and online testing.</p> <p>Student Centered Learning. (SCL)</p> <p>Portfolio building .</p> <p>国際看護学のカリキュラムについての紹介と概略。</p> <p>リビングアクションリサーチは教育および学習の方法論である。それはどのようなものか？どのようにして行うのか？</p> <p>E-ラーニングとオンラインでのテストについての紹介。</p> <p>学生中心の学習。</p> <p>ポートフォリオの作成。</p>	<p>Students will be introduced to the curriculum elements of the course, years 1,2,3,4.</p> <p>Students will be introduced to Action Research as a methodology.</p> <p>E-learning and online testing are an integrated part the of the scholarship elements of the International Nursing Curriculum. Students will be introduced and given examples as to what will be required from them in terms of educational evidence.</p> <p>Students are expected to function at the level 4 educational level (University). Understanding what is required in terms of learning skill, action plans, self-assessment and progression mapping will be introduced.</p> <p>Educational learning is assessed by using portfolio and online testing of curriculum content. Examples will give as to what will be required.</p> <p>国際看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳのカリキュラムの構成要素についての紹介。</p> <p>方法論としてのアクションリサーチの紹介。</p> <p>E-ラーニングとオンライン上でのテストは、国際看護学のカリキュラムの学術的な要素の統合された部分である。学生は教育のエビデンスという面において何を要求されるのかについて紹介を受け、例を示されるでしょう。</p> <p>学習スキルとアクションプラン、自己評価、学習の進展マッピングという点においてどのようなことを求められるか理解することについて紹介を受ける。</p> <p>教育的学習は、ポートフォリオとカリキュラム上の学習内容についてのオンライン上でのテストを用いることによって評価される。どのようなことを求められるか例を与えられるでしょう。</p>
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>看護専門領域の基礎となる科目であるため、主体的な学修を求めます。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
適宜レジュメ配布		
最終到達目標		学習法
<p>1. 各領域の目的や概要、特徴が理解でき、今後の学修の動機づけとすることができる。</p> <p>2. 基盤看護学との位置付けや統合された看護のイメージ、看護職となる上での倫理的な課題について理解できる。</p>		講義
評価方法および評価基準		
<p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>		

授業コード	ENG0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野	
授業科目名	看護学概論Ⅲ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	河野保子				探求心	○
講義目的						
1. 4年間の学びで身につけた看護の知識・理論・技術・倫理的態度等を振り返り、看護の定義・概念、看護実践の特徴、看護の対象、健康の考え方、人間を取り巻く環境について再認識することを目的とする。 2. 看護に対する自分の考え方を深め、「看護であるもの、ないもの」を考察して自身の看護観を進化・発展させることを試みる。						
授業内容						
4年間の学修で培った看護の知識・技術・態度、及び倫理観を再認識し、看護の主要概念について、学生間でグループワークを行う。また教員とのディスカッションを通して、看護とは何かについて自身の考え方を深める。看護実践を通して、看護は患者・家族の人権擁護者としてのあり方について考察を深める。これらのことから、看護専門職として社会に貢献するためには、生涯学び続けることの意義・必要性を理解し、生涯学習者としての基盤を強化する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	本授業のガイダンス			講義の目的、授業の方法等についてオリエンテーションを行う。		
2	看護における教養教育・医学的知識教育の再考			課題によるグループ討議・発表		
3	看護実践の再考			課題によるグループ討議・発表		
4	看護実践と倫理的視点の再考			課題によるグループ討議・発表		
5	看護と健康に関する再考			課題によるグループ討議・発表		
6	看護と人間に関する再考			課題によるグループ討議・発表		
7	看護と環境に関する再考			課題によるグループ討議・発表		
8	看護専門職と生涯学習、及びキャリア形成			看護の役割拡大や専門職化に関する現状と課題について講義し、自身のキャリアアップにつなげて理解できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
全員参加型の講義を行います。グループ討議、及びグループでの考え方や自身の考え方を踏まえて、アサーティブなプレゼンテーションを期待いたします。予習・復習は勿論のこと、多くの文献提示を行ってください。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
学生各グループが提示する文献、資料 教員による資料の提示						
最終到達目標				学習法		
・看護とは何かを自己表現でき、看護であるもの、ないものが説明できる。 ・看護の主要概念を把握し、環境・人間・健康・看護に関する関係を説明できる。 ・看護実践と人権擁護について説明できる。				グループ学習による課題を中心とした事前学習、及び反転授業、復習でもって構成する。 学生自らが作成した教材により講義を行い、その評価やコメントを受ける。 講義終了後にリアクションペーパーを提出する。		
評価方法および評価基準						
期末試験 60%、課題レポート 20%、講義参加状況、態度 20% S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENG0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野	
授業科目名	生活援助方法論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	中島紀子, 坂口京子				探求心	○
講義目的						
1. 看護技術は人間を対象とした専門技術であることから、看護活動の場において、さまざまな健康レベル、発達段階にある人々の日常生活行動の意義を理解する。						
2. 日常生活行動における基本的な援助技術の知識を修得するとともに、基本的な共通援助技術の実践を探究する能力を養う。						
授業内容						
既習した看護学概論、看護コミュニケーション論などを活用し、人々の健康と深くかかわる日常生活行動の概念、意義を理解し、看護におけるアセスメント視点を養う。また安全、安楽、自立という原理原則を根底に、看護技術のエビデンスに基づいた基本的な生活行動に対する援助方法を探究する。						
具体的には、有害なものに対する防御を支援するケア、身体機能を支援するケア、ヘルスケアシステムの有効を利用するケア、心理機能を支援しライフスタイルの変容を支援するケアなど、これらを実践するための基礎知識および援助技術の方法を理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	看護技術の概念		看護技術とは何かについて理解し、看護における安全・安楽・自立の原則が理解できる。またクリティカルシンキング、EBN 志向の実践の必要性を理解し、看護場面に応用できる思考過程を育てる。			
2	感染防止に関する技術 1 ①感染条件 ②感染経路 ③感染予防 ④「ハンドペッタン」実験		医療における感染防止の重要性や基礎知識を学び、標準予防策について理解できる。 感染経路別予防対策の基礎知識を学び、個人防御用具の取り扱いについて理解することができる。			
3	環境調整に関する技術 ①環境の調整 ②環境に関する測定と評価 ③シーツ交換		生活環境を基盤として、療養者にとって必要な環境について学び、環境を整える技術及び環境の評価について理解することができる。			
4	活動・休息に関する技術 1 ①睡眠 ②ボディメカニクス ③ポジショニング		睡眠と休息のバランスの必要性を学び、睡眠の基礎知識と良好な睡眠を得るための援助技術を理解する。またボディメカニクスの原理を学び、体位の安楽性、動作の経済性について理解することができる。			
5	活動・休息に関する技術 2 ①体位交換 ②移乗・移送		体位変換、移乗や移送の援助技術が理解することができる。また苦痛の緩和や安楽を保持する援助について理解することができる。			
6	清潔援助に関する技術 1 ①入浴・シャワー浴 ②全身清拭・部分清拭		清潔援助の効果と全身への影響を学び、清潔援助の基礎知識と援助技術を理解する。入浴の影響や全身清拭及び部分清拭の援助技術について理解することができる。			
7	清潔援助に関する技術 2 ①衣生活 ②寝衣交換		清潔援助の効果と全身への影響を学び、清潔援助の基礎知識と援助技術を理解する。衣生活や寝衣交換の援助技術について理解することができる。			
8	清潔援助に関する技術 3 ①洗髪		清潔援助の効果と全身への影響を学び、清潔援助の基礎知識と援助技術を理解する。洗髪の援助技術について理解することができる。			
9	清潔援助に関する技術 4 ①手足浴 ②口腔ケア		清潔援助の効果と全身への影響を学び、清潔援助の基礎知識と援助技術を理解する。手足浴、口腔ケアの援助技術について理解することができる。			
10	食事援助に関する技術 ①誤嚥予防 ②食生活変更 ③食事介助		栄養の評価・食事援助の基礎知識を学び、食事摂取の援助技術を理解する。誤嚥予防や食生活変更、食事介助における援助技術について理解することができる。			

11	排泄援助に関する技術 1 ①自然排尿、自然排便 ②ポータブル便器 ③床上排泄	排泄の意義、基礎知識と看護師の基本姿勢について学び、自然排尿、自然排便がスムーズに行われるための援助技術を理解する。ポータブル便器、床上排泄における援助技術について理解することができる。
12	排泄援助に関する技術 2 ①失禁 ②おむつ交換 ③陰部洗浄	失禁のメカニズムを理解するとともに、看護師の基本姿勢について考え、失禁に対する援助技術を理解する。おむつ交換、陰部洗浄の援助技術について理解することができる。
13	排泄援助に関する技術 3 ①心理的配慮 ②摘便 ③浣腸 ④ストーマケア	排泄困難のメカニズムを理解するとともに、看護師の基本姿勢について考え、排便を促す援助技術を理解する。排泄行為を他者に委ねなければならない心理状況を考えることができる。摘便、浣腸、ストーマケアの援助技術が理解することができる。
14	事例への介入（グループワーク）	事例に合わせ必要な援助技術を考える事ができる。
15	事例への介入（グループワーク）	事例に合わせ必要な援助技術を考える事ができる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
人間の日常生活行動における基本的な看護技術を、科学的根拠に基づいて探求していく科目です。まずは自己の生活行動を振り返り、セルフケアの重要性に気づくことが大切です。その上で解剖生理学、看護学概論や看護コミュニケーション論など既習した知識を活用し、日常生活援助技術のあり方について学んでください。科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
教科書：『系統的看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③』；任和子，医学書院，2016，2900 円+税（ISBN 978-4-260-01579-0） 参考書：『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』；任和子，医学書院，2016，5500 円+税（ISBN 978-4-260-01928-6）		
最終到達目標		学習法
1. 看護技術の概念と日常生活行動の意義が説明できる。 2. 日常生活援助に必要な基礎知識について述べることができ、日常生活行動における基本的な援助技術の方法について説明できる。		各単元に関連する解剖生理学、基礎看護概論、看護コミュニケーション論などの教科書の内容を復習する。 単元に関する本教科書の内容に目を通し、自己の日常生活行動と照らし合わせる。また看護の対象に対し安全、安楽、自立性を基本とした援助技術のあり方を探求してください。
評価方法および評価基準		
期末試験 70% 小テストおよび講義レポート 20% 講義参加状況および態度 10% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENG0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野	
授業科目名	生活援助方法演習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	中島紀子, 坂口京子				探求心	○
講義目的						
1. 看護学概論、看護コミュニケーション論、生活援助方法論など既習の知識を活用し、日常生活行動におけるアセスメントの視点が理解できる。						
2. さまざまな健康レベル、発達段階にある人の看護の基盤となる、基本的な共通援助技術の方法を理解し、実践できる能力を養う。						
3. リフレクションを通して、安全・安楽・自立性を考えた援助技術のあり方を探求できる。						
授業内容						
人々の健康と深くかかわる日常生活行動の意義を理解し、看護におけるアセスメント視点を養う。また安全、安楽、自立という原理原則を根底に、看護技術のエビデンスに基づいた援助方法を探求する。 具体的には、有害なものに対する防御を支援するケア、身体機能を支援するケア、ヘルスケアシステムの有効を利用するケア、心理機能を支援しライフスタイルの変容を支援するケアなど、これらを実践するための基本的な知識および援助技術の方法を理解する。この科目は演習形態であり、小グループの編成によって、各単元の学習内容、課題に沿って、実際の場面を想定し演習計画に基づいて、実施を行う。またグループダイナミクスを活かし援助技術のあり方を探求する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	看護技術の概念			実習室の物品の把握、用途について学び、演習に対する姿勢や援助技術の実践について理解できる。 看護の対象者を生活者として捉え、対象者の生活行動、生活習慣を把握し、対象者に応じた援助技術を提供する姿勢を養う。		
2	感染防止に関する技術 1 ①スタンダードプリコーションとは ②衛生的手洗い ③擦式アルコール手指消毒			感染の要因や経路を理解するとともに、細菌培養の実際を通して、看護者としての感染予防対策の重要性を認識することができる。特に「ハンドペッタン」による細菌培養の実験にて手指消毒の重要性を説明することができ、正確な手洗いの実施をすることができる。		
3	感染防止に関する技術 2 ①個人防御用具とは			個人防御用具の取り扱いの援助技術を実施することができる。		
4	感染防止に関する技術 3 ①マスクの付け方 ②ガウンの着脱 ③処置用手袋の着脱 ④ゴーグルの装着			医療現場における感染予防対策の必要性及び方法を理解し、必要に応じて実施することができる。 感染性廃棄物の取り扱いの援助技術を実施することができる。		
5	環境調整に関する技術 1 ①療養者の環境とは ②室温、湿度、換気、照度調整 ③環境整備			療養者の環境を調整し整えることができる。		
6	環境調整に関する技術 2 ①臥床患者のシーツ交換 ②ベッドメイキング			療養者の環境のあり方を踏まえ、シーツ交換の方法を理解し、安全、安楽であり快適な療養環境を提供することができる。		
7	苦痛緩和・安楽確保に関する技術 1 ①ボディメカニクス			基本的活動の援助と安楽確保のための援助技術を実施することができる。		
8	苦痛緩和・安楽確保に関する技術 2 ①良肢位の保持 ②体位交換 ③ポジショニング			基本姿勢や基本体位を理解し、苦痛緩和や安楽確保のための援助技術を実施することができる。		

9	活動・休息に関する技術 1 ①運動と休息 ②良質な睡眠	基本的活動及び安楽確保のため活動と休息のバランスを調整することができる。苦痛の緩和や良好な睡眠に対する援助技術を実施することができる。
10	活動・休息に関する技術 2 ①車椅子移乗 ②ストレッチャーへの移送	安全で安楽な移送・移乗の援助技術を実施することができる。
11	清潔援助に関する技術 1 ①全身清拭 ②寝衣交換	湯温清拭時の湯の温度の実験などを通して、エビデンスに基づいた臥床患者の全身清拭及び寝衣交換の援助技術を実施することができる。
12	清潔援助に関する技術 2 ①全身清拭 ②寝衣交換	湯温清拭時の湯の温度の実験などを通して、エビデンスに基づいた臥床患者の全身清拭及び寝衣交換の援助技術を実施することができる。
13	清潔援助に関する技術 【技術試験】	輸液ラインの入っていない臥床患者の全身清拭、整容、寝衣交換の援助技術を実施できる。
14	清潔援助に関する技術 【技術試験】	輸液ラインの入っていない臥床患者の全身清拭、整容、寝衣交換の援助技術を実施することができる。
15	清潔援助に関する技術 3 ①洗髪車 ②ケリーパッド ③洗髪台	患者の状態に合わせた洗髪の援助技術を実施することができる。
16	清潔援助に関する技術 4 ①洗髪車 ②ケリーパッド ③洗髪台	患者の状態に合わせた洗髪の援助技術を実施することができる。
17	清潔援助に関する技術 5 ①手浴 ②足浴	患者の状態に合わせた手足浴の援助技術を実施することができる。
18	清潔援助に関する技術 6 ①臥床患者の手浴 ②臥床患者の足浴	患者の状態に合わせた手足浴の援助技術を実施することができる。
19	食事援助に関する技術 1 ①口腔ケア	意識障がいのない患者の口腔ケアの援助技術について理解し、口腔ケアの方法の実際を検討することができる。
20	食事援助に関する技術 2 ①嚥下テスト ②嚥下訓練 ③食事介助	視力障がい・麻痺がある人の食事摂取における援助技術を実施することができる。
21	排泄援助の技術 1 ①自然排尿・排便 ②失禁患者の援助	自然排尿、自然排便がスムーズに行われるための援助技術を実施することができる。患者に合わせた便器、尿器の選択及び失禁に対する援助技術を実施することができる。
22	排泄援助の技術 2 ①床上排泄	排泄行動を他人に委ねなければならない心理状況を理解し、対象者のかかわり方について説明し、床上での便器、尿器の当て方の援助技術を実施することができる。
23	排泄援助の技術 3 ①床上排泄 ②オムツ交換 ③陰部洗浄	排泄困難な患者に対しての援助技術を実施することができる。
24	排泄援助の技術 4 ①床上排泄 ②オムツ交換 ③陰部洗浄	排泄困難な患者に対しての援助技術を実施することができる。
25	排泄援助の技術 5 ①腹部マッサージ ②浣腸	排泄困難な患者に対しての援助技術を実施することができる。またモデル人形を使って浣腸の援助技術を実施することができる。
26	排泄援助の技術 6 ①腹部マッサージ ②浣腸	排泄困難な患者に対しての援助技術を実施することができる。またモデル人形を使って浣腸の援助技術を実施することができる。
27	排泄援助の技術 7 ①リフレクション ②清潔、排泄の援助	事例を用いて、基本的な排泄の援助ができる。リフレクションを通して清潔援助技術についてのあり方を考えることができる。
28	排泄援助の技術 8 ①リフレクション ②清潔、排泄の援助	失禁のある患者に応じた援助技術が考えられ、実施し、評価考察、修正の必要性がわかる。
29	技術試験	事例に合わせた援助技術を実施することができる。
30	技術試験	事例に合わせた援助技術を実施することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>人間の日常生活行動における基本的な看護技術を、科学的根拠に基づいて探求していく科目です。看護概論、看護コミュニケーション論、生活援助論で学んだ事項を復習するとともに、各単元の予習を行うこと。またテキストの後ろのページにある各技術の動画を見て、イメージトレーニングをしてください。演習はグループで行いますので、リーダーシップやメンバーシップを発揮し、お互いに高めあいましょ。また実習室は、実際の病院の病棟内と想定して行いますので、演習時の態度に気をつけて下さい。演習に臨む姿勢は、常に看護の対象者の心理状態を考えながら看護の介入をしていきましょう。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>教科書：『系統的看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③』；任和子，医学書院，2016，2900 円+税（ISBN 978-4-260-01579-0）</p> <p>参考書：『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』；任和子，医学書院，2016，5500 円+税（ISBN 978-4-260-01928-6）</p>	
最終到達目標	学習法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念と日常生活行動の意義が説明できる。 2. 日常生活援助に必要な基礎知識について述べることができ、日常生活行動における基本的な看護技術の方法について説明できる。 	<p>各単元に関連する解剖生理学、基礎看護概論、看護コミュニケーション論などの教科書の内容を復習する。</p> <p>単元に関する本教科書の内容に目を通し、自己の日常生活行動と照らし合わせる。また看護の対象に対し安全、安楽、自立性を基本とした援助技術のあり方を探求してください。</p>
評価方法および評価基準	
<p>技術試験 70%</p> <p>小テストおよび講義レポート 20%</p> <p>講義参加状況および態度 10%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENG0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野	
授業科目名	診療援助方法論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	中島紀子, 坂口京子				探求心	○
講義目的						
1. 患者が安全・安楽に治療を受けることができ、最大限の治療効果が得られるよう援助するために、援助技術の原理原則を理解することができる。						
2. 治療を受ける人々のニーズを理解し、援助できる実践能力を養うことができる。						
3. 看護専門職者として、看護実践における倫理的姿勢と態度を身につけることができる。						
授業内容						
1年次に学んだ知識や技術を基盤とし、看護活動の場において様々な健康レベル・発達段階にある人々の診療援助に関わる看護技術とそのエビデンスを学修する。						
具体的には「生命の兆候を観察する技術」「感染予防に関する技術」「検査・処置の介助技術」「与薬の技術」「呼吸・循環を整える技術」「体温調整の技術」「食事・栄養摂取の技術」「排泄の援助技術」「創傷管理の技術」「安全確保の技術」といったことを実践するための基礎知識及び援助技術の方法を理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	ガイダンス, 診療援助とは, 記録とは			診療援助とは何かについて理解できる。またそれに伴う記録の重要性について理解できる。		
2	生命の兆候を観察する技術 ①バイタルサイン ②一般状態の観察 ③記録			患者の状態を把握することの重要性を学び、基礎技術を理解することができる。		
3	感染予防に関する技術 ①滅菌と消毒 ②無菌操作			医療における感染防止の重要性を学び、滅菌と消毒及び無菌操作について理解することができる。		
4	検査・処置の介助技術 1 ①検査とは ②身体計測 ③検査の方法			検査・処置について基礎知識を学び、介助方法について理解することができる。		
5	検査・処置の介助技術 2 ①静脈血採取 ②検体採取			静脈血採取の必要性及び方法を学び、検体採取の取り扱いについて理解することができる。		
6	与薬の技術 1 ①法的根拠 ②基礎知識 ③経口・経皮・直腸 ④静脈内注射 ⑤高カロリー輸液			与薬技術について基礎知識を学び、与薬方法について理解することができる。		
7	与薬の技術 2 ①皮内・皮下・筋肉 ②輸血			与薬の基礎知識を踏まえた上で、輸液及び注射の方法について理解することができる。また輸血についての合併症と観察について理解することができる。		
8	呼吸・循環を整える技術 1 ①アセスメント ②肺理学療法 ③酸素吸入			呼吸循環に関するアセスメントを学び、肺理学療法及び酸素吸入の基礎知識を理解することができる。		
9	呼吸・循環を整える技術 2 ①口腔・鼻腔内吸引 ②気管内吸引			口腔・鼻腔内吸引、気管内吸引の必要性を学び、援助方法を理解することができる。		
10	食事・栄養摂取の技術 ①栄養状態のアセスメント②経管栄養法 ③中心静脈栄養			栄養状態及び食欲・摂食能力のアセスメントを学び、栄養摂取技術の基礎知識及び方法を理解することができる。		
11	体温調節の技術・中間テスト ①体温の恒常性 ②電法 ③9回までの範囲の中間テスト			体温調整の必要性を理解し、援助技術について理解することができる。		
12	排泄の援助技術 ①排泄障害 ②自然排泄を促す技術 ③導尿			排泄援助の必要性を学び、基礎知識及び援助方法について理解することができる。		
13	創傷管理の技術 ①創傷の治癒過程 ②創傷管理 ③創傷ケア			創傷の治癒過程を学び、創傷管理の技術について基礎知識及び方法を理解することができる。		

14	安全確保の技術 ①誤薬防止 ②チューブ類の抜去防止 ③患者誤認防止 ④転倒転落防止 ⑤薬剤・放射線曝露防止	医療事故、医療過誤についての基礎知識を学び、安全確保のための援助技術を理解することができる。
15	死の看取りの援助技術 ①死にゆく人々と周囲の人々のケア ②死後の処置	死にゆく人々と家族の心理を理解し、どのようなケアが必要か理解できる。また死後の処置の基本的技術を理解することができる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
看護専門領域の基礎となる科目です。既習の知識・技術を活用し、診療援助方法について学んでください。科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
教科書：『系統的看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③』；任和子，医学書院，2016，2900 円+税（ISBN 978-4-260-01579-0）		
最終到達目標		学習法
1. 診療援助の技術の必要性、重要性について説明することができる。 2. 診療援助の技術に必要な基礎知識について述べることができ、基本的な援助技術の方法を説明することができる。		1 年次に学んだ解剖整理学、基礎看護学概論、生活援助方法論等を復習する。また生活援助方法論と照らし合わせ、対象に合わせた必要な援助方法を探求していくことができる。
評価方法および評価基準		
試験 70% 小テスト及び講義レポート 20% 講義参加状況及び態度 10% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENG0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野	
授業科目名	診療援助方法演習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	中島紀子, 坂口京子				探求心	○
講義目的						
1. 患者が安全・安楽に治療を受けることができ、最大限の治療効果が得られるよう援助するために、援助技術の原理原則を理解した上で援助技術を修得することができる。						
2. 治療を受ける人々のニーズを理解し、援助できる知識技術を修得することができる。						
3. 看護専門職者として、看護実践における倫理的姿勢と態度を身につけることができる。						
授業内容						
1 年次に学んだ知識や技術を基盤とし、看護活動の場において様々な健康レベル・発達段階にある人々の診療援助に関わる看護技術とそのエビデンスを学修する。						
具体的には「生命の兆候を観察する技術」「感染予防に関する技術」「検査・処置の介助技術」「与薬の技術」「呼吸・循環を整える技術」「食事・栄養摂取の技術」「体温調整の技術」「排泄の援助技術」「創傷管理の技術」といった援助技術の方法を理解し実施することができる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	診療技術の概念			実習室の物品の把握、用途について学び、演習に対する姿勢や技術援助の実践について理解できる。		
2	生命の兆候を観察する技術 1 ①バイタルサイン			患者の状態を把握することの重要性を学び、バイタルサインの方法を理解し実施することができる。		
3	生命の兆候を観察する技術 2 ①一般状態の観察・記録 ②血圧測定			バイタルサインを含む一般状態の観察を理解し、血圧を正確に測定することができる。		
4	生命の兆候を観察する技術 3 ①血圧測定			血圧測定の意義を理解し、正確に血圧を測定することができる。		
5	感染予防に関する技術 1 ①滅菌手袋の装着 ②無菌操作			医療における感染防止の重要性を理解し、滅菌手袋の装着、無菌操作を実施することができる。		
6	感染予防に関する技術 2 ①滅菌手袋の装着 ②無菌操作			医療における感染防止の重要性を理解し、滅菌手袋の装着、無菌操作を実施することができる。		
7	血圧測定テスト 1			患者に対し血圧測定前後の声かけや援助がスムーズにでき、正確に血圧を測定することができる。		
8	血圧測定テスト 2			患者に対し血圧測定前後の声かけや援助がスムーズにでき、正確に血圧を測定することができる。		
9	検査・処置の介助技術 1 ①静脈内採血			静脈内採血の基礎知識を理解し、安全な静脈内採血を実施することができる。		
10	検査・処置の介助技術 2 ①静脈内採血			静脈内採血の基礎知識を理解し、安全な静脈内採血を実施することができる。		
11	与薬の技術 1 ①点滴静脈内注射			静脈内注射の基礎知識を理解し、安全な静脈内注射を実施することができる。		
12	与薬の技術 2 ①点滴静脈内注射			静脈内注射の基礎知識を理解し、安全な静脈内注射を実施することができる。		
13	与薬の技術 3 ①皮下注射 ②筋肉注射			皮下注射、筋肉注射の基礎知識を理解し、安全な皮下注射及び筋肉注射を実施することができる。		
14	与薬の技術 4 ①皮下注射 ②筋肉注射			皮下注射、筋肉注射の基礎知識を理解し、安全な皮下注射及び筋肉注射を実施することができる。		
15	呼吸・循環を整える技術 1 ①肺理学療法			肺理学療法の基礎知識や必要性を理解し、効果的な肺理学療法を実施することができる。		

16	呼吸・循環を整える技術 2 ①酸素療法 ②吸入療法	酸素療法及び吸入療法の基礎知識を理解し、効果的な酸素療法及び吸入療法を実施することができる。
17	呼吸・循環を整える技術 3 ①酸素ポンベの取り扱い	酸素ポンベの取り扱いを理解し、安全に酸素ポンベを取り扱うことができる。
18	呼吸・循環を整える技術 4 ①口腔・鼻腔内吸引 ②気管内吸引	吸引の必要性及び基礎知識を理解し、安全な口腔・鼻腔吸引及び期間内吸引を実施することができる。
19	呼吸・循環を整える技術 5 ①口腔・鼻腔内吸引 ②気管内吸引	吸引の必要性及び基礎知識を理解し、安全な口腔・鼻腔吸引及び期間内吸引を実施することができる。
20	食事・栄養摂取の技術 ①経管栄養法	経管栄養法の基礎知識を理解し、安全な援助方法を実施することができる。
21	体温調整の技術 5 ①冷罨法 ②温罨法	体温調整の必要性を理解し、効果的な冷罨法及び温罨法を実施することができる。
22	中間まとめ	診療援助技術を振り返り、学びを深めることができる。
23	排泄の援助技術 1 ①導尿	導尿の必要性及び基礎知識を理解し、安全に無菌操作で導尿を実施することができる。
24	排泄の援助技術 2 ①導尿	導尿の必要性及び基礎知識を理解し、安全に無菌操作で導尿を実施することができる。
25	創傷管理の技術 1 ①創傷処置 褥瘡処置	創傷処置の基礎知識を理解し、効果的な創傷処置を実施することができる。
26	創傷管理の技術 1 ①包帯法	包帯法の基礎知識を理解し、効果的な包帯法を実施することができる。
27	排泄の援助技術 3 ①浣腸・排便	浣腸及び排便の必要性及び基礎知識を理解し、安全に浣腸を実施することができる。
28	実技試験 1	安全で正確な援助技術を実施することができる。
29	実技試験 2	安全で正確な援助技術を実施することができる。
30	実技試験 3 , まとめ	安全で正確な援助技術を実施することができる。
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)		
<p>看護専門領域の基礎となる科目です。既習の知識・技術を活用し、診療援助方法の技術を修得してください。演習はグループで行いますので、リーダーシップやメンバーシップを発揮し、お互いに高めあいましょう。また実数室は病棟内を想定して行いますので、演習時の態度に気をつけて下さい。演習に臨む姿勢は常に看護の対象者の心理状態を考え、看護介入をしていきましょう。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
教科書:『系統的看護学講座 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③』; 任和子, 医学書院, 2016, 2900 円+税 (ISBN 978-4-260-01579-0)		
最終到達目標		学習法
1. 診療援助の技術の必要性、重要性について説明することができる。 2. 診療援助の技術に必要な基礎知識について述べることができ、基本的な援助技術の方法を実施することができる。		1 年次に学んだ解剖整理学、基礎看護学概論、生活援助方法論等を復習する。また生活援助方法論と照らし合わせ、対象に合わせた必要な援助方法を探求し実施することができる。
評価方法および評価基準		
試験 70% 小テスト及び講義レポート 20% 講義参加状況及び態度 10% S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79~70 点) : 学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満) : C のレベルに達していない		

授業コード	ENG0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野	
授業科目名	看護コミュニケーション論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	中島紀子				探求心	○
講義目的						
1. 看護専門職者として、なぜコミュニケーションが求められるかを理解し、良好なコミュニケーションに必要な技法について学ぶ。						
2. 看護の対象を生物心理社会的モデルでとらえるための面接技法を、ロールプレイ・模擬患者とのセッションを通じて理解する。						
3. これらの学習を通して、患者中心の看護に必要な解釈モデルを聴くことの重要性を学び、看護師に求められる基本的な態度を培うことを目的とする。						
授業内容						
看護コミュニケーション論の学習は、【看護専門職者としての対人関係を築くために必要なコミュニケーション技法】【看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法】から構成される。						
これらのコミュニケーション技法・面接技法や解釈モデルを聴くことの重要性を学習するために、講義だけではなく学生間のロールプレイや模擬患者とのセッションを通して看護師に求められる態度を培う。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	コミュニケーションとは			コミュニケーションとは何かを理解し、看護コミュニケーションを学ぶ必要性について考える事ができる。		
2	コミュニケーションの種類と影響するもの			言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの違いを説明できる。		
3	医療におけるコミュニケーション			看護におけるコミュニケーション場面を述べる事ができ、看護面接とはどのような過程か述べる事ができる。		
4	良好なコミュニケーションに必要な技法<質問技法>			良好なコミュニケーションの中で聴くための技法として質問技法を述べる事ができる。		
5	良好なコミュニケーションに必要な技法<積極的傾聴と共感>			良好なコミュニケーションの中で積極的傾聴と共感について説明することができる。		
6	ロールプレイ			今までに学んだ技法について復習し、ロールプレイでうまくできた点と改善点を考える事ができる。		
7	良好なコミュニケーションに必要な技法<関係構築技法>			良好なコミュニケーションのために関係構築が必要な理由を述べる事ができる。		
8	看護面接のプロセスの13STEP			看護面接の13STEPを理解することができる。		
9	プロセスレコードとは			プロセスレコードとは何か説明することができる。		
10	プロセスレコードの実際			プロセスレコードを理解し実施することができる。		
11	看護コミュニケーション技法<模擬患者とのセッション 1>			提示された事例について看護面接の方法を検討し、模擬患者とのセッションの準備をする。		
12	看護コミュニケーション技法<模擬患者とのセッション 2>			提示された事例について看護面接の方法を検討し、模擬患者とのセッションの準備をする。		
13	看護コミュニケーション技法<模擬患者とのセッション 3>			模擬患者とのセッションの振り返りを行うことでコミュニケーション技法を理解することができる。		
14	高度なコミュニケーション			コミュニケーションが困難な場合における対応を考える事ができる。		
15	良好な患者-看護師関係を構築するための看護コミュニケーション			ネガティブな患者の事例に対してどのような対応が必要か考える事ができる。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学習時間）	
<p>看護専門領域の基礎となる科目です。基礎看護学実習、生活援助方法論、生活援助方法演習などの科目と直結する科目になります。また模擬患者とのセッションなどの演習も含まれているので、積極的に受講することが条件となります。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>講義内でレジュメ配布</p> <p>参考書：『看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング』；篠崎恵美子・藤井徹也，医学書院，2016 年，1,800 円+税，(ISBN 978-4-260-02063-3)</p>	
最終到達目標	学習法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護コミュニケーションの必要性、重要性について説明することができる。 2. 良好な患者—看護師関係を考えることができ、様々な場面におけるコミュニケーションの取り方について考え理解することができる。 	<p>自己の日常生活におけるコミュニケーションと照らし合わせながら看護コミュニケーションについて考え理解を深める。</p>
評価方法および評価基準	
<p>試験 50% 確認テスト 25% 模擬患者へのセッションの参加状況及びレポート 25%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENG0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－基盤看護学－基礎看護学				広い視野	
授業科目名	看護倫理	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	河野保子				探求心	○
講義目的						
看護は生命・人間の尊厳や基本的人権を基盤に展開しなければならない。看護を实践するうえにおいて、看護専門職として必要な倫理的視点を考察するとともに、医療倫理の原則や看護者の倫理綱領について把握し、看護実践への適用方法を理解することを目的とする。						
授業内容						
医療における患者の人権について認識するとともに、患者主体の医療について学ぶ。患者の権利をめぐる歴史的変遷や権利擁護の重要性、医療従事者・看護者と倫理について理解し、看護専門職としての倫理的責務を認識する。さらに倫理的視点と看護実践、法的・倫理的ジレンマ、医療事故と医療過誤についても学修する。広く社会的あるいは医療上問題となる倫理的諸課題に対して事例をもとに検討し、倫理的認識を深める。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	医療はだれのものか。		医療における患者の主体性や医師・看護師の対応についてグループ別に討議を行い、倫理的問題や諸課題について医療従事者としての行動を分析できる。			
2	患者の権利をめぐる歴史的変遷		人権の現代的意義と課題等について理解するとともに、患者の権利獲得の状況をニュールンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言から学ぶことができる。			
3	医療従事者と倫理		倫理とは、倫理原則とは、生命倫理・医療倫理とはについて理解できる。またインフォームドコンセント、自己決定権、守秘義務等の概念について理解できる。			
4	看護倫理		看護実践と倫理、看護師と倫理、職業倫理の原則等、看護行為をささえる倫理規範について理解できる。			
5	倫理的視点と看護実践		患者・家族との信頼関係、説明と同意、患者の権利擁護等の倫理原則を適用し、患者中心・主体的看護の重要性が理解できる。			
6	看護師の責務		法的な責任（医療法、保助看法）、倫理的な責任（専門職集団がもつ倫理綱領）等が把握できる。			
7	法的・倫理的ジレンマ		看護の現場で起こりうる価値観の対立について、事例をもとにグループ討議を行い、倫理的関心を培う。			
8	医療事故と医療過誤		医療事故、医療過誤について認識し、看護実践の場で起こりうるリスクの把握と医療事故防止のための対応が理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
専門用語や聞き慣れない言葉が多いため、教科書や資料等を参考に復習に力を入れてください。この講義をとうして、自分と異なる価値観に触れながら、自身の倫理的価値観を省察してください。 配布された資料は、ファイルにとじてください。 グループ討議では積極的な意見表明を期待いたします。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

教材	
教科書：『看護倫理を考える・学ぶ』；小西恵美子訳，日本看護協会出版会，2009 年，3000 円+税 (ISBN 978-4-8180-1373-5) プリントは講義時に配布いたします。参考書は適宜紹介いたします。	
最終到達目標	学習法
<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊重や人間の尊厳について、知識の習得のみならず、価値観としての倫理的対応について認識を深めることができる。 ・倫理的原則が理解でき、専門職看護者としての倫理的行動規範が認識できる。 	<p>講義前に教科書を読んでおく。</p> <p>講義終了時にリアクションペーパーを提出する。</p> <p>講義は必要時に、グループ討議を行い、グループでの結果をプレゼンテーションし、クラス全員で意見を交換する。</p>
評価方法および評価基準	
<p>期末テスト 60%</p> <p>課題レポート 20%</p> <p>講義参加状況、態度 20%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENH0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－基盤看護学－看護管理学				広い視野	
授業科目名	看護管理学	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	武海 栄				探求心	○
講義目的						
保健医療提供システムの中で効果的・効率的に看護を行うために必要な看護管理の概念を理解し、良質な看護を提供するためには、管理者のみならずすべての看護職が関わっていることを認識し、組織の中における看護職の役割、特に看護管理者の役割・機能を理解できる。						
授業内容						
看護管理の概念と機能、看護部門のマネジメント、医療・看護の質、看護政策などについて学ぶとともに、実習施設における看護部門のマネジメントの実際から看護管理の必要性が理解できる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	看護管理とは		看護管理の概念と歴史的背景、看護管理の機能などを理解できる。			
2	看護組織論について		組織の構造、病院組織、看護組織、看護提供システムなどを理解できる。			
3	看護部門のマネジメント		労務管理、看護業務管理、時間管理など看護部門の役割を理解できる。			
4	看護人材マネジメント		専門職とキャリア開発、動機づけ理論、キャリア発達、リーダーシップとマネジメント、プリセプターやメンターシップなど理解できる。			
5	医療・看護の質保証について		医療・看護の質評価など、また看護情報活用論としての病院情報システムと看護情報、保健医療サービスと看護情報、情報の標準化などを具体的に理解できる。			
6	病院の経営について		看護部の役割、看護と診療報酬、財務管理、経営指標など関連付けて理解できる。			
7	看護政策について		病院内の政策決定プロセス、看護職員の需給、看護職人材確保政策などを理解できる。			
8	まとめ、総括		看護管理について小グループでの討議と発表、講義内容の振り返りにおいて系統的・総合的に考察できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
次回の講義内容を事前に予習し授業に臨むこと。授業で学んだ内容はさらに関連事項を図書などで調べておくこと。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『看護管理 看護学テキスト Basic & Practice、統合と実践』：小林美亜（編集），学研メディカル秀潤社，2,160 円，2013 年（ISBN 978-4780911022）						
最終到達目標			学習法			
保健医療システムの中における看護管理の概念が理解でき、患者中心の良質な看護を提供するためには、組織の中の看護職の役割・機能が重要であることを理解できる。			次回の授業内容の予習、講義中に指示課題についてレポートの提出を行う。講義内容の必要性に応じて小グループでの討議をする。			
評価方法および評価基準						
期末試験 80%。授業参加やプレゼンテーション 10%。課題の提出 10%。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENH0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－基盤看護学－看護管理学				広い視野	
授業科目名	組織とリーダーシップ論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4 年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	武海 栄				探求心	○
講義目的						
看護職のキャリア形成や組織におけるリーダーシップについての考え方を理解する。病院などの組織で意欲的に継続的に働くための行動科学の諸理論を理解する。実際の病院看護部の役割を理解し、効果的なリーダーシップの役割行動や看護師のキャリア開発に必要な教育計画などを理解できる。						
授業内容						
組織集団の概念、集団の力動的機能、人間行動学的理論について学ぶとともに、リーダーシップの定義、集団の活性化、状況対応リーダーシップ、フォロアーへのアプローチについて理解できる。さらに看護師のキャリア開発、医療機関における看護職のキャリア開発の仕組み、組織変革のアプローチについて理解を深める。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	リーダーシップの本質とは、看護業務における組織と個の関係、アシストできる能力の必要性		有機的ヒエラルキーの模式図、看護職者の自覚と組織・個の関係について理解できる。			
2	状況の構造的把握と問題意識、コミュニケーション能力		個を取り巻く組織・社会、各レベルに必要なマネジメント能力、体験的・記載的・分類的方法の各プロセスについて理解できる。			
3	看護管理者のリーダーシップの重要性、看護管理者の置かれる時代・環境の変化		看護管理者にとってのリーダーシップ、サービス業としての医療、ヒューマン・サービス関連活動について理解できる。			
4	看護管理者とマネジメント、リーダーシップ・マネジメント論の変化		マネジリアル・グリッド、リーダーシップPM4類型について理解できる。			
5	マネジメント論の変化		フィードラー・モデルのまとめ、適切なリーダーシップ・スタイルの決定について理解できる。			
6	リーダーの役割、リーダーの資質と能力		成功したリーダーによくある特性とスキル、影響あるリーダーシップ特性について理解できる。			
7	看護職のキャリア開発		サービス・プロフィット・チェーン、キャリア志向と適合認知度のスコアの平均値・標準偏差および人数・構成比、女性の年齢階級別労働力率、個人別キャリア形成のための条件設定、キャリア開発モデルの一例について理解できる。			
8	まとめ、総括		組織におけるリーダーシップについて小グループでの討議と発表、講義内容の振り返りにおいて系統的・総合的に考察できる。			
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
次回の講義内容を事前に予習し、授業に臨むこと。授業で学んだ内容は、さらに関連事項を図書などで調べておくこと。 1学年時に描いた「なりたい私像」を読み返しておくこと。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『看護管理学習テキスト第 2 版第 1 巻看護管理概説』: 井部俊子他, 日本看護協会出版会, 2,376 円, 2016 年 (ISBN 978-4-8180-1971-3) 『看護管理学習テキスト第 2 版第 4 巻看護における人的資源活用論』: 井部俊子他, 日本看護協会出版会, 2,484 円, 2016 年 (ISBN 978-4-8180-1974-4)						
最終到達目標			学習法			
リーダーシップ論や行動科学の諸理論について理解し、組織の中で、自分のキャリアをどのように形成していけばよいのか述べられる。			次回の授業内容の予習を行う。講義中に指示した課題について、レポートの提出を行う。講義内容の必要性に応じて小グループでの討議をする。			
評価方法および評価基準						
期末試験 80%。授業参加やプレゼンテーション 10%。課題の提出 10%。 S(100～90 点): 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)						

授業コード	ENI0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野	
授業科目名	小児看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	三並めぐる				探求心	○
講義目的						
1. 子どもは、日々、成長・発達をしていく存在である。小児看護学概論では、小児看護の理念や特徴を学び、各小児期における子どもの成長・発達過程を理解する。 2. 子どもを取り巻く生活環境や家族とのかかわり、健康障害が子どもとその家族に与える影響について理解し、小児看護の対象となる子どもとその家族への支援および小児看護の役割について学ぶことを目的とする。						
授業内容						
現在の小児と家族がおかれている状況について、諸統計や小児看護の変遷などから概観し、小児の権利擁護の視点から小児看護の目標や役割、課題について学ぶ。小児の成長・発達の基本的知識を理解し、あらゆる健康レベルや発達段階に応じた小児と家族への援助について理解できる。また、小児がひとりの人間として尊重され、その子らしく生活できるような支援のあり方について理解することができる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	小児看護の理念と特徴		小児看護の対象、小児看護の役割を理解できる。			
2	小児看護の変遷		子ども親の変遷や小児医療・看護の動向について理解できる。			
3	小児看護における倫理		子どもの権利と小児看護における倫理を理解できる。			
4	子どもと家族を取り巻く社会環境		小児保健に関する歴史や諸統計を学ぶとともに、子どもと家族を取り巻く環境の変化について理解できる。			
5	子どもの成長と発達		成長・発達の一般的原則、成長・発達に影響する因子、成長・発達の評価について理解できる。			
6	子どもの栄養		発達段階における子どもの栄養の特徴と支援について理解できる。			
7	新生児期における成長・発達の特徴と生活援助		新生児期の形態的・身体生理的な特徴を学び、日常生活の援助について理解できる。			
8	乳児期における成長・発達の特徴と生活援助		乳児期の形態的・身体生理的な特徴を学び、日常生活の援助について理解できる。			
9	幼児期における成長・発達の特徴と生活援助		幼児期の形態的・身体生理的な特徴を学び、日常生活の援助について理解できる。遊びや基本的な生活行動の獲得の重要性を理解できる。			
10	学童期における成長・発達の特徴と生活援助		学童期の形態的・身体生理的な特徴を学ぶとともに、家庭、学校、地域における子どもの安全と健康への支援を理解できる。			
11	思春期・青年期における成長・発達の特徴と生活援助		思春期の形態的・身体生理的な特徴を学ぶ。また、思春期に特徴的な第二次性徴の進行、アイデンティティの確立、思春期に起こりやすい健康問題について理解できる。			
12	子どもの健康増進と疾病予防		子どもが健やかに生まれ、その成長を支えるための児童福祉・母子保健などの施策を理解できる。			
13	小児の健康増進と家族への支援について		子どもにとっての家族の役割や望ましい家族関係について学ぶ。また、子どもの虐待とその予防、早期発見に向けた支援について理解できる。			
14	小児に起こりやすい事故とその予防		日常的に遭遇しやすい子どもの不慮の事故とその予防、事故が起こったときの対処方法を理解できる。			
15	小児看護の役割と課題		これまでの講義を通して、現代社会の小児の最前の利益を守るための小児看護の役割について、自己の考えを明確にする。			

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>小児看護学に関する初めての科目であり、小児看護学を学ぶ上で基盤となる重要な内容を取り上げます。子どもを理解するために、できるだけ子どもに関する文献やニュース等に注目し情報収集を行うなど、主体的に学んでください。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>『系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1』：奈良間美保，医学書院，2015年 2800円+税 (ISBN 978-4-260-01368-0)</p> <p>『系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2』：奈良間美保，医学書院，2015年，3300円+税 (ISBN 978-4-260-01990-3)</p>	
最終到達目標	学習法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと家族をとりまく環境を理解し、小児看護の理念を説明できる。 2. 各小児期の成長・発達の特徴と適切な日常生活への援助について説明できる。 3. 小児と家族への支援・アプローチの基本を理解することができる。 	<p>教科書に目を通し、概要を把握する。 また、事前に提示する課題（予習・復習）について、自己学習をして講義に臨んでください。</p>
評価方法および評価基準	
<p>期末試験 60%</p> <p>小テストおよび課題レポート 20%</p> <p>講義参加態度 20%</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>	

授業コード	ENI0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野	
授業科目名	小児看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	三並めぐる, 羽藤典子				探求心	○
講義目的						
1. 子どもは常に成長・発達過程にあることをふまえ、さまざまな健康問題や疾病経過が、子どもとその家族に及ぼす影響について理解する。 2. 健康に問題がある子どもと家族に対する、最善の利益を守るために必要な看護の基本的知識や方法を学ぶことを目的とする。						
授業内容						
子どもの心身の健康問題が子どもとその家族に与える影響について考え、健康に問題がある子どものニーズに応じた、適切な看護の方法について理解する。 具体的には、病気・障害や入院が子どもや家族に与える影響を理解し、さまざまな療養環境や疾病の経過における子どもと家族への看護について基礎的な知識を修得できるようにする。さらに、子どもが主体的に治療・処置・検査に取り組むことができるような看護師の関わり方について理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	健康問題をもつ子どもと家族の理解と看護		子どもの健康障害、それに伴う治療や療養環境の変化が子どもや家族に与える影響を理解するとともに、発達段階に応じた看護を理解できる。			
2	さまざまな療養環境にある子どもと家族への看護		さまざまな状況（入院、外来、在宅、災害時）における子どもと家族への看護について理解できる。			
3	治療、検査・処置を受ける子どもと家族への看護、プレパレーション		子どもにとっての治療、検査・処置の意味を学び、成長・発達段階に応じた適切な看護を理解できる。			
4	疾病の経過による子どもと家族への看護（急性期）Ⅰ		急性期にある子どもの特徴を学び、子どもと家族に必要な看護を理解する。とくに、急性期によくみられる症状（発熱、嘔吐、下痢、脱水など）とその看護を理解できる。			
5	疾病の経過による子どもと家族への看護（急性期）Ⅱ		急性期にある子どもの特徴を学び、子どもと家族に必要な看護を理解する。とくに、生命の危機的な状況（呼吸困難、チアノーゼ、ショック、意識障害、けいれんなど）と捉えられる症状とその看護を理解する。			
6	疾病の経過による子どもと家族への看護（慢性期）		慢性期にある子どもの特徴を学び、子どもと家族に必要な看護を理解する。とくに、慢性疾患および慢性的な症状がある子どもと家族への看護・支援について理解できる。			
7	疾病の経過による子どもと家族への看護（周手術期）		小児期における手術の特徴を学び、子どもと家族に必要な看護を理解する。また、手術による身体的・精神的影響や、子どもの手術に関する痛み・固定・抑制に対する適切な看護を理解できる。			
8	疾病の経過による子どもと家族への看護（終末期）		子どもの終末期の特徴、生命や死についての捉え方を学び、子どもと家族への看護を理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
健康に問題がある子どもと家族について学びながら必要な看護方法を考えていく科目です。「小児看護学概論」で学んだ各小児期の成長・発達の特徴や生活援助の基本的知識を復習した上で講義に臨んでください。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

教材	
『系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1』：奈良間美保，医学書院，2015年 2800 円+税 (ISBN 978-4-260-01368-0)	
『系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学 2』：奈良間美保，医学書院，2015 年，3300 円+税 (ISBN 978-4-260-01990-3)	
最終到達目標	学習法
1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とそのストレスを最小限にするための看護について説明できる。 2. さまざまな状況や疾病の経過における子どもと家族への看護を説明できる。	教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んでください。
評価方法および評価基準	
期末試験 60% 小テストおよび課題レポート 20% 講義参加状況および態度 20% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない	

授業コード	ENI0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野	
授業科目名	小児看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	三並めぐる, 羽藤典子				探求心	○
講義目的						
さまざまな健康障害をもち、あらゆる成長・発達過程にある子どもとその家族の健康状況を的確にアセスメントし、適切な看護を実践するための必要な基礎的知識・技術・態度を養うとともに、事例に基づいた看護過程の展開を学修することを目的とする。						
授業内容						
子どもの健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を考え、子どもの健康状態を的確にアセスメントすることができる。さらに、病気や入院中であっても子どもの成長・発達を促し、子どもが主体的に治療・処置に取り組むことができるよう看護方法を選択し、実践するための知識と基本的技術を修得する。小児期にみられる疾患についての看護過程の展開を通して子どもとその家族の健康レベルに応じた看護援助方法について学ぶ。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	オリエンテーション（講義・演習の概要） 既習した小児疾患とその看護についての試験 小児看護技術 1 （コミュニケーション、プレパレーション、家族へのかかわり方など）			15回で学習する講義・演習の内容について理解できる。 小児看護技術の特徴を理解するとともに、子どものメントにおける基本的技術であるコミュニケーションや遊びの援助の重要性を学ぶ。また、成長・発達過程を踏まえた身体的アセスメントの技術を理解することができる。		
2	小児看護技術 2 【講義】 日常生活援助技術・症状や生体機能の管理技術 ①環境整備 ②危険防止（転落・転倒防止等） ③バイタルサイン測定			成長発達段階を考慮した環境調整を行うことで、入院生活の安全を保障するとともに、その子らしい生活が送れるような援助方法を考えることができる。 小児におけるバイタルサイン測定の特徴を理解することができる。		
3	小児看護技術 3 【演習】 日常生活援助技術・症状や生体機能の管理技術 ①環境整備 ②危険防止（転落・転倒防止等） ③バイタルサイン測定			成長発達段階を考慮した環境調整を行うことができる。 小児におけるバイタルサイン測定の特徴を考慮し、子どもの状態を客観的かつ適切にアセスメントすることができる。		
4	小児看護技術 4 【講義】 日常生活援助技術 ①清潔（全身清拭・臀部浴・陰部洗浄など） ②更衣 ③排泄（おむつ交換）			子どもの成長・発達に応じた清潔・排泄に関する基礎知識を理解することができる。		
5	小児看護技術 5 【演習】 日常生活援助技術 ①清潔（全身清拭・臀部浴・陰部洗浄など） ②更衣 ③排泄（おむつ交換）			子どもの成長・発達に応じた清潔・排泄に関する基礎的な技術を習得することができる。		
6	小児看護技術 6 コミュニケーション技術 （プレパレーション・ディストラクション・遊び）			子ども自身が治療や処置について理解でき、検査・処置に対する「心の準備」ができるよう必要なコミュニケーション技術を理解することができる。		
7	小児看護技術 7 【講義】 治療援助技術 ①固定・抑制 ②酸素療法・吸入 ③吸引			処置・検査・治療などを安全に行うための身体の一部または全身の運動制限に必要な基礎的知識を理解する。子どもの状況に適した方法で呼吸・循環を整える基礎的知識を理解することができる。		

8	小児看護技術 8 【演習】 治療援助技術 ①固定・抑制 ②酸素療法・吸入 ③吸引	処置・検査・治療などを安全に行うための身体の一部または全身の運動制限に必要な基礎的技術を習得する。子どもの状況に適した方法で呼吸・循環を整える基礎的技術を習得できる。
9	小児看護技術 9 【講義】 治療援助技術 ①与薬（経口・坐薬） ②与薬（点滴静脈注射）	成長・発達段階に応じた安全な与薬の基礎的知識を理解できる。また、子どもが与薬に協力、参加するための技術を理解することができる。
10	小児看護技術 10 【演習】 治療援助技術 ①与薬（経口・坐薬） ②与薬（点滴静脈注射）	成長・発達段階に応じた安全な与薬の基礎的技術を習得できる。また、子どもが与薬に協力、参加するための技術を習得することができる。
11	小児看護技術 11 技術のまとめ	1～10 回目までの基礎的な小児看護技術の振り返りを行うことができる。
12	小児の看護過程 1 総論	小児期にみられる疾患の事例を提示し、子どもとその家族の健康レベルに応じた看護援助を実践するための看護過程の展開方法を学ぶことができる。
13	小児の看護過程 2 事例のアセスメント・関連図	小児の発達段階における特徴を踏まえながら、疾患及び各種のデータの把握とその理解をし、情報収集から分析・アセスメントを実施する。
14	小児の看護過程 3 看護診断・看護計画の立案	事例のアセスメント内容から、患児の側面を関連図に起こしていくとともに、看護診断を行う。また、看護診断から患児に必要な個別性かつ具体性のある看護計画を立案することができる。
15	小児の看護過程 4 まとめ	12～14 回目までの看護過程の展開の振り返りを行うことができる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学習時間）		
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰなどの知識が基盤となる。欠席・遅刻・早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。また 20 分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退合せて 3 回で欠席 1 回となる。科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
奈良間美保 系統看護学講座小児臨床看護概論・小児臨床看護総論小児看護学 1 医学書院2015 年 2800 円（ISBN978-4-260-02002-2）、奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学 2 医学書院 2015 年 3300 円（ISBN-13: 978-4260019903）、石黒彩子・浅野みどり編 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第2版 医学書院 2012年 3800円（ISBN 978-7760-1818-6）浅野みどり編 根拠と事故防止からみた小児看護技術 第2版 医学書院 2016年 3800円（ISBN 978-4-260-01138-9）		
最終到達目標		学習法
1. 健康障害をもつ小児と家族を包括的に捉えた上でアセスメントし、看護実践の方法を考えることができる。 2. 小児特有の看護技術を理解し、発達段階に応じた援助方法を考える（実施する）ことができる。		教科書に目を通し内容を把握する。また、自己学習や復習をして講義や演習に臨んでください。
評価方法および評価基準		
定期試験・課題 60% 講義や演習への参加姿勢 40% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENI0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野	
授業科目名	小児看護援助論Ⅲ	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	三並めぐる, 羽藤典子				探求心	○
講義目的						
子どもとその家族をより理解するための理論の活用の仕方や、子どもと家族への援助方法を検討するために役立つ知識の統合について学ぶことを目的とする。						
授業内容						
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱにおける学修を基盤として、小児と家族をより理解するために必要な理論や文献レビューを活用しながら、先天性疾患あるいは心身に障害をもちながら生活している小児と家族、慢性疾患や障害を抱えながら成人期に移行する小児と家族、こころのケアが必要な小児と家族などに対する適切な看護や教育・指導、他職種協働によるチームアプローチの必要性について理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	小児看護学に関する概念および理論とその活用		成長発達段階にある子どもを理解し看護実践する上で重要な諸理論について理解することができる。(ピアジェ、ボウルビィ、エリクソンなど)			
2	小児の家族を理解するための理論とその活用		子どもを取り巻く家族を理解し看護実践する上で重要な諸理論について理解することができる。 (家族発達理論、セルフケア理論、ストレスコーピング理論など)			
3	先天的な疾患や障害を抱えながら生活する子どもと家族への支援		先天的な健康問題をもつ子どもと家族への看護に必要な基礎知識を理解し、看護過程の展開を学修する。(ハイリスク新生児、NICUに入院する児、先天性障害など)			
4	心身障害のある子どもと家族への支援		心身に障害をもつ子どもと家族への看護に必要な基礎知識を理解し、看護過程の展開を学修する。 (脳性麻痺、発達障害、重症心身障害など)			
5	慢性疾患を抱えながら成人期に移行する子どもと家族への支援		成人への移行期にある健康障害をもつ子どもと家族への看護に必要な基礎知識を理解し、看護過程の展開を学修する。(糖尿病、気管支喘息など)			
6	こころのケアが必要な子どもと家族への支援		虐待が子どもに与える影響を学び、被虐待児およびその家族への看護について学修する。 災害を受けた子どもの心と身体への影響を学び、災害時の子どもと家族への看護について学修する。			
7	小児と家族への教育・指導(小児科外来・在宅支援における看護など)		外来看護師の果たす役割、外来看護の現状や課題を理解する。 在宅療養を必要とする子どもと家族の特徴を学び、必要な看護を学修する。			
8	小児看護を支えるチームアプローチ・他職種との協働		子どもとその家族を継続的にケアするためのチームアプローチ・他職種との連携について学ぶ。			
留意事項(履修条件・授業時間外の学習時間)						
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習を履修し単位を取得し、かつ、小児看護強化コース選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定に準ずる。欠席・遅刻・早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

教材	
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学 1 第 13 版 医学書院 2015 年 2800 円 (ISBN 978-4-260-02002-2)	
奈良間美保 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学 2 第 13 版 医学書院 2015 年 3300 円 (ISBN 978-4-260-01990-3)	
筒井真優美 小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 第8版 日総研 2016年 3600円 (ISBN 978-7760-1818-6)	
中野綾美 ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 2016 年 3800 円 (ISBN 978-4-8404-4918-2)	
最終到達目標	学習法
1. 小児と家族をより理解するための理論や既習の知識を活用することができる。 2. 既存の知識を統合して、長期的・潜在的健康問題を抱えている小児と家族への看護を考えることができる。 3. 小児と家族への支援のための他職種協働によるアプローチを学ぶ。	教科書に目を通し内容を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は自己学習して、講義に臨んでください。
評価方法および評価基準	
課題 60% 授業での討論・参加態度 40% S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B (79～70 点) : 学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている D (60 点未満) : C のレベルに達していない	

授業コード	ENI0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野	
授業科目名	小児看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	三並めぐる, 羽藤典子				探求心	○
講義目的						
さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族を的確にアセスメントしたうえで、対象にあった看護を提供するために必要な技術を身につけることを目的とする。						
授業内容						
ヘルスアセスメントⅠ（小児）および小児看護援助論Ⅱでの学修を基盤として、さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族に対し、必要な看護を提供できるための技術を身につける。そのために、小児の解剖生理学的特徴をふまえた正しい知識のもとに、発達段階や健康状態にあわせた用具を選択し、子どもや家族にわかりやすく、納得を得る説明の方法を考え、子どもの反応を確認しながら実施するための技術を修得する。また、子どもの親の思いに沿った適切なコミュニケーションのあり方についても学ぶ。 小児看護に必要な技術（輸液管理、経管栄養、浣腸、救急蘇生など）について演習を通して習得できる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	オリエンテーション、演習準備			さまざまな健康レベルや発達過程にある小児と家族の事例に対する的確なアセスメントをし、必要な看護援助方法を考えることができる。		
2	技術演習 1 (例：輸液管理、経管栄養、浣腸)			子どもの健康レベルや発達段階に応じ、必要な看護援助技術（例：輸液管理、経管栄養、浣腸など）の根拠をふまえながら計画・実施・評価することができる。		
3	技術演習 2 (例：輸液管理、経管栄養、浣腸)			子どもの健康レベルや発達段階に応じ、必要な看護援助技術（例：輸液管理、経管栄養、浣腸など）の根拠をふまえながら計画・実施・評価することができる。		
4	技術演習 3 (例：子どもの家族とのコミュニケーションロールプレイなど)			治療・処置・検査場面などの事例から、子どもの健康レベルや発達段階、家族の状況に応じた説明内容および方法について考えることができる。さらに、ロールプレイを実施し、それに対する反応から評価することができる。		
5	技術演習 4 (例：子どもの家族とのコミュニケーションロールプレイ)			治療・処置・検査場面などの事例から、子どもの健康レベルや発達段階、家族の状況に応じた説明内容および方法について考えることができる。さらに、ロールプレイを実施し、それに対する反応から評価することができる。		
6	技術演習 5 (例：救急蘇生)			子どもの身体の構造的・生理的特徴を考慮した救急蘇生法に関する基礎知識と技術を理解できる。		
7	技術演習 6 (例：救急蘇生)			子どもによくみられる、外傷や急病に対する応急処置についての基礎知識と技術を理解できる。		
8	演習の評価のまとめ			1～7回目までの技術演習の振り返りを行う。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学習時間）						
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習を履修し単位を取得し、かつ、小児看護強化コース選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定に準ずる。欠席・遅刻・早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

教材	
『系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 第13版』：奈良間美保，医学書院，2015年，2800円（ISBN 978-4-260-02002-2）	
『系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 第13版』：奈良間美保，医学書院，2015年，3300円（ISBN 978-4-260-01990-3）	
『発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第2版』：石黒彩子・浅野みどり編，医学書院，2012年，3,800円（ISBN 978-4-260-01562-2）	
『根拠と事故防止からみた小児看護技術 第2版』：浅野みどり編，医学書院，2016年，3,800円（ISBN 978-4-260-01138-9）	
最終到達目標	学習法
1. 小児と家族の状況にあった適切な看護を提供するための技術を習得する。 2. 小児の解剖生理学的特徴や健康状態にあわせた技術の提供方法を考えることができる。 3. 検査・処置を受ける小児の発達段階に応じた説明や、子どもの主体性を促す関わりについて考えることができる。 4. 子どもの親との関係構築の基本を学ぶ。	教科書に目を通し内容を把握する。またより実践的な小児看護技術について学習します。予習・復習を十分して講義や演習に臨んでください。
評価方法および評価基準	
課題 80% 演習参加状況 20% S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない	

授業コード	ENI0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野	
授業科目名	小児看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4 年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	三並めぐる, 羽藤典子				探求心	○
講義目的						
小児看護に関連するさまざまな機関・施設の見学を通して、子どもの療養環境の実際や、母子保健を支える社会資源について現状を把握し、質の高い小児看護を提供するための組織・環境について学ぶことを目的とする。						
授業内容						
小児看護に関連する機関・施設の見学や、そこで働く職員および療養する子どもや家族へのインタビュー、観察などを通して、子どもの療養環境や健康増進、療養に必要な社会資源の現状と課題について情報を整理する。そこから、既存の知識に照らして子どもの望ましい療養環境や母子保健を支える社会資源、ネットワークの活用について理解し、統合実習に結びつけることができる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	関連機関見学 1 例:小児専門病院		小児専門病院の見学を通して、専門病院における小児医療の特徴や役割を理解できる。			
2	関連機関見学 2 例:小児専門病院		小児専門病院の見学を通して、専門病院における小児医療の特徴や役割を理解できる。			
3	学内まとめ		1～2 回目の学びを振り返ることができる。			
4	関連機関見学 3 例:療育センター		療育センターの見学を通して、療養する子どもの観察や家族へのインタビューを通して、子どもの療養環境や課題を理解できる。			
5	関連機関見学 4 例:療育センター		療育センターの見学を通して、療養する子どもの観察や家族へのインタビューを通して、子どもの療養環境や課題を理解できる。			
6	学内まとめ		4～5 回目の学びを振り返ることができる			
7	関連機関見学 5 例:ファミリーハウス		ファミリーハウスの見学を通して、職員や利用者へのインタビューや環境の観察などから、小児の望ましい療養環境や母子保健を支える社会資源の活用について理解できる。			
8	学内まとめ		7 回目の学びを振り返ることができる。			
留意事項(履修条件・授業時間外の学習時間)						
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ、Ⅱ、小児看護実習を履修し単位を取得し、かつ、小児看護強化プログラム選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定(授業の出席状況)に準ずる。欠席・遅刻・早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。また、20 分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて 3 回で欠席 1 回となる。科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学 1 第 13 版』:奈良間美保, 医学書院, 2015 年, 2,800 円 (ISBN 978-4-260-02002-2)						
『系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学 2 第 13 版』:奈良間美保, 医学書院, 2015 年, 3,300 円 (ISBN 978-4-260-01990-3)						
最終到達目標				学習法		
1. 小児看護に関連する機関・施設の見学を通して、小児の療養環境や社会資源の現状を把握することができる。 2. 小児の望ましい療養環境や母子保健を支える社会資源の活用について課題を明確にすることができる。				教科書や事前に配布する資料に目を通し、自己学習をして学外演習に臨んでください。		
評価方法および評価基準						
課題レポート 60% 講義参加状況および態度 40%						
S(100～90 点):学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent)						
A(89～80 点):学習目標を相応に達成している(Very Good) C(69～60 点):学習目標の最低限は満たしている						
B(79～70 点):学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある(Good) D(60 点未満):C のレベルに達していない						

授業コード	ENI0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－小児看護学				広い視野	
授業科目名	小児看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	三並めぐる, 羽藤典子				探求心	○
講義目的						
小児看護学の講義・演習・実習で学んだ知識・技術を基盤として、学生から専門職業人への移行に伴う責任の自覚と倫理観に基づいた小児看護の実践に必要な知識と技術の統合を目的とする。						
授業内容						
小児看護学の講義・演習・実習で学んだ基礎的知識・基本技術を基盤とし、いかなる状況においても小児の成長・発達を促し、小児と家族の最善の利益を守りながら、健康問題における優先性を判断することのできる能力を養う。その判断や予測に基づいて適切な看護を提供するための応用的な看護実践能力の習得を目指す。さらに、このことを通じて、学生から専門職業人への移行に伴う責任の自覚をもち、小児看護における自己の課題を明確にすることができる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	小児と家族の健康問題に応じた看護事例紹介・事例検討	1	4～5 事例をグループに分かれ、事例検討する。子どもの成長・発達段階に応じた形態的・身体的生理の特徴を理解した上で、子どもと家族の状況をアセスメントする。			
2	小児と家族の健康問題に応じた看護事例検討	2	事例について、データ収集、データの整理・分析を繰り返し、問題の明確化をする。			
3	小児と家族の健康問題に応じた看護計画立案	3	事例について、看護計画を立案する。(目標の設定、具体的なケア計画)			
4	小児と家族の健康問題に応じた看護演習準備	4	事例について、看護計画を実施(演習)するために必要なケア内容の選択・決定をし、準備する。			
5	小児と家族の健康問題に応じた看護演習発表・討議	5	事例について、グループごとに発表し討議する。			
6	小児と家族の健康問題に応じた看護演習発表・討議	6	事例について、グループごとに発表し討議する。			
7	小児と家族の健康問題に応じた看護演習発表・討議	7	事例について、グループごとに発表し討議する。			
8	小児と家族の健康問題に応じた看護のまとめ		様々な事例を通し小児と家族の健康問題に応じた看護について学びを深め、小児看護における自己の課題を明確にする。			
留意事項(履修条件・授業時間外の学習時間)						
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護実習を履修し単位を取得し、かつ、小児看護強化プログラム選抜試験に合格すること。受験資格は、本学の受験資格規定(授業の出席状況)に準ずる。欠席・遅刻・早退、提出物の遅滞・未提出、忘れ物は減点とする。また、20分以上の遅刻・早退は出席とみなさない。遅刻・早退あわせて3回で欠席1回となる。						
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

教材	
『系統看護学講座 小児臨床看護概論・小児臨床看護総論 小児看護学1 第13版』：奈良間美保, 医学書院, 2015年, 2,800円 (ISBN 978-4-260-02002-2)	
『系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学2 第13版』：奈良間美保, 医学書院, 2015年, 3,300円 (ISBN 978-4-260-01990-3)	
『小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 第8版』：筒井真優美, 日総研, 2016年, 3,600円 (ISBN 978-7760-1818-6)	
最終到達目標	学習法
1. 既習の理論、知識と技術を統合し、小児看護実践への応用が考えられる。 2. 学部小児看護の学修の集大成として、専門職業人への移行に伴う責任を自覚し、小児看護における自己の課題を明確にすることができる。	教科書や配布資料に目を通して内容を把握し、必要に応じて文献学習をしてください。また、授業時間外の学習が必要となりますので、グループワーク開始までに個人で進める必要がある課題を行った上で、グループワークに参加してください。
評価方法および評価基準	
課題レポート 60% 講義・演習の参加態度 40% S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない	

授業コード	ENJ0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－母性看護学				広い視野	
授業科目名	母性看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	門脇千恵				探求心	○
講義目的						
1. 子どもを産み育てることについて理解し、母性を取り巻く生活環境や家族とのかかわりについて考えながら学習する。 2. 生殖期間の妊娠・分娩・産褥・新生児を中心に基礎と健康問題のアセスメント・看護計画・実施・評価をwellness型思考で理解して述べられるよう学ぶ。 3. 妊婦の日常生活ケアの必要性がクリティカルに理解できるようグループ討議を行う。また、対象の社会的変遷と国際化社会での国際化社会での看護のあり方がクリティカルに理解できるよう学習する。						
授業内容						
母性看護学の導入として、母性看護の基盤となる概念について理解する。次いで母性看護の対象者に対する理解を深めるために、人間の性と生殖、母性の特性や健康問題について考えることができる。さらに母性看護の対象者を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。また、妊娠の成立と生理および分娩の概要について理解できる。また、適時資料・メディア教材を活用する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	母性看護の概念：親になること、母子関係、母子相互作用と家族発達、リプロダクティブヘルス			母性看護学の基盤となる概念を理解することができる。		
2	母性の発達・成熟・継承：セクシュアリティ、母親になることの発達危機の問題、愛着理論			人間の性と生殖、母性の特性やライフサイクルに応じた健康問題について理解することができる。		
3	母性看護の対象と取り巻く社会の変遷：歴史、環境			母性看護の対象者を取り巻く社会的変遷と現状、法令等を述べることができる。		
4	母性看護における生命倫理：妊娠中絶、不妊治療、胎児の擁護（グループワーク）			グループワーク学習によりヒューマンケアについて学生間で共有することができる。		
5	母性看護の組織と法律：母子保健統計の動向			母子保健に関する歴史や諸統計を学ぶことにより今後の母性看護のあり方を検討することができる。		
6	国際化時代の多様なお産文化			国際社会のお産の文化を学び、日本におけるお産のあり方について考えることができる。		
7	女性ホルモンの特徴と変化 生殖器の働きをと月経周期			女性のライフサイクルに与えるホルモンの影響について理解する。また、月経周期と関連するホルモンについて考えることができる。		
8	女性のライフステージ：思春期、成熟期、更年期、老年期における看護			女性のライフステージそれぞれの身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し健康問題を考えることができる。		
9	母性看護で用いられる理論 ①セルフケア理論（オレム理論）、 ②アタッチメント理論、 ③役割理論：ルービンの母性論（母親役割達成の概念）、マースーの母親役割の達成理論			母性看護で用いられる理論を理解し、看護実践に生かすことができる。		
10	妊婦の生理的変化とホルモン変化の理解			妊娠の成立と生理と心理・社会的特性について理解することができる。		
11	妊娠期：妊婦と胎児のアセスメント 妊娠の診断、健康診査			妊婦と胎児の発育についてアセスメントをすることができる。また、妊婦健康診査の必要性について考えることができる。		

12	妊婦の日常生活のケア	妊婦の日常生活について、マイナートラブルなどを理解し支援の方法について考えることができる。
13	分娩期における看護① 分娩の三要素、分娩の経過、産婦・胎児、家族のアセスメント	分娩の三要素や分娩の経過が安全・安楽な要素につながることを理解できる。
14	分娩期における看護② 産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際	産婦・胎児、家族のアセスメントを復習した上で受講し、胎児を含めた産婦と家族への看護について考えることができる。
15	母性看護学の特徴・まとめ	これまでの講義をとおして現代社会の母性の最善の利益を守るための母性看護の役割について、自己の考えを明確にする。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>グループワークでは、積極的に参加し、意見を述べるができる。</p> <p>授業中に配布したプリント（レジュメ）は授業担当者は保管しないので、出席者からコピーをさせてもらうこと。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
<p>『系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学①』：森恵美他，医学書院，2017 年，2,400 円 （ISBN 978-4260021883）</p> <p>『系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学②』：森恵美他，医学書院，2017 年，3,000 円 （ISBN 978-4260021791）</p>		
最終到達目標		学習法
1. 母性看護の基本概念を習得して、対象の社会的変遷と看護のあり方を理解することができる。 2. 人間のライフサイクルとホルモンの多様性を考えることができる。 3. 妊娠期の看護について理解できる。 4. 分娩期の看護について理解できる。		1. 教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。 2. メディア教材などを利用して学習を深めて下さい。
評価方法および評価基準		
1. 期末テスト 60 % 2. 課題レポート 20 % 3. グループワーク参加状況および態度 20 % S (100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A (89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B (79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D (60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENJ0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－母性看護学				広い視野	
授業科目名	母性看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	門脇千恵、武海栄				探求心	○
講義目的						
1. 対象の健康レベルをwellnessな視点でアセスメントを行い、健康ニーズを充足する援助能力を身につけ、周産期の女性および胎児・新生児の心身の健康現象（生理的変化と病態生理・心理社会的変化）を理解できる。						
2. 対象の健康レベルのアセスメント能力と看護実践を支える基本技術と日常生活適応促進の援助技法、ハイリスク状況時の適切な援助に向け妊娠期・分娩期の女性にクリティカルな援助技法を理解できる。						
授業内容						
講義は、デモンストレーションやPBL学習など学生間でも討議する。学生が内在化する母性観・父性観を確認し、対象を共感的に理解する視点を培う。演習は臨床看護実践に必要な基本的技術の習得に個別指導を導入し、シミュレーションモデル人形、メディア教材、保健指導媒体を用いて学習し、理解を深める。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	妊娠期の異常(1) ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、多胎妊娠			母性看護学概論で学んだ正常な妊娠について復習し、正常妊娠、異常妊娠の違いについて理解できる。		
2	妊娠期の異常(2) 流産、妊娠高血圧症候群			妊娠中の日常生活を検討し、異常の予防について考えることができる。		
3	分娩期における看護① 分娩の三要素、分娩の経過、産婦・胎児、家族のアセスメント			分娩の三要素や分娩の経過が安全・安楽な要素につながることを理解できる。		
4	分娩期における看護② 産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際			産婦・胎児、家族のアセスメントを復習した上で受講し、胎児を含めた産婦と家族への看護について考えることができる。		
5	分娩期における看護③ 分娩の異常、異常のある産婦の看護			正常な分娩について復習し受講し、分娩期の正常と異常を理解できる。ハイリスク産婦の看護を学ぶ。		
6	妊婦ケア技術演習① 子宮底測定法・レオポルド触診法をモデル人形使用により実施			子宮底測定やレオポルド触診法の意義を理解し、モデル人形を使用しながら実際の技術を習得する。		
7	妊婦ケア技術演習② 胎児心音聴取・CTG装着法をモデル人形使用により実施			胎児心音聴取やCTG装着の意義を理解し、モデル人形を使用しながら実際の技術を習得する。		
8	妊婦ケア技術演習③ 妊婦体験（妊婦体験ジャケットを使用）・妊婦体操・呼吸法（ラマーズ法・リード法）			妊婦体験ジャケットを装着し、実際の妊婦体験をすることによって妊婦の日常生活を理解することができる。また、安全・安楽な分娩ができるための妊婦体操の意義が理解できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
限られた時間のなかで授業内容は多岐に亘ります。1回1回の授業を大切に可能な限り授業の復習に取り組んでください。2年後期に開講される疾病・治療論Ⅲを参考にしてください。						
授業中に配布したプリント（レジュメ）は、授業担当者は保管しないので、出席者からコピーをさせてもらうこと。						
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

教材	
<p>教科書：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論②』：森恵美他，医学書院，2017 年，3,000 円 (ISBN 978-4260021791)</p> <p>参考書：『母性看護技術 第2版 看護実践のための根拠がわかる』：北川真理子 編著／谷口 千絵 編著 メヂカルフレンド社，2015 年，3,200 円+税 (ISBN 978-4839215941)</p> <p>参考資料・図書は随時紹介する。</p>	
最終到達目標	学習法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の正常・異常について理解が深まる。 2. 分娩期の正常・異常について理解ができる。 3. モデル人形を使用し、実際の技術を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書に目を通し、概要を把握する。事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。 2. メディア教材などを利用して学習を深めて下さい。
評価方法および評価基準	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業および演習の参加状況 20% 2. 課題レポート提出と内容 20% 3. 期末テスト（筆記） 60% <ul style="list-style-type: none"> S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない 	

授業コード	ENJ0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－発達看護学－母性看護学				広い視野	
授業科目名	母性看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	門脇千恵、武海栄				探求心	○
講義目的						
1. 女性のライフサイクルの中で、周産期の母子とそのパートナーを中心とした家族の健康に焦点を当て、対象の生理的、心理的、社会的変化と生活への適応、健康逸脱時のケアなどについて学習する。						
2. 母性看護援助論Ⅱでは、産褥期、新生児期の対象理解とケアに焦点を当てて学習する。						
授業内容						
1. 産褥期・新生児期にある母子の対象特性を理解するための基本的な知識を得る。						
2. 褥婦および新生児の健康診査など必要な看護技術をモデル人形の使用により実際の技術を習得する。						
3. 事例を用いた看護過程の演習：母性看護援助論Ⅰ領域で学んだ内容と併せて、事例ケースのアセスメントから対象者の全体像を把握し、必要な看護計画を立案に取り組むことで、関連するデータの基礎的知識、情報収集とアセスメント能力の向上、対象者の複合的理解、優先順位を考慮した看護目標と具体案作成を目指す。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	コースオリエンテーション			産褥期・新生児期の看護の役割と目標について説明することができる。		
2	産褥期の経過と健康支援について①			産褥期の正常な経過と予防的ケアについて説明することができる。		
3	産褥期の経過と健康支援について②			産褥期の経過について特徴的な健康逸脱と看護について説明することができる。		
4	新生児期の経過と健康支援について①			新生児期の正常な経過と予防的なケアについて説明することができる。		
5	新生児期の経過と健康支援について②			新生児期の経過について特徴的な健康逸脱と看護について理解でき説明することができる。		
6	褥婦ケア技術演習① 子宮底測定法、収縮状態のアセスメント方法をモデル人形使用により実施			産褥期の復古を促す意義を理解し、モデル人形を使用しながら実際の技術を習得する。		
7	褥婦ケア技術演習② 母乳栄養確立のための援助方法をモデル人形使用により実施（乳房マッサージなど）			母乳栄養を確立するための方法を理解し、モデル人形を使用することにより実際の技術を習得する。		
8	新生児ケア技術演習① 新生児の観察、抱き方など育児技術をモデル人形使用により実施			新生児のバイタルサインの測定や黄疸測定などモデル人形を使用しアセスメントに必要な技術を習得する。併せて育児技術を習得する。		
9	新生児ケア技術演習② 新生児の沐浴をモデル人形使用により実施			実際の沐浴実施体験をすることによって、身体清潔の技術を習得する。		
10	母性看護援助論Ⅰ領域における看護過程の考え方について			アセスメントガイド、記録用紙の使い方、事例の説明について理解し、次回からの講義に生かすことができる。		
11	母子の看護について事例を用いての演習			グループワークにより学生間討議を導入し、学習を深めることができる。		
12	母子の生活と健康支援①			自宅での生活、母子の安全について説明することができる。また、地域における子育て支援についても説明することができる。		

13	母子の全体像の把握とケアの方向性（事例）	事例による母子の全体像の把握とケアの方向性を考え、看護計画の立案作成することができる。
14	特別な配慮が必要な母子への援助 ① NICU/GCU に入院している児と家族への看護 ② 社会的に支援が必要な母子とその家族への看護	NICU/GCU に入院している児と家族への援助ケアを考えることができる。また、社会的に支援が必要な母子とその家族への援助ケアを考えることができる。
15	母子の看護計画の立案	ペーパーシュミレーションを用いて、グループワークにより事例の看護計画の立案することができる（グループワーク）。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>2 年次後期に開講された母性看護援助論Ⅰ 妊娠期・分娩期の理解は、産褥・新生児期の看護を学ぶ上で重要なので、復習をして講義に臨んで下さい。また、講義資料は適宜配布しますが、ファイルを行い毎回講義時に持ってきてください。復習にも活用して下さい。</p> <p>この科目は、3 年後期に行う母性看護学実習の履修条件となっています。母性看護援助論Ⅰとの関連科目です。妊娠・分娩・産褥・新生児期を一連の過程としてとらえることが重要となります。授業中に配布したプリント（レジュメ）は、授業担当者は保管しないので、出席者からコピーをさせてもらうこと。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
<p>教科書：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論②』；森恵美他，医学書院，2017 年，3,000 円（ISBN 978-4260021791）</p> <p>参考書：『母性看護技術 第2版 看護実践のための根拠がわかる』；北川 眞理子 編著／谷口 千絵 編著 メヂカルフレンド社，2015 年，3,200 円+税（ISBN 978-4839215941）</p> <p>参考資料・図書は随時紹介する。</p>		
最終到達目標		学習法
1. 産褥期の正常・異常について理解が深まる。 2. 新生児期の正常・異常について理解ができる。 3. モデル人形を使用し、実際の技術を習得する。 4. 事例を用いた看護過程の演習（事例ケースのアセスメントから対象者の全体像を把握し、必要な看護計画を立案に取り組むことで看護の展開方法を習得する。		1. 教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んで下さい。 2. メディア教材などを利用して学習を深めて下さい。 3. 看護技術は、看護学実習で実際に行うので、自己学習をして臨んで下さい。
評価方法および評価基準		
1. 授業および演習の参加状況（看護過程の学習課題を含む）30% 2. 課題レポート提出と内容 20% 3. 期末テスト（筆記）50% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENK0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野	
授業科目名	成人看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	大西ゆかり，上西孝明				探求心	○
講義目的						
1. 成人各期の発達段階を理解し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を理解できる。						
2. 日本の成人保健の動向を理解し、成人各期に関連する急性期疾患とヘルスプロモーションを理解できる。						
3. 急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、急性期にある患者の看護援助に必要な概念を理解できる。						
4. 日本の救急医療の歴史・体制および救急患者の特徴を理解できる。						
5. 慢性的な病気をもつ患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、慢性期にある患者の看護援助に必要な概念や理論を理解できる。						
6. 慢性的な病気をもつ人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護を提供することの意義とその方法を考察することができる。						
7. 成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解することができる。						
授業内容						
成人各期の発達段階を解説し、成人各期の身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を学習する。日本の成人保健の動向を知り、成人各期に関連する急性期疾患とヘルスプロモーションを理解できる。急性期にある患者とその家族の身体的および心理的特徴を、基礎理論（生体侵襲理論、危機理論等）を用いて習得する。急性期にある患者の看護援助に必要な概念（権利擁護など）および日本の救急医療の歴史・体制および救急患者の特徴を理解することができる。						
慢性的な病気をもつ患者とその家族の身体的および心理的特徴を理解し、看護援助に必要な概念や理論（ヘルスプロモーション、アンドラゴジー、自己効力理論、変化のステージモデル等）について学習する。また、慢性的な病気をもつ人々の発達課題や健康問題の特徴を踏まえた看護について理解し、その意義や方法について考察できる。さらに、成人期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について理解することができる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	成人期にある人々の理解 1			1) 成人各期の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。 2) ライフサイクルから見た成人の特徴が理解できる。 3) 成人の健康課題が理解できる。		
2	成人期にある人々の理解 2			1) 成人保健としての人口静態・人口動態が理解できる。 2) 成人の健康状態と受療状況が理解できる。		
3	急性期にある人の理解			1) 急性期疾患とヘルスプロモーションが理解できる。 2) 急性期患者の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。		
4	急性期看護の理解			1) 急性期看護で重要な概念・理論が理解できる。		
5	周手術期看護の理解			1) 周手術期にある人の特徴が理解できる。 2) 周手術期にある人への看護が理解できる。		
6	急性期医療の理解			1) 日本の救急医療の歴史・体制が理解できる。 2) 救急看護が理解できる。		
7	病気からの回復過程にある人の理解			1) 生活機能障害をもつ人の特徴が理解できる。 2) 回復過程にある人への看護が理解できる。		
8	慢性期にある人の理解			1) 慢性疾患の種類と経過が理解できる。 2) 慢性疾患を持つ人の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる。		
9	慢性疾患の受容過程の理解			1) 病い体験の理解ができる。		

10	慢性疾患をもつ人への看護 1	1) 自己管理の基盤となる概念・理論が理解できる。
11	慢性疾患をもつ人への看護 2	1) 患者教育の考え方が理解できる。
12	慢性疾患をもつ人への看護 3	1) 療養環境の変化が理解できる。 2) 療養生活に活用できる社会資源が理解できる。
13	終末期を迎える人の理解	1) 終末期を迎える人の特徴が理解できる。 2) 終末期を迎える人への看護が理解できる。
14	医療システムと成人看護	1) チーム医療、外来看護、退院調整が理解できる。
15	成人看護学概論のまとめ	1) 講義内容の振り返りを行うことで、系統的・総合的に考察できる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
『成人看護学概論 第2版』：大西和子、岡部聡子編，ヌーヴェルヒロカワ，2009年，2,200円+税 (ISBN 978-4-86174-021-3) 『系統看護学講座 別巻 救急看護学 第5版』：山勢博彰・山勢善江他，医学書院，2006年，2,500円+税 (ISBN 978-4-260-00164-9)		
最終到達目標		学習法
1. 成人の特徴、疾患が成人の生活に及ぼす影響を理解することができる。 2. 疾患と共に生きる成人への看護について考えることができる。		授業内容については、事前にテキストをよく読んで授業に臨むこと。
評価方法および評価基準		
筆記試験（90%）、出席および授業への参加度（10%）の総合得点で100点満点とし、60点以上を合格とする。 S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない		

授業コード	ENK0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野	
授業科目名	急性期看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	本田和男, 上西孝明				探求心	○
講義目的						
1. 急性期、特に周手術期にある人とその家族の理解と基本的看護を修得する。 2. 各手術における基本的看護について知識及びアセスメント・問題解決能力を修得する。						
授業内容						
周手術期及びクリティカルな状態にある成人期患者の特徴と身体的・精神的・社会的側面を学修し、術前から術後にかけての看護、生命維持、二次障害予防、全身状態改善、退院後の生活、QOL向上に関する急性期・周手術期看護について理解する。具体的には、周手術期患者の看護過程展開論、急性循環不全患者、脳血管障害及び頭部外傷による意識障害患者、呼吸不全及び多臓器不全患者への看護について学修する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	周手術期看護① 概論 術前の看護			急性期・周手術期看護について理解する。 術前にある人の身体・心理状態から術前の準備について理解する。		
2	周手術期看護② 術中の看護			手術室看護とその具体的援助、及び手術や麻酔による身体侵襲について理解する。		
3	周手術期看護③ 術直後の看護			手術直後における、術後合併症と合併症予防のための看護について理解する。		
4	周手術期看護④ 術後回復期の看護			手術後の早期回復に向けた看護について理解する。		
5	急性期患者への看護① 急性循環不全			急性循環不全にある人への的確なアセスメントについて理解する。		
6	急性期患者への看護② 意識障害(脳血管障害・頭部外傷)			意識障害(脳血管障害・頭部外傷)にある人への的確なアセスメントについて理解する。		
7	急性期患者への看護③ 呼吸不全・多臓器不全			呼吸不全・多臓器不全にある人への的確なアセスメントについて理解する。		
8	まとめ			これまでの講義を振り返り、急性期看護における学びを深めることができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
課題については第1回講義時に説明する。課題は必ず提出すること（未提出の場合、筆記試験は受験不可）。科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2015-2017 原著第10版』：T. ヘザー・ハードマン/上鶴重美訳, 医学書院, 2015年, 3240円 (ISBN 978-4-260-02088-6) 『看護診断ハンドブック』：リンダ J. カルペニート著/監訳；新道 幸恵, 医学書院, 2014年, 4104円 (ISBN 978-4-260-01877-7) 『成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護』：林直子, 南江堂, 2015年, 3024円 (ISBN 978-4-524-26136-9) 『成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護』：佐藤まゆみ, 南江堂, 2010年, 2808円 (ISBN 978-4-524-26137-6)						

『看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術 急性・クリティカルケア看護』：山勢博彰編， メヂカルフレンド社，2015 年，2376 円 （ISBN 978-4-8392-1589-7） 『ビジュアル臨床看護技術ガイド』：坂本すが，照林社，2015 年，4600 円+税 （ISBN 9784796523400）	
最終到達目標	学習法
急性期、特に周手術期にある人とその家族についての理解を深め、看護実践を展開していく際に必要な知識と思考過程を身につけ、臨地実習に活用できる。	各講義でテーマとなるような状況、及び代表疾患について、既習の知識を整理しておく。また各臓器の仕組みや働き、病態生理などの事前学習が必要である。
評価方法および評価基準	
①筆記試験 60% ②課題レポート 30% ③授業態度 10% 以上①～③による総合評価 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない	

授業コード	ENK0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野	
授業科目名	急性期看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	本田和男, 上西孝明				探求心	○
講義目的						
1. 成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者について、事例を用いて看護過程を展開し、技術演習を通して対象者の健康問題に関する問題解決能力を修得できる。						
2. 成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者への実践的知識と技術を習得できる。						
授業内容						
周手術期及びクリティカルな状態にある患者について、紙上事例を用いてアセスメントから計画立案、実施、評価までの看護診断過程を展開する。周手術期患者への実践的知識と技術として、術前検査（肺機能・心電図）、術後酸素療法（経鼻・マスク法など）、術後早期離床及び退院指導を学修する。またクリティカルな状態にある患者への実践的知識と技術として、気管挿管、心肺蘇生、自動式体外除細動器の使用を学修する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	授業ガイダンス 成人における看護技術			成人看護学領域の治療に伴う看護技術について概要を学ぶ。		
2	看護過程の展開① 事例の紹介			急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。		
3	クリティカルな状態にある患者への看護			クリティカルな状態にある患者の身体的・心理的特徴をふまえた看護の役割について学ぶ。		
4	クリティカルな状態にある患者への看護 （技術演習）			気管挿管・心肺蘇生・自動式体外除細動器を用いた一時救命処置法を学ぶ。		
5	脳神経系疾患の周手術期看護			脳神経系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。		
6	脳神経系疾患の周手術期看護（技術演習）			脳神経系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。		
7	看護過程の展開② アセスメント（事前レポート提出）			急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。		
8	看護過程の展開② アセスメント			急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。		
9	呼吸器・循環器系疾患の周手術期看護			呼吸器・循環器系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。		
10	呼吸器・循環器系疾患の周手術期看護（技術演習）			呼吸器・循環器系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。		
11	周手術期患者への看護（術前検査演習）			呼吸機能検査・十二誘導心電図検査時の対応について学ぶ。		
12	周手術期患者への看護（術前検査演習）			呼吸機能検査・十二誘導心電図検査時の対応について学ぶ。		
13	看護過程の展開③ 看護診断（事前レポート提出）			急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。		
14	看護過程の展開③ 看護診断			急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。		

15	消化器系疾患の周手術期看護	消化器系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。
16	消化器系疾患の周手術期看護（技術演習）	消化器系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。
17	整形外科系疾患の周手術期看護	整形外科系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。
18	整形外科系疾患の周手術期看護（技術演習）	整形外科系に障害がある人の病態や治療、周手術期の看護アセスメント、援助方法について学ぶ。
19	看護過程の展開④ 計画立案（事前レポート提出）	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。
20	看護過程の展開④ 計画立案	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、看護過程の展開を行う。
21	周手術期患者への看護（早期離床演習）	早期離床の援助技術について学ぶ。
22	周手術期患者への看護（早期離床演習）	早期離床の援助技術について学ぶ。
23	周手術期患者への看護（指導媒体の作成）	事例に沿った退院時指導について学修し、指導媒体の作成を行う。
24	周手術期患者への看護（指導媒体の作成）	事例に沿った退院時指導について学修し、指導媒体の作成を行う。
25	周手術期患者への看護（退院指導演習）	事例に沿った退院時指導について、グループでディスカッションを行う。
26	周手術期患者への看護（退院指導演習）	事例に沿った退院時指導について、グループでディスカッションを行う。
27	看護過程の展開⑤ 発表の準備（資料作成）	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、グループで看護過程の資料を作成する。
28	看護過程の展開⑤ 発表の準備（資料作成）	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、グループで看護過程の資料を作成する。
29	看護過程の展開⑥ 発表	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、プレゼンテーションを行う。
30	看護過程の展開⑥ 発表	急性期・周手術期にある成人の事例を用いて、プレゼンテーションを行う。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
看護過程のレポートは必ず提出する（未提出の場合、筆記試験は受験不可）。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2015-2017 原著第 10 版』：T. ヘザー・ハードマン/上鶴重美訳、医学書院、2015 年、3240 円（ISBN 978-4-260-02088-6） 『看護診断ハンドブック』：リンダ J. カルペニート著/監訳；新道 幸恵、医学書院、2014 年、4104 円（ISBN 978-4-260-01877-7） 『成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護』：林直子、南江堂、2015 年、3024 円（ISBN 978-4-524-26136-9） 『成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護』：佐藤まゆみ、南江堂、2010 年、2808 円（ISBN 978-4-524-26137-6） 『看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術 急性・クリティカルケア看護』：山勢博彰編、メヂカルフレンド社、2015 年、2376 円（ISBN 978-4-8392-1589-7） 『ビジュアル臨床看護技術ガイド』：坂本すが、照林社、2015 年、4600 円+税（ISBN 9784796523400）		

最終到達目標	学習法
周手術期にある人や、生命の危機状態にある人に必要な看護援助について理解できる。また、適切な時期に援助ができるよう、事例を用いた演習を通して看護技術を修得できる。	行われる治療や看護技術について講義で基本的な知識を学ぶ。演習では、事例を展開しながら対象者に合わせた看護技術を学ぶ。またグループワークでは積極的に意見交換を行い、学びを共有し深める。
評価方法および評価基準	
①筆記試験 60% ②課題レポート 30% ③授業態度 10% 以上①～③による総合評価 S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない	

授業コード	ENK0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野	
授業科目名	慢性期看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	大西ゆかり，村上早苗，山本千恵美				探求心	○
講義目的						
1. 慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴や看護について学ぶ。 2. 代表的な疾患を持つ患者の特徴や看護について理解する。						
授業内容						
慢性の呼吸機能障害、循環機能障害、脳・神経機能障害、栄養摂取・消化機能障害、代謝機能障害、内部環境調節障害に分けて、患者の特徴や看護を行うために必要な情報やアセスメントの視点、看護について理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴や看護の役割			慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴や看護の役割について理解する。		
2	呼吸器系の障害をもつ患者への看護			呼吸器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。		
3	循環器系の障害をもつ患者への看護			循環器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。		
4	脳・神経系の機能障害をもつ患者への看護			脳・神経系の機能障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。		
5	栄養摂取・消化器系の障害をもつ患者への看護			栄養摂取・消化器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。		
6	代謝内分泌系の障害をもつ患者への看護			代謝内分泌系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。		
7	腎・泌尿器系の障害をもつ患者への看護			腎・泌尿器系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。		
8	血液・免疫系の障害をもつ患者への看護			血液・免疫系の障害をもつ人の身体的・心理・社会的特徴、看護について理解する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
授業前に、教科書の該当箇所を読み、解剖生理や疾患について自己学習しておくこと。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『慢性期看護論 第3版』：鈴木志津枝、藤田佐和編集，ヌーヴェルヒロカワ，2014年，2,600円＋税（ISBN 978-4-86174-061-9）						
最終到達目標				学習法		
慢性期看護の基本的な考え方や慢性期にある患者の特徴や看護の役割について説明できる。 慢性疾患をもつ人の身体的・心理・社会的特徴や看護について説明できる。				授業内容については、事前にテキストをよく読んで授業に臨むこと。		
評価方法および評価基準						
期末試験 80％ 講義参加状況および態度 20％ S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENK0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野	
授業科目名	慢性期看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美				探求心	○
講義目的						
1. 慢性疾患をもつ人を理解し、援助するために理論・概念を学び患者の全体像を理解する。 2. 慢性疾患をもつ人を理解するための看護アセスメント枠組みを理解する。 3. 患者とその家族が、生活にあったセルフケアを継続できるよう支援するための方策を検討する。						
授業内容						
慢性の循環機能障害、代謝機能障害、呼吸機能障害をもつ患者の事例を用いて、アセスメントから計画立案までの看護過程を展開する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	コースガイド、NANDA の看護アセスメント枠組み			NANDA の看護アセスメント枠組みの概要を理解できる。		
2	NANDA の看護アセスメント枠組み：ヘルスプロモーション、栄養、排泄と交換			NANDA の看護アセスメント枠組み（ヘルスプロモーション、栄養、排泄と交換）を理解できる。		
3	NANDA の看護アセスメント枠組み：活動/休息、知覚/認知、自己知覚			NANDA の看護アセスメント枠組み（活動/休息、知覚/認知、自己知覚）を理解できる。		
4	NANDA の看護アセスメント枠組み：役割関係、セクシュアリティ、コーピング/ストレス耐性、生活原理			NANDA の看護アセスメント枠組み（役割関係、セクシュアリティ、コーピング/ストレス耐性、生活原理）を理解できる。		
5	NANDA の看護アセスメント枠組み：安全/防御、安楽、成長/発達			NANDA の看護アセスメント枠組み（安全/防御、安楽、成長/発達）を理解できる。		
6	代謝機能障害をもつ患者の理解、事例紹介			代謝機能障害をもつ患者の特徴を理解できる。		
7	看護過程の展開（情報のアセスメント）GW			事例のアセスメントについて理解できる。		
8	看護過程の展開（情報の解釈と統合）GW			事例の情報の解釈・統合ができる。		
9	看護過程の展開（情報の解釈と統合）GW			事例の情報の解釈・統合ができる。		
10	看護過程の展開（看護問題の明確化）GW			事例の看護問題を明確化できる		
11	看護過程の展開（看護計画の立案）GW			事例の看護計画を立案できる。		
12	看護過程の展開（看護計画の発表）GW			グループで立案した看護計画の発表を通して事例の学びを深めることができる。		
13	セルフマネジメントを高める支援			セルフマネジメントを高める支援について理解できる。		
14	【演習】エンパワーメントアプローチ			エンパワーメントアプローチについて理解できる。		
15	【演習】患者教育のための指導案作成			代謝機能障害をもつ患者への指導案を作成できる。		
16	【演習】自己血糖測定・インスリン自己注射の演習			自己血糖測定とインスリン自己注射について理解できる。		
17	呼吸機能障害をもつ患者の理解、事例紹介			呼吸機能障害をもつ患者の特徴を理解できる。		
18	看護過程の展開（情報のアセスメント）GW			事例のアセスメントについて理解できる。		
19	看護過程の展開（情報の解釈と統合）GW			事例の情報の解釈・統合ができる。		
20	看護過程の展開（情報の解釈と統合）GW			事例の情報の解釈・統合ができる。		
21	看護過程の展開（看護問題の明確化）GW			事例の看護問題を明確化できる		
22	看護過程の展開（看護計画の立案）GW			事例の看護計画を立案できる。		
23	看護過程の展開（看護計画の発表）GW			グループで立案した看護計画の発表を通して事例の学びを深めることができる。		
24	循環機能障害をもつ患者の理解、事例紹介			循環機能障害をもつ患者の特徴を理解できる。		
25	看護過程の展開（情報のアセスメント）GW			事例のアセスメントについて理解できる。		

26	看護過程の展開（情報の解釈と統合）GW	事例の情報の解釈・統合ができる。
27	看護過程の展開（情報の解釈と統合）GW	事例の情報の解釈・統合ができる。
28	看護過程の展開（看護問題の明確化）GW	事例の看護問題を明確化できる
29	看護過程の展開（看護計画の立案）GW	事例の看護計画を立案できる。
30	看護過程の展開（看護計画の発表）GW	グループで立案した看護計画の発表を通して事例の学びを深めることができる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
『慢性期看護論 第3版』：鈴木志津枝、藤田佐和編集，ヌーヴェルヒロカワ，2014 年，2,600 円＋税（ISBN 978-4-86174-061-9）		
最終到達目標		学習法
事例を用いて慢性疾患をもつ人を理解するための看護アセスメント枠組みを説明できる。 慢性疾患をもつ事例の患者像を説明できる。 患者・家族の生活に合わせたセルフケアを支援するための方策を検討することができる。		グループワークを通して、慢性疾患をもつ事例の展開を行う。 慢性疾患をもつ患者・家族のセルフロールプレイを通して、マネジメントを高める支援について検討する。
評価方法および評価基準		
筆記試験（30%）、事例展開と演習（60%）出席および授業への参加度（10%）の総合得点で 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENK0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野	
授業科目名	がん看護援助論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4 年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	アダラー・コリンズ慈観, 大西ゆかり, 山本千恵美				探求心	○
講義目的						
がんと共に生きる人とその家族の QOL の向上を目指した看護を提供するために、全人的な視点からの患者理解と、がんに関与し治療を受ける患者の看護援助に必要な知識を理解する。						
授業内容						
がんの早期発見とその予防についての重要性、がんに関与的な治療法である手術・放射線・化学療法、造血幹細胞移植における看護について必要な知識を理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	がん医療の特徴と看護の専門性			がんの疫学、がん医療の特殊性とがん患者の健康問題からがん看護の専門性を理解する。		
2	がん患者と家族を理解するための基礎となる考え方や理論			がんサバイバーシップ、意思決定支援、EBM に基づく看護、がん治療における看護の重要性について理解する。		
3	手術療法を受ける患者への看護（プレゼンとディスカッション）			手術療法を受けるがん患者の特徴と看護について理解する。		
4	薬物療法を受ける患者への看護（プレゼンとディスカッション）			薬物療法を受けるがん患者の特徴と看護について理解する。		
5	放射線療法を受ける患者への看護（プレゼンとディスカッション）			放射線療法を受けるがん患者の特徴と看護について理解する。		
6	造血幹細胞移植を受ける患者への看護（プレゼンとディスカッション）			造血幹細胞移植を受けるがん患者の特徴と看護について理解する。		
7	緩和ケアを受ける患者への看護（プレゼンとディスカッション）			緩和ケアを受けるがん患者の特徴と看護について理解する。		
8	まとめ（プレゼンとディスカッション）			がんと共に生きる人とその家族の QOL の向上を目指した看護について検討する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『系統看護学講座 別巻 がん看護学』：医学書院、2013 年、2,376 円（ISBN 978-4260015813）						
最終到達目標				学習法		
がん医療の特殊性とがん患者の健康問題について説明できる。 がん治療を受ける患者の特徴と看護について説明できる。				学生がテーマについて主体的に文献学習を行い、その成果をプレゼンテーションする。プレゼンに対するディスカッションを行い、学びを深める。		
評価方法および評価基準						
授業でのプレゼン、授業への参加、課題レポートから総合的に評価する。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENK0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野	
授業科目名	がん看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4 年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美				探求心	○
講義目的						
がんに関し治療を受ける患者への理解を深め、治療期にある患者への看護援助において必要な知識と技術を習得する。						
授業内容						
がんの治療期にある患者のアセスメントに必要な知識や技術を理解し、具体的な看護援助について検討する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	コースガイド			今後の授業展開を理解することができる。		
2	術前・術後ケア（ドレーン、創傷処置）			術前・術後の患者への看護に必要な知識と技術を理解する。		
3	化学療法中のアセスメントと副作用に対する看護ケア			化学療法中の患者への症状マネジメントに必要な知識と技術を理解する。		
4	痛みのマネジメント			痛みのある患者への症状マネジメントに必要な知識と技術を理解する。		
5	リンパ浮腫のケア			リンパ浮腫のケアに必要な知識と技術を理解する。		
6	統合医療（アロママッサージ、ヨガ、呼吸法）			統合医療に必要な知識と技術を理解する。		
7	がん看護におけるコミュニケーション			がん看護におけるコミュニケーションに必要な知識と技術を理解する。		
8	がん患者と家族への退院支援			退院支援に必要な知識と技術を理解する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『系統看護学講座 別巻 がん看護学』：医学書院、2013 年、2,376 円（ISBN 978-4260015813）						
最終到達目標				学習法		
治療期にあるがん患者のアセスメントに必要な知識や技術、看護援助について説明できる。				学生がテーマについて主体的に文献学習を行い、その成果をプレゼンテーションする。プレゼンに対するディスカッションを行い、学びを深める。		
評価方法および評価基準						
授業でのプレゼン、授業への参加、課題レポートから総合的に評価する。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENK0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野	
授業科目名	がん看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	大西ゆかり, アダラー・コリンズ慈観, 村上早苗, 山本千恵美				探求心	○
講義目的						
がんに罹患し、治療を受ける患者の看護を提供する際に必要な社会資源について理解する。						
授業内容						
がん患者会の活動の見学を通して、患者会の役割や機能について学習する。 がん患者を支援するための部門の見学やがん看護領域の認定看護師、がん看護専門看護師の活動の見学を通して、がん患者への看護の役割について学習する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	がん治療を受ける患者に必要な社会的資源			がん治療を受ける患者に必要な社会的資源の概要について理解できる。		
2	患者会の役割と機能			患者会の見学を通して、患者会の役割と機能について理解できる。		
3	がん患者の就労支援や経済的支援の実際			相談支援センターの見学を通して、がん患者の就労支援・経済的支援について理解できる。		
4	在宅移行支援の実際			在宅移行支援の見学を通して、在宅移行支援における社会資源の活用について理解できる。		
5	がん看護領域の認定看護師の役割①			がん看護領域の認定看護師の役割を理解できる。		
6	がん看護領域の認定看護師の役割②			がん看護領域の認定看護師の役割を理解できる。		
7	がん看護専門看護師の役割			がん看護専門看護師の役割を理解できる。		
8	まとめ			学外演習での学びを意見交換し、がん患者に必要な社会的資源について理解を深める。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
必要に応じて提示する。						
最終到達目標				学習法		
がん治療を受ける患者に必要な社会的資源について説明できる。 がん看護領域の認定看護師、がん看護専門看護師の役割について説明できる。				学外演習、ディスカッションを通して、がん患者に必要な社会的資源について理解を深める。		
評価方法および評価基準						
学外演習のレポート、ディスカッションへの参加から総合的に評価する。 S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENK0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－成人看護学				広い視野	
授業科目名	がん看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	大西ゆかり, 村上早苗, 山本千恵美				探求心	○
講義目的						
これまで学んだがん看護援助論、がん看護技術論、がん看護学外演習等で習得したがん看護の関連する知識、技術の統合を目指す。						
授業内容						
事例を通して、治療期にあるがん患者と家族のニーズ、治療に伴う有害事象のマネジメントなどについて検討する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	コースガイド、事例の概要			授業の概要、事例の特徴を理解できる。		
2	がん患者・家族の課題やニーズのアセスメント			事例のがん患者・家族の課題やニーズのアセスメントについて理解できる。		
3	手術療法を受ける患者への看護			手術療法を受ける患者への看護について理解できる。		
4	薬物療法中の有害事象のマネジメント			薬物療法中の有害事象のマネジメントについて理解できる。		
5	放射線療法中の有害事象のマネジメント			放射線療法中の有害事象のマネジメントについて理解できる。		
6	再発したがん患者・家族の課題やニーズのアセスメント			再発したがん患者・家族の課題やニーズのアセスメントについて理解できる。		
7	緩和ケアを受ける患者の症状マネジメント			緩和ケアを受ける患者の症状マネジメントについて理解できる。		
8	がん患者・家族へのケアに有用な考え方・理論			がん患者・家族へのケアに有用な考え方・理論について理解できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『系統看護学講座 別巻 がん看護学』：医学書院、2013 年、2,376 円（ISBN 978-4260015813）						
最終到達目標				学習法		
1. 治療期にあるがん患者・家族への援助方法を検討することができる。				事例検討・ロールプレイを通して、がん患者・家族への援助方法を検討する。		
2. 緩和ケアへの移行について検討することができる。						
3. 症状マネジメントの方策を検討することができる。						
評価方法および評価基準						
事例検討、授業への参加から総合的に評価する。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENL0101			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野	
授業科目名	高齢者看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	奥田泰子				探求心	○
講義目的						
高齢者看護学は、高齢者自身からの学びを取り入れつつ、他の学問領域等の成果を活用して、高齢者のQOL向上を目指した看護を実践する必要がある。本講座では、老年期にある人々を身体的・精神（心理）的・社会的側面から総合的に理解する。さらに、わが国の高齢社会の現状と高齢者の健康や生活の現状を理解し、高齢者の生活の維持・向上のための保健・医療・福祉制度を学修する。高齢者へのインタビューやグループディスカッションを通して、学生個々の高齢者観を構築する。						
授業内容						
高齢期にある人とその家族を環境との関係の中で、発達段階、健康レベル、保健行動の視点から生活者として総合的に理解し、高齢者とその家族を支援する看護活動の基本的概念について学ぶ。また、高齢者のウェルネスとQOLの視点から、高齢者の特徴や個人差、その人らしさについて学びを深め、最適の健康を生きることができる援助のあり方について理解し、高齢者の人権や権利擁護について学ぶ。 （主な内容 全15回） 老年看護学を理解するための基盤・老年看護の理念と目標と老年看護の対象となる人々 の特徴・老年看護に活用できる理論・アプローチ・療養生活への支援・生かし生かされる地域づくり・老年看護学の課題、老年看護学における対象の見方・とらえ方・「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護・療養生活への支援（薬物療法・手術療法・リハビリテーション等を受ける人への看護）尊厳ある介護と看取り・家族介護者の生活支援						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	高齢者看護学概論の受講ガイダンス ライフサイクルからみた老年期の理解			受講上の注意事項や履修要件を理解し、主体的学習姿勢が持てる。 老いの意味を考え、老いに向き合う基本姿勢について学ぶ。		
2	老年期の理解 老年期とは、加齢（老化）に関する理解			老年期にある人々の発達課題を理解する。		
3	高齢者を取り巻く社会制度（1） 高齢人口の推移、高齢者の健康			日本の高齢化の現状について統計データをもとに学ぶ。		
4	高齢者を取り巻く社会制度（2） 医療制度と介護保険制度			社会資源の概要や具体的活用方法について学ぶ。		
5	高齢者の権利擁護 倫理的課題、高齢者の尊厳と権利擁護			高齢者の権利擁護に関する基本を学ぶ。		
6	「健やかに老い、安らかに永眠する」を支える看護			高齢者の老いを生きることの意味や高齢者の豊かな生の創出を支援する方法を学ぶ。		
7	老年看護の対象となる人々の特徴（1） 対象特性、対象理解			高齢者の特性を知り、高齢者を理解する視点を学ぶ。 環境との相互作用を通して高齢者を理解する。		
8	老年看護の対象となる人々の特徴（2） からだ、こころ、かかわり			高齢者の生理的老化とメカニズムを理解する。 高齢者の心の状態に影響する要因について理解する。 高齢者のかかわりの特徴を理解する。		
9	老年看護の対象となる人々の特徴（3） 暮らし、生きがい、家族			高齢者の暮らしの特徴、生きがいについて理解する。 家族の役割について理解する。		
10	高齢者観の構築 高齢者のインタビュー			高齢者インタビューを通して、自己の高齢者観を明確にする。		
11	老年看護に活用できる理論・アプローチ			高齢者看護を行う上での様々な理論やアプローチを学ぶ。		

12	高齢者の療養生活の支援（１） 薬物療法	加齢に伴う薬物動態と薬力学の特徴を理解する。 薬物療法を受ける高齢者の援助を理解する。
13	高齢者の療養生活の支援（２） 手術療法・リハビリテーション	手術療法を受ける高齢者に対するインフォームドコンセント、術前、術中、術後の看護について理解する。 リハビリテーションの特徴と意義について理解する。
14	高齢者の療養生活の支援（３） 地域連携と退院支援 (地域包括ケアシステム、多職種連携)	地域連携における多職種連携と看護職者の役割について理解する。
15	療養生活の場の特徴と看護 医療施設（病院）と介護施設（介護保険施設、グループホーム、小規模多機能施設）	それぞれの制度と場の特徴を理解する。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>本科目は、高齢者看護学の基盤となる科目であり、主体的な学修を求めます。</p> <p>本科目の履修は、高齢者看護援助論Ⅰ、Ⅱを受講する上での基礎となる科目であり、また、本科目を修得できない場合、「在宅高齢者看護学実習」は履修出来なくなります。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
『看護学テキスト NICE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは』：正木治恵、真田弘美編，南江堂， 3,024 円 （ISBN 978-4524259014）		
最終到達目標		学習法
高齢者を全人的に理解し、高齢者が健やかに老い、そしてその人らしい生を全うするための支援について理解する。そのうえで、自己の高齢者観を構築して看護師としての役割を表現することができる。		授業は TBL（Team Based Learning）をもとに改変したアクティブラーニングを行う。 各単元で学生の主体的学修を期待して事前学習としての個別確認テストを行う。またグループディスカッションを取り入れた協同学習を行う。 高齢者インタビューを実施する。
評価方法および評価基準		
<p>個別確認テスト 30%、グループテスト 20%、提出課題 10%、期末試験 40%で総合して評価する。</p> <p>60%以上で単位習得となる。</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>		

授業コード	ENL0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野	
授業科目名	高齢者看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	棚崎由紀子，眞鍋瑞穂				探求心	○
講義目的						
加齢による変化、高齢者特有の生活機能障害や健康障害に対する理解をもとに、高齢者の健康レベルに応じた具体的な評価方法、援助方法などを創造的・実践的に学ぶ。						
授業内容						
高齢者とその家族を生活機能の視点から考え、高齢者がより“その人らしい生活”を実現できるための基本的な看護技術について学ぶ。すなわち、高齢者に特徴的な感覚機能障害や摂食・嚥下障害などの老年症候群の原因について理解し、それらの障害がどのように高齢者の生活に影響し、さらに高齢者自身のセルフケアの促進や予防を含めた看護について創造的・実践的に理解する。 (主な内容 全8回) 高齢者の理解と高齢者看護の基本技術、老年症候群と看護、高齢者の加齢変化とフィジカルアセスメントの技術						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	援助を必要とする高齢者の理解 老年症候群、サルコペニア、フレイル			高齢者特有の疾患と、高齢者が要介護状態に陥る要因を理解する。		
2	高齢者の生活機能のアセスメント ヘルスアセスメントの特徴と視点(コミュニケーションの特徴)、ICF、高齢者総合機能評価、BADL・IADL			高齢者の生活機能のアセスメントの基本視点を理解する。		
3	身体機能の変化と生活への影響(1) 感覚器、運動器、神経系			加齢による身体機能の変化と生活への影響について学ぶ。		
4	身体機能の変化と生活への影響(2) 消化・腎・排泄系、循環・呼吸器系			加齢による身体機能の変化と生活への影響について学ぶ。		
5	日常生活のアセスメントと看護(1) 食事(摂食・嚥下障害、低栄養)			加齢に伴う食生活の変化とその看護について学ぶ。		
6	日常生活のアセスメントと看護(2) 排泄(尿失禁、便秘、下痢)			加齢に伴う排泄機能の変化とその看護について学ぶ。		
7	日常生活のアセスメントと看護(3) 移動と動作(寝たきり)			加齢に伴う筋・骨格系の機能低下とその看護について学ぶ。		
8	日常生活のアセスメントと看護(4) 清潔(老人性皮膚掻痒症)			加齢に伴う皮膚の特徴とその看護について学ぶ。		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
本科目の履修は、高齢者看護学概論をすでに履修していることが条件となる。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『看護学テキストNICE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは』：正木治恵、真田弘美編、南江堂、2016年、3,024円 (ISBN 978-4524259014) 『看護学テキストNICE 老年看護技術 最後までその人らしく生きることを支援する』：真田弘美、正木治恵編、南江堂、2016年、3,456円 (ISBN 978-4524259021)						

最終到達目標	学習法
加齢に伴う様々な機能変化とそれに伴うアセスメント方法や援助の具体的な方法を説明できる。	授業はTBL (Team Based Learning) をもとに改変したアクティブラーニングを行う。各単元で学生の主体的学修を期待して事前学習としての個別確認テストを行う。またグループディスカッションを取り入れた協同学習を行う。
評価方法および評価基準	
個別確認テスト 30%、グループテスト 20%、提出課題 10%、期末試験 40%で総合的に評価する。 60%以上で単位修得となる。 S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている D (60 点未満) : C のレベルに達していない	

授業コード	ENL0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野	
授業科目名	高齢者看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	棚崎由紀子, 眞鍋瑞穂				探求心	○
講義目的						
高齢者の特徴および倫理的課題をふまえ、健康レベルに応じた生活支援技術（看護実践力）を養う。また、事例を用いた（ペーパーペイシエントを素材とした）グループ学習により、高齢者の個別性を踏まえた看護ケア計画立案の過程を体験する。						
授業内容						
高齢者の加齢に伴う変化や疾病・障害を理解し、個性豊かに高齢期を生きる人々の健康のレベルに応じた生活を支援する看護について学ぶ。特に認知症高齢者の自己決定を支える看護や権利擁護とその家族の支援について学びを深める。また、高齢者が生活するさまざまな場の特徴を理解し、それぞれの場に応じ、高齢者とその家族のQOLを高める看護活動について考え、高齢者が最期まで尊厳をもって生活するための支援について学ぶ。 （主な内容 全15回） 高齢者の健康レベルと生活・療養の場の特徴・高齢者の薬物療法・高齢者看護と権利擁護・認知機能障害と看護・認知機能障害を持つ高齢者を介護する家族の支援、高齢者のQOLとコミュニケーション・死と終末期の看護・高齢者と緩和ケア、高齢者と急性期の看護・高齢者とリハビリテーション看護、アクティビティケア・看護過程の展開						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	高齢者の特徴的な症状と看護（1） 感覚機能障害（視覚・聴覚）、脱水			感覚機能障害、脱水の病態とその看護について理解する。		
2	高齢者の特徴的な症状と看護（2） 不眠（加齢に伴う睡眠状態の変化）			高齢者の睡眠の特徴とともに、不眠の病態とその看護について理解する。		
3	高齢者の特徴的な症状と看護（3） 転倒・骨折			高齢者の筋・骨格系の特徴とともに、転倒、骨折の病態、発生要因とその看護について理解する。		
4	高齢者の特徴的な症状と看護（4） 感染症（ノロウイルス、肺炎、疥癬など）			高齢者特有の感染症の病態とその看護について理解する。		
5	高齢者の特徴的な症状と看護（5） うつ、せん妄（精神（情緒）、認知機能、社会的機能の加齢変化と生活への影響）			加齢に伴う認知機能の変化と生活への影響を理解する。 うつ、せん妄の病態とその看護について理解する。		
6	認知症高齢者の支援（1） 認知症の基本理解（認知症の病態生理、症状、社会制度、認知症の予防）			認知症の病態および症状を理解する。 現在の認知症に関する社会制度について理解する。 認知症予防について理解する。		
7	認知症高齢者の支援（2） 認知症の看護			認知症高齢者の看護について理解する。		
8	自立支援と介護予防 アクティビティケア			高齢者の自立支援と介護予防に基づいたアクティビティケアの必要性和その具体的内容について説明できる。		
9	高齢者の終末期看護 エンドオブライフケア			高齢者の死の捉え方について自分の考えを述べることができ、終末期、緩和ケアの特徴および関わり方について説明できる。		
10	看護過程の展開（1） 生活機能モデルの理解			高齢者を対象にした看護過程の生活機能モデルを理解する。		
11	看護過程の展開（2） 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血）			脳血管疾患の高齢者の事例を用いて、生活機能モデルによる看護過程を展開できる。		
12	看護過程の展開（3） 脳血管疾患（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血）			脳血管疾患の高齢者の事例を用いて、生活機能モデルによる看護過程を展開できる。		

13	看護過程の展開（４） パーキンソン病	パーキンソン病の高齢者の事例を用いて、生活機能モデルによる看護過程を展開できる。
14	看護過程の展開（５） 大腿骨近位端骨折	大腿骨近位端骨折の高齢者の事例を用いて、生活機能モデルによる看護過程を展開できる。
15	看護過程のまとめ	看護過程の展開した内容を発表する。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰをすでに履修していることが条件となる。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
<p>『看護学テキスト NICE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは』：正木治恵、真田弘美編、南江堂、2016 年、3,024 円（ISBN 978-4524259014）</p> <p>『看護学テキスト NICE 老年看護技術 最後までその人らしく生きることを支援する』：真田弘美、正木治恵編、南江堂、2016 年、3,200 円＋税（ISBN 978-4524259021）</p> <p>『生活機能から見た老年看護過程 第 3 版』：山田律子、医学書院、2016 年、3,888 円（ISBN 978-4260028363）</p>		
最終到達目標		学習法
高齢者の社会的背景をふまえた倫理的課題を説明できる。そのうえで高齢者ケアの基本的考えや看護方法について述べることができる。		授業は 5, 6 名を単位とした協働学習を行う。また各単元で学生の主体的学修を期待して事前課題を提示し、学習成果を講義前テストにより確認する。
評価方法および評価基準		
<p>講義前テスト 30%、グループテスト 20%、提出課題 10%、期末試験 40%で総合的に評価する。</p> <p>60%以上で単位修得となる。</p> <p>S (100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A (89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B (79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D (60 点未満)：C のレベルに達していない</p>		

授業コード	ENL0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野	
授業科目名	認知症看護援助論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	奥田泰子				探求心	○
講義目的						
高齢化の延伸に伴い看護の対象となる人々に認知症高齢者が増加している現状において、認知症高齢者のQOLの維持、向上ができる看護専門職者として認知症を正しく理解する。そのうえで、家族を含めて質の高い援助ができる視点を養うことを目的とする。						
授業内容						
認知症の代表的な原因疾患とその特徴、及び症状に対応した最新の知識と技術について学ぶ。また、最新の薬物療法と非薬物療法の実際について知り、認知症高齢者とその家族に対する質の高い看護実践ができるための基本的技術について学ぶ。さらに、告知やターミナルケアなどの認知症をめぐる今日的な課題や、諸外国の先駆的な取組について知り、課題を明らかにする。 (主な内容 全8回) 認知症の代表的な原因疾患とその特徴と看護、認知症の中核症状と BPSD の予防・緩和、認知症の薬物療法と非薬物療法、認知症をめぐる今日の課題（告知、若年性認知症と就労、ターミナルケア）、認知症看護における倫理的課題と対応、認知症高齢者の介護家族の特徴と支援の実際、わが国と諸外国の認知症に関わる保健・医療・福祉制度の概要と課題、認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと調整						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	認知症疾患の基本理解（１）			認知症の代表的な原因疾患の特徴とその看護を理解する。 認知症の中核症状を理解する。		
2	認知症疾患の基本理解（２） MCI と認知症予防			MCI と認知症予防について理解する。		
3	認知症のBPSDと家族介護負担			中核症状との関連でBPSDを理解し、その発生の予防や発生時の対応を理解する。		
4	認知症の薬物療法			最新の薬物療法を理解する。		
5	認知症の非薬物療法			最新の非薬物療法を理解する。		
6	認知症看護における倫理的課題と対応			認知症患者に対する倫理的課題とその対応について理解する。		
7	急性期治療の場における認知症看護			急性期治療の場（急性期の医療施設）における認知症の看護を理解する。		
8	認知症をめぐる今日の課題 （告知、若年性認知症と就労、ターミナルケア）			認知症をめぐる様々な課題について理解する。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習をすでに履修していることが条件となる。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『看護学テキスト NICE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは』：正木治恵、真田弘美編、南江堂、2016 年、3,024 円 （ISBN 978-4524259014） （高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱのテキストを使用）						

最終到達目標	学習法
原因疾患別の特徴を理解する。 BPSD の要因から援助方法を考えることができる。	授業はTBL (Team Based Learning) をもとに改変したアクティブラーニングを行う。 各単元で学生の主体的学修を期待して事前学習としての個別確認テストを行う。またグループディスカッションを取り入れた協同学習を行う。
評価方法および評価基準	
個別確認テスト 30%、グループテスト 20%、提出課題 10%、期末試験 40%で総合して評価する。 60%以上で単位修得となる。 S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている D (60 点未満) : C のレベルに達していない	

授業コード	ENL0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野	
授業科目名	認知症看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	棚崎由紀子, 眞鍋瑞穂				探求心	○
講義目的						
認知症高齢者の尊厳ある生活を支援するために必要な基本的援助技術について、具体的な計画・実践を通して理解する。						
授業内容						
認知症高齢者の思いを正しく理解し、認知症高齢者の健康と尊厳ある生活を支援するために必要なコミュニケーション技術、回想、アクティビティケア、認知リハビリテーション、コンフォートケアなどの基本的な援助技術を取り上げ、その具体的な実践内容と留意点について実践的に学ぶ。 (主な内容 全8回) 認知症高齢者の回想法(個人)・認知症高齢者の回想法(小集団)、認知症高齢者の特性をふまえたコミュニケーション・認知症高齢者とのコミュニケーションの実際、認知リハビリテーション・アクティビティケア、認知症高齢者に対するコンフォートケア						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	認知症高齢者に対するケアの理念 パーソンセンタードケア			認知症高齢者に対するケアの理念を理解する。		
2	認知症高齢者ケアの各種アセスメント BPSDに対するアセスメント(センター方式)			認知症高齢者に対するアセスメントツールについて理解する。		
3	認知症高齢者とのコミュニケーション バリデーション			認知症高齢者とのコミュニケーションの方法について理解する。		
4	非薬物療法 (回想法、アニマルセラピー、音楽療法など)			回想法、アニマルセラピー、音楽療法などの非薬物療法について理解する。		
5	非薬物療法の実際			回想法、アニマルセラピー、音楽療法などの非薬物療法を体験する。		
6	アクティビティケア演習(1) ケア計画の立案			グループメンバーとともに認知症高齢者を対象にしたアクティビティケアを計画する。		
7	アクティビティケア演習(2) ケア計画の立案			グループメンバーとともに認知症高齢者を対象にしたアクティビティケアを計画する。		
8	認知症の事例発表			グループメンバーで立案したアクティビティケアの内容を発表する。		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習、認知症看護援助論をすでに履修していることが条件となる。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『看護学テキストNICE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは』: 正木治恵、真田弘美編、南江堂、2016年、3,024円 (ISBN 978-4524259014) (高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、認知症看護援助論のテキストを使用) 講義の中でも必要な資料を配布する。						

最終到達目標	学習法
認知症高齢者の尊厳ある生活を支援するための基本的な援助を実践的に展開することができる。	授業はTBL（Team Based Learning）をもとに改変したアクティブラーニングを行う。各単元で学生の主体的学修を期待する。またグループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れた協同学習を行う。
評価方法および評価基準	
<p>グループワークの参加状況 30%、プレゼンテーション 20%、提出課題およびレポート 50%で総合的に評価する。</p> <p>60%以上で単位修得となる。</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENL0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野	
授業科目名	認知症看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	奥田泰子, 棚崎由紀子, 眞鍋瑞穂				探求心	○
講義目的						
認知症高齢者の生活の場の特徴をふまえた現状と課題を見出し、今後の認知症ケアのあり方について考察する。						
授業内容						
認知症高齢者ケアに必要な社会資源として認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小規模多機能ホーム・ユニット型小規模介護福祉施設等を見学訪問し、その概要・現状と課題について評価分析し、今後のよりよい認知症高齢者ケアの方向性について検討する。(全8回)						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	認知症高齢者の生活の場		認知症高齢者の生活の場（認知症対応型共同生活介護(グループホーム)、小規模多機能ホーム・ユニット型小規模介護福祉施設等）について理解する。			
2	グループワーク（1） 訪問計画の立案		認知症高齢者の社会資源の見学訪問に際して、グループメンバーで内容を計画する。			
3	施設見学		認知症高齢者の生活の場の見学訪問			
4	施設見学		認知症高齢者の生活の場の見学訪問			
5	施設見学		認知症高齢者の生活の場の見学訪問			
6	グループワーク（2） 各施設の現状と課題		施設見学および事前学習の内容などをもとに、グループメンバーで認知症高齢者の現状と課題について分析する。			
7	グループワーク（3） 各施設の現状と課題と将来展望		施設見学および事前学習の内容などをもとに、グループメンバーで認知症高齢者の現状と課題について分析する。			
8	認知症高齢者の現状と課題：発表会		認知症高齢者に対するケアの方向性について、グループディスカッションした内容を発表する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習、認知症看護援助論、認知症看護技術論をすでに履修していることが条件となる。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『看護学テキスト NICE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは』：正木治恵、真田弘美編、南江堂、2016年、3,024円（ISBN 978-4524259014） （高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、認知症看護援助論のテキストを使用） 講義の中でも必要な資料を配布する。						
最終到達目標			学習法			
認知症高齢者の生活の場の特徴を理解し、それぞれの現状と課題について発表することができる。			授業はTBL（Team Based Learning）をもとに改変したアクティブラーニングを行う。各単元で学生の主体的学修を期待する。またグループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れた協同学習を行う。			
評価方法および評価基準						
グループワークの参加状況 30%、プレゼンテーション 20%、提出課題およびレポート 50%で総合的に評価する。 60%以上で単位修得となる。 S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENL0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－成人・高齢者看護学－高齢者看護学				広い視野	
授業科目名	認知症看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	奥田泰子, 棚崎由紀子, 眞鍋瑞穂				探求心	○
講義目的						
これまでの認知症高齢者ケアに対する学びを多角的に統合し、今後のよりよいケアのあり方について発展的に考察する。						
授業内容						
認知症看護援助論、認知症看護技術論、認知症看護学外演習等で学んだ内容と、統合実習で担当した認知症高齢者の事例を用いて実践した看護を振り返って評価・分析する。不十分であった看護内容については文献を用いて総合的に整理し、よりよい認知症高齢者ケアについて発展的に考察する。(主な内容 全8回)						
認知症高齢者看護における倫理的課題の概要(事例)、認知症高齢者看護における倫理的課題の実際(事例)、認知症の予防活動、重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア(事例)、生活・療養環境のアセスメントの実際(事例)、生活・療養環境のアセスメントの実際と課題(事例)、認知症高齢者のBPSDのアセスメント(事例)、認知症高齢者のBPSDに対する看護(事例)						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	受講方法のガイダンス 文献検索の方法			認知症高齢者看護をテーマにした文献を検索する。		
2	認知症高齢者看護における倫理的課題の実際(事例)			認知症高齢者看護における倫理的課題について事例を通して理解する。		
3	認知症の予防活動(事例)			認知症の予防活動について事例を通して理解する。		
4	重度認知症高齢者の終末期と緩和ケア(事例)			重度認知症高齢者の終末期と緩和ケアについて事例を通して理解する。		
5	生活・療養環境のアセスメントの実際と課題(事例)			認知症高齢者の生活・療養環境のアセスメントと課題について事例を通して理解する。		
6	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(1)(事例)			認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について事例を通して理解する。		
7	認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護(2)(事例)			認知症高齢者のBPSDのアセスメントと看護について事例を通して理解する。		
8	認知症高齢者ケアの発展的考察			これまでの認知症に関連した学びを振り返り、今後の認知症高齢者ケアに対する発展的考察を行う。		
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)						
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅高齢者看護学実習、高齢者看護学実習、認知症看護援助論、認知症看護技術論、認知症看護学外演習をすでに履修していることが条件となる。						
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教材は講義の中で紹介する。						
最終到達目標			学習法			
各単元の事例展開ができる。 より良い認知症高齢者ケアの発展的考察ができる。			事例を用いたグループディスカッションおよびプレゼンテーションを行う。			
評価方法および評価基準						
提出課題(グループディスカッション・プレゼンテーション含む)80%、課題レポート20%で総合的に評価する。60%以上で単位修得となる。						
S(100～90点): 学習目標をほぼ完全に達成している(Excellent)						
A(89～80点): 学習目標を相応に達成している(Very Good)			C(69～60点): 学習目標の最低限は満たしている			
B(79～70点): 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある(Good) D(60点未満): Cのレベルに達していない						

授業コード	ENM0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野	
授業科目名	在宅看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	田中正子, 永井康德				探求心	○
講義目的						
在宅療養者とその家族の生活環境及び健康上の課題について理解し、質の高い療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な技術・態度を学ぶ。在宅看護における社会資源の活用及びチームケアと多職種の連携の在り方、退院調整について理解できる。						
授業内容						
在宅看護の目的と特性を踏まえた社会動向と在宅看護における保健・医療・福祉制度に基づいた在宅ケアプランの理解が出来るよう、諸外国・日本の変遷・社会の現状などをグループや個々での課題学習を交えて授業を展開する。また、在宅看護の対象者の疾患及び療養状況・環境等を捉えた在宅ケアの特徴及びサービス、多職種の連携、マネージメント、介護保険、地域包括ケアシステム、安全性の確保、権利保障、家族の介護力、介護負担等について学修する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	在宅看護の目的と特徴 在宅看護における看護師の役割と機能		該当部分についてテキストを読んでおく（4～17p）。 看護師の役割と機能について理解できる。			
2	在宅看護の対象者		該当部分についてテキストを読んでおく（21～36p）。 在宅療養者と家族の状況について理解できる。			
3	日本の訪問看護制度の創設と発展経緯 及び世界の訪問看護の動向		該当部分についてテキストを読んでおく（40～63p）。 日本と世界の訪問看護について理解できる。			
4	在宅ケアを支える制度		該当部分についてテキストを読んでおく（44～58p）。 新聞やニュースから社会背景や在宅医療・介護保険の変化や問題について情報収集できる。介護保険・医療保険制度について理解できる。			
5	在宅ケアの連携とマネージメント、生活支援		在宅ケアに関わる職種について調べておく。 訪問看護師が多職種と連携し、マネージメントをして療養者及び家族の健康管理・生活支援をする重要性を理解できる。			
6	対象者の権利保障		該当部分についてテキストを読んでおく（120～129p）。個人の尊厳と自己決定、虐待について理解できる。			
7	在宅看護における安全性の確保		該当部分についてテキストを読んでおく（102～119p）。リスク、事故防止、感染防止、災害時の看護について理解できる。			
8	在宅看護の介入時期による特徴		該当部分についてテキストを読んでおく（264～271p）。介入時期による在宅看護の特徴について理解できる。			
9	在宅で求められる看護技術の応用		該当部分についてテキストを読んでおく（136～190p）。観察及びフィジカルアセスメントについて理解できる。			
10	在宅ケアにおける医療技術（１）		該当部分についてテキストを読んでおく（191～214p）。服薬管理、褥瘡、尿道留置カテーテル、ストーマ等について理解できる。			
11	在宅ケアにおける医療技術（２）		該当部分についてテキストを読んでおく（214～259p）。栄養法、在宅酸素等について理解できる。			
12	認知症療養者の在宅看護		該当部分についてテキストを読んでおく（293～301p）。認知症療養者の看護について理解できる。			
13	小児療養者の在宅看護		該当部分についてテキストを読んでおく（303～315p）。小児療養者の看護について理解できる。			
14	医療依存度の高い療養者の在宅看護		該当部分についてテキストを読んでおく（317～330p）。人工呼吸器装着療養者の看護について理解できる。			

15	在宅ケアの効果的な運営、総括	今までの講義の振り返りをしておく。訪問看護ステーションの経営と管理について理解できる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
1. 授業はやむを得ない理由でない限り毎回参加すること 2. 課題の提出は期日・時間を厳守すること 科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
教科書：『在宅看護論 第4版第4刷』；河原加代子著者代表，医学書院，2016年，2700円 (ISBN 978-4-260-01586-8) 参考書：『在宅看護論 第2版』；石垣和子・上野まり編集，南江堂，2017年，2808円 (ISBN 978-4-524-26046-1) 『看護実践のための根拠がわかる「在宅看護技術」第3版第2刷』；正野逸子・本田彰子編著，メヂカルフレンド社，2015年，4104円 (ISBN 978-4-8392-1588-0) 『写真でわかる訪問看護』；押川眞喜子監修，インターメディカ，2011，2700円 (ISBN 978-4-89996-291-5)		
最終到達目標		学習法
1. 在宅看護の目的・意義を説明できる。 2. 病院看護と在宅看護の違いを説明できる。 3. 退院調整を理解し、継続看護の必要性を説明できる。 4. ケアマネジメントの必要性を説明できる。 5. 在宅療養者及び家族の状況を説明できる。 6. 社会資源の種類・内容を知り、サポートシステムの現状と課題についてレポートに記述できる。 7. 在宅看護における看護職の役割が説明できる。 8. 医療処置のある在宅療養者について医療処置の種類・内容を説明できる。		講義、グループワーク
評価方法および評価基準		
講義、グループワークへの参加及び態度（10%）、レポート（20%）、試験（70%）等を総合して100%として評価する。 S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない		

授業コード	ENM0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野	
授業科目名	在宅看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	○
講義目的						
在宅における療養者の日常生活支援は、療養者と家族が「生活すること」を支える為に種々の工夫があることを理解できる。また、在宅療養者が安定した生活を送るための在宅看護計画に沿って提供される看護技術が理解できる。介護保険におけるケアプランと訪問看護計画の違いについて理解でき、訪問看護計画を立案することができる。						
授業内容						
日常生活を「生活行為」として家族や環境も含め総合的に捉え、必要な情報を収集し個々に応じた看護計画を立案できるように、机上事例を通してグループ演習を実施する。そして看護計画に沿って提供される看護技術により、多様性のある日常生活援助や医療的処置等が理解できるように授業を進める。また介護保険におけるケアマネージャーが立案するケアプランと訪問看護師が立案する訪問看護計画の違いについて学修する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	在宅療養者の日常生活支援（グループワーク）			・在宅看護学概論で学んだ内容について復習しておく。 ・在宅療養における物品の工夫について考えることができる。		
2	日常生活支援の工夫についてグループ発表			・日常生活支援の工夫についてグループ発表できるようにまとめておく。 ・他者の意見を聞くことができ、ディスカッションができる。		
3	在宅看護過程展開のポイント			・テキストを読んでおく（66～70p） ・在宅看護の特徴及び看護過程展開のポイントが理解できる。		
4	在宅看護過程の展開：情報収集・アセスメント（グループワーク）			・テキストを読んでおく（70～88p） ・収集した情報を整理し、アセスメントすることができる。		
5	在宅看護過程の展開：計画立案、評価（グループワーク）			・テキストを読んでおく（88～102p） ・ニーズに基づき看護計画を立案できる。		
6	立案した看護計画についてグループ発表			・グループで発表出来るように資料を作成しておく。 ・他者の意見を聞くことができ、ディスカッションができる。		
7	関連図で理解する在宅看護過程 ①身体的側面 ②心理的側面 ③環境・生活側面 ④家族・介護状況側面			・生活を基盤にした療養者の全体像を捉えることができる。 ・療養者の思いを中心としたアセスメントの4側面について理解できる。		
8	糖尿病療養者の在宅看護過程：関連図作成（グループワーク）			・事例を通して関連図を作成することができる。		
9	糖尿病療養者の在宅看護過程：看護過程の展開（グループワーク）			・事例のニーズに基づき在宅看護過程が展開できる。		
10	立案した看護計画についてグループ発表			・グループで発表出来るように資料を作成しておく。 ・他者の意見を聞くことができ、ディスカッションができる。		
11	介護保険におけるケアプラン：要支援・要介護度、支給限度額			・支給限度額について調べておく。 ・介護保険におけるケアプランについて理解できる。		
12	介護保険におけるケアプラン：問題点の抽出			・訪問看護計画との違いについて説明できる。 ・アセスメントツールを使用し、ニーズを抽出できる。		
13	介護保険におけるケアプラン：ケアプラン作成			・前回の問題点について再度確認しておく。 ・ニーズに基づきケアプランを作成することができる。		

14	模擬サービス担当者会議	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬サービス担当者会議用の資料を作成しておく。 ・事前に役割分担をし、各自の職種について調べ、質問内容等を考えておく。
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの振り返り、生活者としての療養者のニーズに合った看護過程を理解し、展開することができる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
1. 授業はやむを得ない理由でない限り毎回参加すること 2. 課題の提出は期日・時間を厳守すること 科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
教科書：『在宅看護論 第4版第4刷』；河原加代子著者代表，医学書院，2016年，2700円 (ISBN 978-4-260-01586-8) 参考書：『関連図で理解する在宅看護過程』；正野逸子・本田彰子編著，メヂカルフレンド社，2014年，2700円 (ISBN 978-4-8392-1571-2)		
最終到達目標		学習法
介護保険におけるケアプランと訪問看護計画の違いについて理解でき、訪問看護計画を立案することができる。		講義 演習 グループワーク
評価方法および評価基準		
試験 50%、看護計画立案 30%、出席・グループワーク参加態度 20%等を総合して評価する。60 点以上を単位認定とする。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENM0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野	
授業科目名	在宅看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	○
講義目的						
在宅療養者の日常生活を「生活行為」として総合的に捉えることができ、その為の看護技術方法（日常生活援助、医療技術援助）について理解し、部分的に実施することができる。						
授業内容						
在宅で療養している対象者の日常生活援助について、「生活行為」として総合的に学修する。また必要な介助をアセスメントする能力を養うことができるように、グループ別にロールプレイ等を実施する。そして在宅看護のイメージ化ができるように、基本的日常生活や医療処置などその技術について演習する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	在宅におけるコミュニケーション			・テキストを読んでおく（p. 19～26） ・在宅におけるコミュニケーションの特徴について理解できる。		
2	在宅におけるヘルスアセスメント 演習：聴診、打診、触診等			・テキストを読んでおく（p. 27～40） ・在宅におけるヘルスアセスメントの重要性について理解でき、実施できる。		
3	初回訪問時のロールプレイ			・配布事例をよく読み、理解しておく。 ・事例を基に訪問時のマナー等を含めロールプレイを通じて、理解を深めることができる。		
4	食事・嚥下に関する在宅看護技術 演習：口腔ケア、嚥下リハビリ・体操等			・テキストを読んでおく（p. 86～95） ・在宅療養者の食事における看護技術の特徴、支援、介護者指導、嚥下障害時のポイント等について理解し、実施できる。		
5	排泄に関する在宅看護技術 演習：排便、陰部洗浄、おむつ交換等			・テキストを読んでおく（p. 97～107） ・在宅療養者の排泄における看護技術の特徴、支援、介護者指導、便秘時のポイント等について理解でき、実施できる。		
6	清潔と衣生活に関する在宅看護技術 演習：入浴介助、部分浴、洗髪、寝衣交換等			・テキストを読んでおく（p. 109～129） ・在宅療養者の清潔と衣生活における看護技術の特徴、支援、介護者指導、衣生活のポイント等について理解でき、実施できる。		
7	活動と休息に関する在宅看護技術 演習：布団で臥床時の仰臥位から座位への体位変換、歩行介助等			・テキストを読んでおく（p. 132～151） ・在宅療養者の活動・休息における看護技術の特徴、支援、介護者指導、睡眠アセスメント等について理解できる。		
8	在宅療養を支える医療福祉用具、移動・移乗、住宅環境 演習：介護用品等			・テキストを読んでおく（p. 160～170） ・在宅療養者の住まい・生活環境、整備、留意点、制度の活用等について理解できる。		
9	在宅医療技術（１） 演習：中心静脈栄養、経管栄養について			・テキストを読んでおく（p. 191～212） ・中心静脈栄養、経管栄養の留意点が理解できる。		
10	在宅医療技術（２） 演習：在宅酸素療養、人工呼吸器			・テキストを読んでおく（p. 214～239） ・在宅酸素療養、人工呼吸器の留意点が理解できる。		
11	在宅医療技術（３） 演習：尿道留置カテーテル			・テキストを読んでおく（p. 241～249） ・尿道留置カテーテル管理の特徴、問題に対する対応等について理解できる。		
12	在宅医療技術（４） 演習：ストーマ			・テキストを読んでおく（p. 252～266） ・ストーマケアの特徴、種類と使用方法、支援方法等について理解できる。		

13	在宅医療技術（５） 演習：腹膜透析	・テキストを読んでおく（p. 269～278） ・腹膜透析における看護技術の特徴、支援、社会保障等が理解できる。
14	在宅医療技術（６） 演習：褥瘡の予防とケア	・テキストを読んでおく（p. 296～315） ・在宅における褥瘡ケアの特徴、リスク、予防的ケアと発生後のケア等が理解できる。
15	総括	・今までの内容の振り返りを行っておく。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
1. 授業はやむを得ない理由でない限り毎回参加すること 2. 演習後の学びを演習ごとに提出すること 科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材		
教科書：正野逸子・本田彰子編著；「在宅看護技術」，メヂカルフレンド社，2015 年 第 3 版第 2 刷， （ISBN 978-4-8392-1588-0） 参考書：河原加代子著者代表；「在宅看護論」，医学書院，2016 年 第 4 版第 4 刷，（ISBN 978-4-260-01586-8）		
最終到達目標		学習法
1. 日常生活援助技術について理解することができる。 2. 在宅で実施される医療技術の留意点が理解できる。 3. 在宅看護学実習がスムーズに実施できる。		講義 演習 ロールプレイ等
評価方法および評価基準		
試験 50%、実技演習 40%、出席・授業態度・レポート 10%等を総合して評価する。 60 点以上を単位認定とする。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENM0401			—に定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野	
授業科目名	終末期看護学	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	○
講義目的						
終末期にある人とその家族の特徴及び看護介入方法について概要が理解できる。また、自己の死生観を表現できる終末期の倫理的配慮に基づく姿勢の育成を理解し学ぶことができる。						
授業内容						
人の死とは何かを理解することができるように、終末期ケアの背景、終末期ケアに関わる看護師として倫理的態度を養うことの重要性について学修する。さらに、対象者が経験する疼痛、薬物療法などの緩和ケアを理解するための授業展開の工夫や終末期にある人の身体的、社会的、霊的苦痛にある人の特徴と援助方法、対象者だけでなく家族の心理・介護負担などを考慮した看護、自己の死生観と終末期ケアについて考え理解し終末期患者への看護を学修する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	終末期ケア・緩和ケアの定義及び背景			終末期ケア・緩和ケアの定義及び背景について理解することができる。		
2	がん患者と家族の在宅療養の特徴			がん患者と家族の在宅療養の特徴について理解することができる。		
3	生活文化に基づく療養者と家族の意向の尊重 看護師として倫理的態度			住み慣れた自宅及び環境で、療養者と家族の意向を尊重し、人生の最終章を迎えることの意味について考えることができる。		
4	疼痛管理が必要なヘルスアセスメント及び看護			全人的苦痛について理解し、対象者の症状に合った看護について考えることができる。		
5	終末期看護と家族へのケア			終末期状態の療養者とその家族へのケアについて理解することができる。		
6	最後の望みを叶えるチームアプローチ			療養者の最後の望みが実現するために、チームアプローチが有効であることを理解することができる。		
7	その人、その家らしい看取りの物語「家で看取ったあの人のこと」			様々な事例を通して在宅での看取りについて考え、自己の死生観を培うことができる。		
8	総括			今までに学修した内容から、在宅における看取り及び自己の死生観についてレポートに記述することができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
1. 授業はやむを得ない理由でない限り毎回参加すること 2. 演習後の学びを演習ごとに提出すること 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
テキスト：『在宅におけるエンド・オブ・ライフ・ケア実践書 死を迎える人々の人生の質・価値をたかめるために』；島内節・内田陽子編集，ミネルヴァ書房，2014 年，2600 円+税（ISBN 9784623074082） その他：必要時資料配布						
最終到達目標				学習法		
在宅における看取り及び自己の死生観についてレポートに記述することができる。				講義、グループワーク		
評価方法および評価基準						
レポート 60%、出席・グループワーク参加態度 40%等を総合して評価する。60 点以上を認定とする。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENM0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野	
授業科目名	在宅・終末期看護援助論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	○
講義目的						
1. 終末期ケアについて、人が加齢や疾患によって終末期に至る経過を一連のものとして理解し、在宅エンド・オブ・ライフ・ケアに関する国内外の終末期ケア制度や背景を理解する。 2. 終末期に携わる各専門職の連携および訪問看護のケア体制、終末期における倫理的配慮に基づく看護の姿勢を修得する。						
授業内容						
終末期ケアについて、国内外の制度や背景を理解し、日本における終末期ケアの現状と照らして考えるための授業展開を行う。さらに、終末期に携わる専門職の連携を通して人生の終焉について学ぶ。総合的に終末期にある人の身体的・社会的・心理的・霊的苦痛の特徴を理解し、その看護介入を通して、各専門職の連携および訪問看護ステーションのケア体制について理論・知識を統合して学ぶ。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	導入：在宅・終末期看護援助論の目的、科目構成 在宅・終末期における国内外のエンド・オブ・ライフ・ケアシステム			在宅・終末期における国内外のエンド・オブ・ライフ・ケアシステムについて理解できる。		
2	在宅エンド・オブ・ライフにおける訪問看護制度およびチームケアを含む関連制度			訪問看護制度および関連制度について理解できる。		
3	在宅エンド・オブ・ライフにおける緩和ケア（チーム／地域での活動）			緩和ケア（チーム／地域での活動）について理解できる。		
4	在宅エンド・オブ・ライフの緩和ケアにおける倫理的諸問題			緩和ケアにおける倫理的諸問題について理解できる。		
5	訪問看護による看取りにむけた在宅療養移行支援（準備期・開始期における看護ケア／安定期・看取りにおける看護ケア）			看取りにむけた在宅療養移行支援について理解できる。		
6	在宅で療養し看取りを迎える人々のエンド・オブ・ライフ・ケアと在宅における終末期の病態			在宅における終末期の病態について理解できる。		
7	在宅エンド・オブ・ライフにおける 望む生き方の実現を支える在宅看護ケアマネジメント			在宅看護ケアマネジメントについて理解できる。		
8	まとめ			これまでの講義を振り返り、在宅看護についての理解を深めることができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
・ 授業は、やむお得不い理由でない限り、毎回参加すること。 ・ 課題の期日・時間厳守とする。 ・ 療養者を自分や家族など生活者として身近にとらえ、考えながら授業に参加して下さい。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
・ 資料の配布および文献の紹介などを適宜行う。						
最終到達目標				学習法		
在宅エンド・オブ・ライフにおける病状、苦痛や苦悩、生活背景、生きる価値や希望、他者との関係の築き方等の個性・多様性の理解を深め、個別ケアを導く学びができる。				筆記試験 レポート		
評価方法および評価基準						
筆記試験（70％） レポート（20％） 出席状況・授業態度（10％） S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENM0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野	
授業科目名	在宅・終末期看護技術論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	○
講義目的						
1. 在宅での看取りの理論と知識を統合して、在宅終末期における「その人がその人らしい生を全うする」ために必要な技術を修得する。						
2. 在宅エンド・オブ・ライフ・ケアにおける援助の基盤となる考え方、問題に向き合える姿勢を養う。						
授業内容						
在宅終末期における全人的苦痛への緩和ケア（Palliative Care）、家族看護も含めた支援方法、他職種の連携方法などを含む在宅終末期ケアの知識・技術・実感を専門的な視点で統合した看護技術の修得ができる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	在宅エンド・オブ・ライフ・ケアにおける症状マネジメント（身体症状とケア方法）			症状のメカニズムの理解とケア方法について理解できる。		
2	在宅エンド・オブ・ライフ・ケアにおけるスピリチュアルケアとコミュニケーション			家族ケア、スピリチュアルケア、コミュニケーションについて理解できる。		
3	自宅でのペインマネジメント、呼吸器・嚥下障害ケア			インマネジメント、呼吸器・嚥下障害ケアについて理解できる。		
4	在宅エンド・オブ・ライフにおいて、用いる薬剤と治療ケア			薬剤と治療ケアについて理解できる。		
5	在宅エンド・オブ・ライフに発生しやすいその他の症状の変化			発生しやすいその他の症状の変化について理解できる。		
6	在宅エンド・オブ・ライフにおける心理・精神的ケア			精神・社会・スピリチュアルな問題について理解できる。		
7	精神的障害をもつ事例のエンド・オブ・ライフ・ケア			精神的障害をもつ患者のエンド・オブ・ライフについて理解できる。		
8	こどものエンド・オブ・ライフのニーズとケア			こどものエンド・オブ・ライフについて理解できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
・授業は、やむを得ない理由でない限り、毎回参加すること。						
・課題の期日・時間厳守とする。						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
資料の配布および文献の紹介などを適宜行う。						
最終到達目標					学習法	
在宅エンド・オブ・ライフ・ケアにおける症状マネージメント・コミュニケーション・家族ケアの在り方について、検討し方略について考えることができる。					事例検討 レポート	
評価方法および評価基準						
事前事後レポート(30%) 最終レポート（50%） 出席状況・授業態度(20%)						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）						
A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）						
B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）						
C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている						
D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENM0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野	
授業科目名	在宅・終末期看護学外演習	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	○
講義目的						
本人・家族が安心して在宅で療養するために、在宅に向けた療養移行の対応、指導方法について、病院の医師と看護師の情報共有および連携について説明や見学を通して学び、実際の体験から専門性を深め、実践力を養うことができる。						
授業内容						
ここでは、実習に向けた授業内容を通して展開する。在宅終末期を希望する本人・家族に対して、どのような看護介入が実践されているかを理解するため、最期を豊かに穏やかに迎えるための環境や体制がどのように整備されているのか、その内容を深め総合的な視点で看取りについて考えることができる。そのためには病院の地域連携室、緩和ケア病棟、在宅ケアに必要な福祉用具、医療機器等の見学や直接専門職の活動の説明を受け、在宅看護、専門看護師または在宅看護のスペシャリストが実際に果たしている役割について学ぶことで訪問看護の役割を明確にして包括的なケア方法とマネジメント方法を理解することができる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	終末期ケアの地域連携・準備・社会資源の活用方法			終末期ケアの地域連携・準備・社会資源の活用方法について理解できる。		
2	在宅ケアの包括的視点と具体的な実践方法			在宅ケアの包括的視点と具体的な実践方法について理解できる。		
3	病院の地域連携室の見学（1日）			地域連携室の機能や役割について理解できる。		
4	訪問診療医・訪問看護師の連携、緩和ケア病棟の専門看護師からのレクチャー（1日）			専門職の講義を受けることで訪問看護及び緩和ケア病棟についての知見を深めることができる。		
5	社会資源、医療機器（1日）			社会資源や医療機器について理解できる。		
6	愛媛県の在宅システムの現状（専門家によるレクチャー）			愛媛県の在宅システムの現状について理解することができる。		
7	まとめ			講義内容を振り返り在宅終末期看護について理解を深めることができる。		
8	まとめ			講義内容を振り返り在宅終末期看護について理解を深めることができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
・授業は、やむを得ない理由でない限り、毎回参加すること。 ・課題の期日・時間厳守とする。 ・各領域で学んだ知識・技術や自己学習を生かして、考えながら、積極的に学んでください。看護学生として、身だしなみや言葉使いなど、良識ある言動がとれるようにしましょう。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
・資料の配布および文献の紹介などを適宜行う。						
最終到達目標				学習法		
在宅療養者に必要な社会資源・制度・方法の知識を事例に結び付けて展開でき、実習で学ぶべき課題を明らかにできる。				レポート		
評価方法および評価基準						
事前事後レポート(25%) 最終レポート（50%） 出席・授業姿勢と態度(25%) S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENM0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－在宅看護学				広い視野	
授業科目名	在宅・終末期看護演習	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	○
講義目的						
在宅終末期ケアの理論・知識・技術を通して、終末期の特徴を理解する。また、終末期に発生する症状の緩和ケアおよび基本的ニーズに対する対応方法、家族看護について実際の体験学習を深めるための基礎的な在宅看護技術の習得ができる。						
授業内容						
ここでは、症状の緩和方法や対症療法について基礎的な技術を修得し、実際の看護方法に沿って学ぶ。さらに、訪問看護ステーションの管理、貢献、連携などを含むマネジメント方法を間理解する。そのためには、今まで学修してきた在宅看護、終末期ケアの理論、知識の集大成として学修を深める。さらに自己の死生観を深める機会とする。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	青年期・壮年期にある人のエンド・オブ・ライフ			死に至る経過、全人的苦痛、インフォームドチョイス、症状コントロール、死の受容、死の徴候、危篤時・臨死時のケア、チームアプローチ、家族の死、喪失、悲嘆について理解できる。		
2	終末期にある患者・家族の生活の援助			ターミナルケア、リラクゼーション、看取り、家族ケア、エンゼルケアについて理解できる。		
3	在宅医療チームの連携および訪問看護ステーションのエンド・オブ・ライフケア（残された家族の家族機能の再構築への支援）			グリーフケア、家族の危機、家族機能・家族システムの変化、ソーシャルサポートについて理解できる。		
4	緊急時のニーズとケア及び災害に伴う症状悪化とエンド・オブ・ライフケア			緊急時訪問看護、災害時の訪問看護ステーション、害に伴う症状悪化について理解できる。		
5	ケア内容の技術展開			これまでの講義内容を振り返り理解を深めることができる。		
6	ケア内容の技術展開			これまでの講義内容を振り返り理解を深めることができる。		
7	ケア内容の技術展開の発表			学びを共有することで知見を深めることができる。		
8	ケア内容の技術展開およびまとめ			学びを共有することで知見を深めることができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
授業は、やむを得ない理由でない限り、毎回参加すること。課題の期日・時間厳守とすること。在宅・終末期にある人とその家族について、多面的に理解を深める必要があることから真摯な姿勢で臨んでください。また、同時に死生観をも深めるきっかけ作りとしますので自己研鑽に役立てください。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
・資料の配布および文献の紹介などを適宜行う。						
最終到達目標				学習法		
自分の生の一部としてエンド・オブ・ライフについて考え、医療依存度の高い在宅療養者に対する看護実践を行っている訪問看護ステーションにおいて、アセスメントおよび療養者・家族への直接ケア、倫理的な判断の能力を学ぶ。				レポート, グループワーク プレゼン, ロールプレイ		
評価方法および評価基準						
事前事後レポート（30%）最終レポート（50%） プレゼン・ロールプレイ・グループワークへの参加度（20%） S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENN0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野	
授業科目名	地域看護・公衆衛生看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	宮崎博子				探求心	○
講義目的						
1. 地域での公衆衛生看護活動の対象・目的・方法・活動の場について理解する。 2. Health for All の戦略について理解する（プライマリーヘルスケア・ヘルスプロモーション）。 3. 公衆衛生看護活動における倫理的課題に配慮した看護職の役割が理解できる。						
授業内容						
地域住民全体の健康水準の向上を目的に健康増進、各分野の保健活動（母子、成人、老年、難病、精神、災害、国際等）を保健師は行う。方法として、健康相談、健康教育、家庭訪問、健康診断、機能訓練、地域組織づくり活動等がある。活動分野は行政、産業、学校、国際保健分野等である。これらの活動について概要を学ぶ。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	公衆衛生看護学の理念			公衆衛生を基盤とした看護学として、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目的とする。これらの概念を理解し、説明することが出来る。		
2	公衆衛生看護学の歴史			歴史を概観し変遷、特徴を探る。		
3	社会環境の変化と健康課題			社会情勢、環境の変化・健康の社会決定要因、課題解決資源等を考察する。		
4	公衆衛生看護の基盤となる概念			基盤となる概念、基本的人権の尊重、看護の責任について考える。		
5	対象と活動の展開			対象の特徴、生活者としての個人、家族、地域と集団を知り、活動の方法を理解する。		
6	活動展開の場			行政、職域（産業）、学校、医療機関、社会福祉施設等の場を考え、具体的活動、役割を学ぶ。		
7	行政機関での保健師活動 ①			住民の健康づくり、母子保健活動等役割を考え、必要性を考察する。		
8	行政機関での保健師活動 ②			住民の成人、老年保健活動、精神、難病保健活動について理解し、保健師の果たす役割を考察する。		
9	産業の場での保健師活動			労働者の身体的、精神的健康、保持増進について理解する。		
10	学校での場での保健師活動			児童生徒の健康課題と身体、精神的健康を守るための方策を考察する。		
11	計画策定と施策化			保健計画策定の必要性と策定プロセス、実施、評価を理解する。		
12	公衆衛生看護活動の計画・実施・評価の実際			地域診断の手法・計画・実践・評価の流れを理解する。		
13	公衆衛生看護管理			国際保健、感染症等の国際的な対応事例の方法から管理を考察する。		
14	健康危機管理			平常時、災害時、災害直後とその後のニーズと対応を理解する。		
15	公衆衛生看護活動の実際			公衆衛生看護活動の今後の課題・役割・方向を考察する。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>地域看護、公衆衛生看護活動の基盤となる科目であり、在宅看護学、保健師コースと連動する科目である。種々の情報を集約し具体的な健康課題について、活動の対象、方法を整理し自分の考えをまとめる。その為に新聞、テレビ等メディアや本等で、現在の世界、日本の人々の健康課題に対して自分の言葉で発言する機会を積極的にもつことが重要である。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
『公衆衛生看護学概論 第4版』：医学書院, 2015 年, 3, 240 円 (ISBN 978-4-260-02004-6)	
最終到達目標	学習法
地域住民の生活の現状と健康課題の解決について理解し、個人並びに組織の対処行動を看護職として、自分の言葉で語ることができる。	自己事前学習から課題をつかみ、講義、グループディスカッション等の方法で仲間と協議したり、レポートをまとめる。
評価方法および評価基準	
<p>試験 70%、課題レポート 20%</p> <p>講義、協議等参加 10%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENN0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目—広域看護学—地域看護学				広い視野	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅰ	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	宮崎博子, 岡多枝子, 藤本千里, 日川幸江				探求心	○
講義目的						
公衆衛生看護活動は、地域の人々が自ら健康とその要因をコントロールし、維持・改善できるように援助することが求められる。地域の人々を母子、成人、高齢者、難病、感染症などの対象別に健康問題の特徴を理解し、それらに対する健康課題と支援策を学習することを目的とする。						
授業内容						
対象ごとに動向と法律などの制度、根拠データ、課題、社会資源、指導方法などを理解する。それに基づいて、グループワークを行い、関心のある課題を取り上げ、地域の中でどのようなサービスや支援が行われているか、実際の状況を調べ、まとめて発表する。こうした中で地域の人々が持つ健康課題と支援策を理解できる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	母子保健の動向		母子の健康関連指標の動向をしらべ、母子保健施策との関連を理解する。			
2	母子保健の課題と保健指導		母子保健各期の健康課題を調べ具体的な方法を知る。 課題に対する保健指導の特徴等を理解する。			
3	母子保健の課題と保健指導		母子保健各期の健康課題を調べ具体的な方法を知る。 課題に対する保健指導の特徴等を理解する。			
4	障害児・者の動向		障害の種類、児、者の数の推移から我が国の障害者の動向を知る。また、我が国の障害者に関する捉え方や関係法整備等、対策について経緯等理解する。			
5	障害児・者が抱える課題と保健指導		障害児・者対策の経緯と障害児・者支援に関する関連法との関係を理解する。 障害児・者に対する保健指導の実際を理解する。			
6	障害児・者が抱える課題と保健指導		障害児・者対策の経緯と障害児・者支援に関する関連法との関係を理解する。 障害児・者に対する保健指導の実際を理解する。			
7	母子保健、障害児・者の課題と保健指導の実際（演習）		提示された事例の健康課題・問題を抽出し保健指導案を検討する。			
8	母子保健、障害児・者の課題と保健指導の実際（演習）		提示された事例の健康課題・問題を抽出し保健指導案を検討する。			
9	母子保健、障害児・者の課題と保健指導の実際（発表）		完成した指導案を発表し、全員で討議を重ね理解を深める。			
10	成人保健の動向		成人保健指導について、生活習慣病の概念や対策の変遷を理解する。			
11	成人保健の課題と保健指導		健康日本 21 や健康増進法の主旨、骨子を調べ理解する。 特定健診・特定保健指導の特徴と実態を理解する。			
12	成人保健の課題と保健指導		健康日本 21 や健康増進法の主旨、骨子を調べ理解する。 特定健診・特定保健指導の特徴と実態を理解する。			
13	高齢者保健の動向		我が国の高齢化の特徴を年次推移や将来推計から理解する。高齢化の進展にともなう保健・福祉施策の変遷について特徴を理解する。			

14	高齢者保健の課題と保健指導	高齢者の健康や生活の特徴から在宅要援護高齢者の生活支援を理解する。高齢者が抱える課題を家族支援の視点も含め、保健指導の特徴を理解する。
15	高齢者保健の課題と保健指導	高齢者の健康や生活の特徴から在宅要援護高齢者の生活支援を理解する。高齢者が抱える課題を家族支援の視点も含め、保健指導の特徴を理解する。
16	成人・高齢者保健の課題と保健指導（演習）	7～9 回同様に、提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。本演習では、生活習慣が確立し修正が困難な成人期における保健指導の特徴を理解する。
17	成人・高齢者保健の課題と保健指導（演習）	7～9 回同様に、提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。本演習では、生活習慣が確立し修正が困難な成人期における保健指導の特徴を理解する。
18	成人・高齢者保健の課題と保健指導（発表）	7～9 回同様に、提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。本演習では、生活習慣が確立し修正が困難な成人期における保健指導の特徴を理解する。
19	精神保健の動向	精神保健の理念と歴史的変遷を理解する。特に措置制度を中心とした対策からノーマライゼーション、共生などの考え方を基にした現代の法整備について理解する。
20	精神保健の課題と保健指導	精神障害者の生活上の障害を理解し、支援する他職種（精神科医、精神保健福祉士等）との連携や調整も含めた保健師の活動を理解する。
21	精神保健の課題と保健指導（演習）	提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。ここでは事例への直接的な保健指導よりも連携の相手や方法などを中心に検討し理解を深める。
22	精神保健の課題と保健指導（発表）	提示された事例の健康課題・問題を抽出し、保健指導案を検討する。ここでは事例への直接的な保健指導よりも連携の相手や方法などを中心に検討し理解を深める。
23	難病対策の動向	難病対策の理念・歴史的変遷を理解する。難病の定義、難病の患者に対する医療等に関する法律、目的、基本理念を理解する。
24	難病の課題と保健指導（演習と発表）	難病患者を支援する保健師の活動事例から保健指導を考察する。
25	感染症の動向	感染症対策の歴史的変遷を理解する。感染者、感染症患者の動向・特徴を考察する。
26	感染症の課題と保健指導	近年の感染症保健の課題と保健施策の方向、施策等理解し、考察する。
27	感染症の課題と保健指導	近年の感染症保健の課題と保健施策の方向、施策等理解し、考察する。
28	健康づくり活動の動向	健康づくり対策の変遷と国民健康づくり活動を理解する。
29	健康づくり活動の課題と保健指導	生活習慣病の特徴とその対策・保健指導を理解する。実在する自治体の健康増進計画を用いて理解を深める。
30	健康づくり活動の課題と保健指導	生活習慣病の特徴とその対策・保健指導を理解する。実在する自治体の健康増進計画を用いて理解を深める。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<ul style="list-style-type: none"> ・保健師過程選択者のみ受講 ・自分自身も社会の一員という認識で、積極的に参加する <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
『公衆衛生看護学 各論Ⅰ 最新版』：日本看護協会出版会，4,600 円 （ISBN 978-4-8180-1959-1） 『国民衛生の動向 最新版』：厚生労働統計協会，2,500 円	
最終到達目標	学習法
地域で生活する各発達段階、健康レベルに応じた個人、家族及び集団の健康状態を評価できる能力を身につける。住民が主体的に課題解決を出来るように支援する能力を獲得する。	講義、グループでの討議、演習、発表等を健康課題ごとに修得する。
評価方法および評価基準	
試験 80%、課題レポート 10%、授業参加態度 10%で総合的に評価 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない	

授業コード	ENN0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目—広域看護学—地域看護学				広い視野	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅱ	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	岡多枝子, 藤本千里, 日川幸江				探求心	○
講義目的						
1. 公衆衛生看護の基本的技術として、保健指導、家庭訪問、健康教育、グループ支援と組織化、地域ケアシステムの構築等、活動の方法について理解し、技術の一部を演習により身につける。 2. 各活動を系統的に理解し、政策、施策との関連を理解し、事業企画、立案、評価まで一連の過程を学習する。						
授業内容						
公衆衛生看護の基本的技術として、保健指導、家庭訪問、健康教育、グループ支援と組織化、地域ケアシステムの構築等、活動について基本となる理論を理解することができる。実際の保健指導技術の展開は演習で行い、家庭訪問の展開や健康教育等、実際を想定した企画、立案、実施、評価まで行う。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	保健指導の基本		歴史的変遷、基本姿勢、求められる機能・技術について理解する。			
2	保健指導の基盤となる理論		保健行動理論と保健指導で活用できる理論等多方面から考察する。			
3	保健指導の展開 ①		保健指導技術、指導の場、健康相談、健康診査場面における保健師の技術についてロールプレイ等で演習する。			
4	保健指導の展開 ②		保健指導技術、指導の場、健康相談、健康診査場面における保健師の技術についてロールプレイ等で演習する。			
5	家庭訪問演習 ①		家庭訪問の目的、機能、プロセス等を修得し具体的手順、準備、実施、記録、評価等理解する。			
6	家庭訪問演習 ②		家庭訪問の目的、機能、プロセス等を修得し具体的手順、準備、実施、記録、評価等理解する。			
7	保健指導の展開 ③		地域における健康教育の位置づけ、意義等理解する。			
8	健康教育演習 ①		地域の健康課題から健康教育の企画、技術、教育媒体の作成、実施、評価等一連の演習でグループ協働作業を行い、発表し評価する。			
9	健康教育演習 ②		地域の健康課題から健康教育の企画、技術、教育媒体の作成、実施、評価等一連の演習でグループ協働作業を行い、発表し評価する。			
10	健康教育演習 ③		地域の健康課題から健康教育の企画、技術、教育媒体の作成、実施、評価等一連の演習でグループ協働作業を行い、発表し評価する。			
11	セルフヘルプグループ、地区組織活動の理論		地区組織活動の歴史、係わる概念、保健師の役割について考察する。			
12	住民組織の自立支援・活動の実際		組織活動で利用出来る理論、方法論を理解し自立支援にむけた住民協働の実際を学ぶ。			
13	政策・施策への事業企画・立案と評価		組織活動から波及する政策、施策化への一連の流れを考察する。			
14	事業企画・立案と評価		グループで具体的な事業の企画・立案・実施・評価等事業展開を予測し、経験の場をつくる。			
15	事業企画・立案と評価について発表		グループ、テーマごとに発表する。			

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>グループにおける協働作業に積極的な態度で参加すること</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>『標準保健師講座 2 地域看護技術』：中村裕美子，医学書院，2009 年，3,240 円 (ISBN 978-4-260-00750-4)</p>	
最終到達目標	学習法
<p>地域住民が主体的に問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な接近方法、技術を選択し介入することができる。</p>	<p>講義、グループワーク、演習等</p>
評価方法および評価基準	
<p>試験 70%、グループワークへの参加状況 20%、レポート 5%、授業への参加状況 5%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENN0401			ディプロマポリシーに 定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅲ	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	宮崎博子, 藤本千里, 日川幸江				探求心	○
講義目的						
公衆衛生看護活動実習の準備科目である。公衆衛生看護活動の理論と実際について、保健所と市町村、産業等の場での具体的な展開を学生自身が理解し、計画、実施、評価できるよう学ぶ。						
授業内容						
1～3年生で修得した公衆衛生看護活動の理論と実際を用いて、保健所と市町村、産業の場での具体的な保健師活動の展開を復習するとともに、家庭訪問、健康教育、組織育成等の実際の演習を通して、看護活動が出来る。さらに実習地区の健康水準と、保健師活動の計画、実践、評価について、学生各自の実習地区の実態を演習で把握出来、効果的な実習につながる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	公衆衛生看護活動の技術の理解			個別保健指導を理解する。		
2	公衆衛生看護活動の技術の理解			集団保健指導を理解する。		
3	公衆衛生看護活動の技術の理解			地区組織活動を理解する。		
4	公衆衛生看護活動の技術の理解			地域ケアシステムを理解する。		
5	公衆衛生看護活動の技術の理解			保健福祉計画を理解する。		
6	公衆衛生看護活動の技術の理解			PDCAサイクルを理解する。		
7	実習地区の地域診断			地域診断について理解する。		
8	実習地区の地域診断			地域診断の進め方ができる。		
9	実習地区の地域診断			実習地の地域診断を発表する。		
10	実習地区の地域診断			実習地の地域診断を発表する。		
11	健康情報の収集と分析			健康情報について理解する。		
12	健康情報の収集と分析			健康情報の収集ができる。		
13	健康情報の収集と分析			健康情報の収集ができる。		
14	健康情報の収集と分析			健康情報の収集が出来る。		
15	健康情報の収集と分析			健康情報の分析を理解する。		
16	健康情報の収集と分析			健康情報の分析を理解する。		
17	健康課題の抽出方法b			健康課題の抽出ができる。		
18	健康課題の抽出方法b			健康課題の抽出ができる。		
19	健康課題の抽出方法b			健康課題の抽出ができる。		
20	実習地区での健康課題			実習地区での健康課題を発表できる。		
21	実習地区での健康課題			実習地区での健康課題を発表できる。		
22	実習地区での健康課題			実習地区での健康課題を発表できる。		
23	健康課題の把握と保健師活動での展開			健康課題を保健師活動へ展開することが理解できる。		
24	健康課題の把握と保健師活動での展開			健康課題を保健師活動へ展開することが理解できる。		
25	健康課題の把握と保健師活動での展開			健康課題を保健師活動へ結びつけることが出来る		
26	産業保健における保健師活動の展開			産業保健における保健師活動の展開を理解する。		
27	産業保健における保健師活動の展開			産業保健における保健師活動の展開をすることができる。		
28	学校保健活動の展開			学校保健活動の展開を理解する。		
29	学校保健活動の展開			学校保健活動の展開をすることができる。		
30	地域住民の健康ニーズと保健師活動展開			全体の活動についてまとめができる。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>グループワークには積極的に参加すること</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>『地域看護診断 第2版』：金川克子，東京大学出版会，2011 年，2,940 円 (ISBN 978-4130624084)</p>	
最終到達目標	学習法
<p>公衆衛生看護活動の現場実習で、実習地の健康課題の抽出ができ 具体的な支援方法まで考察し、実習地で確認、評価ができる。</p>	<p>演習、グループワーク、実技</p>
評価方法および評価基準	
<p>グループワークへの参加状況 30%</p> <p>地域診断、健康課題抽出等の成果物 50%、レポート 20%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENN0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野	
授業科目名	公衆衛生看護援助論Ⅳ	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4 年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	宮崎博子				探求心	○
講義目的						
公衆衛生看護管理は地域の人々の健康水準の向上を目指して、人、物、金、情報、組織等の資源を効果的、効率的に活用することの理解が出来る。						
授業内容						
公衆衛生看護管理は地域の健康課題解決に向けて、保健福祉計画等の策定と実施、評価を行う。このために行われる情報管理、組織の運営管理、事業・業務管理、予算管理、人事管理、人材育成、地域ケアの質の保証等の活動の必要性について理解する。さらに健康危機管理について平常時からの管理活動と災害時の活動について学ぶ。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	事業計画と保健師の役割		公衆衛生看護活動における計画の意義と保健師の役割を理解する			
2	計画策定と予算		計画策定で果たす保健師の役割と予算を理解する			
3	公衆衛生看護管理の特色・基本		管理の特色・基本について考察する			
4	情報管理、組織運営管理、事業・業務管理		組織における管理活動の具体的な理解をする			
5	予算・人事管理、人材の育成		組織における管理活動の具体的な理解をする			
6	健康危機管理		健康危機に際して保健師の役割を理解する			
7	自然災害時の保健師活動		地震、津波、台風等自然災害時の活動を考察する			
8	災害発生後から回復期の保健活動		平常時、発生時、発生後、回復期の保健活動全般の考察をする			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
日ごろから社会情勢に関心を持ち、公衆衛生看護活動との関連、活動の展開、継続について身近なニュースから考察すること。						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『最新保健学講座 5 公衆衛生看護管理論』：平野かよ子，メジカルフレンド社，2015 年，3,240 円 (ISBN 978-4-8392-2183-6)						
最終到達目標				学習法		
社会、地域情勢の中で公衆衛生看護活動が果たす役割について理解し、潜在化している健康問題を組織的に対処することが理解できる。				講義、グループワーク		
評価方法および評価基準						
授業への参加状況 10% レポート 10% 試験 80%						
S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)						
A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)						
B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)						
C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている						
D(60 点未満)：C のレベルに達していない						

授業コード	ENN0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野	
授業科目名	学校保健	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	2 年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	岡多枝子, 矢野美恵子				探求心	○
講義目的						
1. 学校保健の理念と歴史を理解し、目的と現状を考察する。 2. 学校保健安全活動の制度とシステム、対象と活動内容、健康課題を理解する。 3. 学校保健安全委員会や児童・生徒保健委員会などの組織的活動と校内外の連携活動を理解する。						
授業内容						
学校教育の目的を達成するため、児童・生徒・教職員の健康の保持増進や健康相談、健康教育、健康診断、学校給食、特別支援教育、その他の疾病予防、救急看護、環境衛生等の学校保健活動を学ぶ。児童生徒の心身の発達や健康問題を小児保健、精神保健の立場から概観するとともに、多様な課題を計画的、組織的に展開する学校保健計画や学校・家庭・地域社会が一体となつて行う組織的保健活動の範囲を学ぶ。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	学校保健の意義と目的		学校保健の意義と目的を考え整理する。			
2	学齢期の健康状態		発達段階に応じた健康状態や健康増進の現代的課題を考える。			
3	学校保健行政の動向、関係法令		学校保健行政の動向や職務関係法令を理解する。			
4	学校保健の活動内容 (1)		疾病および健康障害（病気予防のために）を考える。			
5	学校保健の活動内容 (2)		感染症とその対応（感染しない、させないために）を理解する。			
6	学校保健の活動内容 (3)		心の健康問題とその対応策（豊かな心を保つために）を考える。			
7	学校保健の活動内容 (4)		発達や行動上の課題と特別支援教育を理解する。			
8	学校保健の活動内容 (5)		保健室の役割（学校保健センターとして）を考える。			
9	学校保健の活動内容 (6)		セーフティ・プロモーションと学校安全を理解する。			
10	学校保健の活動内容 (7)		学校環境衛生（快適な学校づくり）を理解する。			
11	学校保健の活動内容 (8)		健康教育（新たな健康教育の創造へ）を理解する。			
12	学校保健の活動内容 (9)		学校給食と食育を理解する。			
13	学校保健の活動内容 (10)		教職員の健康（円滑な学校教育を目指して）を理解する。			
14	学校保健の活動内容 (11)		連携（学校保健を推進するために）を考える。			
15	まとめとリフレクション		学校保健に関する総括と評価を行う。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
提出物や、授業中の主体的で対話的な学びを評価の対象とする。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『改訂 8 版 学校保健マニュアル』：後藤衛・岡田加奈子編, 南山堂, 4300 円+税, (ISBN 978-4-525-18468-1)						
最終到達目標			学習法			
1. 学校保健の目的と活動内容が説明できる（知識・理解・表現）。 2. 学校保健活動を実践できる（態度・表現）。 3. 学校保健の意義と目的の活動内容養護教諭として適切な態度が身につけている（態度）。4. 学校保健の意義と目的の活動内容養護教諭像を描くことができる（意欲・関心）。			教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んでください。本講義では、アクティブラーニングを重視した講義を 4 割、学生の取り組む課題 3 割、課題テスト 3 割を目安とした学習法で進める。			
評価方法および評価基準						
講義中の活動 4 割、期末試験 4 割、課題レポート 2 割。 S(90-100 点)：A に加え医療等専門職の働きが理解できる。 A(80- 89 点)：B に加え家族の多様性が理解できる。C(60- 69 点)：家族が具体的に理解できる。 B(70- 79 点)：C に加え家族の課題が理解できる。D(60 点未満)：C のレベルに達していない。						

授業コード	ENN0701			豊かな人間性 ーに定める養成する能力 デイ・ロマポリシ	豊かな人間性	
科目区分	専門科目ー広域看護学ー地域看護学				広い視野	
授業科目名	養護概説	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	岡 多枝子				探求心	○
講義目的						
本科目は、養護教諭の専門職としての学問的な体系を形成する基礎的な科目である。学校教育における養護教諭の職務、役割を理解して養護教諭としての専門性及び実践力を修得する。また、保健室の機能と意義を理解して保健室経営に必要な理論と方法、学校内組織の一員としての在り方を学び合う。さらに、少子高齢化や核家族化、地域社会の変化や雇用・家計状況等の諸課題が成長・発達過程にある子どもに及ぼす影響について考察するとともに、保健・医療・福祉などの専門職としてどう関わるのかを主体的、対話的に学び合う。						
授業内容						
児童生徒等の健康の保持増進にむけた保健教育と保健管理、組織活動の実際、保健室経営計画の立案を学ぶ。心疾患、腎疾患、糖尿病、アレルギー疾患等の保健管理や保健指導を理解し、具体的な対応の実際について考察する。また、救急処置の実際と学校の危機対応などの学校安全、食育と学校給食、心の健康問題に応じた具体的な健康相談の実際を理解し、学校保健活動の推進と評価のあり方を考え合う。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	オリエンテーション		養護概論に関する主体的な学習と評価を考える。			
2	養護の本質と概念		教育と養護について理解を深める。			
3	養護教諭制度と職務の変遷		制度の沿革を調べるとともに配置の推移を学ぶ。			
4	養護教諭の資質能力		専門職の資質と連携・調整・研究能力等を考える。			
5	養護教諭の教育と役割		養護教諭の養成とOJT、役割を考える。			
6	健康教育とヘルスプロモーション		健康と教育、健康推進の実際を理解する。			
7	学校保健計画と健康実態の把握		法的根拠を調べて計画作成や保健調査、健康観察を考える。			
8	保健室の運営		保健室の機能や運営、保健室活動の評価を考える。			
9	健康教育と健康相談、学校給食		多職種協働による健康教育と健康相談、学校給食を学ぶ。			
10	健康診断と健康観察		学校医と行う健康診断と健康観察の実際を理解する。			
11	情報活用と学校安全、救急処置		情報リテラシーを考え、安全教育と安全管理を学ぶ。			
12	学校環境衛生と感染症予防		学校環境管理と感染症予防の法的根拠と実際を理解する。			
13	組織活動と連携活動		地域に開かれた学校保健組織と連携の意義を学ぶ。			
14	養護教諭による活動の展開と評価		養護教諭による活動の展開例と評価の意義・方法を理解する。			
15	まとめとリフレクション		養護概論に関する総括と評価を行う。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
提出物や、授業中の主体的で対話的な学びを評価の対象とする。 科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『4訂 養護概説』：三木とみ子，ぎょうせい，2009年，3,600円（ISBN 978-4324085943）						
最終到達目標			学習法			
1. 養護の概念が説明できる（知識・理解・表現）。 2. 養護概念を理解し実践できる（理解・態度）。 3. 養護教諭として適切な態度が身についている（態度）。 4. 養護教諭像を描くことができる（意欲・関心）。			教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んでください。本講義では、アクティブラーニングを重視した講義を4割、学生の取り組む課題3割、課題テスト3割を目安とした学習法で進める。			
評価方法および評価基準						
講義中の活動4割、期末試験4割、課題レポート2割。 S(90-100点)、Aに加え学校保健活動の推進役としての働きが理解できる。 A(80-89点)、Bに加え児童生徒の多様性が理解できる。C(60-69点)、養護教諭像が具体的に理解できる。 B(70-79点)、Cに加え学校での養護教諭の取組み課題が理解できる。D(60点未満)、Cのレベルに達していない。						

授業コード	ENN0801			豊かな人間性 に定める養成す る能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－地域看護学				広い視野	
授業科目名	健康相談活動論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	3 年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	岡多枝子, 矢野美恵子				探求心	○
講義目的						
いじめや不登校、薬物乱用、性の逸脱行動、新たな感染症の出現等、児童・生徒の健康を阻害する要因が増加している。そこで、健康相談活動の基礎的な知識・技法を学び実践する能力を修得する。また、健康相談に関する教職員の共通理解やマイクロカウンセリングへの理解を進める。						
授業内容						
1. 健康相談の基本的な考え方とその進め方、支援体制づくりに関する理解を深める。 2. 健康相談に生かせる理論や方法に関してグループワークを取り入れながら学ぶ。 3. 児童生徒の心の健康問題に応じた具体的な健康相談の実際を学ぶ。 4. 子どもとその家族に対する適切な相談の方法について理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	児童生徒の健康課題		子どもの発達段階に応じた健康問題への対応を理解できる。			
2	保健室の機能と健康相談活動		健康相談活動をエンパワーメントの視点から理解できる。			
3	健康相談活動に関連する諸理論		人格発達、精神医学、社会学、カウンセリング理論を学ぶ。			
4	健康相談活動の原理と技能		ポジティブシンキング、カウンセリングマインドを学ぶ。			
5	健康相談活動を支える理論		人格発達論、ストレスのメカニズムと心身反応を理解できる。			
6	個別面接の理論		自己理論、精神分析理論、行動理論、因子理論、理論療法を学ぶ。			
7	個別面接の理論と技法(1)		リレーション、アセスメント、ストラテジーを理解できる。			
8	個別面接の理論と技法(2)		インターベーション、受容、繰り返し、明確化を理解できる。			
9	個別面接の理論と技法(3)		支持、質問、リファ、ケースワークを理解できる。			
10	個別面接の理論と技法(4)		コンサルテーション、スーパービジョン、具申を理解できる。			
11	グループアプローチの理論と技法		グループエンカウンターを理解できる。			
12	健康相談の進め方(1)		継続的対応①心身症②保健室登校への対応を学ぶ。			
13	健康相談の進め方(2)		継続的対応③自傷行為④児童虐待への対応を学ぶ。			
14	健康相談の進め方(3)		継続的対応⑤PTSD⑥自殺への対応を学ぶ。			
15	まとめとリフレクション		健康相談活動に関する総括と評価を行う。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
提出物や、授業中の主体的で対話的な学びを評価の対象とする。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際』：三木とみ子，徳山美智子（編），ぎょうせい，2013 年，3,806 円（ISBN 978-4324096161）						
最終到達目標				学習法		
1. 健康相談活動の概要が説明できる（知識・理解・表現）。 2. 健康相談活動の原理と技能を理解し実践できる（理解・態度）。 3. 健康相談活動を行う適切な態度が身についている（態度）。 4. 健康相談活動への意欲と関心を持つことができる（意欲・関心）。				教科書に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んでください。本講義では、アクティブラーニングを重視した講義を 4 割、学生の取り組む課題 3 割、課題テスト 3 割を目安とした学習法で進める。		
評価方法および評価基準						
講義中の活動 4 割、期末試験 4 割、課題レポート 2 割。 S(90-100 点)、A に加え医療等専門職の働きが理解できる。 A(80- 89 点)、B に加え家族の多様性が理解できる。 B(70- 79 点)、C に加え家族の課題が理解できる。 C(60- 69 点)、家族が具体的に理解できる。 D(60 点未満)、C のレベルに達していない。						

授業コード	EN00101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野	○
授業科目名	International Nursing I (国際看護学Ⅰ)	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	1年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	Dr. Jekan Adler-Collins (アダラー コリンズ 慈観)				探求心	○
Purpose of this subject (講義目的)						
<p>Completion of this course of study will prepare the students to be an informed member the global profession of Nursing. Students will be introduced to the challenges and complexities of culture, politics of health care and help develop the critical thinking skills need to assess and deliver care in a culturally sensitive manner. Students will learn to analyses other ideas and cultures to see how Japanese culture can help, enrich or learn from them.</p> <p>この授業は、国際看護学への導入である。将来、国内における多文化看護のケア提供や国際社会の健康分野における貢献を目指す基礎となる世界の健康やヘルスシステムについて学習する。学生は、日本の文化がどのような援助をするか、どのようにして日本の文化を向上させられるか、あるいはどのようにして日本の文化から学ぶかを知るために、他の考え方や文化について分析することを学ぶ。</p>						
Contents of this subject (授業内容)						
<p>Introduction to International Nursing. In the beginning, students will learn about a definition and necessary. Students will learn the situation and characteristic of the Health in the world and Millennium Development Goals. This course is researched based requiring the student to develop their data collection and analysis skills. Students will learn how the economy, social status, education, environment, gender, a problem of population, the condition of nourishment, labor, child solders, trauma, First Aid, incident response and control, traditional medicine, refugees, infection, and future global issues such as genetic counselling. Vaccination, endemics and population exodus.</p> <p>国際看護への招待。まず学生は定義づけと必要性について学習する。 学生は世界におけるヘルスケアの状況と特徴について学ぶ。 本授業では、学生にデータ収集と分析のスキルを向上させることを求める。 また、どのようにして経済や社会的地位、教育、環境、ジェンダー、人口問題、食糧問題、労働、子ども兵士、トラウマ、救急法、インシデント対応とコントロール、伝統医療、難民、感染症、そして遺伝子カウンセリングやワクチン接種、風土病、人口爆発のような将来のグローバルな課題について学習する。</p>						
<p>International Nursing is a student centered, living action research approach to higher education. For each subject, students will complete On line reflective journals to evidence their critical thinking and engagement with the curriculum material, On line self-study tests and evaluate their learning on line. Session evaluation to develop reporting skills. A Portfolio of learning will be developed to evidence the process of knowledge assimilation. A final end of course web exam will be taken.</p> <p>国際看護学は、学生中心であり、リヴィングアクションリサーチによって高度な教育にアプローチする。 学生はカリキュラム上の課題として、各学習項目に関する自分のクリティカルシンキングと参加についてのエヴィデンスとしてリフレクティブジャーナル、自己学習課題、そして授業評価をオンライン上で行う。 ポートフォリオを用いた学習は、知識の理解のプロセスのエヴィデンスを進展させ、期末試験もウェブ上で受ける。</p>						

授業計画及び学習課題		
回	Contents (内容)	Object (学習課題)
1	History of nursing in the world, Asia, Islam, religious orders and west. 世界、アジア、イスラム世界、そして西洋における看護の歴史、	Models of nursing focus on the Nightingale model as modern history of nursing. International Nursing looks at how politics has shaped what we consider is the truth and offers insights to other historic nursing systems for the students to research. 現代の看護は、その歴史としてナイチンゲールモデルに焦点を当てている。国際看護学では、いかに政治的手段が私達の考えを真実として形作っているか、また学生の研究のために他の歴史上有名な看護の体系的な方法について洞察する。
2	Learning tools and systems; A basic introduction 基本的な導入；学習の手段とシステム	This section of the course introduces the student to action research, the web and web research. On line testing, portfolios, reflective journals and critical thinking. 学生にアクションリサーチ、ウェブとウェブ上の研究、オンラインでのテスト、ポートフォリオ、リフレクティブジャーナル、そしてクリティカルシンキングについて紹介する。
3	Introduction to International Nursing. 1 国際看護学への導入 1	This section introduces students to the complexity of culture and socialization within a culture. Nationalism, Global citizenship. 文化の中の複雑な文化と社会主義化について紹介する。国家主義や地球市民。
4	Medicine and Health in the world. Insurance: Health care or wealth care? discuss 世界における医療と健康保険...ヘルスケアかウェルスケアか？ディスカッション	Students look at health care as a business, as a policy within the country and research the different political controls in health care. Including drug companies and corporate interest. Who controls health care? 国におけるビジネスとして、あるいは政策としてのヘルスケアについて見てみる。また、ヘルスケアの中の異なる国政上の統制について調べる。薬品会社や企業の利害関係も含め、誰がヘルスケアを統制しているか？
5	Cultural research. 1 Students will in their groups carry out research on selected countries and present their finding to the class for discussion. Students will compare and contrast Japans system with those of their selected country. 文化に関する調査 1： 学生は各グループで選んだ国について調べ、どのようなことを発見したか授業中にディスカッションを行う。 日本のシステムと各グループで選んだ国との比較対照。	Students will be in groups and their country to research will be allocated by draw. The following will be researched. Location, population, Gross National Product. World rating. Political structure, education structure Healthcare systems. Birth rate, industries? Start group Portfolio. 学生はグループに分かれ、クジ引きで調べる国が割り当てられる。調べるのは、以下の項目です。 その国の位置や人口、国民総生産、世界的な格付け、政治的な構造、教育の構成、ヘルスケアシステム、出生率、そして産業。 グループでポートフォリオをスタート。

6	<p>Cultural research. 2 Students will in their groups carry out research on selected countries and present their finding to the class for discussion.</p> <p>Students will compare and contrast Japans system with those of their selected country</p> <p>文化に関する調査2： 学生は各グループで選んだ国について調べ、どのようなことを発見したか授業中にディスカッションを行う。 日本のシステムと各グループで選んだ国との比較対照。</p>	<p>Education, medical and nurse education.</p> <p>Do they have a national council? What is the system of training Doctors and Nurses? What are the pathways open in their culture to access nurse training?</p> <p>What are the major health issues? World Health Organization listings (Health)</p> <p>Portfolio building.</p> <p>教育、医療、そして看護教育について。 その国は、国全体の評議会を有しているか？医師や t 看護師の教育課程はどのようなものか？その国の文化の中で、看護の教育課程に通じる開かれた道はあるか？健康上の大きな問題は何か？WHO；世界保健機関について。 ポートフォリオの作成を続けます。</p>
7	<p>Cultural research. 3 Students will in their groups carry out research on selected countries and present their finding to the class for discussion.</p> <p>Students will compare and contrast Japans system with those of their selected country.</p> <p>文化に関する調査3： 学生は各グループで選んだ国について調べ、どのようなことを発見したか授業中にディスカッションを行う。 日本のシステムと各グループで選んだ国との比較対照。</p>	<p>Period 1. Presentation of findings, peer to peer evaluation.</p> <p>授業の前半：どのようなことを発見したか、グループのメンバー同士で評価します。</p> <p>Period 2. Discussions on presentation, Portfolio building</p> <p>授業の後半：ディスカッションとプレゼンテーション。 ポートフォリオの作成。</p>
8	<p>Human rights and ethics in the world, Terrorism and Health. Sexual slavery and trafficking.</p> <p>世界における人権と倫理、テロリズムと健康、性的奴隷、人身売買</p>	<p>Period 1. What is a terrorist? How is terrorism effect health, nationally, internationally? What types of terror attacks have been used on health?</p> <p>Sexual slavery and trafficking.</p> <p>前半：テロリズムとは何か？テロリズムが国家的、あるいは国際的な健康へどのような影響を及ぼすか？健康上の影響を受けたテロ攻撃は、どのような種類のものがあったか？性的奴隷と違法な売買について。</p> <p>Period 2. Discussions, Portfolio building.</p> <p>後半：ディスカッション、ポートフォリオの作成。</p>
9	<p>Population in the world and family planning, Gender issues. A boy baby is better than a girl baby?? Discuss.</p> <p>世界における人口と家族計画、ジェンダーの課題、男の子は女の子より良いか??ディスカッションする。</p>	<p>Period 1. Population issues? Birth control, religion, trends.</p> <p>前半：人口問題は？産児制限や宗教、動向について。</p> <p>Period 2. Discussions, Portfolio building.</p> <p>後半：ディスカッション、ポートフォリオの作成。</p>
10	<p>Nourishment in the world. /Malnutrition and obesity. Clean water.</p> <p>世界の栄養状況；栄養不良や肥満</p>	<p>Period 1. Famine, hunger, obesity? Clean water..</p> <p>前半：飢饉や飢え、肥満？汚染されていない水について。</p> <p>Period 2. Discussions, Portfolio building.</p> <p>後半：ディスカッション、ポートフォリオの作成。</p>

11	<p>Mental Health and Health for Child labour, Child soldiers, trauma and accident.</p> <p>メンタルヘルスと小児奴隷や子ども兵士、トラウマ、アクシデントに対する健康</p>	<p>Period 1. International mental health. War, child soldiers, traumatic stress disorder. Natural disasters.</p> <p>前半：国際的なメンタルヘルス、戦争、子ども兵士、トラウマのストレスによる障害。自然災害。</p> <p>Period 2. Discussions, Portfolio building</p> <p>後半：ディスカッション、ポートフォリオの作成。</p>
12	<p>Health and Traditional Medicine (CAM) in the world. Healing, Magic, mystery or facts.. Discuss?</p> <p>世界における健康と伝統医療（補完代替医療）</p> <p>ヒーリング、マジック、ミステリー、あるいは事実か？ディスカッション</p>	<p>Period 1. Complementary and Alternative Medicine, Natural healing Kikou healing, shamanic healing, healing culture and systems.</p> <p>前半：補完・代替医療、自然ヒーリング、気功ヒーリング、シャーマニックヒーリング、ヒーリングの文化とシステム。</p> <p>Period 2. Discussions, Portfolio building</p> <p>後半：ディスカッション、ポートフォリオの作成。</p>
13	<p>Global Health issues.1 : Childhood.</p> <p>a.) infections;, measles, mumps, whooping cough, cholera , scarlet fever, jaundice, hepatitis, HIV. MDRTB</p> <p>b.) environmental, malnutrition, rickets etc.</p> <p>c.) Pandemics</p> <p>世界的な健康問題 1 : 小児</p> <p>a) 感染症、麻疹、流行性耳下腺炎、咳、コレラ、猩紅熱、黄疸、肝炎、エイズ、多剤耐性結核</p> <p>b) 環境、栄養失調、くる病など</p> <p>c) 世界的流行病</p>	<p>Period 1. Research selected diseases and their etiology.</p> <p>前半：選んだ病気とその原因について調べる</p> <p>Period 2. Discussion and Portfolio building.</p> <p>後半：ディスカッションとポートフォリオの作成。</p>
14	<p>Global Health issues.2 : Pneumonia, diarrhea, malaria, another infection and a vaccination) .</p> <p>世界的な健康問題 2 : 結核、下痢、マラリア、他の感染症とワクチン接種</p>	<p>Period 1. Research selected diseases and their etiology.</p> <p>前半：選んだ病気とその原因について調べる。</p> <p>Period 2. Discussion and Portfolio building.</p> <p>後半：ディスカッションとポートフォリオの作成。</p>
15	<p>Final on line web test, session evaluation , hand in portfolios (Group).</p> <p>オンライン上での期末試験と授業評価、グループでのポートフォリオの提出</p>	<p>Period 1. Online web test.</p> <p>前半：オンラインでのウェブ試験</p> <p>Period 2.Course debrief and evaluation.</p> <p>後半：授業に関する意見交換と評価</p>

A condition for taking this subject : (履修条件・授業時間外の学修)	
<p>English is the international language for communication. Students may need help with their English skills and will be encouraged to attend the English circle where conversation help from a native speaker will be available. Smart phones, translator may be used in all these sessions to assist the student in comprehension.</p> <p>No percentage of marks are awarded for attendance. If you are absent without due reason over 4 times, you will not be able to be awarded any credit.</p> <p>Tutorials are on an open door policy</p> <p>英語はコミュニケーションのための国際言語です。学生は彼らの英語力に対する援助が必要で、ネイティブスピーカーの援助による英会話ができる英語のサークルに参加する勇気が必要となるでしょう。</p> <p>スマートフォンや翻訳機は学生の理解を補うために全ての授業で用いてもよいです。</p> <p>出席しているからといって、成績に評価点は加えません。もし何の理由もなく 4 回以上欠席した場合、単位を取得することはできないでしょう。</p> <p>個別指導に関してはオープンプランです。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
Text (教材)	
<p>Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage.</p> <p>授業ごとのウェブリンクは、Google を通して調べるための参考文献について引用するのと同じように学生に与えられ、本授業のための Google 上のウェブページも利用できるように作ります。</p>	
Final Target (最終到達目標)	The method of study (学習法)
<p>By the end of this course of study the students will have be introduced to the complexity and challenges that make up the subject of International Nursing. They will be familiar with up to date ideas and have experience of research, analyzing data, presenting and discussing International Nursing.</p> <p>この授業による学習を終えるまでに学生らは、知識を広げ、国際看護の科目によってつくられる複雑さと挑戦の成長を得るでしょう。また、国際看護についての考えをアップデートさせ、そして調査とデータ分析、プレゼンテーション、討論するという経験を得るでしょう。</p>	<p>Action Research using mixed methods of data collection, analysis and critical engagement through debate and reflective journals, online self-testing and portfolio building.</p> <p>複合的なデータ収集方法を用いるアクションリサーチでは、討論とリフレクティブジャーナル、オンラインの自己学習テスト、そしてポートフォリオ作成を通して分析的に、クリティカルに取り組めます。</p>
評価方法および評価基準	
<ol style="list-style-type: none"> Online self-testing knowledge reviews, 14 times (15%) Reflective journal entry in portfolio 14 times (15%) Session evaluation 14 times (15 %) Interactive World Map test 15% Final Exam On line 40 % <ol style="list-style-type: none"> 知識について復習するオンライン上の自己学習テストー14 回 (15%) ポートフォリオに記入するリフレクティブジャーナルー14 回 (15%) 授業評価ー14 回 (15%) 双方向の世界マップテスト (15%) オンラインでの期末試験 (40%) <p>S(100~90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89~80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79~70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69~60 点) : 学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満) : C のレベルに達していない</p>	

授業コード	EN00201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野	○
授業科目名	国際看護学Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	Dr. Jekan Adler-Collins（アダラー コリンズ 慈観）				探求心	○
Purpose of this subject（講義目的）						
This course of study builds in Unit 1 International Nursing. Completion of this course of study will prepare the students to be an informed member the global profession of Nursing. Students will be introduced to the challenges and complexities of culture, politics of health care and help develop the critical thinking skills need to assess and deliver care in a culturally sensitive manner. Students will develop from practical experience of interviewing subjects learn to analyses other ideas and cultures to see how Japanese culture can help, enrich or learn from them. This unit develops self-confidence and leadership skills through engagement with the challenging elements of the course.						
この授業での学習を終えた時には、学生は看護の国際的な専門家として知識のあるメンバーとしての準備ができていでしょう。学生は、挑戦と文化の複雑性、ヘルスケアの政策、そして文化的に慎重な慣習におけるケアの分析と提供に必要なクリティカルシンキングスキルの向上させる手助けとなるでしょう。日本の文化がどのような援助をするか、どのようにして日本の文化を向上させられるか、あるいはどのようにして日本の文化から学ぶかを知るために、他の考え方や文化について分析することを学習する。また、本授業の挑戦的な学習要素を通して学生は、自信とリーダーシップのスキルを向上させるでしょう。						
Contents of this subject（授業内容）						
Students will learn identity and base for provide necessary care to the people who has different cultural and social situation such as an emigrant in Japan and an international student, an incoming tourist.						
Students will carry out field research in the city, interviewing foreigners, analyzing the data and presenting their findings and conclusions to their peers.						
International Nursing is a student centered, living action research approach to higher education. For each subject, students will complete On line reflective journals to evidence their critical thinking and engagement with the curriculum material, On line self-study tests to evaluate their learning on line. Session evaluation to develop reporting skills. A Portfolio of learning will be developed to evidence the process of knowledge assimilation. A final end of course web exam will be taken.						
この授業では、日本への移民や留学生、外国人旅行者などの文化的、社会的背景の異なる人たちへ必要な看護を提供するための基礎を学習する。						
学生は街の中で現地調査を行い、外国人へのインタビューを行い、そしてデータを分析し、どのようなことを発見したかと結論についてクラスメートに発表する。						
国際看護学は学生中心であり、リヴィングアクションリサーチによって高度な教育にアプローチする。各授業ごとに、学生はクリティカルシンキングのエビデンスとカリキュラム上の課題として、オンライン上でリフレクティブジャーナル、オンライン上で学習したことを評価するための自己学習テストを終わらせる。授業評価はレポートのスキルを向上させるでしょう。また、学習したことを綴るポートフォリオは、知識の理解のプロセスのエビデンスを進展させるでしょう。						
授業の最後にウェブ上での期末試験を行います。						

授業計画及び学習課題		
回	Contents (内容)	Object (学習課題)
1	Learning identity, Who am I? アイデンティティについての学習、私は誰か?	To understand others you first need to understand yourself. This session exams the make-up of identity, how we identify and mold our self-realization of self. Ego is explored as are the prime human emotions of bias, hatred love, bigotry. 他者を理解するためにはまず自分自身を理解することが必要である。この授業では、アイデンティティの構造を見してみる。いかに私達は自分の自己実現を確認し、そして形成しているか。自我について、バイアス、嫌悪、愛情、そして頑固さという人間の原始的な感情として探求する。 Period 2. Practical workshop of understanding emotions. 後半：感情を理解するための実践的ワークショップ
2	Research Project: Health and measures for an emigrant in Japan and an international student, an incoming tourist.. 調査のプロジェクト。日本への移民や留学生、外国人旅行者のための健康と対策について。	Period 1.& 2 Outlining the reach plan, Aim, Objective, method, consents, Planning and logistics of the research. Developing the instrument (questionnaire) How will it be analysed, what language? Bi Lingual. 研究計画とねらい、課題、方法、内容、計画立案、そして研究の細部計画についての概略。 道具（質問紙）の開発。いかにして言語を分析するか？2言語使用。
3	Medical tourism: the situation in Japan and other countries. メディカルツーリズム：日本や他の国の現状	Period 1. Country will be chose by draw. Group work and portfolio building is the method. 前半：くじ引きで国を選びます。方法は、グループワークとポートフォリオ作成です。 Period 2. Research the country selected by the group draw. Present back to class findings and collate the whole groups data. 後半：グループごとのくじ引きで選んだ国について調べる。どのようなことを発見したか教室に持ち帰り、グループで収集した全てのデータについて発表する。
4	Traditional Medicine. 伝統医療	Period 1. Keeping the same country as periods 1-2. Group work and portfolio building is the method. 前半：同じ国についてグループワークとポートフォリオ作成。 Period 2. Research the country for any systems of healing or alternative Medicine.. Present back to class findings and collate the whole groups data. その国のヒーリングや代替医療のいかなるシステムについて調べる。そして、どのようなことを発見したか教室に持ち帰り、グループで収集した全てのデータについて発表する。
5	Listening to foreigner about their experience. Pain, it experience and its management. 痛みの体験、またその痛みによどのように対処したか外国人から聴く	Period 1&2. By groups students will research. a.) Types of pain b.) Cultural treatments for pain c.) Cultural Conflicts d.) Pain Scales, types and usage. e.) Discus pain with a foreigner グループ毎に学生が調べる a) どのような種類の痛みか b) 痛みに対する文化的な治療法 c) 文化的な矛盾 d) ペインスケール、種類、取扱い方 e) 痛みについて外国人と話す

6	Communication and assessment tools コミュニケーションと分析ツール	<p>Period 1. By groups students will research.</p> <p>a.)Types of Communications that are needed in Nursing. b.)Cultural communication, barriers, taboos c.)Cultural Conflicts</p> <p>前半：グループ毎に学生が調べる</p> <p>a) 看護に必要なコミュニケーションの種類 b) 文化的なコミュニケーションや障壁、タブー c) 文化的な矛盾</p> <p>Period 2. Design an assessment sheet./scale. 後半：アセスメントシート・スケールのデザイン</p>
7	Experiencing Holistic Touch Kikou ホリスティックタッチ：気功の体験	<p>Period 1.Introduction of healing theory and methods from different cultures. 前半：異文化からのヒーリング理論と方法についての紹介</p> <p>Period 2. Practical healing.. Japanese kikou exercise. Holistic touch. ヒーリング、日本の気功エクササイズ、そしてホリスティックタッチの演習</p>
8	Research Project. 2. Collecting Data of foreigners feelings about health in Japan. 調査プロジェクト2：日本における健康についてどのような思いがあるか外国人からデータを収集する	<p>Periods 1 & 2. Field work.. Collecting data mini survey in local city. フィールドワーク、地域の概観についてのデータを収集する</p>
9	Research Project. 3. Writing UP and Data of foreigners' feelings about health and living in Japan. 調査プロジェクト3。日本における健康と生活についてどのような思いがあるか外国人に書いてもらいデータを集める	<p>Periods 1&2. Writing up your research. Presentation methods. Group discussion and Portfolio Building. 調べたことについて書いてみる。プレゼンテーションの方法。グループでのディスカッションとポートフォリオの作成。</p>
10	Do nurses actually Nurse: Who delivers the care? 看護師は実際に看護を行っているか？誰がケアを提供しているか？	<p>Period 1. Advanced countries and developing countries. Who delivers the care? Research into this question. The Poverty trap. WHO and World Bank. 前半：先進国と途上国について、誰がケアするのか？この問いについて調べる。貧困の足かせ。世界保健機構と世界銀行。</p> <p>Period 2. Group discussion and Portfolio Building. 後半：グループディスカッションとポートフォリオ作成</p>
11	Kikou Practice 気功の演習	<p>Periods 1&2. Lab work and practice. Of Japanese KIKou, Group discussion and Portfolio Building. 実習室で日本の気功の演習。 グループディスカッションとポートフォリオ作成。</p>
12	Presentations of Research ,Peer to Peer 調査結果についてクラスメートに発表する	<p>Periods 1&2 Presentation of student's group research. Group discussion and Portfolio Building. グループで調べたことについて発表する。グループディスカッションとポートフォリオ作成。</p>

13	Sexual Health, HIV, AIDs. 性に関する健康、HIV、エイズ	Period 1.Group research into HIV and Aids. The human cost of the disease Internationally. HIV とエイズについてグループごとに調べる。国際的な人間の病気による損害について。 Period 2. Group discussion and Portfolio Building. グループディスカッションとポートフォリオ作成。
14	International Health Promotion and education 国際的なヘルスプロモーションと教育	Period 1.Health promotion and education are a basic function of all nurses. Groups will research the ideas that make up Health Promotion and present their findings. 前半：ヘルスプロモーションと教育はすべての看護師の基本的な役割である。ヘルスプロモーションを構成する考え方について調べ、発見したことを発表する。 Period 2.Group discussion and Portfolio Building. 後半：グループディスカッションとポートフォリオ作成
15	FinalWeb test and summary on line.Summary. オンライン上でのウェブ上期末試験とまとめ	Period 1.Web test and course evaluation. ウェブテストと本コースについての評価
A condition for taking this subject : 留意事項 (履修条件・授業時間外の学修)		
<p>English is the international language for communication. Students may need help with their English skills and will be encouraged to attend the English circle where conversation help from a native speaker will be available. Smart phones, translator may be used in all these sessions to assist the student in comprehension. No percentage of marks are awarded for attendance. If you are absent without due reason over 4 times, you will not be able to be awarded any credit. Tutorials are on an open door policy</p> <p>英語はコミュニケーションのための国際言語です。学生は彼らの英語力に対する援助が必要で、ネイティブスピーカーの援助による英会話ができる英語のサークルに参加する勇気が必要となるでしょう。スマートフォンや翻訳機は学生の理解を補うために全ての授業で用いてもよいです。出席しているからといって、成績に評価点は加えません。もし何の理由もなく 4 回以上欠席した場合、単位を取得することはできないでしょう。個別指導に関してはオープンプランです。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
Text (教材)		
<p>Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage.</p> <p>授業ごとのウェブリンクは、Google を通して調べるための参考文献について引用するのと同じように学生に与えられ、本授業のための Google 上のウェブページも利用できるように作ります。</p>		

Final Target (最終到達目標)	The method of study (学習法)
<p>By the end of this course of study the students will have extended their knowledge of the complexity and challenges that make up the subject of International Nursing. They will be familiar with up to date ideas and have experience of research, analyzing data, presenting and discussing International Nursing.</p> <p>この授業による学習を終えるまでに学生らは、知識を広げ、国際看護の科目によってつくられる複雑さと挑戦の成長を得るでしょう。また、国際看護についての考えをアップデートさせ、そして調査とデータ分析、プレゼンテーション、討論するという経験を得るでしょう。</p>	<p>Action Research using mixed methods of data collection, analysis and critical engagement through debate and reflective journals, online self-testing and portfolio building. Mini research project.</p> <p>複合的なデータ収集方法を用いるアクションリサーチでは、討論とリフレクティブジャーナル、オンラインの自己学習テスト、そしてポートフォリオ作成を通して分析的に、クリティカルに取り組みます。</p>
評価方法および評価基準	
<ol style="list-style-type: none"> 1. Online self-testing knowledge reviews, 14 times (15%) 2. Reflective journal entry in portfolio 14 times (15%) 3. Session evaluation 14 times (15 %) 4. Interactive World Map test 15% 5. Final Exam On line 20 % 6. Mini Research Project 20% <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識について復習するオンライン上の自己学習テスト14回 (15%) 2. ポートフォリオに記入するリフレクティブジャーナル14回 (15%) 3. 授業評価14回 (15%) 4. 双方向の世界マップテスト (15%) 5. オンラインでの期末試験 (20%) 6. ミニ研究プロジェクト (20%) <p>S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D (60 点未満) : C のレベルに達していない</p>	

授業コード	EN00301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野	○
授業科目名	国際看護学Ⅲ (International Nursing Ⅲ)	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	3 年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	Dr. Jekan Adler-Collins (アダラー コリンズ 慈観)				探求心	○
講義目的 (Purpose of this subject)						
<p>By their 3 year students will have gained some understanding about nursing as a profession and the kind of work that a nurse is expected to do. This unit expands of the knowledge base of units 1 and 2, introducing in depth study of nursing globally. Political and health care challenges of modern nursing and the direction that humanity may take in relationship to genetics.</p> <p>The unit is designed to create an enquiring and reflective mindset in the students extending their research skill and seeking answers to some challenging global situations.</p> <p>学生は 3 年次になるまでに専門職としての看護師について、また看護師にはどのような仕事が期待されるかについて、理解していると思います。この授業では、グローバルな看護についての学習を深めることにより、「国際看護学Ⅰ・Ⅱ」の基礎的な知識を拡大するとともに、研究スキルの拡大に意欲的な、グローバルな状況に対する回答を探す学生に対し、探求的かつ思索的な思考を可能にします。</p>						
授業内容 (Contents of this subject)						
<p>This unit of study revisits units 1&2, deepening some of the material through focused research of several different countries nurse education system, political and social structures, economics and historical positioning. This unit will examine nursing in North and South America, European Union, Islamic, Chinese, Tibetan, and Africa. Comparing in depth with Japan’s system of nursing and nurse education .</p> <p>Future educational pathways of nursing will be explored, advanced practitioner, nurse prescribers, Master and Doctors of Nursing. Systems of palliative care will be examined and the different cultural religions will be explored to see how they impact nursing care.</p> <p>This unit will also enquire the impact of genetics, identifying disease carry genes and counselling. Global advances of bio technology and cyborg technology presents unique ethical questions and concerns for nurses.</p> <p>The role of the nurse in disaster will be covered along with basic first aid, CPR and AID usage. A small mini practical session will be carried out and used for discussion purposes.</p> <p>A final presentation by the student of their learning in this unit to their peers will conclude this interesting unit.</p> <p>この授業では、「国際看護学Ⅰ・Ⅱ」を再考し、看護師の教育システム、政治的および社会的構造、経済、そして歴史的地位について、複数の異なる国に焦点を当てることを通して、いくつかの題材を通して深く学習します。北アメリカや南アメリカ、ヨーロッパ、イスラム教の国、中国、チベット、アフリカの看護について調べ、日本の看護システムや教育と比較します。</p> <p>先進的な看護職、薬剤処方職、看護学修士、看護学博士等、将来の看護職のキャリアについて探求を行います。緩和ケアのシステムについて学び、異文化や宗教がいかに看護に強い影響を与えるかを学びます。また、この授業によって、遺伝的特徴の影響や遺伝子病の特定、そしてカウンセリングについても学びます。バイオテクノロジー（生物工学）やサイボーグ（人工臓器や人工知能）テクノロジーのグローバルな進歩は、看護にとって倫理的疑問や懸念を発生させています。災害における看護師の役割は、基本的な応急手当、心肺蘇生、AEDの使い方を含む、小規模の演習のミニ授業を行い、ディスカッションも実施します。科目の学びの仕上がりとして、学生によるプレゼンテーションも行います。</p>						

授業計画及び学習課題		
回	Contents (内容)	Object (学習課題)
1	Introduction to International Nursing 3. 海外の看護への導入	Period 1. Linking back to units 1 & 2. : Period 2.Objectivs of the unit Portfolio building, extension of 1&2 units. 国際看護学 I および II との関連づけ. この科目における学習課題. ポートフォリオの作成、国際看護学 I および II の拡張.
2	Nurse in the world in North America & South America 1 世界の看護師：北アメリカと南アメリカ	Period 1 Research Education systems, practice and international law. Period 2. Discussion and portfolio building. 教育システムや実践、国際法について調べること. ディスカッションおよびポートフォリオの作成.
3	Nurse in the world in European Union 世界の看護師：欧州連合	Period 1 Research Education systems, practice and international law. Period 2. Discussion and portfolio building. 教育システムや実践、国際法について調べること. ディスカッションおよびポートフォリオの作成.
4	Nurse in the world 3 : Islamic Nursing. 世界の看護師 3 : 中東、アジア	Period 1 Research Education systems, practice and international law. Period 2. Discussion and portfolio building. 教育システムや実践、国際法について調べること. ディスカッションおよびポートフォリオの作成.
5	Nurse of the world 4. China and Tibet 世界の看護師 4 : 中国、チベット	Period 1 Research Education systems, practice and international law. Period 2. Discussion and portfolio building. 教育システムや実践、国際法について調べること. ディスカッションおよびポートフォリオの作成.
6	Nurse of the world 5 Africa. 世界の看護師 5 : アフリカ	Period 1 Research Education systems, practice and international law. Period 2. Discussion and portfolio building. 教育システムや実践、国際法について調べること. ディスカッションおよびポートフォリオの作成.
7	Reviewing the advanced pathways in nursing. 看護における進歩的な道についての展望	Period 1 Research Education systems, practice and international law. Advanced Practitioner Masters and Doctors of Nursing. Period 2. Discussion and portfolio building. 教育システムや実践、国際法。また進歩的な実践家、看護学修士や看護学博士について調べること. ディスカッションおよびポートフォリオの作成.
8	End of life care in different cultures. 異文化におけるエンドオブライフケア	Period 1 Research Faith systems, practice and international law in end of life care. The right to die, Assisted suicide. Where do you stand?? Period 2. Discussion and portfolio building. エンドオブライフケアにおける信念体系や実践、国際法についての探求. 死ぬ権利や自殺ほう助に対してどのような態度を取りますか? ディスカッションおよびポートフォリオの作成.
9	Genetic nursing and counselling. 遺伝子学に対する看護とカウンセリング	Human genes and DNA has been fully mapped. How to you assist carriers of genetic diseases? What are the ethical and social issues at stake? Period 1, Research Education systems, practice and international law. Period 2. Role Playing. Discussion and portfolio building. 人間の遺伝子および DNA は完全に調査されています。遺伝子病のキャリアーをどのように援助するか? 倫理的並びに社会的な課題は何か? 教育システムや実践、国際法について調べること. ロールプレイ、ディスカッション、ポートフォリオの作成.

10	Nursing robotics, Cyborg bio technology . 看護ロボット、サイボーグ、バイオテクノロジー	Modern advances in bio cyborg technology are not science fiction but science fact. What are the ethical considerations of modifying human beings? What is Ok and where must it stop. バイオサイボーグテクノロジーにおける現在の進歩は、SF（空想科学小説）ではなく、科学としての事実である。人間を作り変えることに関する倫理的問題点は何か？何をよしとして、何を止めなくてはならないか。
11	Disaster Nursing. Are You Ready 災害看護：あなたは準備ができていますか？	Natural and manmade disasters are on the increase as we face an uncertain future with global warming resulting in human migration and weather changes. Period 1. Research on the subject? Period 2. What is the nurses' role in this process? Discussion. 地球温暖化の結果、人間の移動や気候の変化をもたらしている不確かな未来に私たちが直面しているように、天災および人災は増加している。このテーマに関して調べること。 このようなプロセスにおける看護師の役割とは何かについてディスカッションする。
12	International FIRST aid, Basic First aid response in CPR and AID. 国際的な応急手当、基本的な応急手当、心肺蘇生、AED	Period 1 Research Education systems, practice and international law in relationship to first Aid.. Period 2. Practical session CPR Discussion and portfolio building. 応急手当に関する教育システムや実践、国際的な法律について調べること。 演習：CPR、ディスカッションおよびポートフォリオの作成
13	First aid and disaster scenario. Practical field work. 応急手当と災害シナリオ、実践的な実地研究	How to manage an incident. Simulated disaster scenario. Period 1 Research Education systems, practice and international law. Period 2. Discussion and portfolio building. 出来事に対してどのように対処するか。災害シナリオのシュミレーション。教育システムや実践、国際法について調べること。
14	Presentation by Students. Individual Presentation by the student of their learning and knowledge acquisition through the unit. 学生らによるプレゼンテーション：この授業を通して学生が得た学習と知識による個別の発表	Periods1&2.Student presentations. 学生による発表。
15	End of Unit web test, Portfolio hand in and Summary 最後のウェブテスト、ポートフォリオの提出とサマリー	Period 1.Test Final. Period 2.Portfolio hand in. 最終テスト ポートフォリオの提出
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）：A condition for taking this subject		
Compulsorily Subject for Students who take Public Health Nurse course 保健師コースの学生は必須。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題：予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
教材（Text）		
Sessional web links will be given to the students as start references for research via google and made available on the course google webpage. 授業ごとに適切な参考文献を参照するため、ウェブ上の参照ページが学生に示されます。		

最終到達目標 (Final Target)	学習法 (The method of study)
<p>By the end of this course of study the students will have extended their knowledge and maturity of the complexity and challenges that make up the subject of International Nursing. Practical skillsets that help prepare an international nurse for practice will have been experienced.</p> <p>この授業による学習を終えるまでに学生は、知識を広げ、国際看護の複雑さに挑戦することで成長を得ます。また、国際的な看護師を訓練する手助けとなる実践的なスキルを経験します。</p>	<p>Action Research using mixed methods of data collection, analysis and critical engagement through debate and reflective journals, online self-testing and portfolio building. Mini Practical disaster incident.</p> <p>複合的なデータ収集方法を用いるアクションリサーチでは、討論とリフレクティブジャーナル、オンラインの自主テスト、そしてポートフォリオ作成を通して分析的に、批評的に取り組みます。また、災害事変に対する実践授業も行います。</p>
評価方法および評価基準	
<ol style="list-style-type: none"> 1. Self-testing knowledge reviews, 14 times (15%) 2. Reflective journal entry in portfolio 14 times (15%) 3. Session evaluation 14 times (15 %) 4. Final Exam 30 % 5. Practical Scenario. 25% <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識について復習する自主テストー14回 (15%) 2. ポートフォリオに記入するリフレクティブジャーナルー14回 (15%) 3. 授業評価ー14回 (15%) 4. 期末試験 (30%) 5. 実践的なシナリオ (25%) <p>S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D (60 点未満) : C のレベルに達していない</p>	

授業コード	EN00401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野	○
授業科目名	国際看護学Ⅳ (International Nursing Ⅳ)	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	4 年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	Dr. Jekan Adler-Collins (アダラー コリンズ 慈観)				探求心	○
Purpose of this subject (講義目的)						
Grand and final program of International Nursing program.. This subject is summarizing their understanding of International nursing study about health and Nursing, Nursing with symbiotic many culture, practice in the world. This unit introduce International organizations, Non Government Organizations, Non Profit Organizations, which will help students to find their future career in global society and to think about international contributions through nursing.						
この授業は、国際看護学の総集編です。この授業では、健康と看護、象徴的な多くの文化、世界における看護実践に関して、国際看護の学習により理解したことを総括します。また、国際機関、非政府の機関、非営利活動について学びます。これにより国際社会における将来の目標を見出し国際貢献について考える事ができます。						
Contents of this subject (授業内容)						
Students will learn the role of Internal and International organization,NGO which support International Nursing mainly and talented people. Students will also learn the detail of measures for participation to International Organization officially.						
主に国際看護と特殊技能を持った人々を支援する国内、国際機関、NGO 機関について学習します。また、公式に国際機関へ参加するための手段の詳細について学習します。						
授業計画及び学習課題						
回	Contents (内容)			Object (学習課題)		
1	Introduction to International Organization and Internal Organization,NGO in the term of Health. (保健関係の国際機関、国内機関、NGO の導入論)			NGOs can provide useful pathways for volunteers and work in areas that interest the nurse around the world. Period 1 Research NGO systems and functions. Identify one that interests the student and say why. NGO は世界中の看護師が関心を示す領域でのボランティアや仕事への道として役に立つ。 NGO のシステムと機能について調べ、学生が関心を示すものを確認し、それがなぜなのかを示す。		
2	The United Nations,Organization for Health in New York and Geneva,etc... : (国連機関：保健に関連する機関(ニューヨーク、ジュネーブ その他))			Many International policies from the United Nations, influence national health policies.. The student will research the function of the UN. 国際連合は多くの国際的政策を示し、国家的な健康政策に影響を与える。 国際連合の機能について調べる。		
3	International Organization like The United Nations 1 (国連関連の国際機関 1) : the role (役割)			Many International policies from the United Nations, influence national health policies.. The student will research the function of the UN. 国際連合は多くの国際的政策を示し、国家的な健康政策に影響を与える。国際連合の機能について調べる。		
4	International Organization like The World Health Organization : WHO のような国際機関			Many International policies from the WHO, influence national health policies. The student will research the function of the WHO. WHO は多くの国際的政策を示し、国家的な健康政策に影響を与える。WHO の機能について調べる。		

5	another organization related to Nursing (看護に関連した機関) : ICN, the role of ICN and annual conference (国際看護師協会, 役割と学会での様子)	The ICN, its function and annual conference. Students will be encourage to see if they can successfully submit an abstract for a paper presentation. ICN の役割と年次学会について。論文発表のための抄録の申請について学ぶ。
6	Net working and meeting other International nurses. 国際的なレベルでの看護師とのネットワーキングとミーティング	Students will research the possible ways that networking with International nurses can be developed or existing one evaluated and joined. 国際的なレベルでの看護師とのネットワークの開発や、会合への参加方法について調べる。
7	Presentation by students 学生の成果グループ発表	Students will present their 4 year portfolio as evidence of their process of learning. Students will critically evaluate that process identifying it strengths and weaknesses, what worked for them and what did not and offer ways , ideas of improving the course. 学習プロセスのエビデンスとして 4 年間のポートフォリオを発表する。そして、その強みと弱み、何が学生にとって有用で、何がそうでなかったかを確認する批評的な評価を行い、本コースの改善のための方法やアイデアを示す。
8	Summary まとめ	本コースに対する総括を行う。
A condition for taking this subject : 留意事項(履修条件・授業時間外の学修)		
Compulsorily Subject for Students who take Public Health Nurse course 保健師コースの学生は必須。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題; 予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。		
Text (教材)		
特になし		
Final Target (最終到達目標)		The method of study (学習法)
Consolidation of portfolio of evidence showing the students educational growth over the whole span of International Nursing programme. エビデンスとしてのポートフォリオの統合は、国際看護学の全期間を通じた学生の教育的成長を示します。		Action Research using mixed methods of data collection, analysis and critical engagement through debate and reflective journals, online self-testing and portfolio building. Mini research project. (foreign visit), 複合的なデータ収集方法を用いるアクションリサーチでは、討論とリフレクティブジャーナル、オンラインの自主テスト、ポートフォリオ作成、そしてミニ研究プロジェクト(海外訪問)を通して分析的に、批評的に取り組みます。

評価方法および評価基準
1. Self-testing knowledge reviews, 5 times (15%) 2. Reflective journal entry in portfolio 5 times (15%) 3. Session evaluation 8 times (15 %) 4. Interactive World Map test 15% 5. Final Exam 20 % 6. Mini Research Project 20%
1. 知識について復習する自主テスト—5 回 (15%) 2. ポートフォリオに記入するリフレクティブジャーナル—5 回 (15%) 3. 授業評価—8 回 (15 回) 4. 対話方式の世界マップテスト (15%) 5. 期末試験 (20%) 6. ミニ研究プロジェクト (20%)
S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good) B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている D (60 点未満) : C のレベルに達していない

授業コード	EN00501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－国際看護学				広い視野	○
授業科目名	国際看護学海外研修	選択・必修	選択		知識・技術	
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	Dr. Jekan Adler-Collins（アダラー コリンズ 慈観）				探求心	○
Purpose of this subject:講義目的						
To broaden the students experience of cultures outside Japan with a focus on Hospice care. International travel offers the student unique opportunities to experience different cultural situations under the frame work and support of an International NPO. ホスピスケアに焦点を当て、国外の文化圏における経験を広めることを目的とする。国外への研修旅行は、国際的な NPO 法人の枠組みと援助のもとで学生に異文化の状況を経験する類のない機会を提供する。						
Contents of this study:授業内容						
Travel & experiencing different health care systems outside of Japan; 1. Understanding the value of education in the Japanese Health Care System. 2. Having experience of intercultural and different education/ healthcare system. 3. Becoming an international member in a cross-culture focus group. 4. Making friendly relationship with international companions and peers. 国外旅行と日本と異なるヘルスケアシステムの体験 1. 日本のヘルスケアシステムにおける教育の価値について理解する 2. 異文化間で起こる経験、また異なる教育・ヘルスケアシステムを体験する 3. 異文化間に焦点を当てたグループの国際的メンバーになる 4. 国際的な友達や仲間との友好的な関係性を作る						
Session Plan & Learning Task:授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	Foreign travel 国外旅行		Foreign travel requires students to be flexible About conditions, food, accommodation and travel. All of which are learning experiences. 国外旅行では学生に状況や食事、滞在先、そして旅行全般において柔軟性が求められる。全てが学習経験になる。			
2	Communication skills コミュニケーションスキル		Learning how to communicate in another language can be challenging and fun. Students will develop their communication skills. どのようにして他の言語でコミュニケーションをとるかを学習することは挑戦であり、かつ楽しみのあるものである。学生は彼らのコミュニケーションスキルを向上させるであろう。			
3	Working in a hospice ホスピスでの活動		Using their skill learned in the healing circle in Japan. Students will provide care for hospice patients. 日本におけるヒーリングサークルで学習したスキルを用いる。学生はホスピスの患者さんに対してケアを提供する。			
4	Social skills 社会的スキル		Students will present Japanese culture to host country. Dance, song or activity. 学生は開催国に対して日本について紹介する。踊りや歌、活動を通して。			
5	Activity Diary 活動記録		Students will keep a reflective diary of what they see, do and learn for presentation to peers on return to Japan. 学生は日本に戻ってから自分の仲間達に発表するため、どのようなことを見たか、行ったか、そして学習したかについてリフレクティブな（内省的な）日記をつける。			

A condition for taking this subject: 留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>Students need to successfully pass a holistic touch training course taught in the healing circle to participate in this activity.</p> <p>学生は本活動に参加するためにヒーリングサークルで習ったホリスティックタッチのトレーニングコースで試験に合格しなければならない。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>Practical test only.</p> <p>実践的なことのみ。</p>	
Final Target:最終到達目標	The method of Study:学習法
<p>Have greater understanding Of themselves, their culture and the cultures of others. 自分自身と自分の文化、そして他の文化について理解すること。</p>	<p>Mixed Methods. 複合的な学習法</p>
How to mark:評価方法	
<p>Part A. Pass Holistic touch therapy training in Kikou .</p> <p>A : ホリスティックタッチセラピーの気功のトレーニングを合格する</p> <p>Part B. Presentation to peers.</p> <p>B : 自分の仲間に発表する</p> <p>S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D (60 点未満) : C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENP0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－精神看護学				広い視野	
授業科目名	精神保健看護学概論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	井上仁美				探求心	○
講義目的						
精神保健看護学は人間の精神に関わる看護に関する学問であり、対象はすべての看護領域にある人と精神障害を持つ人である。講義では精神保健看護学を学んでいく上で基本的な知識を習得するとともに、精神看護の基本概念となる心の健康と精神の健康の保持増進と疾病予防、精神保健の歴史的変遷や法律を理解することを目的とする。 精神保健看護に関連する現代社会における課題を、その要因や問題の様相、精神保健看護の側面からの対策について学ぶことを目的とする。						
授業内容						
精神看護の対象は、精神的に健康な人から、精神疾患をもつ人まで幅広く含む。本講義では、精神障がいをもつ人の生活を整えるために必要な知識と技術だけではなく、精神保健の歴史や法律、精神看護の倫理、精神保健行政、精神保健医療の場で行われる集団活動および精神看護の現状と課題を学ぶ。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	精神看護学の基本的な考え方		精神の健康・不健康や精神障がいとはなにか、その定義をふまえながら、精神看護学の基本的考え方や心構えを理解できる。また、精神障がいを説明するさまざまなモデルと精神障がいのとらえ方を理解する。			
2	心のはたらきと精神の健康・障がい		人格、気質、自我、感情、認知など人間の心のはたらきについて理解できる。また、こうした精神の諸活動の分析に基づき各種の精神療法が発達してきたことを理解する。			
3	心のしくみと人格の発達		さまざまなストレスに対処するシステムとしての防衛機制と人格の発達に関する代表的な理論について理解できる。			
4	心の危機とストレス		生体システムとしてのストレス反応と恒常性の維持について理解する。また、ストレスへの対処行動と危機理論、カプランの予防概念を理解できる。			
5	精神看護における家族		システムとしての家族と家族病理について理解する。家族はケアが必要なクライアントであることを理解し家族をケアする際の看護について理解できる。			
6	集団力動論		人間と集団、集団のなかの自己について理解する。グループダイナミクスとリーダーシップについて理解できる。			
7	精神障がいと治療の歴史		精神疾患・障がいとその治療の歴史的な流れを理解する。特に、日本における精神医学・治療の歴史的経緯と地域・文化との結びつきを学び、社会的視点から精神障がいを理解することができる。			
8	精神障がいと法制度		精神障がいをもつ人々を対象とする法律の目的と位置づけおよび法制度の変遷について理解する。また、人権擁護と生活支援の点からの課題について理解できる。			
9	地域における精神看護		精神障がいをもつ人の地域での生活と制度について学ぶとともに、地域生活を支えるさまざまなサービスとその基盤となる考え方を理解できる。			
10	身体疾患と精神看護		身体疾患と精神症状の関係性について理解するとともに、リエゾン精神看護の役割と仕事について理解することができる。			

11	職場・学校における精神保健上の問題	職場や学校における精神保健問題の概要について理解するとともに、ハラスメントやいじめが精神健康に与える影響とその援助について理解できる。
12	嗜癖の問題	嗜癖の問題が心身および日常生活に及ぼす影響について理解できるとともに嗜癖問題からの回復するための看護の方法が理解できる。
13	看護職のメンタルヘルス	看護職のような対人関係職における感情の変化やメンタル面への影響が、どのように看護職の健康に影響するかを理解する。また、こうした看護師のストレスマネジメントの方法について理解できる。
14	援助的人間関係を築く	ケアの原則を理解するとともに患者－看護師関係における治療的援助関係のコミュニケーションの技法を理解できる。
15	精神科看護における倫理	「精神科看護倫理綱領」や倫理基準について理解するとともに精神看護実践における倫理的課題と求められる倫理について理解できる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>精神疾患は特別な病気ではなく、だれでもがなりうる病気の一つです。人生のそれぞれのステージにおいて人は自分の課題に気づき、その課題に向き合うことでその人らしく生きていくことができます。学生の皆さんも自分や家族などの身近な人に置き換えて、精神障がいがある人を見ていくことで学ぶことができます。精神看護学は他の看護学でも活用できますので、積極的に学ぶ姿勢が大切です。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 60 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎』：武井 麻子ほか編，医学書院，2016 年 2200 円+税 (ISBN 978-4-260-01588-2) 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開』：武井 麻子ほか編，医学書院，2016 年 2200 円+税 (ISBN 978-4-260-01589-9)		
最終到達目標		学習法
講義目的について理解した上で自分なりの考えをもち、それを言語化して表現できることを最終到達目標とする。		講義または演習の学習方法である。 毎回の予習および復習をしてから講義に臨むことが必要である。レポート課題については適宜指示する。
評価方法および評価基準		
筆記試験 60% レポート課題 30% 毎回のふり返りの内容 10% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENP0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－精神看護学				広い視野	
授業科目名	精神看護援助論Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	井上仁美				探求心	○
講義目的						
精神障がいをもつ人の状態のとりえ方とさまざまな精神症状について理解するとともに、それぞれの精神障がいの原因、回復過程と援助方法を理解する。						
授業内容						
精神障がいをもつ人の特徴と症状による生活のしづらさについて学ぶとともに、精神科治療と精神看護の機能と役割を学ぶ。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	精神障がいの基礎知識			精神障がいの概念と分類を理解するとともに、精神障がいによる病的体験の違いと共通点を理解できる。		
2	精神の健康上に問題をもつ人への看護 ① 統合失調症			統合失調症の発症の原因、状態および回復過程とその治療を理解するとともに、状態の経過にあわせた看護の方法が理解できる。		
3	精神の健康上に問題をもつ人への看護 ② 気分障害			気分障害の発症の原因および回復過程とその治療を理解するとともに、状態の経過にあわせた看護の方法が理解できる。		
4	精神の健康上に問題をもつ人への看護 ③ 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害			不安障害、強迫性障害、適応障害と解離性障害の発症の原因、状態および回復過程とその治療を理解するとともに、状態の経過にあわせた看護の方法が理解できる。		
5	精神の健康上に問題をもつ人への看護 ④ 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群			摂食障害、性同一性障害、睡眠障害の発症の原因、状態および回復過程とその治療を理解するとともに、状態の経過にあわせた看護の方法が理解できる。		
6	精神の健康上に問題をもつ人への看護 ⑤ 精神作用物質使用による精神および行動の障害			アルコール依存症の発症の原因、状態および回復過程とその治療を理解するとともに、状態の経過にあわせた看護の方法が理解できる。		
7	精神の健康上に問題をもつ人への看護 ⑥ パーソナリティ障害			パーソナリティ障害について、その状態と分類、関わり方について理解する。		
8	精神の健康上に問題をもつ人への看護 ⑦ 器質性精神病、てんかん、知的障害、発達障害			てんかんの分類と症状および治療について理解できる。知的障害の概念と分類について理解する。広範性発達障害と多動性障害、学習障害の状態について理解できる。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>精神保健看護学概論での学習をふまえていることを前提とする。 主体的に学習に臨むことが必須である。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎』：武井 麻子ほか編，医学書院，2016 年 2200 円+税 （ISBN 978-4-260-01588-2） 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開』：武井 麻子ほか編，医学書院，2016 年 2200 円+税 （ISBN 978-4-260-01589-9） 『薬がみえる Vol.1 神経系の疾患と薬 循環器系の疾患と薬 腎・泌尿器系の疾患と薬』：野元 正弘ほか編， メディックメディア，2014 年，3600 円税 （ISBN 978-4-89632-549-2）</p>	
最終到達目標	学習法
精神看護の対象である主な障害の症状と治療・看護の方法が理解できる。	講義または演習の学習方法である。 毎回の予習および復習をしてから講義に臨むことが必要である。レポート課題については別途指示する。
評価方法および評価基準	
<p>筆記試験 60% レポート課題 30% 毎回のふり返りの内容 10%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENP0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－広域看護学－精神看護学				広い視野	
授業科目名	精神看護援助論Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	井上仁美				探求心	○
講義目的						
精神障がいをもつ人のセルフケアを高めるための援助方法について理解するとともに、さまざまな精神障がいを持つ対象者のアセスメントから看護計画までを立案することができる。 看護場面の再構成をとおして自己理解・他者理解の方法を理解することができる。						
授業内容						
これまでに学習した精神看護学関連の諸知識を統合して対象者を多角的に理解するために、事例を用いてセルフケアレベルに応じた看護実践の方法および看護場面を振り返り、患者－看護師関係を含めた対象者のアセスメントから看護計画立案までを学習する。 プロセスレコードの作成をとおして、自己理解・他者理解を深めながらコミュニケーションの実際について振り返る。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	看護場面の再構成①		関係をアセスメントするためのプロセスレコードの方法について理解できる。			
2	看護場面の再構成②		作成したプロセスレコードを振り返ることによって自己理解・他者理解について理解できる。			
3	精神科における治療・検査と看護①		精神疾患に用いられる向精神薬の作用と有害作用、日常生活に薬物療法がどのような影響を及ぼしているかについて理解するとともに、その看護について理解できる。			
4	精神科における治療・検査と看護②		薬物療法以外のさまざまな精神療法についての理論と技法が理解するとともに、看護における活用法について理解できる。精神科における検査の必要性和その看護について理解することができる。			
5	グループの理論と看護者が関わるグループ		社会生活技能訓練（SST）や心理教育の理論的背景と看護者の関わりについて理解するとともに集団療法の治療的意義について理解できる。			
6	精神科病院におけるリスクマネジメント		単科精神科病院と総合病院の精神科病棟の役割と機能についての違いを理解するとともに、行動制限や身体合併症の予防など病院におけるリスクとその対処法について理解できる。			
7	セルフケア理論の概要		精神看護で用いられるオレム・アンダーウッドのセルフケア理論について理解できる。			
8	オレム・アンダーウッドによる看護過程の実際		事例をとおして看護過程の展開についての方法を理解する。			
9	看護過程の展開① 事例の背景を理解する		以下の事例について生活歴等の背景や症状を理解し、看護過程の展開を事例ごとにグループに分かれて行うことができる。 事例；統合失調症、双極性障害、アルコール依存症、パーソナリティ障害			
10	看護過程の展開② アセスメント		グループごとに担当する事例について所定の様式に基づいてアセスメントを行うことができる。			
11	看護過程の展開③ 看護計画の立案		グループごとに担当する事例について所定の様式に基づいて看護計画の立案まで行うことができる。			
12	看護過程の発表①		統合失調症の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開が理解できる。			

13	看護過程の発表②	双極性障害の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開が理解できる。
14	看護過程の発表③	アルコール依存症の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開が理解できる。
15	看護過程の発表④	パーソナリティ障害の事例を担当したグループのプレゼンを聞き、実際の事例に基づいた看護過程の展開が理解できる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>授業の後半はこれまでに学習したことをふまえて事例展開をグループで行うため、自主的に協力して課題に取り組むことが必要である。事例展開のための様式は精神看護学実習で実際に使用するものと同じである。臨地実習に臨むための重要な学習となることに留意すること。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
<p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎』：武井 麻子ほか編，医学書院，2016 年 2200 円+税 （ISBN 978-4-260-01588-2）</p> <p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開』：武井 麻子ほか編，医学書院，2016 年 2200 円+税 （ISBN 978-4-260-01589-9）</p> <p>『薬がみえる Vol.1 神経系の疾患と薬 循環器系の疾患と薬 腎・泌尿器系の疾患と薬』：野元 正弘ほか編，メディックメディア，2014 年，3600 円税 （ISBN 978-4-89632-549-2）</p>		
最終到達目標		学習法
<p>1. 事例をとおして、各疾患のアセスメントから看護計画立案を行うことができる。</p> <p>2. プロセスレコードを作成し自己の関わりを振り返ることができる。</p>		<p>プロセスレコードは実習での対象者との関わりを振り返り作成することが必要である。</p> <p>これまでに学修してきたことを統合して看護過程の展開をグループで行う。授業時間内に終了できない場合は、時間外に集まり課題を達成することが必要である。</p>
評価方法および評価基準		
<p>筆記試験 50%</p> <p>グループワークの成果内容およびプレゼン 40%</p> <p>毎回のふり返りの内容 10%</p> <p>S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60 点未満)：C のレベルに達していない</p>		

授業コード	ENQ0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野	
授業科目名	家族看護論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	梅田弘子				探求心	○
講義目的						
目的 現代の家族の特徴および機能について理解を深め、家族がもつセルフケア機能を高めるための看護者の役割と支援方法について学習する。						
目標 1) 現代の家族の特徴と機能を理解し家族看護の必要性を学ぶ。 2) 家族看護を構成する諸概念および家族看護に関する諸理論を理解する。 3) 家族看護の実際について、家族看護過程を展開し、事例を通して学習する。						
授業内容						
授業内容は、1. 現代家族の理解 2. 家族看護の諸理論の理解 3. 家族看護の実際で構成する。 1. 現代家族の理解では、現在家族の機能と形態の変化を捉え、現代家族における個別化について学ぶ。2. 家族看護の諸理論では、家族看護実践事例とつなげながらシステム理論、ストレス対処理論等の家族看護の諸理論を説明し、理解を深める。また、それぞれの諸理論に家族看護実践における活用可能性と限界についても学ぶ。3. 家族看護の実際では、演習を取り入れ臨床場面における家族とのコミュニケーションの実際を体験する。またペーパーペイシェントを通じて家族支援のアセスメント・介入について学び、家族看護の必要性を学ぶ。 (全8回)						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	現代家族の理解(1) 家族とは、家族看護とは何か			我が国の現代家族の特徴について、家族形態、家族構造、諸統計を踏まえて理解できる。家族看護の歴史について知ることができる。		
2	現代家族の理解(2) 家族看護の対象と家族機能			看護の対象としての家族の捉え方を理解できる。家族の基本的発達課題ならびに家族機能について理解できる。		
3	家族看護の諸理論の理解(1) 家族システム理論、家族ストレス対処理論			各理論を構成する概念と、基本的な考え方ならびに家族看護への活用可能性と限界について理解できる。		
4	家族看護の諸理論の理解(2) 家族発達理論、家族生活力量モデル、家族エンパワメントモデル			各理論およびモデルを構成する概念と、基本的な考え方ならびに家族看護への活用可能性と限界について理解できる。		
5	家族看護の実際(1) 家族とのコミュニケーション			家族構成員個々と家族構成員間の関係性の双方に焦点をあてたコミュニケーションを体験し、対象者と向き合うための基本的姿勢について理解できる。		
6	家族看護の実際(2) 家族看護過程の展開方法① 家族情報収集、家族アセスメント			個別性のある家族支援を実施するための家族看護過程の展開方法について理解できる。 家族情報収集、家族アセスメントの具体的な方法について事例を用いて理解できる。		
7	家族看護の実際(2) 家族看護過程の展開方法② 家族支援計画、家族支援の実際と評価			個別性のある家族支援を実施するための家族看護過程の展開方法について、第6回の内容を踏まえて、家族支援計画を立案し、家族支援の実際について考え、介入の評価方法について事例を用いて理解できる。		
8	家族看護の課題と展望			第1回～第7回までの授業を総括し、家族看護の必要性と家族支援のあり方について考察できる。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>皆さんにとって身近な存在である“家族”は、身近であるがゆえに空気のような存在となり深く考える機会がないかもしれません。家族とは何か、看護の対象としての家族について関心を持ち、授業に参加されることを期待します。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>『家族看護学 改訂第2版 19の臨床場面と8つの実践例から考える（看護学テキストNiCE）』 ：山崎 あけみ、原 礼子 編著，南江堂，2015 年 （ISBN 978-4524257089）</p>	
最終到達目標	学習法
<p>家族がもつセルフケア機能を高めるための看護者の役割と支援方法について理解できる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義前の自己学習：シラバスに記載している授業計画に即して教科書の該当箇所を事前に読んで受講する。分からない用語、疑問点について列挙し授業の際に質問する。 2. 講義内容を踏まえて、学習課題の内容について学習シート（講義時に配布予定）を作成し提出する。 3. 事例学習（第5回～第7回）は事例学習である。対象家族の立場にたって考え、看護者としての支援を想起し、記録用紙に記述し準備をして受講し、仲間とディスカッションを行い学びを深める。
評価方法および評価基準	
<p>授業への参加姿勢、授業・演習の課題レポート：30%、 期末試験：70%で評価する。</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>	

授業コード	ENQ0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野	
授業科目名	看護過程	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	井上仁美, 棚崎由紀子, 羽藤典子, 中島紀子, 上西孝明				探求心	○
講義目的						
1. 疾患や障害をもつ人々の健康上の問題や生活上のニーズ及び諸問題を明らかにし、解決に向けた援助を提供するための問題解決方法を学ぶことを目的とする。						
2. ヘンダーソンの理論を用いて看護過程に必要な知識と技術を活用し、正しい看護診断が導けるようにクリティカルな思考を培うことを目的とする。						
授業内容						
1. 看護過程の概念と基本的知識について理解する。						
2. 看護過程のプロセスについて理解する。						
3. 事例対象者の情報を既習の知識に基づき解釈することができる。						
4. 事例対象者の全体像をとらえることができる。						
5. ヘンダーソンの理論を用いて事例のアセスメント、看護診断、看護計画立案ができる。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	看護過程の概念と基本的知識 1 看護過程とは			看護過程の役割及び必要性を理解することができる。		
2	看護過程の概念と基本的知識 2 看護過程の基本的知識			看護の視点及び基本的知識を理解し身につけることができる。		
3	看護過程と記録			看護における記録の構成要素、看護過程における記録の書き方を理解することができる。		
4	事例紹介、フェースシートの書き方			フェースシートを作成することができる。		
5	看護過程の展開 1 情報収集, 情報の整理			事例の情報収集ができ、その情報を整理することができる。		
6	看護過程の展開 2 情報収集, アセスメント			事例の情報収集ができ、その情報を整理することができる。		
7	看護過程の展開 3 情報のアセスメント			事例の情報をアセスメントし、健康上の問題及び生活上のニーズを理解することができる。		
8	看護過程の展開 4 関連図の作成			関連図を作成し事例の理解を深めることができる。		
9	看護過程の展開 5 関連図の作成, 全体像の把握			関連図を完成することができる。アセスメントした事例の全体像を把握することができる。		
10	看護過程の展開 6 全体像の把握			事例の全体像を把握し、健康上の問題や生活上のニーズを理解することができる。		
11	看護過程の展開 7 看護診断			事例を展開し看護診断をつけることができる。		
12	看護過程の展開 8 看護計画の立案, 優先順位の設定			看護診断に基づき看護計画を立案することができる。		
13	看護過程の展開 9 看護計画の立案, 優先順位・目標設定,			立案した看護計画の優先順位及び目標を設定することができる。		
14	看護過程の展開 10 看護計画の実施と評価			事例を展開し評価することができる。		
15	まとめ			これまでの看護過程を振り返り、看護過程の一連の流れについて理解を深めることができる。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>臨地実習では学修した看護過程を実際の患者で展開します。そのため常に主体的に参加し、問題意識を明確にして講義に出席するようにしてください。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
講義内で提示	
最終到達目標	学習法
1. 事例の情報を解釈し健康上の問題及び生活ニーズを理解することができる。 2. 事例を全体的視点から捉え把握し、看護援助を提供するための看護計画を立案することができる。	事前に課題がある場合は、自己学習して講義に出席すること。 積極的に復習を行うこと。
評価方法および評価基準	
試験 70% 授業レポート 20% 授業態度 10% S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない	

授業コード	ENQ0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野	
授業科目名	ヘルスアセスメントⅠ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	坂口京子, 上西孝明, 山本千恵美				探求心	○
講義目的						
1. 看護は、さまざまな健康レベルにある人々の健康を客観的に把握し、看護介入の必要性を考えることができる。 2. 看護の対象者の身体を査定し、人間がそのひとらしく生きていけるように援助する必要性を理解できる。 3. 看護上の問題を見出すための、ヘルスアセスメント技術を学修し、臨床的に活用できるようにする。						
授業内容						
健康レベルを把握するためのフィジカルアセスメントは、単なるモノとしての身体の評価ではなく、その人の精神としての身体の評価であり、看護実践に根拠を与え人々の健康に携わる者としての特権であり、責務と考える。 この科目は、人間の身体的側面、心理的側面、社会的側面の関係を踏まえながら、全身状態を系統的に把握するために、必要な情報を収集し、それらの情報の意味を理解し、基本的なヘルスアセスメントができる能力を養う。主な内容は、ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントの目的、フィジカルイグザミネーションスクリーニング、系統的フィジカルアセスメントにおける基本的な知識を理解する。またフィジカルアセスメントに共通する基本的な技術の演習やシミュレータやモデル人形による実施などを行い、身体各部のアセスメント能力を養う。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントの目的			ヘルスアセスメントの理論・歴史・ヘルスアセスメントの必要性について理解できる。また看護におけるフィジカルアセスメントとは何か、身体を査定する意味について説明できる。		
2	フィジカルアセスメントの準備 ①環境の準備 ②物品の準備			環境の整備・必要物品の準備、について理解することができる。		
3	フィジカルアセスメントの基本技術とは ①問診・視診・触診・打診・聴診			必要物品の用途を理解し、使用できる。さらに問診・視診・触診・打診・聴診の目的、進め方、観察の視点について理解することができる。		
4	系統的レビューとは ①系統的な観察 ②健康歴の聴取 ③対象者への対応や配慮			系統的な観察の視点や、健康歴の聴取について学び、身体の状態を頭部から足先まで系統的に問診する知識と技術について理解することができる。さらに対象者との関係づくりの必要性について考え、看護介入への第1歩として実施することができる。		
5	一般状態のアセスメント 1 ①一般状態の観察 ②身体各部の観察ポイント			一般状態の観察の意義について理解することができる。		
6	一般状態のアセスメント 2 ①バイタル測定 ②身体各部の測定 ③アセスメントの方法			測定の技術を用いて、一般状態の観察ができるとともに、アセスメントの根拠が説明できる。さらにバイタルサイン測定技術のスキルアップを図ることができる。		
7	一般状態のアセスメント 3 ①特有な症状の観察 ②アセスメント			測定の技術を用いて、一般状態及び特有な症状の観察ができるとともに、アセスメントの根拠を説明することができる。		
8	一般状態のアセスメント 4			測定の技術を用いて、一般状態の観察ができるとともに、アセスメントの根拠を説明することができる。		
9	呼吸器系のアセスメント 1 ①呼吸器の解剖生理学 ②呼吸器の視診・触診・打診・聴診			呼吸器の解剖学的構造や呼吸のメカニズムについて説明できる。また呼吸器の視診・触診・打診・聴診の重要性や方法について理解することができる。		

10	呼吸器系のアセスメント 2 ①呼吸音の聴取	呼吸音の聴診部位を理解し、呼吸音が正しく聴取できる。また正常音と副雑音について理解することができる。
11	呼吸器系のアセスメント 3 ①呼吸音の聴取 ②アセスメント	呼吸音の聴診部位を理解し、呼吸音が正しく聴取できる。また正常音と副雑音について理解することができ、アセスメントの根拠を説明することができる。
12	呼吸器系のアセスメント 4 ①呼吸音の聴取 ②アセスメント	呼吸音の聴診部位を理解し、呼吸音が正しく聴取できる。また正常音と副雑音について理解することができ、アセスメントの根拠を説明することができる。
13	循環器系（心臓・血管）のアセスメント1 ①心臓の解剖生理学 ②循環器の観察	心臓の機能と構造を説明できる。また胸部の外観・頸静脈や動脈の拍動の有無、性状について説明することができる。
14	循環器系（心臓・血管）のアセスメント2 ①頸静脈・動脈の拍動・視診・聴診	胸部の外観・頸静脈や動脈の拍動の有無、性状について説明できる脈や動脈の拍動について理解し、観察をすることができる。
15	循環器系（心臓・血管）のアセスメント3 ①心音の聴診	心音の聴診部位を理解し、4つの弁の心音の違いについて説明できる。心音の聴診の重要性について理解することができる。
16	循環器系（心臓・血管）のアセスメント4 ①心音の聴診	心音の正常音と心雑音について理解することができる。
17	腹部・消化器系のアセスメント 1 ①腹部の視診・触診・打診・聴診	腹部臓器の解剖学的構造が説明できる。また腹部全体の視診・触診・打診・聴診について説明することができる。
18	腹部・消化器系のアセスメント 2 ①腹部の観察 ②肝臓・脾臓・腎臓の触診 ②腸の蠕動音の聴診	腹部の外観の異常、腹部の圧痛の有無について説明できる。肝臓および脾臓、腎臓の触診の方法について理解し、実施することができる。また腸の蠕動音の聴診ができ、アセスメントの根拠を説明することができる。
19	筋・骨格系のアセスメント 1 ①筋・骨格の解剖生理学 ②徒手筋力テスト ③関節可動域測定	筋・骨格の解剖学的構造が説明できる。また徒手筋力テスト、関節可動域測定の方法について理解することができる。
20	筋・骨格系のアセスメント 2 ①徒手筋力テスト ②関節可動域測定	徒手筋力テスト、関節可動域測定を実施することができる。主な筋肉や関節に対し測定値について、アセスメントの根拠を説明することができる。
21	筋・骨格系のアセスメント 3 ①関節可動域と筋力スクリーニング	関節可動域と筋力のためのスクリーニングについて学び、評価の意義について説明することができる。
22	筋・骨格系のアセスメント 4 ①事例についてアセスメント	事例を用いて、歩行、座位、整容動作に関する筋力及び関節可動域について観察することができ、アセスメントを行い、看護介入について考えることができる。
23	頸部のアセスメント 1 ①甲状腺、気管の解剖生理学 ②頸部の視診・触診	頸部の可動域、甲状腺、気管などの解剖学的構造が説明できる。また視診・触診を用いて甲状腺の圧痛、腫大、リンパ節の腫脹の有無について観察でき、アセスメントの根拠を説明することができる。
24	乳房のアセスメント 1	乳房の解剖学的構造が説明できる。また視診、触診を用いて圧痛、しこり、腫大、変形の有無について観察でき、アセスメントの根拠を説明することができる。
25	神経系のアセスメント 1 ①反射	神経系統の解剖学的構造が説明できる。また深部反射・表在反射、病的反射について理解することができる。
26	神経系のアセスメント 2 ①膝蓋腱反射 ②アキレス腱反射 ③バビンスキー反射	膝蓋腱反射・アキレス腱反射・バビンスキー反射について実施することができる。また反射の異常についてアセスメントの根拠を説明することができる。
27	神経系のアセスメント 3 ①意識レベル ②瞳孔反射 ③バレー兆候	意識レベルや瞳孔反射、バレー徴候について説明できる。また意識レベルや瞳孔反射、バレー兆候の観察ができ、アセスメントの根拠を説明することができる。

28	事例に基づいてアセスメント 1 ①グループワーク	事例を用いて、入院時から問診、視診・触診・打診・聴診の技術を用いて、健康レベルを客観的に把握し、患者の問題を抽出し、看護の介入について考えることができる。
29	[技術試験]	ヘルスアセスメントのまとめとして技術の確認を行う。
30	[技術試験]	ヘルスアセスメントのまとめとして技術の確認を行う。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
<p>ヘルスアセスメントは、解剖生理学を正しく理解し、人間の身体機能と関連させ、系統的な観察に基づいてアセスメントする。そのため各単元で行われる内容を把握し、単元に関連する人体の構造、機能を図説および説明できるように復習しておくこと。また教科書のフィジカルアセスメントに関する動画を見てイメージトレーニングをしておくこと。また演習後は復習を兼ねてフィジカルアセスメントの技術の修得に向けて繰り返し練習をすること。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>		
教材		
<p>『系統的看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②』：茂野香おる，医学書院，2015年，2,600円税（ISBN 978-4-260-01999-6）</p> <p>『実践！フィジカルアセスメント 看護者としての基礎技術改訂版3版』：小野田千枝子，金原出版株式会社，2008年，3,800円+税（ISBN 978-4-307-70188-4）</p> <p>『系統看護学講座専門基礎分野[1]人体の構造と機能—解剖生理学1』：坂井建雄，医学書院，2015年，3,800円+税（ISBN 978-4-260-01826-5）</p>		
最終到達目標		学習法
1. ヘルスアセスメントの目的・看護におけるフィジカルアセスメントの意義が説明できる。 2. フィジカルアセスメントの基本的な技術について説明できる。 3. フィジカルアセスメントの基本的な技術を用いて、アセスメントし、看護介入の必要性を説明できる。		教科書に目を通し、概要を把握する。また、各単元に関連する人体の構造や機能が説明できるようにした上で講義や演習に向かうようにしてください。
評価方法および評価基準		
<p>学科試験 50% 技術試験 30% レポート 10% 態度 10%</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>		

授業コード	ENQ0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野	
授業科目名	ヘルスアセスメントⅡ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	坂口京子, 上西孝明, 山本千恵美				探求心	○
講義目的						
1. 看護は、さまざまな健康レベルにある人々の健康を客観的に把握することができる。 2. 看護職を目指す者として、既習のヘルスアセスメントの援助技術を強化し、成人看護学、小児看護学、母性看護学、高齢者看護学、精神看護学、在宅看護学における重要なスキルを修得することができる。 3. ヘルスアセスメントの知識・援助技術を臨床・施設の場で活用できるような実践能力を身につけることができる。						
授業内容						
各専門領域における対象の理解を行うとともに、その特徴や看護の役割を根拠とし、重要な症状や状況におけるヘルスアセスメントスキルについて理解できる。また専門領域実習において経験した看護技術の内容を確認するとともに、未経験項目や不十分な経験項目を補い、技術到達レベルを強化する。 具体的には、意識障害、腹膜炎、呼吸と循環の初期の観察ができる。加齢の変化に伴うフィジカルアセスメントの特徴や小児、周産期、新生児のフィジカルアセスメントの特徴について説明できる。また精神障がいのある症状に対するフィジカルアセスメントの特徴や在宅看護におけるフィジカルアセスメントの特徴について説明できる。これらの各専門領域の特徴に対し、ヘルスアセスメントスキルを用いて看護介入について探求する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	大学における看護実践能力の育成の充実に向けて、技術到達度の確認 各専門領域の特徴を活かしたヘルスアセスメントの視点 ①卒業時看護技術到達レベル ②各看護学領域の対象者の特徴と看護の特徴			文部科学省の卒業時における看護技術の到達度について内容と必要性が理解できる。 臨地実習開始から終了までの技術習得レベルの確認を行い、自己評価するとともに課題を見つけることができる。 各専門領域の対象者の特徴を説明でき、看護の重要なポイントを理解することができる。		
2	各専門領域の共通する症状に関するフィジカルアセスメント 1 ①意識障害の初期観察の技術（高齢者・成人・小児） ②呼吸、循環の初期観察（高齢者・成人・小児）			各専門領域の共通する症状について説明でき、意識障害及び呼吸困難の程度がアセスメントでき、看護介入について説明することができる。		
3	各専門領域の共通する症状に関するフィジカルアセスメント 2 ①腹膜炎の初期観察の技術（高齢者・成人）			各専門領域の特徴を踏まえ、腹部の視診・触診・打診・聴診について説明でき、実施することができる。 腹部症状の観察が行え、アセスメントの根拠を説明することができる。		
4	発達年齢に応じた一般状態のアセスメント1 ①高齢者・成人・小児のバイタルサイン測定			各発達年齢のバイタルサインの特徴について説明でき、バイタルサインの測定を正確に実施することができる。またアセスメントの根拠を説明することができ、看護介入について説明することができる。		
5	成人看護学における重要な技術とアセスメント1 ①消化器のアセスメント ②腹水、疼痛、腫瘍の腫大			成人の主な死亡要因や疾患の特徴について説明できる。 消化系の疾患（癌）に関連した、問診・視診・触診・打診・聴診について理解でき、実施することができる。		
6	成人看護学における重要な技術とアセスメント2 ①消化器のアセスメント ②腹水、疼痛、腫瘍の腫大			消化系の疾患（癌）に関連した、問診・視診・触診・打診・聴診について理解でき、実施することができる。また消化器系の疾患のアセスメントの根拠が説明でき、看護介入について考えることができる。		

7	高齢者看護学における重要な技術とアセスメント 1 ①筋・関節系アセスメント ②転倒に対するアセスメント	高齢者の筋・関節の特徴を踏まえ、老年性症候群について観察でき、アセスメントの根拠を説明することができる。また看護介入について考えることができる。
8	高齢者看護学における重要な技術とアセスメント 2 ①認知症におけるアセスメント	認知症の原因、メカニズムについて説明できる。認知症に対する検査について理解し、アセスメントの根拠を説明することができる。また看護介入について考えることができる。
9	小児看護学における重要な技術とアセスメント 1 ①小児の問診・視診・触診・打診・聴診	保護者を含めた小児看護の特徴を理解できる。小児の特徴的な症状について、視診・触診・打診・聴診の技術を用いてアセスメントする重要性について学ぶことができる。また初期症状の看護介入について考えることができる。
10	母性看護学における重要な技術とアセスメント 1 ①周産期のアセスメント	周産期の特徴について理解し、解剖生理学的変化について説明できる。助産領域に必要な診断、検査に対してアセスメントの根拠が説明でき、周産期の看護介入について説明することができる。
11	精神看護学における重要な技術とアセスメント 1 ①精神疾患の特徴 ②問診・検査・視診	精神障がいを持つ患者の特徴を理解できる。精神疾患特有な症状について説明できる。複雑な精神症状に対し診断されるまでに至る問診、検査、視診について理解し、アセスメントの根拠が説明できる。また精神障がいを持つ患者の看護介入について考えることができる。
12	在宅看護学における重要な技術とアセスメント 1 ①症状と生活	さまざまな発達段階、健康レベルの人々が在宅で継続して医療や看護を受けることができるかどうか評価する重要性について理解できる。主訴、バイタルサイン、食事、呼吸、循環、排泄などその人の生活に影響する状況のアセスメントの根拠が説明できる。また在宅における看護介入について説明できる。
13	4年間の看護技術のスキルアップ 1 [技術試験を含む]	自己の看護技術経験録に従って、不足箇所を確認できるとともに、各看護学の領域の特徴を活かしながら、技術に必要なアセスメントができる。また技術到達のレベルに応じて、技術の修得をすることができる。各看護学領域において重要な技術に対し、ヘルスアセスメントを活用した援助技術を実施することができる。
14	4年間の看護技術のスキルアップ 2 [技術試験を含む]	自己の看護技術経験録に従って、不足箇所を確認できるとともに、各看護学の領域の特徴を活かしながら、技術に必要なアセスメントができる。また技術到達のレベルに応じて、技術の修得をすることができる。各看護学領域において重要な技術に対し、ヘルスアセスメントを活用した援助技術を実施することができる。
15	まとめ 事例を用いて、受診時の問診から視診・打診・聴診を通して患者の持つ問題をアセスメントする ・グループワーク	コミュニケーション技術・ヘルスアセスメント技術など今まで修得した知識・技術を活用し、事例に対して適切なアセスメントができ、看護介入することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>ヘルスアセスメントは、解剖生理学を正しく理解し、人間の身体機能と関連させ、系統的な観察に基づいてアセスメントし、身体の査定を行った上に、さらに人間を精神的側面、社会的側面から統合して、生活者として捉える必要がある。ヘルスアセスメントⅠおよび各専門領域で既習した知識を活用し、4年間の臨地実習において経験した技術などを振り返り、自己の看護技術をスキルアップするようすること。また未経験技術や到達度が低い技術については、到達レベルに達成するように努力すること。あらゆる発達段階や健康レベルに応じてフィジカルアセスメントができるようになり、その人らしい生活が送れるように支援できるように、ヘルスアセスメントⅡは、卒業前の総仕上げという意味を持つ。自己の課題に向けて積極的に取り組むこと。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
<p>『系統的看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②』：茂野香おる，医学書院，2015年，2,600円税（ISBN 978-4-260-01999-6）</p> <p>『実践！フィジカルアセスメント 看護者としての基礎技術改訂版3版』：小野田千枝子，金原出版株式会社，2008年，3,800円+税（ISBN 978-4-307-70188-4）</p> <p>『看護学テキストNICE ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める（DVD付き）』：三上れつ，南江堂，2010年，3,600円税（ISBN978-4524247622）</p>	
最終到達目標	学習法
<p>1. 卒業目前にして各専門領域を横断して、看護としてのヘルスアセスメントの意義、目的、方法が説明でき、アセスメント能力を高めることができる。</p> <p>2. さまざまな発達段階、さまざまな健康レベルの人々に対し、基本的なヘルスアセスメントができ、看護介入につなげることができる。</p>	<p>既習したヘルスアセスメントⅠを復習する。</p> <p>人間のライフサイクルの特徴、各看護学領域の特徴など、教科書を読み直し、理解しておくこと。</p> <p>4年間の臨地実習で経験した技術、未経験項目など自己にて確認しておく。</p>
評価方法および評価基準	
<p>学科試験 50%</p> <p>技術試験 30%</p> <p>小テストおよび課題レポート 10%</p> <p>講義、演習参加および態度 10%</p> <p>S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D(60点未満)：Cのレベルに達していない</p>	

授業コード	ENQ0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野	
授業科目名	看護教育論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	河野保子				探求心	○
講義目的						
教育とは何か、ということについて考え、看護教育制度下における「看護基礎教育」について理解することを目的とする。また看護教育活動における基礎的な教育方法や看護基礎教育の現状と課題について考察でき、看護職の学びを生涯学習と捉え、専門職のキャリア開発の必要性について検討する。						
授業内容						
学生自らのこれまでの経験をもとに、「知る」ということ、「理解する」ということ、「できる」ということについて考え、看護基礎教育課程に関する理論教育と実践教育との関係・統合性について学修する。また看護教育の歴史的変遷や看護教育制度について理解し、これからの看護及び看護教育の方向性について分析でき、看護教育の向上が看護の質保障に関連することについて理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	看護教育再考		自身の受けたこれまでの講義・実習を通して、看護基礎教育のあり方についてグループディスカッションを行う。			
2	看護教育の歴史的変遷、看護教育制度		看護職者の教育の成り立ちを体系的に把握し、看護師養成教育と学校教育制度、看護教育制度の多様化について理解できる。			
3	看護学教育課程（1）		看護学の理論教育と実践教育との関連性と重要性が理解できる。			
4	看護学教育課程（2）		看護学のカリキュラムと教育内容について理解できる。			
5	看護学教育課程（3）		看護学実習の持つ意味、看護実習の特質について理解できる。			
6	看護学教育方法		授業設計、教授－学習過程、授業評価について理解できる。			
7	看護継続教育		看護継続教育の意義、看護継続教育機関とその内容について把握できる。			
8	専門職と看護専門職		専門職の定義について理解し、看護の専門職性について論じることができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
本科目は4年次の最終学年に開講されるため、「看護教育」そのものへの関心が深いと考えます。各自の被教育者としての体験を大切に、看護教育の有るべき像と一緒に考えたいと思っています。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
教材は講義時にプリント等を配布します。参考文献は講義中に紹介いたします。						
最終到達目標			学習法			
・看護学教育の発展過程を把握し、今後の看護教育の方向性を考察できる。 ・看護学教育の教授－学習過程が具体的に理解できる。 ・看護教育が果たす社会的責任及び社会的貢献について把握できる。			講義前に、教員が独自に作成した冊子を配布するため、事前に読んでおく。 講義は双方向授業を多く取り入れ、学生の受けた教育から様々な考察を試みる。 講義終了時にリアクションペーパーを提出する。			
評価方法および評価基準						
期末テスト 60% 課題レポート 10% 講義参加状況 30%						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）						
A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている						
B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENQ0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野	
授業科目名	災害看護学	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	松井豊、中島紀子				探求心	○
講義目的						
「災害直後から支援できる看護の基礎的能力を養う」ことをねらいに、2009年度から看護基礎教育に災害看護が導入された。この授業では、災害が社会や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、さらに災害サイクルにおける被災者の健康や生活ニーズに応じた看護職の果たすべき役割について学び理解することを目的とする。						
授業内容						
自然災害の種類あるいは防災意識について理解を深め、防災意識の向上及びその対策について考える。また災害が社会や地域の人々の暮らしを密接に関係しながら人々の生活に影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康や生活ニーズに応じた看護職の果たすべき役割について学ぶ。また災害時におけるトリアージ、こころのケアについては学内模擬演習により理解する。 さらに東日本大震災における被災者心理、被災者のストレス、悲しみ等について理解する。また、災害時の支援者としてのありよう及び被災から立ち直りまでのプロセス理論について理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	導入：災害及び災害看護に関する基礎的知識			災害、災害看護の定義、歴史について理解する。災害サイクルと看護活動について説明できる。		
2	災害時の社会の制度と看護の役割			災害に関する制度や社会の対応仕組みについて理解し、各期の看護活動について説明できる。		
3	災害時の被災者の行動			広域災害における被災者の心理や行動を説明する。		
4	惨事ストレス			広域災害における災害救援者のストレスについて説明する。		
5	被災ストレス・惨事ストレスのケア			被災によるストレスや惨事ストレスのケアや対策について実習を交え説明する。		
6	災害時に必要な技術、課題別演習			トリアージの概念、方法について理解し説明できる。		
7	課題別演習（大学の備えや環境、個人の備え、避難所になった時のレイアウト、心のケアと生活援助の工夫、新聞記事に見る災害のとらえ方）			小グループでの討議により、課題について調べまとめることができる。		
8	演習成果の発表、まとめ			グループワークの発表により、講義内容の振り返りができ、系統的・総合的に考察することができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
来るべき巨大地震に備え、被災地・被災者及び災害時に活動した看護者から学ぶ真摯な姿勢を持って講義に臨む。 講義開始前に各自の被災体験の確認を含めたアンケートを実施する。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『災害看護－看護の専門知識を統合して実践につなげる（看護学テキストN i CE）』：酒井明子編，南江堂，2008年，2,484円（ISBN 978-4524266883）						
最終到達目標				学習法		
災害時における看護職者として在り方を考え、災害に対する知識及び支援全般の理解を深め習得することができる。				災害の実際を学び、グループワークにおいて支援の在り方を実践的に学習する。		
評価方法および評価基準						
筆記試験を基本とするが、グループワーク及び学習態度も評価とする。 筆記試験（80%），グループワーク（10%），課題の提出（10%） S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good）C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good）D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENQ0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野	
授業科目名	緩和ケア・ターミナル看護論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	宮脇聡子				探求心	○
講義目的						
がん等、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族の状況への理解を深め、患者・家族が抱えている身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛（トータルペイン）の緩和につながる看護の基本的知識や技術を学ぶ。また、人生の最終段階にある患者の特徴と患者・家族のケアに必要な看護の基本的知識や技術を学ぶ。						
授業内容						
生命を脅かす疾患の特徴と疾患とともに生きる患者・家族の特徴を理解する。 緩和ケアを行ううえで必要なアセスメントや介入等基本的な知識、技術を理解する。 緩和ケアやターミナルケアにかかわる看護師の態度と役割について理解する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容		学習課題			
1	緩和ケアの歴史と現状		緩和ケアを必要とする疾患を理解する。 緩和ケアの歴史 とわが国での緩和ケアの現状と看護師への緩和ケア教育を理解する。			
2	緩和ケアにおける倫理的課題 緩和ケアにおける看護師の役割		緩和ケアにおける倫理的問題を考えることができる。 緩和ケア・ターミナルケアにおける看護師の役割を考えることができる。			
3	症状マネジメント1 トータルペインの理解 身体的苦痛緩和のための知識と技術		トータルペインについて理解することができる主要な身体症状を知ることができる。 身体症状の緩和の基礎を理解することができる。			
4	症状マネジメント2 精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛緩和のための知識と技術		主要な精神症状を知ることができる。 精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛の緩和を検討することができる。			
5	患者と家族を理解するためのコミュニケーション		患者と医療者のコミュニケーションの特徴を理解し、自分のコミュニケーションの特徴を考えることができる。			
6	家族ケア		緩和ケアを受ける患者の家族を理解し、家族を支援するための知識と技術を理解できる。 グリーフケアについて理解できる。			
7	看護師の態度と役割		自身の死生観を考えることができる。			
8	チームアプローチ		医療者間のコミュニケーションの特徴を理解し、チームアプローチについて検討することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
生命を脅かす疾患を持つ患者と家族について学びながら必要な知識や技術を学ぶとともに、自分たちの役割について理解を深める科目です。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

教材	
『系統看護学講座 別巻 7 緩和ケア』：恒藤暁, 医学書院, 2014 年, 2,376 円 (ISBN 978-4260018180)	
最終到達目標	学習法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生命を脅かす疾患の特徴と疾患とともに生きる患者・家族の特徴を説明できる。 ・ 緩和ケアに必要な知識と技術を理解できる。 ・ 緩和ケアやターミナルケアにかかわる看護師の態度と役割について考えることができる。 	教科書を基本に、知識と技術を講義とディスカッションを通して身につけていく。
評価方法および評価基準	
<p>筆記試験 (70%)</p> <p>授業への参加及び態度 (30%)</p> <p>S (100～90 点) : 学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)</p> <p>A (89～80 点) : 学習目標を相応に達成している (Very Good)</p> <p>B (79～70 点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)</p> <p>C (69～60 点) : 学習目標の最低限は満たしている</p> <p>D (60 点未満) : C のレベルに達していない</p>	

授業コード	ENQ0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野	
授業科目名	ストレスマネジメント論	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	1		判断力	○
担当教員	小西美智子				探求心	○
講義目的						
看護サービスを実践する場合、保健医療福祉機関等の組織の一員として、看護サービス利用者と信頼関係を構築しながら、良い看護を提供する役割がある。このような役割を果たすために、看護技術・知識の習得に加えて、業務に伴うストレスをマネジメントするセルフマネジメント能力を培うことが必要です。その意義と方法を学びます。						
授業内容						
看護業務上のストレスは看護ケア等の改善・工夫に有効であり、また家族生活や社会生活におけるストレスは生活の活性化に必要なこともあります。しかしこのストレスが個人にとって強力・過剰になると、心身に変調を起こし、看護業務の遂行や日常生活が困難になります。看護業務に関するストレス発生要因について知識を深め、その発生要因を下げるためのアサーティブコミュニケーション、組織と人間関係への認知再構成、また強力・過剰なストレスから自身を守るためにサポート資源の活用やストレスコーピング法を、講義及び演習（グループ討議）を通して学修する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	職業生活、家族生活、社会生活に伴うストレスの発生要因について			ストレスと生活との関連が理解できる。		
2	看護業務に伴うストレス（1） 組織の一員として、ライン構成とスタッフの役割			組織構成員としてのストレス発生要因が理解できる。		
3	看護業務に伴うストレス（2） 看護サービス利用者との信頼関係の構築			他者と信頼関係を構築する時に必要な認知再構成の必要性が理解できる。		
4	看護業務に伴うストレス（3） チーム看護、チーム医療の推進			看護業務の遂行に伴って発生するストレスが理解できる。		
5	ストレスコーピングを目指したと生活習慣や生活様式とは			各自の生活とストレスコーピングの関係が理解できる。		
6	各自のストレス耐性力を超えた状況になった時のサポート資源・システムの活用			職業生活に伴うストレスとその対処方法が理解できる。		
7	新卒看護師とストレス発生要因とその対処方法			新卒看護職として職業生活開始時に予測されるストレス状況について理解できる。		
8	各自のストレスマネジメント能力育成方法について			ストレスマネジメントの必要性について理解できる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
看護学実習や学生生活においてストレスになった状況とその時の対処した方法について、振り返っておくこと。科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
授業時に参考図書、講義レジュメ及び事例は提示する。						
最終到達目標				学習法		
職業生活とストレスの関係、ストレス軽減方法、ストレス対処方法について説明できる。 新卒看護職として職業生活の遂行に向けて対応力を培う。				グループワークにおいて、意見交換し、自分の理解状況及び学修課題の達成度状況を自己評価し、不足内容を復習する。		
評価方法および評価基準						
グループワークにおける意見交換への参加度：４０点（８回）、単元ごとのまとめ：４０点（８回） 事前学習レポート内容：２０点（２回） S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENQ0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野	
授業科目名	研究方法論	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	奥田泰子, 三並めぐる, 井上仁美, 田中正子, 棚崎由紀子, 羽藤典子, 中島紀子				探求心	○
講義目的						
看護研究の目的や意義、看護研究の方法と論文のまとめ方など看護研究を進める上で必要な基礎的な知識や方法、態度を修得することを目的とする。						
授業内容						
日常おこる現象や、看護実践の場における観察から研究課題を発見する感性を涵養し、その根拠を提示するための科学的なアプローチのしかたや分析方法を考えることができる。また文献を活用して自らの研究課題を深めることができる。(オムニバス方式／全15回)						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
1	看護研究とは(看護研究の目的と意義、量的研究と質的研究、実験研究と調査研究、文献研究、事例研究) 研究における倫理的配慮			研究の目的と意義について理解できる。 研究デザインについて理解できる。 研究における倫理的配慮について理解できる。		
2	看護研究の進め方(研究の動機と目的、テーマ、研究の概念枠組み、研究協力者、信頼性と妥当性)			研究の動機と目的について理解できる。 研究テーマについて理解できる。 研究の概念枠組みと研究対象について理解できる。 研究の信頼性と妥当性について理解できる。		
3	研究における倫理			看護研究を行う上で必要な倫理的視点について、具体的に理解できる。		
4	文献検討 1			看護研究における文献検討の意義を理解することができる。また、文献検索の資料と活用の仕方について学ぶことができる。		
5	文献検討 2			文献検索を通し、論文の質を正しく判断するために必要な文献の読み方や整理の仕方を理解することができる。		
6	量的研究 1 質問紙を用いた調査研究(1)			調査研究のステップを理解するとともに、その特徴を理解することができる。		
7	量的研究 2 質問紙を用いた調査研究(2)			調査研究におけるデータ収集法とその分析方法について理解できる。		
8	量的研究 3 介入研究(1)			介入研究のステップを理解するとともに、その特徴を理解することができる。		
9	量的研究 4 介入研究(2)			介入研究におけるデータ収集法とその分析方法について理解できる。		
10	実験研究方法論、対象者の選定			実験研究の概要と対象者の選定について理解できる。		
11	実験研究における測定機器、倫理的問題			実験研究の測定機器及び倫理的問題について理解できる。		
12	実験研究の文献検索、抄読演習			実験研究に関する文献を通して、研究の具体的な進め方を理解できる。		
13	質的研究 1 1) 質的研究の意義 2) 質的研究方法の種類 3) 質的研究の特徴			質的データを用いた研究のステップを理解するとともに、質的研究の意義、哲学的背景および研究デザインの種類、特徴について理解することができる。		
14	質的研究 2 1) データ収集 2) 分析方法			質的研究におけるデータ収集法とその分析方法について理解できる。		
15	質的研究 3 1) 質的研究のクリティーク			実際に質的データを用いた研究論文を読み、質的研究の論文の読み方およびクリティークの具体的方法について理解できる。		

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
<p>卒業研究のための必須科目です。研究の目的や方法等を理解し、なぜ研究が重要なのかについても学修できるよう興味関心のある論文を読みながら講義を受けて下さい。</p> <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>	
教材	
講義内で紹介	
最終到達目標	学習法
1. 卒業研究に必要な看護研究の目的、意義、研究方法、分析、倫理的配慮について説明できる。 2. 卒業研究に取り組むことができる準備状態が整う。	資料に目を通し、概要を把握する。また、事前に提示する課題がある場合は、自己学習をして講義に臨んでください。
評価方法および評価基準	
期末試験 60% 小テストおよび課題レポート 20% 講義参加状況および態度 20% <ul style="list-style-type: none"> S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない 	

授業コード	ENQ1001			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	
科目区分	専門科目－統合看護				広い視野	
授業科目名	看護研究	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/通年	単位数	2		判断力	○
担当教員	専任教員全員				探求心	○
講義目的						
これまでに修得した各領域における授業や演習、実習を通して、学生個々が関心のある研究テーマを探求し、研究論文を作成することを目的とする。また、看護現象を科学的にとらえ、将来の看護実践の向上につながる研究的思考や倫理観について学修する。						
授業内容						
これまでに修得した様々な看護学実習と看護専門科目ならびに関連領域科目を統合させて志向できる能力を身につける。具体的には看護研究の意義・目的を明確にし、研究テーマの決定方法、文献検索の意義と方法、研究計画書の作成方法などの基礎的知識を学び、学生が個人あるいはグループで研究の過程を実際に体験し、論文の作成を行う。また、このプロセスをたどることによって、将来の看護研究活動への基礎作りをする。						
【看護研究の進め方】						
担当教員と相談しながら研究を実施する。						
看護研究方法論で学習した内容を基盤に、小人数のゼミナール形式で文献の抄読、研究テーマに関するディスカッションを行い、研究テーマの明確化、研究計画書を作成する。また、担当教員の指導下に、研究計画書に基づき、データ収集、分析、研究論文作成のプロセスを踏み、看護研究論文を作成する。						
個人研究を原則とし、各グループで発表とする。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学習時間）						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
担当教員より、適宜紹介する。						
最終到達目標				学習法		
1. 興味・関心を抱いた看護上の問題や看護現象などから、主体的に研究テーマを明確にできる。 2. 研究の意義を理解し、研究課題を探求するための研究計画書を作成することができる。 3. 研究計画に基づき、研究的な手法を用いてデータ収集・分析し、結果を考察して論理的に記述することができる。 4. 規定の執筆要領に従い、研究論文を作成できる。 これらをとおして研究的思考ならびに態度を養う。				これまでの授業や演習、実習を通して興味・関心を抱いた看護上の問題などについて明確にしておく。 「看護研究方法論」の講義時に使用した資料を復習しておく。		
評価方法および評価基準						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENR0101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	1年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	中島紀子, 坂口京子				探求心	○
講義目的						
<p>基礎看護学実習Ⅰは、保健・医療の患者との関わりの実際を見学し、保健・医療の分野における看護職者の役割と機能を学び、今後の学修への動機づけとすることをねらいとしている。また、看護専門職者に求められる基本的な態度を習得する。この実習での学びは、今後積み重ねていく看護学の基盤としての側面ももつ。</p> <p>具体的な目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 保健・医療の分野における看護職者の役割と看護の機能を説明できる。2. 看護の倫理綱領に則って他者を重んじた行動ができる。 <p>学生は医療施設において、看護活動（①日常生活行動への援助 ②診療への援助）の見学、および対象者を取りまく療養環境の概要を把握し、看護職者の役割と看護の機能について学ぶ。さらに実習に関わる全ての人たちに、看護学生として他者を重んじた行動をとることで、看護専門職者に求められる基本的な態度についても学ぶ。</p>						
実習方法						
<ol style="list-style-type: none">1. 実習施設は病院を使用する。実習場所は病院の成人系の病棟とする。2. 学生を16グループ（80名を1グループ5名）にわけるとする。3. 学生1人あたりの実習期間は、病院で4日、学内を1日とする。4. 実習方法は以下の通りとする。<ol style="list-style-type: none">1) 実習オリエンテーションを実習期間前に実施する。実習目的・目標、実習方法を実習手引きにそって説明する。担当教員により、各実習施設のオリエンテーションを実施する。2) 事前学習として以下の2点に取り組む。<ol style="list-style-type: none">①実習施設の特徴②実習に向けての自己の課題3) 病院実習では以下の内容を実施する。<ol style="list-style-type: none">①施設オリエンテーション：実習施設の概要（病院の特徴・理念、看護部理念、構造、感染予防・安全対策、災害時の対応、看護と多職種の連携等）の説明を受ける。担当は各病院の教育担当者とする。②施設見学：様々な看護活動の場、患者を取り巻く環境として、施設内にどのような関連部門があるか、どのような職種の人々が働いているか、また構造や環境面で患者にどのような配慮や工夫がなされているのかを知る。担当は各病院の教育担当者及び臨地実習指導者とする。③病院オリエンテーション：各実習病棟で実施する。担当は各病棟の臨地実習指導者とする。④シャドーイング実習：病棟看護師とともに行動（シャドーイング）し、看護師の行う看護実践を見学する。担当は臨地実習指導者及び病棟看護師とする。<p>①～④の活動を通して、学生は看護の対象者を取りまく療養環境について概要を把握し、看護職者の役割及び看護の機能について考察する。</p>⑤学生振り返り：実習グループごとに病院実習での学びを共有する。担当は臨地実習指導者と教員とする。4) 実習反省会 <p>最終日に各病棟にてメンバーの体験と自分の体験を照合し、基礎看護学実習Ⅰにおける自己の体験を多面的・客観的に捉えなおし、今後の課題を見出すことを目的とする。担当は教員及び臨地実習指導者とする。</p>						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
<p>看護学概論Ⅰ，看護学概論Ⅱの単位修得見込みであること。</p> <ul style="list-style-type: none">・実習期間、すべての出席を原則とする。・実習時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。・実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。 <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ15時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>						

実習計画		
実習期間：平成 29 年 9 月 25 日(月)～29 日(金)		実習場所：愛媛県内 11 病院
実習計画：		
	午 前	午 後
月	①施設オリエンテーション ②施設見学	③病棟オリエンテーション ⑤学生振り返り
火	④シャドーイング実習	④シャドーイング実習 ⑤学生振り返り
水	学内	学内
木	④シャドーイング実習	④シャドーイング実習 ⑤学生振り返り
金	④シャドーイング実習	④シャドーイング実習、実習反省会
教材		
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①：茂野香おる，医学書院，2016，2,400 円+税 (ISBN978-4-260-02181-4)		
最終到達目標		学習法
1. 患者との関わりを通して、保健・医療の分野における看護職者の役割と機能が理解できる。 2. 看護職者に求められる基本的な態度について述べるができる。		既習の知識を活用し、入院患者の療養環境と治療、看護のあり方について考える。実習はグループ単位で活動するので、リーダーシップやメンバーシップを発揮しお互いに協力し合う。看護学生として学ぶ姿勢を持つ。
評価方法および評価基準		
出席状況、実習記録、実習態度を統合して実習指導教員・単位認定者が評価する。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない		

授業コード	ENR0201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	中島紀子, 坂口京子				探求心	○
講義目的						
<p>基礎看護学実習Ⅱは、これまでの講義や演習で学んだ看護過程を構成する基本的要素に関する知識とその応用を臨床の現場で活用し、その記録を作成することで断片的になりがちな知識と技能を統合することを目的とする。学生は医療施設において看護過程を展開する。</p> <p>具体的な目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none">1. コミュニケーション技法等既習の知識と技能を活用し、対象者と良好な人間関係を築くことができる。2. ヘルスアセスメント技法等既習の知識と技能を活用し、対象者の状態を把握し必要な援助を判断する。3. 対象者の個性性を考慮した生活行動の援助計画を立案し、実施、評価する。						
実習方法						
<ol style="list-style-type: none">1. 実習期間は2週間とする。2. 実習施設は病院を使用する。3. 実習場所は成人・老年期にある入院患者を主とする病棟とする。4. 学生は16グループ(1グループ名)で実習する。5. 実習方法は以下の通りである。<ol style="list-style-type: none">1) 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を実習の手引きに沿って説明する。担当は実習担当教員とする。2) 病棟実習では以下の内容を実施する。<ol style="list-style-type: none">①施設オリエンテーション：実習施設の概要(病院の特徴・理念、組織、看護部理念、構造、感染予防・安全対策、災害時の対応、看護と多職種の連携等)の説明を受ける。担当は各実習施設の教育担当者とする。②病棟オリエンテーション：実習グループに分かれ実習病棟で実施する。担当は各病棟の臨地実習指導者とする。③シャドーイング実習：病棟看護師とともに行動し、看護師の行う看護実践を見学する。担当は臨地実習指導者及び病棟看護師とする。④看護過程の展開：1人の患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価の一連の流れを経験する。看護過程の展開における思考過程の指導は教員が実習指導者と連携して行う。⑤学生カンファレンス：グループごとに施設実習での学びを報告し共有する。担当は教員と臨地実習指導者とする。3) 実習全体報告会 学内で異なる実習グループのメンバーの体験と自分の体験を照合し、自己の体験を多面的・客観的に捉えなおし自己の今後の課題を見出すことを目的とする。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
<p>基礎看護学実習Ⅰ、生活援助方法論、生活援助方法演習、診療援助方法論、診療援助方法演習、看護コミュニケーション論、看護過程の単位を修得しており、ヘルスアセスメントⅠの単位修得見込みであること。</p> <ul style="list-style-type: none">・実習期間すべての出席を原則とする。・実習時間の4/5に満たない場合は、単位認定できない。・実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。 <p>科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。</p>						

実習計画			
実習期間：平成 31 年 2 月 18 日(月)～3 月 1 日(金)			
実習場所：愛媛県内 10 病院			
実習計画			
		午前	午後
1 週 目	月	①施設オリエンテーション ②病棟オリエンテーション	③シャドーイング実習 ⑤学生カンファレンス
	火	④看護過程の展開、看護ケアの見学	④看護過程の展開、看護ケアの見学 ⑤学生カンファレンス
	水	学内	学内
	木	④看護過程の展開、看護ケアの見学	④看護過程の展開、看護ケアの見学 ⑤学生カンファレンス
	金	④看護過程の展開、看護ケアの見学	④看護過程の展開、看護ケアの見学 ⑤学生カンファレンス
2 週 目	月	④看護過程展開・看護計画実施・評価・修正	④看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ⑤学生カンファレンス
	火	④看護過程展開・看護計画実施・評価・修正	④看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ⑤学生カンファレンス
	水	学内	学内
	木	④看護過程展開・看護計画実施・評価・修正	④看護過程展開・看護計画実施・評価・修正 ⑤学生カンファレンス
	金	実習全体報告会	記録のまとめ
教材			
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学①：茂野香おる，医学書院，2016，2,400 円+税 (ISBN978-4-260-02181-4)			
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②：茂野香おる，医学書院，2016，2,600 円+税 (ISBN978-4-260-01999-6)			
系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③：任和子，医学書院，2016，2,900 円+税 (ISBN978-4-260-01579-0)			
最終到達目標		学習法	
1. コミュニケーション技法や既習の知識と技能を活用し、対象者と良好な人間関係を築くことができる。 2. ヘルスアセスメントや既習の知識や技能を活用し、看護過程の展開の一連の流れを理解できる。 3. 対象者に応じた援助の必要性が理解できる。		既習した知識、技能を活用できるように、解剖生理学、疾病治療論、ヘルスアセスメント、看護技術、看護過程等を十分に復習する。	
評価方法および評価基準			
出席状況、実習記録、実習態度を統合して実習指導教員・単位認定者が行う。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない			

授業コード	ENR0301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	小児看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	三並めぐる, 羽藤典子				探求心	○
実習目的						
子どもの成長・発達過程における特徴を理解し、各発達段階に応じた援助を学ぶ。また、健康問題が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもの成長・発達、健康レベルに応じた看護を実践できる基礎的知識・技術・態度を修得する。						
実習方法						
小児看護学実習は、事前学習、実習オリエンテーション、病院実習、保育所実習、実習成果報告会で構成される。						
1. 実習場所は、保育所および病院の小児系の病棟とする。						
2. 学生は、16グループ（1グループ約5名程度）に分かれる。						
3. 実習期間は2週間とし、保育所実習2日間、病棟実習8日間（オリエンテーションを含む）とする。						
4. 実習方法は、次のとおりとする。						
1) 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。担当教員は、実習目的・目標、実習方法を実習ガイドブックに沿って説明する。併せて、看護技術の振り返りと各実習施設のオリエンテーションを行う。学生は、オリエンテーションに必要な事前学習を行う。						
2) 保育所実習では以下の内容を行う。						
①0歳～5歳児クラスの保育に参加する。						
②子どもとの関わりや観察を通し、成長発達段階を踏まえた児の特徴を知る。						
③子どもの基本的生活習慣の獲得やその自立の促しに必要な関わりを学ぶ。						
④子どもとの遊びやコミュニケーションを通して、成長発達段階に適した援助を学ぶ。						
⑤日々のカンファレンスにより情報共有を行い、学生同士のディスカッションを通して、学びを深める。						
3) 病院実習では以下の内容を行う。						
①病棟オリエンテーション：小児病棟の構造や特殊性を学ぶ。						
②看護過程：1名の患児を受け持ち、子どもや家族とのかかわり、疾患の状態、治療、成長発達過程などを理解し、患児の状態を的確に判断し健康レベルに応じた適切な看護（看護過程の展開）を実施・評価する。						
③学生カンファレンス：グループごとに実習での学びをし、共有する。担当は教員と臨地実習指導者とする。						
4) 実習成果報告会は以下の内容を行う。						
学内にて、異なる実習グループのメンバーの体験を共有し、小児看護学実習における自己の学びを振り返り、今後の学習課題を見出す。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学習時間）						
小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱの単位を修得していること。						
・実習期間、すべての出席を原則とする。						
・実習（保育所実習、病院実習、帰学日）時間の5分の4に満たない場合は、単位認定しない。						
・実習記録物の提出が遅滞した場合は減点対象とし、未提出の場合は、単位認定しない。						
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

実習計画			
実習施設：1) 西条中央病院 2) 市立八幡浜病院 3) 松山市民病院		4) 愛媛県立こども療育センター 5) 市立宇和島病院 6) 愛媛大学医学部附属病院	
実習計画：			
1 週目			
	＜実習場所＞	＜午前＞	＜午後＞
月	保育所	①施設オリエンテーション	②保育所の日課に参加 ③カンファレンス
火	保育所	①保育所の日課に参加	②保育所の日課に参加 ③振り返り会
水	大学	①学内実習	②学内実習
木	病棟実習	①病棟オリエンテーション	②ケア見学 ③看護過程（情報収集）
金	病棟実習	①ケア見学 ②看護過程（情報収集）	③看護過程（情報収集/アセスメント） ④中間カンファレンス
2 週目			
	＜実習場所＞	＜午前＞	＜午後＞
月	病棟実習	①看護過程（アセスメント/関連図）	②看護過程（看護計画立案） ③カンファレンス
火	病棟実習	①看護過程（看護計画/実施）	②看護過程（看護計画/実施） ③カンファレンス
水	病棟実習	①看護過程（看護計画/実施）	②看護過程（看護計画/実施） ③カンファレンス
木	病棟実習	①看護過程（実施/評価/修正）	②看護過程（実施/評価/修正） ③カンファレンス
金	大学	①個人のまとめ	②実習成果報告
教材			
小児看護学概論・小児看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書・参考書			
最終到達目標		学習法	
1. 子どもの成長発達段階における特徴やその違いを学び、基本的生活習慣の自立を促す援助を理解できる。 2. 子どもとの良好なコミュニケーションを築くことができる。 3. 健康問題のある子どもとその家族の最良の健康状態に向けて、必要な看護を実践できる。		実習ガイドブック参照	
評価方法および評価基準			
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない			

授業コード	ENR0401			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	母性看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	門脇千恵、武海栄				探求心	○
講義目的						
1. 地域の周産期医療の中核を担う病院における看護職の活動について系統的に学修する。外来での健康診査・保健指導を見学し、妊娠・産褥各期の特徴と看護ケアの実際を学ぶ。 2. 病棟ではベッドサイドケアを通して、妊産褥婦および早期新生児を身体的・心理的・社会的側面から理解し、母子の特性を理解した上で必要に応じた看護過程を展開する。 3. 周産期における母子関係および家族へのサポートの重要性を理解し、援助方法の実際を学ぶ。 4. 実習の全過程を通して、生命の尊厳と生命を守り育てていくことの重要性を考え、学生自身の母性についての理解を深めることを目指す。						
授業内容						
母性看護学実習は、事前学習、実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション、看護過程展開実習、実習成果報告会で構成される。 1. 実習施設は、病院および助産院で行う。 2. 病院での実習場所は、産科病棟、新生児室、産科外来とする。 3. 助産院実習は、1施設で行い、見学実習とする。 4. 病院実習では学生は、16グループ（1グループ5名程度）にわかれ、2施設で実習を行う。 1施設ごとに、必ず教員が実習指導につく。 助産院実習は、1日を当て、2グループ（40名づつ）にわかれて行う。 5. 学生1人当たりの実習期間は、2週間の集中実習とするが、助産院実習は、別に設定する。 6. 実習方法は、次のとおりとする。 (1) 実習オリエンテーションを実習開始前に行う。実習目的・目標、実習方法を実習の手引きに沿って説明する。併せて各実習施設のオリエンテーションを行う。担当は教員。オリエンテーションが終了したら、各自学習課題をみつけ、事前学習を行う。 (2) 病院実習では以下の内容を行う。 ① 妊産褥婦および新生児を受け持ち、母子への看護を実践する。 ② 妊産褥婦、新生児およびその家族との触れ合いを持つ。 ③ 分娩見学、新生児の観察および沐浴を体験する。 ④ 妊産褥婦の外来健康診査および母親学級等に参加し保健指導の実際を見学する。 ⑤ 学生カンファレンス：グループごとに施設実習での学びを報告し、共有する。担当は教員と臨地実習指導者 (3) 助産院では健康診査・保健指導などを見学する。 (4) 学習成果報告会は以下の内容を行う。 学内にて異なる実習グループのメンバーの体験を共有し、母性看護学実習における自己体験を多面的・客観的に捉えなおす。また自己の今後の課題を見出すことを目的に行う。担当は母性看護学教員。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ等の単位を修得していること。 ・実習期間、すべての出席を原則とする。 ・実習（病院実習、帰学日）時間の4/5に満たない場合は、単位認定はできない。 ・実習記録の提出がない場合は、単位の認定をしない。						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

実習計画	
実習施設：西条中央病院、市立宇和島病院、愛媛労災病院、まつやま助産院	
実習計画：	
1 週目：	<div> <div> <午前> 月（病院実習） 施設オリエンテーション 火（病棟実習） 受持患者情報収集 水（病棟実習） 受持患者看護に参加 木（大学） 看護過程展開 金（病棟実習） 計画に沿って看護実践 </div> <div> <午後> （病棟実習） 受持ち患者選定 （病棟実習） アセスメント・計画立案 （病棟実習） 受持患者看護に参加 （大学） 関連図作成 （病棟実習） 病棟中間カンファレンス </div> </div>
2 週目：	<div> <div> <午前> 月（病院実習） 計画に沿って看護実践 火（病棟実習） 計画に沿って看護実践 水（病棟実習） 計画に沿って看護実践 木（大学） 実習成果報告会 </div> <div> <午後> （病棟実習） 計画に沿って看護実践 （病棟実習） 計画に沿って看護実践 （病棟実習） 看護実践の評価・カンファレンス （大学） 評価面接 </div> </div>
* 助産院実習は、実習施設との調整により行う。	
教材	
教科書：森恵美他（2016）系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論②（医学書院 2017 年 3000 円） 参考書：母性看護技術[第 2 版 看護実践のための根拠がわかる 北川 眞理子 編著／谷口 千絵 編著（メヂカルフレンド社 2015 年 3200 円+税）	
最終到達目標	学習法
1. 受け持ち対象者の個別性をふまえた看護活動を実践できる。 2. 妊産褥婦及び新生児看護に対する看護観を洞察できる。	実習ガイドブック参照
評価方法および評価基準	
出席状況、実習記録、カンファレンスの参加状況、実習態度を総合して実習指導教員・単位認定者が行う。 S(100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D(60 点未満)：C のレベルに達していない	

授業コード	ENR0501			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	精神看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	井上仁美				探求心	○
講義目的						
精神障がいをもつ人に対して援助的に人間関係を発展させながら、セルフケア能力に焦点を当てた看護過程を展開し支援する方法について学ぶことを目的とする。また、精神障がいをもつ人やその家族に対する療養生活の支援方法とリハビリテーション活動の実際を知り、多職種間の協働関係における看護者の役割・機能について学ぶことを目的とする。						
授業内容						
精神科病院で一人の患者を受け持ち、セルフケアに焦点を当てた看護過程の展開を行い、生活者としての理解を深めながら、その人が望む生活や生き方が実現できるような支援を考え実践する。また、プロセスレコードを用いて援助的人間関係の技法を習得する。地域で生活している精神障がいをもつ人とデイケアやグループホームなどでのコミュニケーションをとおして、地域で生活することの重要性およびその方法について学ぶ。						
実習計画						
回	内容			学習課題		
	精神看護学臨地実習要項を参照すること			精神看護学臨地実習要項を参照すること		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
精神看護学実習を履修するのに必要なすべての科目の単位を修得していること。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 30 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト、資料等						
最終到達目標					学習法	
1. 精神障がいをもつ人を全人的に理解することができる。 2. 援助的に人間関係を発展させる方法を学ぶ。 3. セルフケア能力に焦点を当てたアセスメントを行い、看護過程を展開する。 4. 精神障がいをもつ人やその家族に対する、療養生活の支援方法、リハビリテーション活動の実際を知り、多職種間の協働関係における看護者の役割・機能について自分の考えを述べることができる。					精神看護学臨地実習要項をよく読んで臨地実習に臨むこと	
評価方法および評価基準						
精神看護学臨地実習要項を参照すること S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENR0601			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	急性期看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/後期	単位数	3		判断力	○
担当教員	上西孝明				探求心	○
講義目的						
急性期にある患者及び家族を理解し、健康回復・維持に向け、患者の状態の変化に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度を養う。						
授業内容						
これまでの「成人看護学概論」「ヘルスアセスメントⅠ」「看護過程」「急性期看護援助論Ⅰ」「急性期看護援助論Ⅱ」の学びに基づき、成人期の周手術期及びクリティカルな状態にある患者の健康問題を理解し、対象者及びその家族に対して専門的援助を実施するための看護実践能力を育成する。また手術室や集中治療室・救急外来の見学を通して、急性期医療における看護の役割と機能を学修する。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
	学内オリエンテーション 別途「看護学実習要綱」を配布し、オリエンテーションを行う。			解剖生理、病態学、急性期看護、周手術期看護をはじめ、今までに学んできた知識や看護技術を理解して、主体的に準備学習を進めること。		
	臨地実習 原則として一人の担当患者を受け持ち、看護過程を展開しながら看護援助に当たる。			上記に加え、看護過程演習の内容をよく復習しておく。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
急性期看護学実習の履修は専修科目の単位を3年次前期終了時までに修得していなければならない。 科目の単位を修得するにあたり、およそ45時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2015-2017 原著第10版』：T. ヘザー・ハードマン/上鶴重美訳, 医学書院, 2015年, 3240円 (ISBN 978-4-260-02088-6) 『看護診断ハンドブック』：リンダ J. カルペニート著/監訳；新道 幸恵, 医学書院, 2014年, 4104円 (ISBN 978-4-260-01877-7) 『成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護』：林直子, 南江堂, 2015年, 3024円, (ISBN 978-4-524-26136-9) 『成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護』：佐藤まゆみ, 南江堂, 2010年, 2808円, (ISBN 978-4-524-26137-6) 『看護実践のための根拠がわかる 成人看護技術 急性・クリティカルケア看護』：山勢博彰編, メヂカルフレンド社, 2015年, 2376円 (ISBN 978-4-8392-1589-7) 『ビジュアル臨床看護技術ガイド』：坂本すが, 照林社, 2015年, 4600円+税 (ISBN 9784796523400)						
最終到達目標				学習法		
急性期にある患者の発達課題・健康障害の種類・健康の段階を捉え、病態・治療・症状が、患者の生活や心理状態に及ぼす影響について理解することができる。 患者に必要な看護計画を立案でき、患者の状態に適した観察及び援助が行える。				①ロイ看護モデルを用いて看護過程を展開し、実践した看護を評価する。②実習で実践した看護を発表し、振り返り学習を行う。③実習での学び、気づき、自己の課題などをレポートにまとめる。		
評価方法および評価基準						
①記録物と学習内容 ②実習態度 ③実習目標の達成状況 以上①～③を実習評価基準に沿って評価する。 S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENR0701			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	慢性期看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/後期	単位数	3		判断力	○
担当教員	大西ゆかり，村上早苗，山本千恵美				探求心	○
講義目的						
慢性疾患をもつ人を受け持ち、身体的・心理・社会的側面から対象者を総合的に理解し、慢性疾患とともに生活することの理解を深める。対象理解をふまえた看護実践を通して、慢性疾患をもつ人への看護の役割を考察する。						
授業内容						
入院中の慢性疾患をもつ人を受け持ち、実習目標に沿って患者の理解を深め、看護過程を展開する。 病棟で行われている検査・処置・治療の見学を通して、慢性疾患をもつ人への看護の必要性や役割を学ぶ。 臨床実習指導者、スタッフへの報告・相談、病棟カンファレンスを通して患者理解を深め、患者への看護を検討する。 学内カンファレンスを通して、慢性期看護実習を振り返り、慢性疾患をもつ人への看護の役割を考察する。						
授業計画及び学習課題						
	曜日	実習計画				
第1週目	月	実習オリエンテーション、受け持ち患者の自己学習				
	火	病棟オリエンテーション、受け持ち患者の情報収集・アセスメント				
	水	学内日				
	木	受け持ち患者の情報収集・アセスメント				
	金	病棟カンファレンス（患者像・看護上の問題点の発表）				
第2週目	月	受け持ち患者への看護実践				
	火	受け持ち患者への看護実践				
	水	学内日				
	木	受け持ち患者への看護実践				
	金	受け持ち患者への看護実践				
第3週目	月	受け持ち患者への看護実践				
	火	受け持ち患者への看護実践				
	水	学内日				
	木	病棟カンファレンス（病棟実習のまとめ）				
	金	午前：学内カンファレンスの準備、午後：学内カンファレンス、評価面接				
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
慢性期看護学援助論Ⅰ、慢性期看護学援助論Ⅱの単位が取得できていること。 科目の単位を修得するにあたり、およそ45時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
最終到達目標				学習法		
受け持ち患者への理解を深め、患者像を説明できる。 受け持ち患者への看護過程を展開できる。 慢性疾患をもつ人への看護の役割を説明できる。				慢性疾患をもつ患者を受け持ち、対象理解を深め、看護過程を展開する。 実習での振り返りを通して、慢性疾患をもつ人への看護の役割を検討する。		
評価方法および評価基準						
実習目標の到達度・実習態度：80％ 学内カンファレンス・実習レポート：20％ S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENR0801			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	在宅高齢者看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	2年/前期	単位数	1		判断力	○
担当教員	田中正子, 村岡由佳里				探求心	○
講義目的						
高齢者の発達課題・健康に関する概念を踏まえ、身体障害、認知機能低下が生活に及ぼす影響について実例から課題を見出し探求する。また、高齢者の施設・在宅など居住環境によるケアの今後の課題を探求する。						
授業内容						
・在宅高齢者の支援に必要な各種技術や看護活動の場と、各種社会資源の実際を体験し、高齢者が生きてきた時代背景を深く理解する。 ・加齢や疾病・障害によって損なわれた諸機能を補助する機器・物品の使用体験を通して高齢者の自立支援への知識を深める。 ・介護家族の介護負担軽減を目的とした各種介護・福祉用具の使用方法和留意点を知る。						
授業計画及び学習課題						
※ 詳細は実習要項参照 高齢者総合福祉施設あわい, いうら, 西日本商事の見学実習 (20名×4グループ)						
留意事項 (履修条件・授業時間外の学修)						
高齢者看護学概論の単位修得見込みであること。 ・各領域で学んだ知識・技術や自己学習を生かして、考えながら、積極的に学んでください。 ・看護学生として、身だしなみや言葉使いなど、良識ある言動がとれるようにしましょう。 科目の単位を修得するにあたり、およそ 15 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
最終到達目標			学習法			
詳細については、実習要項を参照してください。			詳細については、実習要項を参照してください。			
評価方法および評価基準						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENR0901			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	高齢者看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	3年/後期	単位数	3		判断力	○
担当教員	奥田泰子, 棚崎由紀子, 眞鍋瑞穂				探求心	○
講義目的						
老年期の特徴を理解した上で、介護老人保健施設の生活を送っている入所者の特性に応じた統合的なアセスメント、看護援助の計画・実施・評価の過程を学ぶ。また、高齢社会における保健・医療・福祉状況に対応した多職種との連携のあり方と看護活動、その役割について考察する。						
授業内容						
介護老人保健施設において支援を必要とする高齢者を受け持ち、高齢期を生きる人々とその家族を理解するとともに対象者のニーズや生活に必要な看護支援をアセスメントし、高齢者のQOLを高める看護実践能力を養う。すなわち、治療終了後および自宅生活へ復帰するためのリハビリテーションの場である介護老人保健施設の機能と役割を理解するとともに在宅復帰支援とその課題を明らかにする。また、病院と異なり長期にわたり生活する場において必要な看護支援やアクティビティケア、特に認知症高齢者への支援について実践的に理解する。さらに、他職種と協働して提供される支援や社会資源の活用について学び、高齢者が尊厳をもって最後まで生活できる看護支援活動と老年看護の役割について洞察を深める。						
授業計画及び学習課題						
回	内容			学習課題		
	実習ガイドブック参照					
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
本科目の履修は、高齢者看護学概論、高齢者看護援助論Ⅰ・Ⅱ、在宅高齢者看護学実習をすでに履修していることが条件となる。						
科目の単位を修得するにあたり、およそ45時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
教材						
書名：生活機能から見た老年看護過程 第2版 著者名：山田律子 出版社・出版年：医学書院 2013年 価格：3,780円 (老年看護援助論Ⅱで使用したテキストと同様)						
最終到達目標				学習法		
受け持ち高齢者の個別性をふまえた看護活動を実践できる。そのうえで、高齢者看護に対する看護観を洞察できる。				実習ガイドブック参照		
評価方法および評価基準						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)						
A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good)						
B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good)						
C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている						
D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENR1001			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	在宅看護学実習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	田中正子，村岡由佳里				探求心	○
講義目的						
在宅生活をしている療養者およびその家族を統合的に理解し、療養者及びその家族が望んでいる生活や生き方等、自立支援に向けた在宅ケアシステムの概要を学ぶとともに在宅看護に必要な基礎的能力を養う。						
授業内容						
1. 地域における在宅看護が果たす役割と機能について理解できる。 2. 在宅で療養生活を送る療養者及び家族への看護活動について理解できる。 3. 関連機関及び多職種との連携について理解できる。 4. 在宅療養者とその家族、及び実習施設関係者等と良好な関わりができる。 5. 受け持ち療養者の看護計画を立案し、実施及び評価ができる。						
授業計画						
回	午前			午後		
1	学内オリエンテーション			演習（在宅におけるフィジカルアセスメント等）		
2	施設内オリエンテーション			訪問実習（情報収集等） 受け持ち療養者の決定、記録の整理 カンファレンス等		
3	訪問実習（情報収集等）			訪問実習（情報収集等） 記録の整理、カンファレンス等		
4	訪問実習（情報収集等）			訪問実習（情報収集等） 記録の整理、カンファレンス等		
5	訪問実習（情報収集等）			訪問実習（情報収集等） 記録の整理、中間カンファレンス等		
6	学内実習（各グループの施設紹介等）			受け持ち療養者の看護計画立案及び修正		
7	訪問実習（情報収集等）			訪問実習（情報収集等） 看護計画について施設側の意見を聞き修正する カンファレンス等		
8	訪問実習（情報収集等）			訪問実習（情報収集等） 看護計画の実施、評価、カンファレンス等		
9	訪問実習（情報収集等）			訪問実習（情報収集等） 看護計画の実施、評価、最終カンファレンス等		
10	学内実習（各グループの実習について発表）					
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
・各領域で学んだ知識・技術や自己学習を生かして、考えながら、積極的に学んでください。 ・看護学生として、身だしなみや言葉使いなど、良識ある言動がとれるようにしましょう。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
最終到達目標				学習法		
※詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時、配布資料を参照してください。				※詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時、配布資料を参照してください。		
評価方法および評価基準						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent）						
A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている						
B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある（Good） D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENR1101			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	公衆衛生看護学実習Ⅰ	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	3		判断力	○
担当教員	宮崎博子, 藤本千里				探求心	○
講義目的						
1. 地域で生活している人々の健康水準の向上と QOL の向上を目指す公衆衛生看護活動の実際を理解する。 2. 人々の健康問題を分析し、その問題解決のために個人と家族及び地域を対象としてヘルスプロモーションの理念に基づいた保健師活動ができる基礎能力を養う。						
授業内容						
【目標】 地域の人々の健康や QOL の向上を目指すために、地域の人々の健康課題を明確にし、解決策を考え地域に働きかける実践技術を習得する。 ① 保健所及び市町村を 1 つの単位として、地域診断に必要な情報を集約し、地域の健康問題に関するアセスメントを行うことができる。 ② 健康教育の企画・立案・実施をするとともに評価を行うことができる。 ③ 特定の健康課題の解決に向けて、家庭訪問・健康相談・健康教育・健康診断・保健指導・地区組織育成のための保健活動の PDCA サイクルに参加するとともに、地域住民と協働する活動に参画する。 地域の健康問題解決のためのネットワーク及びシステムについて理解し、チームの一員として役割が果たせる能力を養う。						
授業計画						
週	曜日	午前		午後		
第1週目	月	保健所概要説明		保健所概要説明		
	火	保健所管内地区踏査		保健所管内地区踏査		
	水	保健所管内地区踏査		地区踏査のまとめ		
	木	保健所管内地区踏査		保健所実習カンファレンス		
	金	市町村概要説明		市町村保健事業見学		
第2週目	月	保健事業見学・体験		保健事業見学・体験		
	火	保健事業見学・体験		保健事業見学・体験		
	水	保健事業見学・体験		保健事業見学・体験カンファレンス		
	木	健康教室対象者把握・計画書作成		健康教室媒体作成		
	金	保健事業見学・体験		健康教室媒体作成・完成		
第3週目	月	健康教室実施		健康教室実施		
	火	健康教室反省及び評価		保健事業見学・体験		
	水	大学帰校日				
	木	公衆衛生看護学実習のまとめ				
	金	公衆衛生看護学実習記録		反省会		
実習施設						
県保健所とそこに付随する市町村保健センター、松山市保健所 実習先：中予保健所, 四国中央保健所, 西条保健所, 今治保健所, 八幡浜保健所, 宇和島保健所, 松山市保健所						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
科目の単位を修得するにあたり、およそ 45 時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						

最終到達目標	学習法
保健所及び市町村の役割，機能を理解することができる。また地域で生活する人々の健康ニーズに対して、公衆衛生看護の役割について考える事ができる。地域診断で地域の状況をとらえることができる。	個々の学習だけではなくグループでの活動になるため、各課題に対してそれぞれが実践的に学習することができる。
評価方法および評価基準	
出席状況，実習記録，実習態度を総合して評価する。 S (100～90 点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A (89～80 点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) B (79～70 点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) C (69～60 点)：学習目標の最低限は満たしている D (60 点未満)：C のレベルに達していない	

授業コード	ENR1201			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨床実習				広い視野	○
授業科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ	選択・必修	選択		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/後期	単位数	2		判断力	○
担当教員	宮崎博子，藤本千里				探求心	○
講義目的						
1. 地域で生活している人々の健康水準の向上とQOLの向上を目指す公衆衛生看護活動の実際を理解する。 2. 人々の健康問題を分析し、その問題解決のために個人と家族及び地域を対象としてヘルスプロモーションの理念に基づいた保健師活動ができる基礎能力を養う。						
授業内容						
【目標】 公衆衛生看護活動を展開することで、地域で生活している個人・家族の生活背景、家族関係、社会的立場を含めてそれらの人々を理解し支援するための基本的知識・技術を習得することができる。さらに地域住民の健康水準を理解する実践技術が習得できる。 ① 母子、成人、高齢者等を対象として、2事例以上の家庭訪問を行うことができる。 ② 母子、成人、高齢者等を対象とした健康相談を行うことができる。 ③ 地域の健康づくり活動を理解し、必要性を考える事ができる。 ④ 地域の健康問題解決のためのネットワーク及びシステムについて理解し、チームの一員として役割が果たせる能力を養う。 産業保健分野と学校保健分野における公衆衛生看護活動を理解し考える事ができる。						
授業計画						
週	曜日	午前		午後		
第1週目	月	家庭訪問対象者の情報収集		家庭訪問計画の作成		
	火	家庭訪問実施		家庭訪問記録		
	水	家庭訪問記録		家庭訪問評価と次回計画		
	木	家庭訪問中間カンファレンス		保健事業見学・体験		
	金	産業保健の概要		学校保健の概要		
第2週目	月	産業保健見学・体験		産業保健見学・体験		
	火	学校保健見学・体験		学校保健見学・体験		
	水	継続訪問の実施		継続訪問の実施		
	木	健康づくり活動の概要		産業保健・学校保健まとめ		
	金	公衆衛生看護学実習記録		施設での報告会		
実習施設						
県保健所とそこに付随する市町村保健センター、松山市保健所等、企業及び小学校、高等学校 実習先：中予保健所、四国中央保健所、西条保健所、今治保健所、八幡浜保健所、宇和島保健所、松山市保健所、東レ株式会社、高島屋、松山市立椿小学校、未来高等学校						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修(学習課題；予習・復習に示されている内容の学修)が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
最終到達目標				学習法		
保健所及び市町村の役割，機能を理解することができる。 また地域で生活する人々の健康ニーズに対して、公衆衛生看護の役割について考える事ができる。地域診断で地域の状況をとらえることができる。				個々の学習だけではなくグループでの活動になるため、各課題に対してそれぞれが実践的に学習することができる。		
評価方法および評価基準						
出席状況，実習記録，実習態度を総合して評価する。 S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent) A(89～80点)：学習目標を相応に達成している (Very Good) C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている B(79～70点)：学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある (Good) D(60点未満)：Cのレベルに達していない						

授業コード	ENR1301			ディプロマポリシーに定める養成する能力	豊かな人間性	○
科目区分	専門科目－臨地実習				広い視野	○
授業科目名	統合実習	選択・必修	必修		知識・技術	○
配当学年/学期	4年/前期	単位数	2		判断力	○
担当教員	専任教員全員				探求心	○
実習目的						
既習の知識と技術を統合し、専門職業人としての自覚と倫理観に基づく看護の対象者への看護実践能力を修得することを目的とする。複数の看護の対象者に対し、限られた時間内で、実習病棟のケアプランに則って、必要なケアを判断し提供することや、保険医療福祉チームの中で、安全かつ効率的に看護実践を提供していくための役割遂行、看護管理、他職種との連携・協働について理解する。これらを通して、専門職業人として必要な態度や課題を明確にする。						
実習方法						
統合実習は、事前学習、実習オリエンテーション、施設実習、実習成果報告会で構成される。 1. 実習施設は、病院および福祉施設等とする。 2. 学生を16グループ（1グループ5名程度）に分かれる。 3. 学生1名あたりの実習期間は2週間とする。 4. 実習方法の詳細については、統合実習ガイドブック参照とする。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学習時間）						
・実習期間、すべての出席を原則とする。 ・実習（病院実習、帰学日）時間の5分の4に満たない場合は、単位認定しない。 科目の単位を修得するにあたり、およそ30時間の授業時間外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要です。確認テストや課題レポートのフィードバックはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。						
実習計画						
実習施設：1) おおぞら病院 2) 済生会松山病院 3) 南松山病院 4) 松山市民病院 5) 松山記念病院 6) 福角病院 7) 道後温泉病院 8) 西条中央病院 9) 市立宇和島病院 10) ベテル病院 11) たんぽぽのおうち 実習計画：統合実習ガイドブック参照						
最終到達目標					学習法	
1. 看護職としての責任を自覚し、倫理的態度がとれる。2. 主体的、能動的、問題解決的な学習を実践し、看護実践能力が発揮できる。 3. チーム医療におけるマネジメントの視点から、組織、機能、安全などのあり方を考えることができる。 4. 看護チームおよび他職種との協働の中で、メンバーシップおよびリーダーシップが発揮できる。 5. 専門職業人としての責任を自覚し、自己研鑽に努める。					実習ガイドブック参照	
評価方法および評価基準						
S(100～90点)：学習目標をほぼ完全に達成している（Excellent） A(89～80点)：学習目標を相応に達成している（Very Good） B(79～70点)：学習目標を早々に達成しているが、不十分な点がある（Good） C(69～60点)：学習目標の最低限は満たしている D(60点未満)：Cのレベルに達していない						